

# CAS-UB User Guide V5.0

CAS-UB 利用ガイド

---

CAS-SUPPORT

2018年7月発行 V5.0 改訂2版



CAS電子出版  
<cas-ub.com>



## ごあいさつ

この度は「クラウド型汎用書籍編集・制作サービス」(CAS-UB)をご利用いただきありがとうございます。CAS-UBは、出版物の編集・制作を支援するサービスです。

現在、出版物の配布メディアは、公開される報告書や利用ガイドなどは紙とWebページが並立しています。また、出版社などから有償で販売する書籍は、紙と電子端末向けの電子書籍の二つが主な媒体です。電子書籍ではEPUB3やアマゾンのKindleの形式が一般的です。これらの電子書籍形式はWebページに基づいています。

しばらくの間、こうした紙とWebベース・メディアの両方を出版手段として使う時代が続くと考えられます。紙の出版物は決められた判型にページレイアウトされていますが、電子書籍形式では、ページサイズが可変であることを前提に制作する必要があり、紙への出版ワークフローでは効率が悪くなります。CAS-UBは、紙のための出版ワークフローに代わるデジタルファーストのワークフローを提案するものです。CAS-UBを使うと紙と電子書籍の双方を同時に制作でき、紙の出版物と電子書籍の双方をよりスムーズに制作できます。

## サポートについて

CAS-UBをお使いいただく上で、お困りの点やご質問がございましたらCAS-UBサポート担当([cas-support@antenna.co.jp](mailto:cav-support@antenna.co.jp))宛のメールにて承りますので、お気軽にお問い合わせください。

## 凡例

- 1) 画面は強調：(例) 記事編集は記事編集画面を表します。
- 2) 画面の遷移は⇒：(例) 生成⇒PDFのレイアウト設定 生成画面で、PDFのレイアウト設定のリンクをクリックすることを示します。
- 3) 画面の設定項目名は【項目名】：(例) 【基本文字サイズ】はPDFのレイアウト設定画面の設定項目の基本文字サイズを示します。
- 4) 選択肢・入力データは「選択肢」：(例) 【基本文字サイズ】「9pt」はPDFのレイアウト設定画面の設定項目の基本文字サイズ項目に「9pt」を入力したことを示します。
- 5) 処理の実行ボタンまたは選択の確定のボタン「[ボタン]」：(例) 「[PDFを生成]」は、生成画面の「PDFを生成」ボタンを示します。



## 目 次

ごあいさつ .....	i
<b>第1章 CAS-UB サービスの概要 .....</b>	<b>1</b>
1.1 CAS-UB とは .....	1
1.2 出力形式 .....	1
<b>第2章 CAS-UB による出版物の制作 .....</b>	<b>3</b>
2.1 CAS-UB における記事と出版物の概要 .....	3
2.2 CAS-UB サービスへのログイン .....	4
2.3 はじめての EPUB 制作～Word から取り込むまで .....	5
2.4 はじめての EPUB 制作～書誌編集 .....	9
2.5 はじめての EPUB 制作～EPUB の生成 .....	12
2.6 完成した EPUB を iBooks で表示 .....	14
<b>第3章 CAS-UB の画面と機能 .....</b>	<b>17</b>
3.1 ホーム(出版物一覧)画面 .....	17
3.2 出版物新規作成 .....	20
3.3 記事編集画面 .....	21
3.4 記事内容入力と保存 .....	23
3.5 記事の書き方・基本 .....	26
3.6 マークアップと自動処理 .....	27
3.7 記事の追加 .....	29
3.8 記事の構成を編集する .....	30
3.9 記事の移動 .....	32
3.10 記事の削除 .....	34
3.11 記事の内容表示 .....	36
3.12 内容表示のテーマの選択 .....	38
3.13 外部データ入力画面 .....	39
3.14 インポート .....	39
3.15 WordPress のインポート .....	41
3.16 プレーンテキストのインポート .....	42
3.17 SVG の ZIP のインポート .....	42
3.18 Picassol 整理済み XML のインポート .....	43

3.19 Smart Source Editor 整理済み XML のインポート .....	43
3.20 ドラフト .....	44
3.21 画像のアップロード .....	45
3.22 検索 .....	48
3.23 置換 .....	49
3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 .....	51
3.25 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横 .....	59
3.26 PDF/EPUB などの生成 .....	60
3.27 EPUB の生成設定 .....	62
3.28 Kindle の生成設定 .....	69
3.29 Web ページの生成設定 .....	70
3.30 HTML ヘルプの生成設定 .....	73
 第 4 章 記事の種類 .....	75
4.1 記事の種類一覧 .....	75
4.2 出版物の種類と構成 .....	79
4.3 本文の記事による階層化と本文見出しのレベル設定 .....	82
4.4 手作りの記事と自動生成の記事 .....	84
 第 5 章 出版物ソーステキストの入出力とデータ管理 .....	89
5.1 履歴 .....	89
5.2 UB テキスト .....	90
5.3 UB テキストのダウンロード .....	92
5.4 UB テキストのアップロード .....	93
5.5 バックアップ .....	94
5.6 リストア .....	96
5.7 出版物の削除 .....	99
 第 6 章 マークアップの基本 .....	101
6.1 マークアップとは .....	101
6.2 はじめてのマークアップ .....	102
 第 7 章 マークアップ支援機能 .....	105
7.1 マークアップ支援ボタン .....	105
7.2 各ボタンの機能説明 .....	106

第8章 CAS記法のマークアップリファレンス .....	121
8.1 編集対象要素の一覧 .....	121
8.2 段落 .....	122
8.3 見出し .....	125
8.4 見出しテキスト内のマークアップ .....	127
8.5 記事タイトル .....	128
8.6 記事タイトル内のマークアップ .....	129
8.7 箇条書き .....	131
8.8 用語定義リスト .....	134
8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 .....	135
8.10 キャプション .....	136
8.11 イメージと図版（画像） .....	137
8.12 表 .....	140
8.13 コラム .....	144
8.14 要約（サマリー） .....	144
8.15 注記（ノート） .....	145
8.16 ブロック引用 .....	145
8.17 整形済みブロック .....	146
8.18 埋め込みブロック .....	148
8.19 インクルード .....	149
8.20 ブロック式数式 .....	151
8.21 水平線と強制改ページ .....	153
8.22 強調 .....	155
8.23 圏点 .....	156
8.24 ルビ .....	156
8.25 縦中横 .....	157
8.26 上付き・下付き .....	158
8.27 強制改行 .....	158
8.28 注 .....	159
8.29 イメージと図版（インライン） .....	160
8.30 範囲指定 .....	161
8.31 索引の指定 .....	162
8.32 タイプライター .....	163
8.33 URLと記事へのリンク .....	164
8.34 記事内の特定位置に目印（ID）をつける .....	166
8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照） .....	168

8.36 アンカーテキストのマークアップ .....	169
8.37 インライン数式 .....	170
8.38 コメントアウト .....	170
8.39 ページ分割マーク .....	171
第 9 章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス .....	175
9.1 属性指定の詳細 .....	175
9.2 組み込みクラス属性値一覧 .....	178
9.3 組み込み属性と属性値 .....	181
9.4 フォントの埋め込みとフォントの指定 .....	181
9.5 ブロックマージン .....	185
9.6 画像の回り込み .....	187
9.7 文字色と背景色 .....	190
第 10 章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位 .....	193
10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ） .....	193
10.2 円記号（¥）の扱い .....	194
10.3 予約済みの記号 .....	194
10.4 文字の Unicode 番号を直接指定 .....	195
10.5 単位 .....	195
第 11 章 縦組の指定 .....	197
11.1 本全体の縦組（本の開き方） .....	197
11.2 編集時の文字進行方向の指定 .....	197
11.3 PDF 生成時：記事毎の文字進行方向指定 .....	198
11.4 EPUB 生成時：記事毎の文字進行方向指定 .....	200
第 12 章 EPUB のレイアウト指定 .....	203
12.1 CSS のテーマ .....	203
12.2 CSS のテーマの機能と設定変更 .....	203
12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート） .....	205
第 13 章 Web のレイアウト .....	209
13.1 Web レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート） .....	209
13.2 Web ページの HTML 内容 .....	209

13.3 目次のメニューアイコンを生成したときのレイアウト .....	211
13.4 ナビゲーションなどのカスタマイズ .....	213
13.5 目次のカスタマイズ .....	215
第 14 章 メルマガ変換 .....	219
14.1 メルマガ EPUB 変換機能の利用方法 .....	219
14.2 メルマガ変換ルール .....	221
14.3 メルマガ U テンプレート .....	222
14.4 メルマガ K テンプレート .....	225
14.5 メルマガ T テンプレート .....	228
14.6 メルマガ H テンプレート .....	231
第 15 章 その他の情報・設定など .....	237
15.1 公開プロフィール .....	237
15.2 出版物のオーナー .....	238
15.3 執筆チームメンバー .....	240
15.4 他の出版物の設定をコピーする .....	241
15.5 記事のファイル名 .....	242
15.6 SVG 記事 .....	242
15.7 参考文献の自動生成 .....	243
15.8 数式の記述 .....	244
15.9 EPUB3 の目次 .....	245
15.10 自動生成記事のタイトル変更 .....	245
付録：数式リファレンス .....	247
注釈一覧 .....	257
図表一覧 .....	259
索引 .....	263



# 第1章 CAS-UB サービスの概要

## 1.1 CAS-UB とは

CAS-UB は、出版物の編集・制作のためのサービスです。Web ブラウザを使って原稿を入力・編集できます。原稿をクラウド・サーバーに保存し、複数の著者や編集者が同時に作業を進め、出版物作成の効率をあげることができます。

CAS-UB は、次の特長があります。

- 1) 著者と編集者が、クラウド・サーバーにおいて原稿を共同で編集して本を作る、リアルタイム・コラボレーションができます。
- 2) 執筆→編集→校閲→リリース→原稿の修正という過程を何回も回して、出版物内容の品質向上を図れます。
- 3) ひとつのコンテンツから印刷向けの PDF、Web ページ、電子書籍 (EPUB・Kindle) 形式などの成果物を自動的に生成できます。
- 4) 著者や編集者は、レイアウトのことを考えずにコンテンツの制作だけに集中できます。
- 5) 出版物のレイアウトをテーマとして用意しています。成果物 F の生成時にテーマの中から選択して指定でき、新しいデザインが不要です。
- 6) 契約したその日からサービスをお使いいただけます。ソフトウェアの初期導入コストや運用コストを考える必要がありません。

## 1.2 出力形式

CAS-UB は、出版物を次のファイル形式で出力できます。

PDF (PDF/X-1a:2001, PDF1.3/1.4/1.5/1.6/1.7)

EPUB3.0 (以下、EPUB3 と略記)

EPUB2.0 (以下、EPUB2 と略記)

Kindle (MOBI、Kindle 向け EPUB)

HTML ヘルプ ( Microsoft HTML Help Workshop でコンパイルできるソースファイル)

Web ページ (Web 閲覧向けの HTML。モバイルと PC の画面に対応できるレスポンシブな Web ページ生成ができます。)

※ EPUB3 の固定レイアウトとメディアオーバレイはサポートしていません。



## 第2章 CAS-UBによる出版物の制作

### 2.1 CAS-UBにおける記事と出版物の概要

#### 2.1.1 出版物

CAS-UBは出版物のコンテンツを編集し、頒布用・配布用の多様な成果物を生成します。ソースの編集は一つで、成果物は多様なワンソース・マルチユースを実現するサービスです。

#### 2.1.2 記事

出版物の原稿はテキストや画像などです。原稿は編集しやすい分量、読みやすい分量、レイアウトなどで分けてクラウド・サーバー上にファイルとして保存します。このファイルを「記事」と言います。出版物は多数の記事から構成されます。各記事は、表紙、本扉、前書、目次、本文（章、節、項、目）、後書、索引、奥付などの位置・役割が与えられます。こうした役割を「記事の種類」で表します。

CAS-UBでは、各記事のテキスト編集と出版物の中で記事の順序や階層構造を並べ替える構成編集を行ないます。

関連 第4章 記事の種類 (p. 75)

#### 2.1.3 生成

編集作業が終わった出版物から成果物を作成（生成）します。成果物は次の種類があります。

- 印刷やPOD（プリントオンデマンド）向のPDFファイル
- 電子書籍用のEPUBやKindle MOBIフォーマットの電子ファイル
- ブラウザで閲読するためのWebページ
- その他

なお、MOBIはEPUBから変換で作り出せますので、本ガイドではEPUBを中心に説明し、MOBIについては、必要最小限の説明に留めています。

#### 2.1.4 レイアウト

CAS-UBでは出版物レイアウトはテーマとして用意しています。

- WebページやEPUBでは、テーマとしていろいろなレイアウトを用意しています。EPUBの生成でお好みのテーマを選択します。テーマのカスタマイズができます。
- PDFはあらかじめ最適な版面になるようにレイアウト設定を調整していますが、さらにお好みに応じて設定変更とカスタマイズができます。

### 2.1.5 出版物の言語

出版物の新規作成時に出版物の言語を指定します。たとえば、CAS-UB では章番号の自動生成ができますが、これは本文の章だけをカウントします。その際、日本語は'第'X'章'といった接頭辞・接尾辞を付けますが、英語は'Chapter'がつきます（接頭辞・接尾辞は変更可能）。

出版物の言語は、出版物設定画面の「出版物の言語を選択」で変更できます。

### 2.1.6 出版物の種類

CAS-UB で新規作成すると出版物の種類が「書籍3」（日本語または英語）となります。「書籍3」は、縦組 PDF 制作で使われる多様なページレイアウト切替ができるように記事の種類を増やしました。V2.3 では出版物の種類は「書籍2」（日本語または英語）でした。「書籍2」及びそれ以外の出版物の種類を指定する機能は残っていますが、これは過去との互換性を維持する目的です。

## 2.2 CAS-UB サービスへのログイン

作業は、Web ブラウザで <http://a.cas-ub.com> から、CAS-UB へログインして行います。画面右上の「ログイン」をクリックしてください。



図1 CAS-UB のログイン画面

ログインに成功すると、ホーム（出版物一覧）画面が表示されます。

The screenshot shows the CAS-UB home page with the following details:

- Top Navigation:** ユーザー情報, 公開プロフィール, ログアウト
- Header:** 出版物新規作成, 出版物新規作成, Word変換, メルマガ変換, ディスク使用量, CAS-UB修正情報
- Title:** supportさんの著者ページ
- Section:** ヒント, 出版物一覧
- Sub-section:** supportさんの出版物
- Search Filter:** 出版物識別名, 出版物タイトル, 作成日, 处理
- Section:** 執筆チームメンバーとして参加している出版物
- Search Filter:** 出版物識別名, 出版物タイトル, 作成日, オーナー, 处理
- Page Bottom:** Copyright© 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. | このサイトについて | 利用規約 | 個人情報保護方針

図2 ホーム（出版物一覧）画面

## 2.3 はじめてのEPUB制作～Wordから取り込むまで

CAS-UBによる出版物の作成の流れを理解していただくためホーム（出版物一覧）画面から開始してEPUB3を作成する流れを説明してみます。Wordで原稿を用意して、その原稿からはじめることが多いでしょうから、Wordの原稿を用意するところから説明します。

### 2.3.1 ステップ1：Wordの原稿を用意する

まず、Word2007以降の版で原稿を執筆します。Wordの印刷プレビューでみると、でき上がりは全体で5ページとなりました。

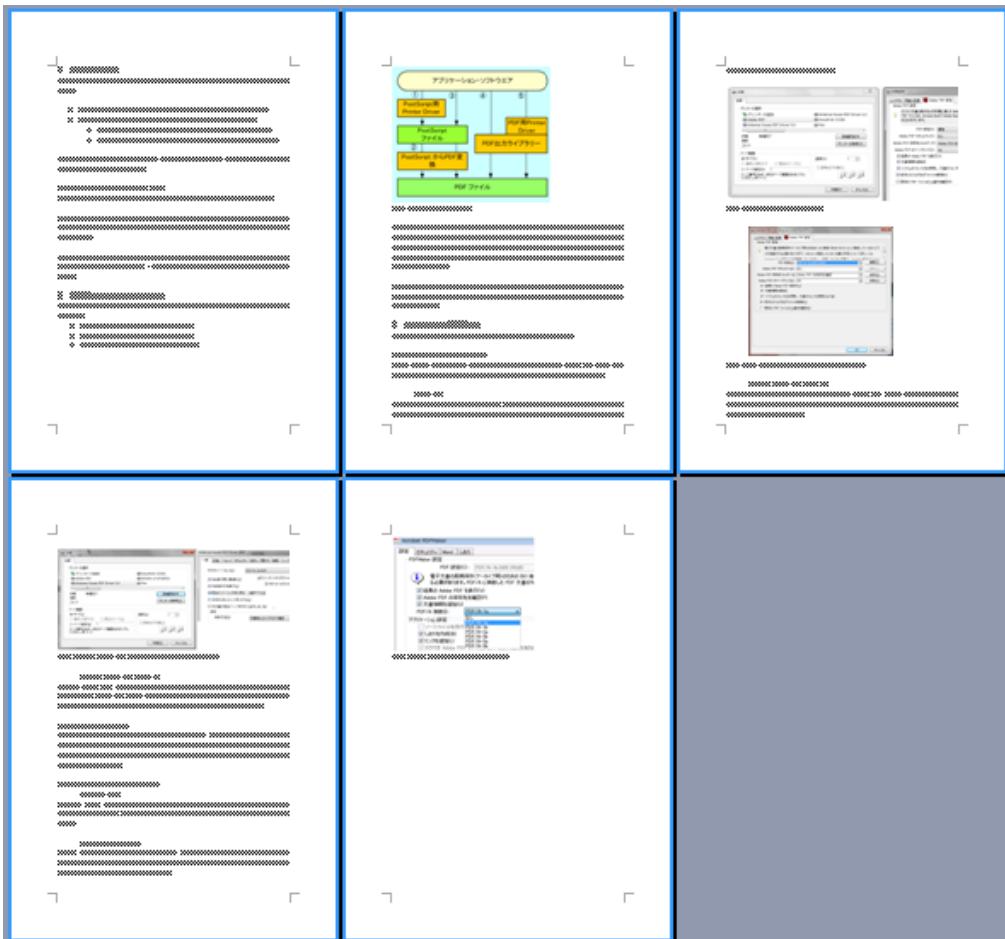


図3 Word文書の印刷プレビュー

CAS-UBにうまく取り込むには、Word文書での書式指定はできるだけWordのスタイル機能を使います。この文書では、Wordのスタイルを使った箇条書きを作成し、原稿の見出しには図のようにアウトラインを設定しています。

1. PDF/Aについて(レベル1)  
PDF/Aの準拠レベル(Conformance Level)(レベル2)
2. PDF/Aの作成方法と準拠レベル(レベル1)
3. 各種ツールのPDF/A作成(レベル1)
  - 仮想プリンタ方式によるPDF/A作成(レベル2)
    - Adobe PDF (レベル3)
    - Antenna House PDF Driver 5.0 (レベル3)
    - Antenna House PDF Server V3 (レベル3)
  - PostScriptからPDFへ変換(レベル2)
    - アプリケーションから直接PDF/A作成(レベル2)
      - Microsoft Office (レベル3)
      - Microsoft用PDFMaker (レベル3)

図4 Word原稿のアウトライン

できあがった原稿はWordのdocx形式、ファイル名を「PDFAの作り方.docx」として保存し

ます。

### 2.3.2 ステップ2：出版物新規作成

今度はCAS-UB側で出版物を作ります。まず、ログイン後のホーム（出版物一覧）画面（p. 17）で左上の〔出版物新規作成〕をクリックします。



図5 出版物新規作成

なお、CAS-UBにはWordの原稿を直接EPUB3に変換する「Word変換」もあります。Word変換を使えば途中のステップを全部飛ばしてEPUB3を生成できます。ただし、きめ細かい編集や設定を行なえません。そこで、ここではWordをインポートしてEPUBをステップ・バイ・ステップで作成してみます。

### 2.3.3 ステップ3：出版物ファイル名とタイトルを設定

出版物のファイル名やタイトルを設定します。ファイル名は「how-to-PDFA」、出版物のタイトルは「PDF/Aとその作り方」とします。このふたつが必須項目です。それ以外の設定は変更しないで、一番下の〔作成〕ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'New Publication Creation' form. The title is '出版物新規作成'. A note at the top says '\* は必須の項目です。'. The main section has a teal header '全般'. It contains fields for 'オーナー名' (owner name) set to 'support', '出版物識別名 \*' (publication identifier) set to 'how-to-PDFA', and '出版物タイトル \*' (publication title) set to 'PDF/Aとその作り方'. Below these are dropdown menus for '作成方法' (creation method) set to 'デフォルトの設定で新規作成' and '出版物の言語' (language) set to '日本語'. At the bottom is a red-circled '作成' (Create) button. In the bottom right corner is a link '互換モード'.

図6 ファイル名とタイトルの設定

サーバー上で〔作成〕処理が終わると、記事がなにもない出版物がCAS-UBのサーバー上にできます。

### 2.3.4 ステップ4：外部データ入力でWordファイルをインポート

ステップ1で原稿をWordで作成しましたので、このWordファイルをインポートします。このためには[外部データ入力]をクリックします。

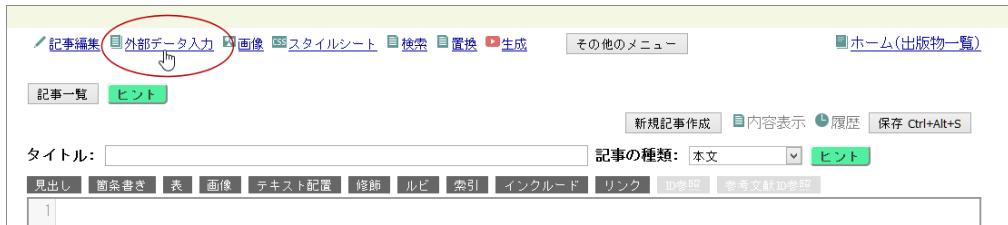


図7 外部データ入力をクリック

すると外部データ入力画面になります。

#### 関連 外部データ入力画面 (p. 39)

インポートファイルの形式は「Microsoft Word 2003 XML」とします。(この指定でdocx形式のファイルを変換できます。) インポート先は「主原稿」とし、記事に分割するアウトラインレベルは「1」とします。いずれもデフォルト値のままでです。ここで、[参照]ボタンをクリックして、最初に準備したWord文書を開きます。

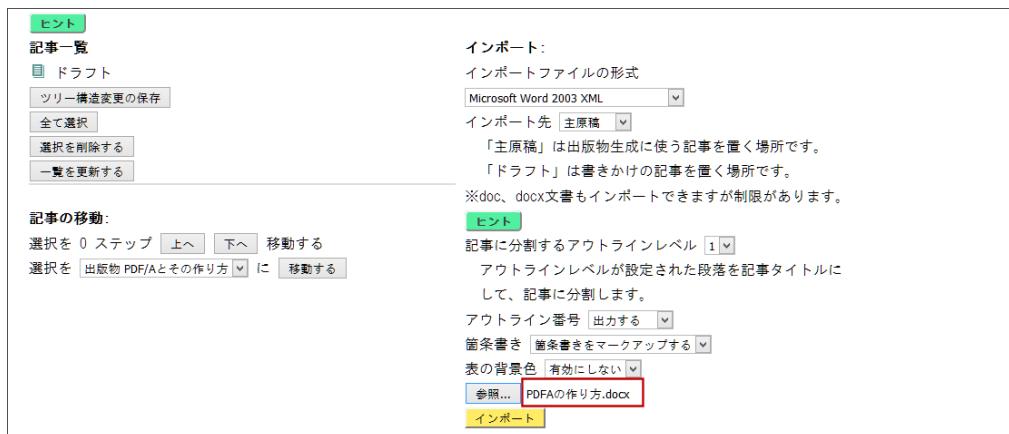


図8 原稿のWordファイルを指定する

これで準備ができましたので、[インポート]ボタンをクリックします。すると画面に「インポート開始」と表示されてから「記事の変換中」という表示が出て、しばらくしますと「主原稿」に変わります。

### 記事の変換中 ⇒ 主原稿

記事一覧  
ドラフト

図9 インポート完了

画面の表示が「主原稿」に変わるとインポートが完了しています。そこで「主原稿」をクリックすると画面が切り替わり、インポートされた最初の記事の記事編集画面が表示されます。

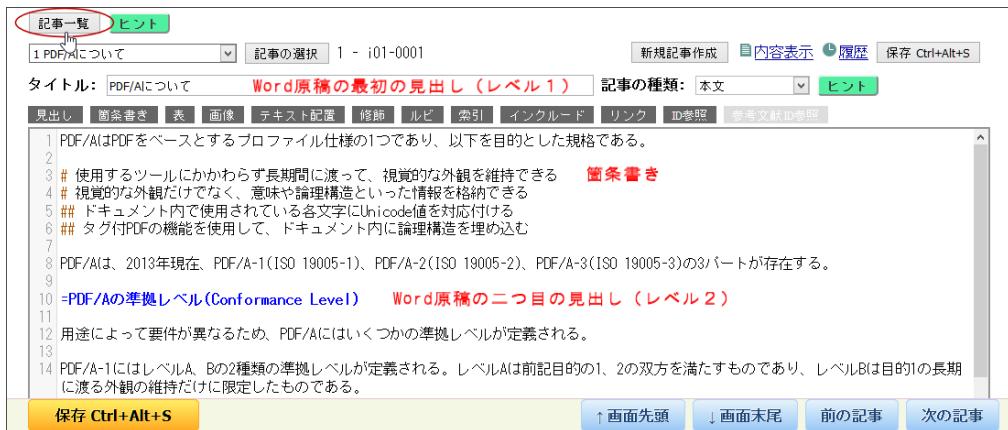


図10 最初の記事の記事編集画面

をクリックすると、インポートされた記事の一覧が表示されます。

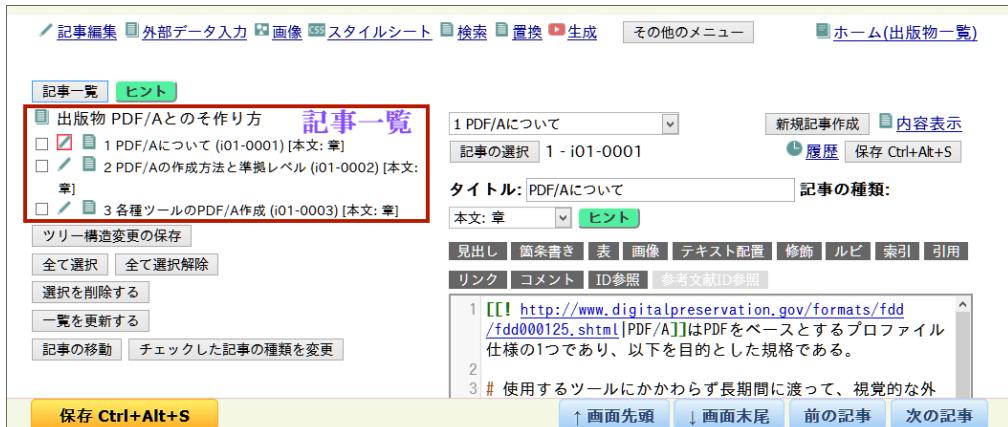


図11 インポートが成功すると記事が三つできる

Wordの原稿をインポートした結果、アウトライン1のレベルで分割されて三つの記事になっています。Wordの見出しが、各記事のタイトルになります。記事タイトルの左のペンシルアイコン(／)をクリックすると、その記事内容を編集できます。ペンシルアイコンに枠が付いている記事が編集中の記事です。必要があれば記事内容を追加したり訂正したりできます。

再度  をクリックすると、記事一覧が消えます。

## 2.4 はじめてのEPUB制作～書誌編集

CAS-UBでは、表紙と奥付に出力するデータを書誌情報から引用しますので、表紙と奥付に

記載が必要な項目は書誌情報に記入しておきます。また、書誌情報は、EPUB3などのメタデータとして登録されます。

書誌情報は、書誌編集画面で登録します。



図12 書誌編集の選択

「その他のメニュー」をクリックすると表示されるメニューから「書誌編集」をクリックすると書誌編集画面に移ります。著者のプロフィールと版数・発行年月日を入力します。

画面下部の〔プロフィールへ〕をクリックするとプロフィールの項目位置が表示されます。〔改定履歴へ〕をクリックすると版数・発行年月日の項目位置が表示されます。



図13 書誌編集画面下部の操作ボタン

〔記事編集〕をクリックすると、設定を保存して最後に編集していた記事の編集画面に戻ります。書誌編集画面に来る前に記事編集をしていなかったときは、先頭の記事の編集画面に移ります。

#### 2.4.1 著者のプロフィール

書誌編集画面のプロフィール・著者を選んで〔編集〕ボタンをクリックし、さらに〔追加〕をクリックします。



図14 著者のプロフィール追加

著者のプロフィール編集画面が表示されますので、ここで、必要事項を入力します。今回は、「著者の名前（ベンネーム）」、「著者のプロフィール」、「公開する連絡先」の欄に記入しました。

**出版物プロフィール編集**

**著者**

名前 (ペンネーム)	CAS-SUPPORT
フリガナ	
プロフィール (800文字まで)	アンテナハウス株式会社が運営するCAS-UBのサポートチームです。利用ガイドなどのドキュメントをCAS-UBで制作しています。
所属・肩書き	
公開する連絡先	cas-support@antenna.co.jp

図15 著者のプロフィール項目に入力

入力完了したら、[保存] ボタンをクリックして戻ります。

#### 2.4.2 版数・発行年月日の設定

書誌編集画面で改訂履歴を選んで [編集] ボタンをクリックし、版数と発行年月日を入力して [追加] ボタンをクリックして戻ります。

**改訂履歴**

版数	発行年月日	説明	<b>編集</b>
1.0	013年6月12日		<b>[追加]</b>

↓  
**改訂履歴編集**

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
1.0	013年6月12日		<b>[追加]</b>

図16 版数と発行年月日の入力

#### 2.4.3 設定の保存

設定の保存は、画面上部の [記事編集] [生成] のどちらかをクリックすると、設定内容を保存してクリックした画面に移ります。[記事編集] をクリックすると、設定を保存して最後に編集していた記事の編集画面に戻ります。書誌編集画面に来る前に記事編集をしていなかったときは、先頭の記事の編集画面に移ります。



図17 書誌編集画面上部の操作リンク

また、画面の最下部にある [記事編集] ボタンでも変更した設定を保存して、記事の編集画面に移ります。

## 関 連 3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51)

### 2.5 はじめてのEPUB制作～EPUBの生成

EPUBを生成するには、一番上のメニューで「生成」をクリックします。



図18 生成画面への切り替え

クリックすると生成画面に切りわります。EPUB3の生成の前に生成設定を変更します。

#### 2.5.1 一般でCSSのテーマを選択

EPUB3の【一般】をクリックします。



図19 一般設定

クリックすると、一般設定画面になります。ここで、【CSSのテーマ】を設定します。お好みのレイアウトのテーマを選択したら、右上の【保存】ボタンをクリックして変更を保存してください。

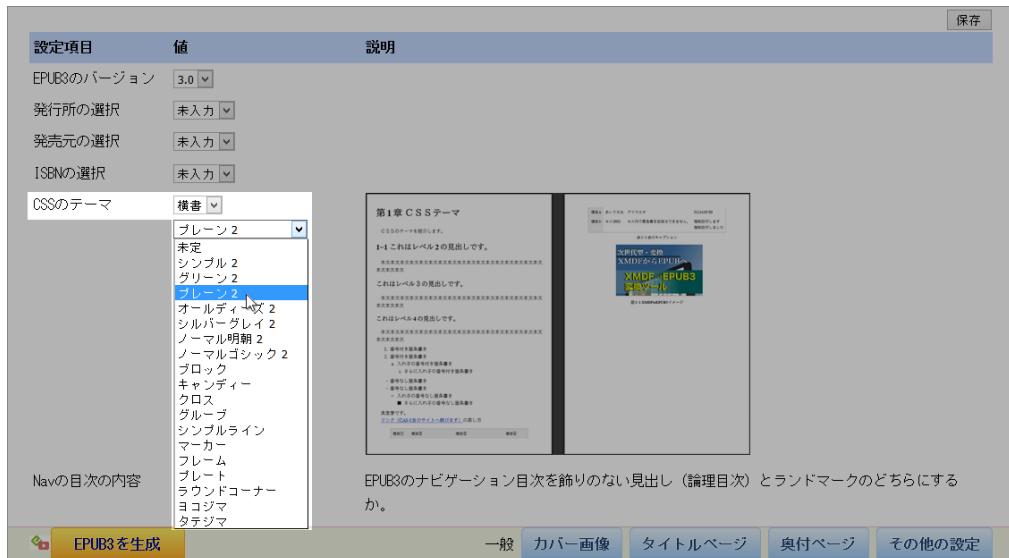


図20 一般でCSSのテーマを選択

CSSのテーマを選択しないと、【CSSのテーマ】一覧の先頭のテーマが採用されますので、必要があればお好みのテーマに変更してください。「未定」を選択すると、EPUB3を生成した

ときレイアウト指定のない状態となります。

【CSSのテーマ】の一覧は、「横書」と「縦書」に分けてあります。縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでからテーマを指定してください。



図21 縦書のCSSのテーマを選択

#### 設定の保存（生成）

生成の設定は、[保存]ボタンをクリックしなくとも他の画面に移るときに自動保存されます。このため[保存]ボタンのクリックを忘れて変更した設定は有効です。変更した設定を保存せず破棄したいときは、設定を元に戻してから他の画面に移るか、設定画面を表示しているブラウザのタブを閉じてください。

#### 2.5.2 カバー画像

EPUBではカバー（表紙）画像が必要です。カバー画像を指定しないと自動生成されます。

##### カバー画像の自動生成

EPUB3の「カバー画像」設定でカバー用の画像（cover.pngなど）を指定しない場合、CAS-UBはタイトルページからカバー画像を自動生成します。

#### 2.5.3 EPUBの生成実行

「EPUB3を生成」をクリックすると、「生成確認」と大きく表示されて生成を開始します。



図22 EPUB3生成



EPUB3 生成中

[EPUB3生成確認](#)



## EPUB3 ダウンロード

[Dropboxに保存](#)  
[EPUB3 生成確認](#)

生成には少々時間がかかります。「ダウンロード」に表示が変わったら生成完了です。

### 2.5.4 ダウンロード

「ダウンロード」をクリックすると生成されたEPUBがダウンロードされます。

ブラウザの設定によってはダウンロードされずにブラウザ上でEPUBが表示される場合があります。このときは表示されてから「コピーを保存」で保存するか、「ダウンロード」表示を右クリックすることで表示されるメニューから「名前を付けてリンク先を保存」(ブラウザにより表現が異なる場合があります)を実行するなどしてください。

生成の完了を待たずに他の作業をしたり、ログアウトしてPCをシャットダウンしても、生成処理は行われていますので、後で生成結果をダウンロードできます。生成画面で、「…を生成」の下に生成済み…ダウンロードといったリンクが表示されていれば、そのリンクから前回生成した結果をダウンロードできます(生成済みのファイルは、システムのメンテナンス時などに削除されます)。



図23 前回の生成結果をダウンロードする

## 2.6 完成したEPUBをiBooksで表示

完成したEPUB3をiBooksで表示してみましょう。

### 2.6.1 カバー画像とナビゲーション

カバー画像はCAS-UBで自動生成したものです。(ナビゲーション)目次は、デフォルト値で章と節までを取り込んでいます。なお、ナビゲーション(目次)に取り込むレベルは一般設定の【目次の生成】で変更できます。



図24 表紙とナビゲーション

## 2.6.2 第3章の先頭

第3章の先頭部分です。

第3章 各種ツールのPDF/A作成

現在、一般的に入手可能なツールによるPDF/A作成方法を記載する。

**3-1 仮想プリンタ方式によるPDF/A作成**

Adobe Acrobat XIの「Adobe PDF」、瞬間PDF作成5の「Antenna House PDF Driver 5.0」といった仮想プリンタドライバは、PDF/A-1bファイルを作成することができます。

**Adobe PDF**

印刷ダイアログのプリント選択で、Adobe PDFを選択し、詳細設定の「PDF設定」部で、「PDF/A-1b:2005(RGB)」(またはPDF/A-1b:2005(CMYK))を指定することで、PDF/A-1bに準拠したPDFファイルが作成される。

図25 第3章の先頭部分

## 2.6.3 本文の最後と奥付け

本文の最後の部分と奥付けです。奥付けは、書誌情報から自動生成しています。奥付けを生成しない設定もできます。

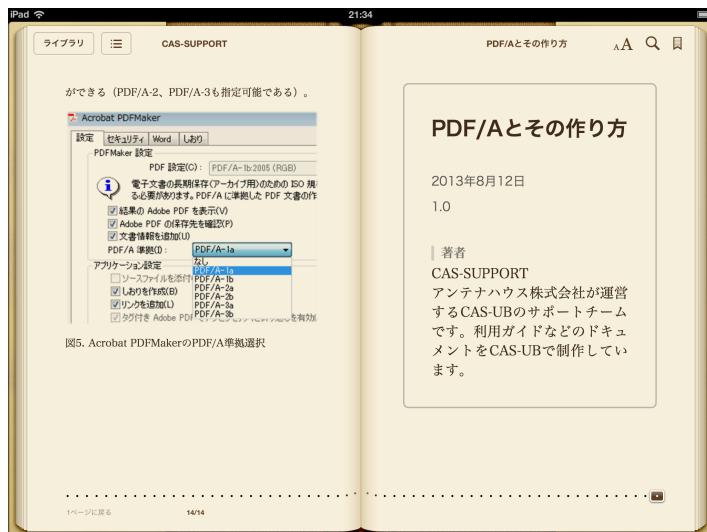


図26 本文の最後と奥付け

# 第3章 CAS-UB の画面と機能

CAS-UB の主な機能を、画面とともに説明します。

## 3.1 ホーム (出版物一覧) 画面

CAS-UB にログインすると、出版物一覧画面がでます。

The screenshot shows the CAS-UB home page with the following layout:

- Header:** CAS-UB Cloud Authoring Service for Universal Book. Navigation links: ユーザー情報, 公開プロフィール, ログアウト.
- Top menu:** 出版物新規作成, 出版物新規作成, Word変換, メルマガ変換, ディスク使用量, CAS-UB修正情報.
- Title:** supportさんの著者ページ
- Section:** ヒント (Hint)
- Section:** 出版物一覧 (List of Publications)
- Section:** supportさんの出版物 (Publications by support)
- Table:** A table listing publications by support:

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDF	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
- Section:** 執筆チームメンバーとして参加している出版物 (Publications participated in by writing team members)
- Table:** A table listing publications by writing team members:

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示
- Footer:** Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved. クリックしてこのサイトについてを表示する, 利用規約, 個人情報保護方針.

出版物一覧画面には、三つのパートがあります。

### 3.1.1 画面 右 上

This screenshot shows the top right corner of the CAS-UB interface, which includes:

- The CAS-UB logo and name.
- Navigation links: ユーザー情報, 公開プロフィール, ログアウト.
- Links for publishing actions: 出版物新規作成, Word変換, メルマガ変換, ディスク使用量, CAS-UB修正情報.

#### ユーザー情報

ユーザー情報の登録内容を、確認・修正できます。

#### 公開プロフィール

公開プロフィール (p. 237) を、登録・修正します。

#### ログアウト

CAS-UB からログアウトします。

### 3.1.2 CAS-UB ロゴの下

The screenshot shows the CAS-UB interface with the following elements:

- Top navigation bar: CAS-UB (Cloud Authoring Service for Universal Book)
- Top right: ユーザー情報, 公開プロフィール, ログアウト
- Header menu: 出版物新規作成, Word変換, メルマガ変換, ディスク使用量, CAS-UB修正情報
- Main content area: supportさんの著者ページ
- Bottom left: [ヒント] button

#### 出版物新規作成

新規の出版物を作成します。最初に行う作業なので、目立つように左側にも〔出版物新規作成〕ボタンがあります。(関連項目 : 3.2 出版物新規作成 (p. 20))

#### メルマガ変換

メルマガ変換を実行します。(関連項目 : 14.1 メルマガ EPUB 変換機能の利用方法 (p. 219))

#### Word変換

Word変換を実行します。Word変換については、別途『CAS-UB WordインポートとWord変換の利用ガイド』を用意しています。<http://www.cas-ub.com/howto/>よりダウンロードできます。

#### ディスク使用量

作成済の出版物ごとのディスク使用量を確認できます。

#### CAS-UB 修正情報

定期メンテナンスなどの修正履歴を表示します。定期メンテナンスは、毎週木曜日の夕方 18:00 から 2 時間程度行っています。

### 3.1.3 ヒント

〔ヒント〕ボタンをクリックすると、この画面から実行できる主な機能についての簡単な説明が表示されます。

ヒント表示右上隅の〔×〕をクリックすることで、ヒント表示が消えます。



図1 ヒント表示を閉じる

ヒントの説明文が多いときは、別のタブまたはウインドウで表示されます。

### 3.1.4 出版物一覧

#### ～さんの出版物

あなたがオーナーの出版物が表示されます。(関連項目 : オーナー (p. 238))

#### 執筆チームメンバーとして参加している出版物

他の人がオーナーで、あなたが執筆チームメンバーになっている出版物が表示されま

す。(関連項目：執筆チームメンバー (p. 240))

### 一覧の並べ替え

一覧の上にある項目名表示をクリックすると、一覧を並べ替えることができます。

項目名表示をクリックすると、項目名表示の色が変わります。その状態で、項目名表示をクリックすると、項目の文字コード順に一覧が並べ替えられます。更に再度、項目名表示をクリックすると、逆順に並べ替えられます。

supportさんの出版物				
項目名をクリックすると背景色が変わり一覧が並べ替えられる				
出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理	
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
books20150310	本を作つてみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ

supportさんの出版物				
再度クリックすると逆順に並べ替えられる				
出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理	
books20150310	本を作つてみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ

### 出版物の編集

出版物一覧の右側にある処理欄にある「編集」をクリックすると、出版物の記事編集 (p. 23) 画面に移ります。

supportさんの出版物				
出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理	
books20150310	本を作つてみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集	生成 書誌編集 削除 バックアップ

執筆チームメンバーとして参加している出版物				
出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

### 生成

PDF/EPUBなどの生成画面に移ります。(関連項目：3.26 PDF/EPUBなどの生成 (p. 60))

### 書誌編集

書誌情報の編集画面に移ります。(関連項目：3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51))

### 削除

出版物を削除します。(関連項目：5.7 出版物の削除 (p. 99))

### バックアップ

バックアップ画面に移ります。出版物内容のバックアップファイルを作成してダウンロードできます。また、バックアップファイルのリストアもバックアップ画面で行います。(関連項目：5.5 バックアップ (p. 94)、5.6 リストア (p. 96))

## 3.2 出版物新規作成

### 3.2.1 出版物新規作成の設定項目

「出版物新規作成」をクリックすると、出版物新規作成画面になります。

\* は必須の項目です。

### 出版物新規作成

全般

オーナー名 support

出版物識別名 \* 必須項目です  
CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。  
1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字。

出版物タイトル \* 必須項目です  
出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。

作成方法 デフォルトの設定で新規作成

出版物の言語 日本語

作成

互換モード

図2 出版物新規作成画面例

- オーナー名

あなたのユーザー名が表示されます。

- 出版物識別名

CAS-UBシステムが出版物を識別するための名前です。他のユーザーが既に使用している名前を指定するとエラーになりますので別の名前を指定してください。出版物識別名は、作成後に変更できません。なお、「CAS-UB」で始まる出版物識別名は本サービス用に予約済みですので使用できません。

出版物識別名は、6文字以上25文字まで、1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字と半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字としてください。

- 出版物タイトル

出版物のタイトル（著書名）を指定してください。出版物タイトルは作成後に変更できます。

- 作成方法

初めて出版物を作成する場合は、「デフォルトの設定で新規作成」を指定します。

- デフォルトの設定で新規作成 : まったく新規に出版物を作成します。

- 他の出版物の設定をコピーする：作成済みの出版物の設定をコピーして使えます。出版物の内容はコピーされません。「コピー元出版物」のプルダウンをクリックすると、自分がオーナーになっている出版物と執筆チームメンバーになっている出版物の一覧が出ますので、利用したい出版物タイトルを選んで、[作成] ボタンをクリックしてください。指定した出版物の設定をコピーした空の出版物が作成されます。
- 他の出版物の設定と内容をコピーする：作成済の出版物の設定と内容をコピーして新しい出版物にします。「コピー元出版物」のプルダウンをクリックすると、自分がオーナーになっている出版物の一覧が出ますので、コピーする出版物を指定します。
- バックアップファイルからの復帰：他の出版物のバックアップファイルをリストアして新しい出版物とします。v5.0

#### • 出版物の言語

作成する出版物の言語を指定します。日本語以外の出版物を作成するときは「英語」にしてください。

**関 連** コピーされる設定値 (p. 241)、15.2 出版物のオーナー (p. 238)、15.3 執筆チームメンバー (p. 240)、5.5 バックアップ (p. 94)、5.6 リストア (p. 96)

#### 「デフォルトの設定で新規作成」の設定項目

**出版物の言語**：出版物の言語を指定します。日本語と英語のいずれかになります。言語により自動生成する項目の初期値などが変わります。言語は後で変更できます。

#### 互換モード

出版物の言語「日本語」で新規作成すると出版物の種類は「書籍 3」となります。2015年9月以前のCAS-UBでは、作成する出版物に合わせて出版物の種類を指定していましたが、「書籍 3」ではすべての出版物の種類に対応できるように仕様を変更しました。

もし、以前のバージョンと同じ設定項目、同じ既定値で新規出版物を作りたい場合は、互換モードから作成してください。互換モードでは以前のバージョンと同様の出版物の種類を指定して作成できます。

画面右下にある「互換モード」をクリックすることで互換モードの出版物新規作成画面になります。

**関 連** 記事編集画面 (p. 21)、3.4 記事内容入力と保存 (p. 23)

### 3.3 記事編集画面

「出版物新規作成」が完了すると、最初に記事編集画面になり、新規の記事の入力と保存ができます。「作成方法」に「他の出版物の設定と内容をコピーする」を指定したときは、先頭の記事の記事編集画面となります。

入力と保存の操作方法は「記事内容入力と保存 (p. 23)」を参照してください。

図3 記事編集画面

記事編集画面から画像画面など他の画面に移ると、どの記事を編集していたか記録されます。他の画面で記事編集をクリックすると、直近に編集していた記事の記事編集画面に戻ります。



図4 記事編集画面から他の画面に移ると「記事編集」で直近の記事編集画面に戻れます

### 3.3.1 記事編集画面間の移動

一つ以上の記事が保存されていると、タイトルの上の「記事の選択」が有効になります。

**記事の選択** ボタン右の枠に編集中の記事タイトルが表示されます。ボタン左には記事のファイル名が表示されます。

ボタン右の記事タイトル表示をクリックすると、記事タイトルの一覧がドロップダウン表示されますので、移動したい記事タイトルをクリックしてから「記事の選択」ボタンをクリックしてください。指定した記事の記事編集画面になります。



図 5 記事タイトル一覧から記事を選んで [記事の選択] ボタンをクリックする

また、記事編集画面の左上にある [記事一覧] をクリックすると、画面左側に記事一覧が表示されます。この記事一覧は、再度 [記事一覧] をクリックするまで表示されたままになります。記事一覧から編集したい記事タイトルの左にある アイコンをクリックすると、その記事の記事編集画面になります。

記事一覧の詳細は「3.8 記事の構成を編集する (p. 30)」を参照してください。

関 連 : 3.8.1 記事一覧を出す (p. 30)、3.2 出版物新規作成 (p. 20)、ホーム (出版物一覧) 画面 (p. 17)

### 3.3.2 記事編集画面でできること

記事編集画面では、入力と保存のほかに次の操作ができます。

- 手作りの記事の作成 (p. 85)
- 記事の修正履歴の参照 (p. 89)
- 記事の内容表示 (p. 36)
- 編集時の文字進行方向の指定 (p. 197)
- 記事タイトルを本文に出力するか出力しないかの指定 (p. 128)
- 記事タイトルを目次に出力するか出力しないかの指定 (p. 128)
- 画像のアップロード (マークアップ支援ボタン) (p. 109)
- 3.7 記事の追加 (p. 29)
- SVG 記事作成 (p. 242)
- ID一覧を更新する : 見出しやキャプションなどを追加したとき、すぐには [ID参照] の一覧に追加した ID が反映されません。設定したばかりの ID を参照したいときは、編集画面下の [ID一覧を更新する] ボタンをクリックし、表示が更新されるのを待ってから [ID参照] してください。

関 連 : [ID参照] (p. 117) (第7章 マークアップ支援機能 (p. 105))、8.35 記事内の特定位置を参照する (ID参照) (p. 168)、8.34 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける (p. 166)

## 3.4 記事内容入力と保存

記事の入力・保存は、記事編集画面で行います。

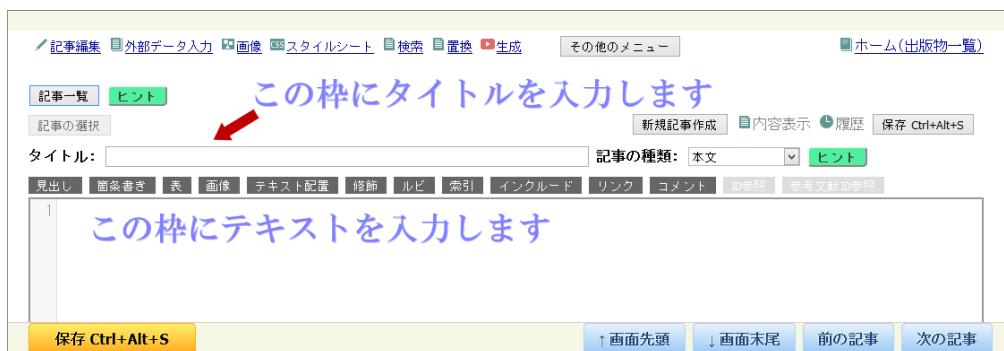


図 6 記事内容編集画面

### 3.4.1 記事の入力

記事タイトルを「タイトル」欄に入力します。記事の本文テキストは下の大枠内で入力・編集します。

関 連 記事タイトル (p. 128)

### 3.4.2 記事の保存

記事は一定のタイミングで自動的にサーバーに保存されます。また記事編集画面の上または下にある〔保存 Ctrl+Alt+S〕ボタンをクリックして保存できます。



図 7 記事内容保存ボタン

〔保存 Ctrl+Alt+S〕ボタンをクリックして保存したときは、メッセージが表示されます。

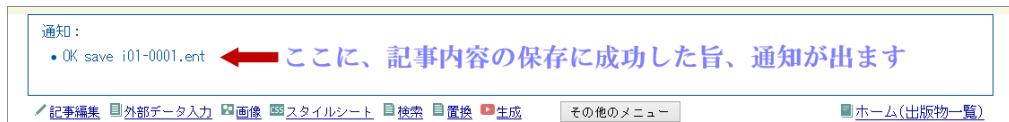


図8 保存成功の通知

保存せずにブラウザのタブや、ブラウザ自身を閉じたりすると、前回自動保存からのタイミングによっては入力途中の内容は保存されずデータが失われるかもしれません。

### 3.4.3 別の記事を編集する

記事編集画面のまま、次の三つの方法で別の記事に移って編集できます。

- 1) 画面右下にある、[前の記事] ボタンで、一つ手前の記事に移ります。[次の記事] ボタンで、次の記事に移ります。
- 2) 画面左上少し下の [ 記事の選択 ] の左のドロップダウンをクリックすると記事タイトルの一覧が表示されるので、編集したい記事をドロップダウンから選んで [ 記事の選択 ] をクリックすると、その記事に移ります。
- 3) 画面左上の [ 記事一覧 ] をクリックすると記事一覧 (p. 30) が表示されます。移りたい記事タイトル左の をクリックすると選んだ記事が編集対象になります。 をクリックすると、記事の内容表示画面に移ります。

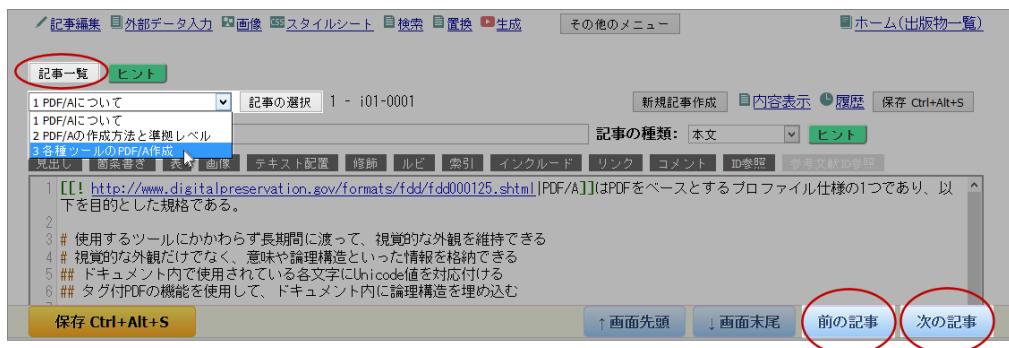


図9 移りたい記事を選択

#### 関連 3.8.1 記事一覧を出す (p. 30)

記事内容を編集後、保存しないで他の画面に移動しようとすると、IE 以外のブラウザでは、警告メッセージを表示します。編集内容を保存するなら「OK」をクリックします。「キャンセル」をクリックすると編集内容をキャンセルして、選択した記事に移動します。

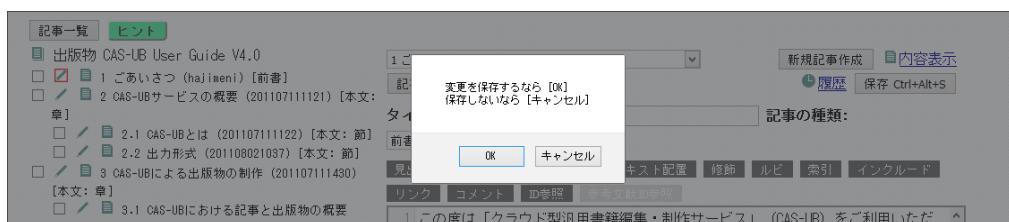


図10 保存しないときの警告

### 3.5 記事の書き方・基本

ここでは CAS-UB で記事を書くときの基本を説明します。詳しい説明は第6章 マークアップの基本 (p. 101) ~ 第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位 (p. 193) を参照してください。

記事の内容を書き方の基本は電子メールのように書く方法です。つまり、段落毎に空の行を置いて区切ります。段落の先頭は字下げしません。

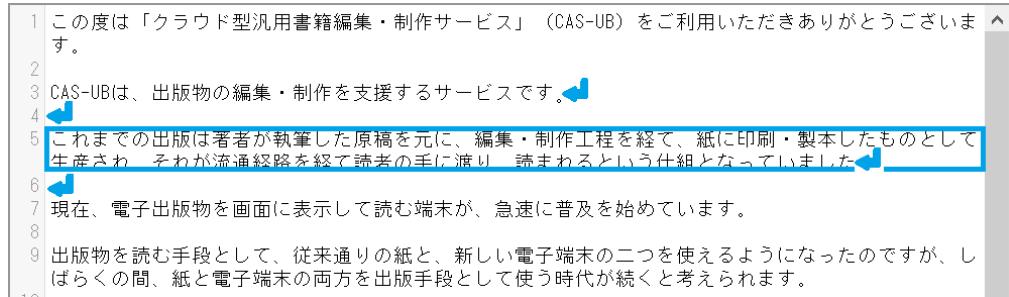


図11 CAS-UB で書く段落

記事編集画面での段落の区切り方の詳細や段落途中で改行する方法は次を参照してください。

関連 段落 (p. 122)、強制改行 (p. 158)

#### 3.5.1 成果物の段落レイアウト

成果物を出力する時の段落の先頭字下げや段落間の空きはスタイルシートで設定します。

##### PDF の段落レイアウト

PDF では、段落間の空きや段落の先頭の字下げは、「PDF 生成」画面の「PDF: レイアウト詳細設定」の基本版面調整:「段落先頭字下げ」と「段落間に1行空ける」の項目で設定できます。

関連 PDF の「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

##### Web ページと EPUB の段落レイアウト

Web ページと EPUB ではスタイルシートを「CSS のテーマ」としてあらかじめ用意しています。図12 段落の区切り (EPUB) (p. 27) は、図11 CAS-UB で書く段落 (p. 26) のように入力した記事を EPUB で表示した画面です。

この度は「クラウド型汎用書籍編集・制作サービス」(CAS-UB)をご利用いただきありがとうございます。CAS-UBは、出版物の編集・制作を支援するサービスです。

これまでの出版は著者が執筆した原稿を元に、編集・制作工程を経て、紙に印刷・製本したものとして生産され、それが流通経路を経て読者の手に渡り、読まれるという仕組となっていました。

現在、電子出版物を画面に表示して読む端末が、急速に普及を始めています。

出版物を読む手段として、従来通りの紙と、新しい電子端末の二つを使えるようになったのですが、しばらくの間、紙と電子端末の両方を出版手段として使う時代が続くと考えられます。

図12 段落の区切り（EPUB）

さらに先頭字下げや段落間の空きの有無を調整できます。

**関 連** 字下げや段落間の空きの調整は12.2 CSSのテーマの機能と設定変更(p. 203)の12.2.3 設定変更(CSSの調整)(p. 204)を参照してください。

### 3.5.2 記事サイズの制限

ひとつの記事内容の制限は60KBです。記事を大きくしすぎてそのサイズを超えると保存時に分割を促すメッセージが出ます。記事の分割は、別の記事を作成し記事の種類を「記事の続き」にして、前の記事の後半部分を移して保存してください。

**関 連** 記事の種類「記事の続き」(p. 77)

### 3.5.3 ファイル名の制限

CAS-UBで扱うことのできるファイル名は、半角のアルファベットと数字および'-'です。また、ファイルには拡張子が必須で、ベースネームと拡張子の間は'.'で区切ってください。

## 3.6 マークアップと自動処理

CAS-UBでは、見出し、箇条書き、表のような構造指定、あるいは体裁などの指示をマークアップで指定します。マークアップによって、次に説明する自動処理もできます。

### 3.6.1 見 出 し

記事タイトルが、各記事の成果物における最上位の見出しどなります。そして、記事の本

文テキストで行の先頭に '=' を付けると見出しのマークアップとなります。本文テキストの見出しのレベルは '=' の個数で指定します。

関 連 8.3 見出し (p. 125)

### 3.6.2 目次の生成

Web ページの目次や EPUB の目次は、記事のタイトルと記事内の見出しから自動作成します。

関 連 EPUB の生成設定 (p. 62) EPUB3 の目次 (p. 245)

PDF の目次も自動生成できます。

関 連 PDF の生成設定については、<http://www.cas-ub.com/howto/>で入手できる「CAS-UBによる PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

見出しのレベルがあるときは、どのレベルまでを目次に出すか、生成画面の Web/EPUB の一般設定と、PDF レイアウト設定のレイアウト詳細設定で指定します。

手作りの目次があるときは手作りの目次が優先して使われます。

関 連 4.1 記事の種類一覧 (p. 75)

### 3.6.3 マークアップなどから生成する記事

CAS-UB では、本文の中で適切なマークアップがあるとき、図表一覧、巻末注釈、索引、参考文献表を生成できます。

- 図表一覧

図と表のキャプションを集めて図表一覧を作成します。

- 巻末注釈

注釈の内容を集めて巻末注釈を作成します。

- 索引

マークアップで索引語として指定されているものを集めた上で、並び替え用のキーの順に並び替えて索引のページを作ります。

- 参考文献

bib ファイルから参考文献表を生成できます。

関 連 PDF/EPUB などの生成 (p. 60)

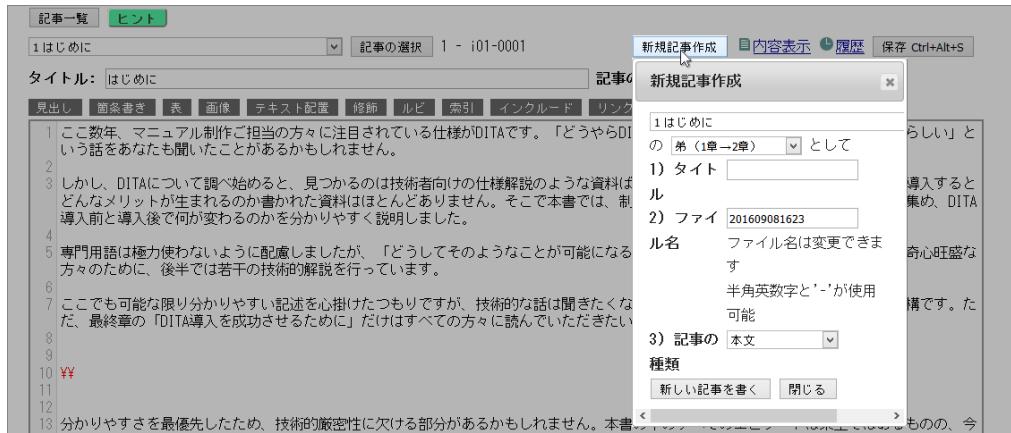
### 3.6.4 自動採番

成果物を生成するとき見出しの番号・図番号・表番号を自動採番できます（自動番号付けを使わない設定もできます）。

### 3.7 記事の追加

新規の記事は、記事編集画面で追加できます。

記事編集画面の編集枠右上にある、[新規記事作成] ボタンをクリックすると、新規記事作成の設定項目が表示されます。



一番上の枠に現在編集中の記事タイトルが表示されます。この枠をクリックすると、出版物名及び既存の記事タイトルの一覧が表示されます。新規の記事の挿入位置は、この欄で指定する親または兄となる記事と、その記事との関係で決定します。

関係に「弟（1章→2章）」を指定したときは、編集中の記事または指定の記事と同レベルで、直後の位置に挿入されます。

関係に「子（1章→1章1節）」を指定したときは、編集中の記事または指定した記事の子レベルの最後に挿入されます。

- 1) 記事タイトルに、記事タイトルを入力してください。
- 2) ファイル名は、記事作成後は変更できません。必要があれば、ここでファイル名を変更してください。ファイル名に使用できる文字は、半角英数字と'-'のみです。
- 3) 記事の種類の既定値は「本文」です。枠をクリックすると記事の種類の一覧がでますので、必要があれば変更してください。記事の種類は、記事を作成した後で変更できます。

[新しい記事を書く] をクリックすると、指定に従って新しい記事が追加され、新しい記事の編集状態になります。

## 3.8 記事の構成を編集する

### 3.8.1 記事一覧を出す

記事編集画面で [記事一覧] をクリックすると記事タイトルが一覧表示されます。再度 [記事一覧] をクリックすると記事一覧が消えます。

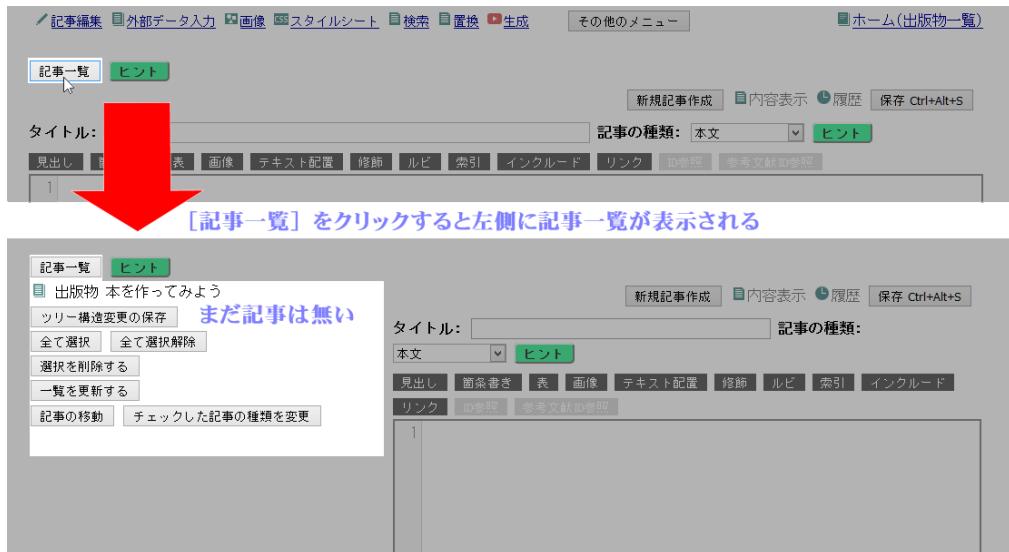


図13 記事一覧を出す

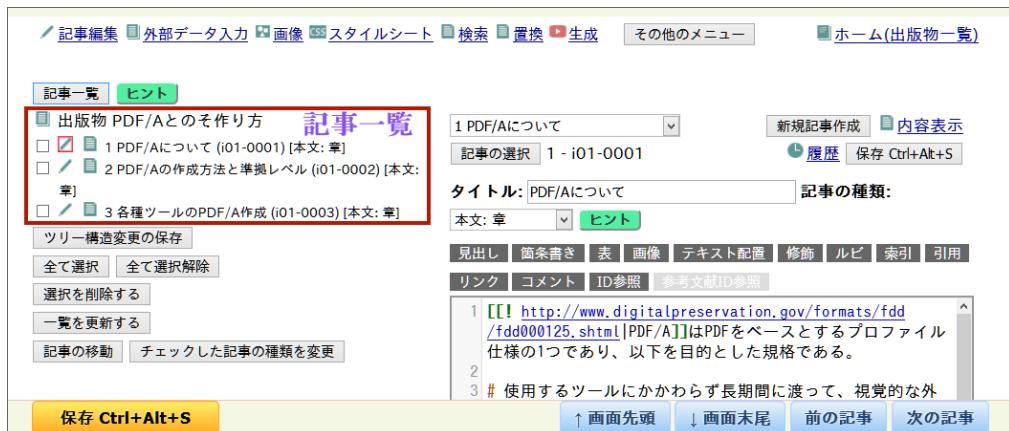


図14 記事一覧の表示例

### 3.8.2 記事一覧でできること

- **記事の移動 (p. 32)**

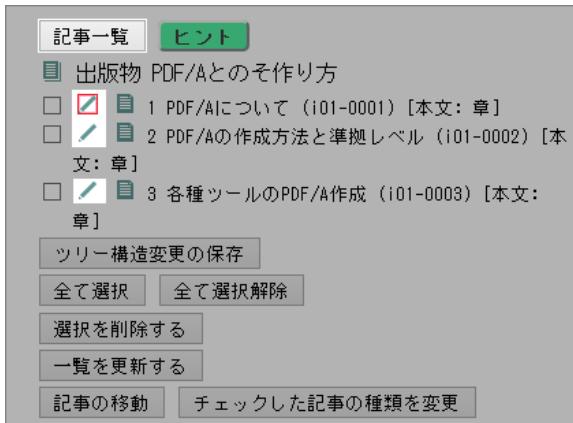
記事一覧で、出版物の記事の順序変更、階層の変更ができます。

- **記事の削除**

- 記事の削除 (p. 34)

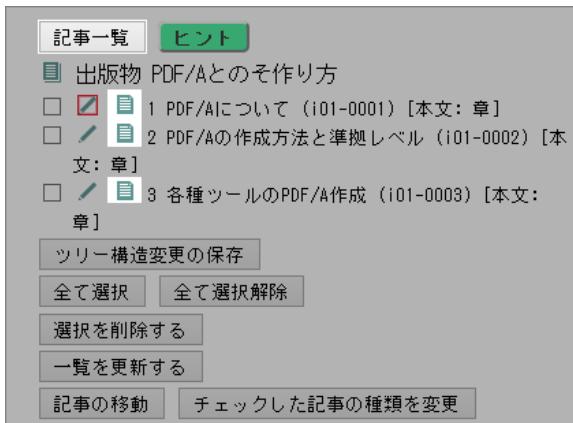
- 記事の編集 (p. 23)

記事一覧から記事を選んで編集するには、記事タイトル表示の左にあるペンシルアイコン (ewriter) をクリックします。枠の付いているペンシルアイコン (ewriter) の記事が、現在編集中の記事です。



- 記事の内容表示 (p. 36)

記事タイトル表示左にある、プレビューアイコン (eye) をクリックすることで、記事の内容表示ができます。内容表示でマークアップミスの確認や、入力ミスの確認ができます。



注記 関連：記事の内容表示に CSS テーマを適用する (p. 38)

- 記事の種類の変更 (p. 75)

記事の種類を一括変更できます。

## 3.9 記事の移動

記事の位置を動かしたいときは、記事一覧を出して、移動したい記事タイトルの左にある□をクリックしてチェックマークを付けます。

注記 関連：3.8.1 記事一覧を出す（p. 30）

記事一覧の下にある【記事の移動】をクリックすると、記事の移動についての操作項目が表示されます。

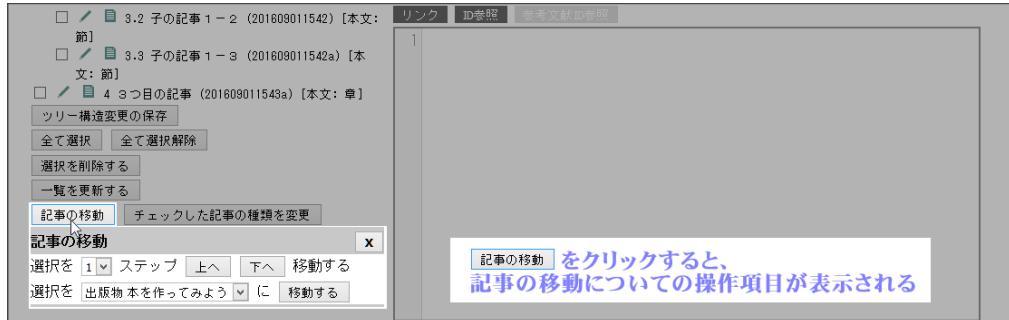


図 15 記事の移動についての操作項目

### 3.9.1 同じレベルの記事間の移動

同じレベルの記事間での前後移動は、記事タイトル表示の下にある【上へ】[下へ]ボタンをクリックしてください。チェックマークを付けた記事が前後に移動します。【上へ】ボタンの左側にある数字で一度にいくつ移動するかを指定できます。指定した記事に子の記事があるときは、子の記事も一緒に移動します。

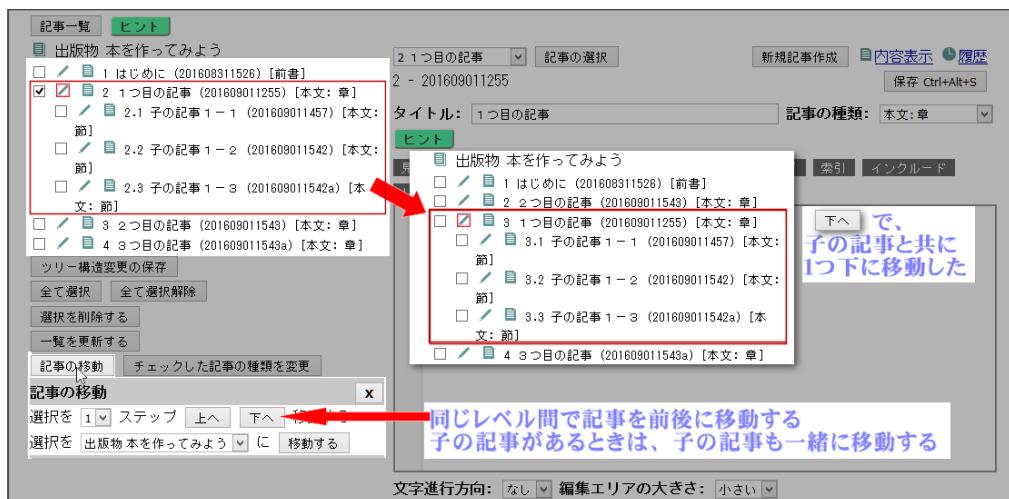


図 16 同レベルの記事間の移動

### 3.9.2 任意の位置への移動

レベルの異なる記事の子の位置に移したいときは、[移動する] ボタンの左にあるプルダウンで移動先の記事を指定してから [移動する] ボタンをクリックしてください。

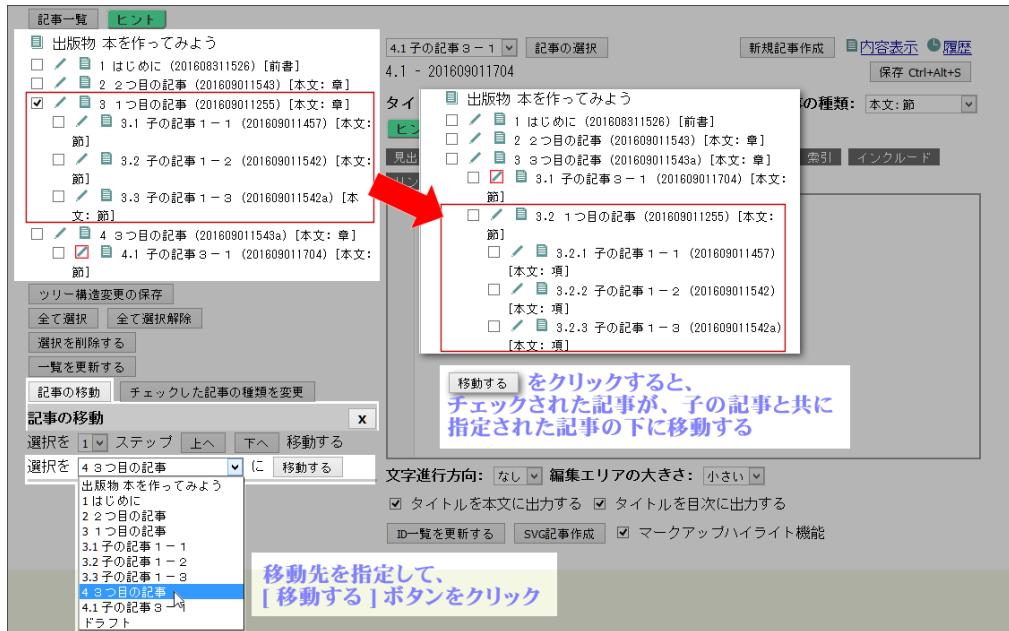


図 17 記事を任意の記事の下に移動する

### 3.9.3 ドラッグ＆ドロップによる移動

記事タイトル表示をマウスでドラッグ＆ドロップする方法でも記事を移動できます。

記事一覧で、記事タイトル表示をマウスの左ボタンでドラッグして、移動先で左ボタンを放す（ドロップ）と、記事を移動できます。この場合、記事一覧の下にある「ツリー構造変更の保存」をクリックしたときに、移動結果が実際の記事順序に反映されます。「ツリー構造変更の保存」をクリックしないと、ドラッグ＆ドロップによる記事の移動結果は無効となりますのでご注意ください。

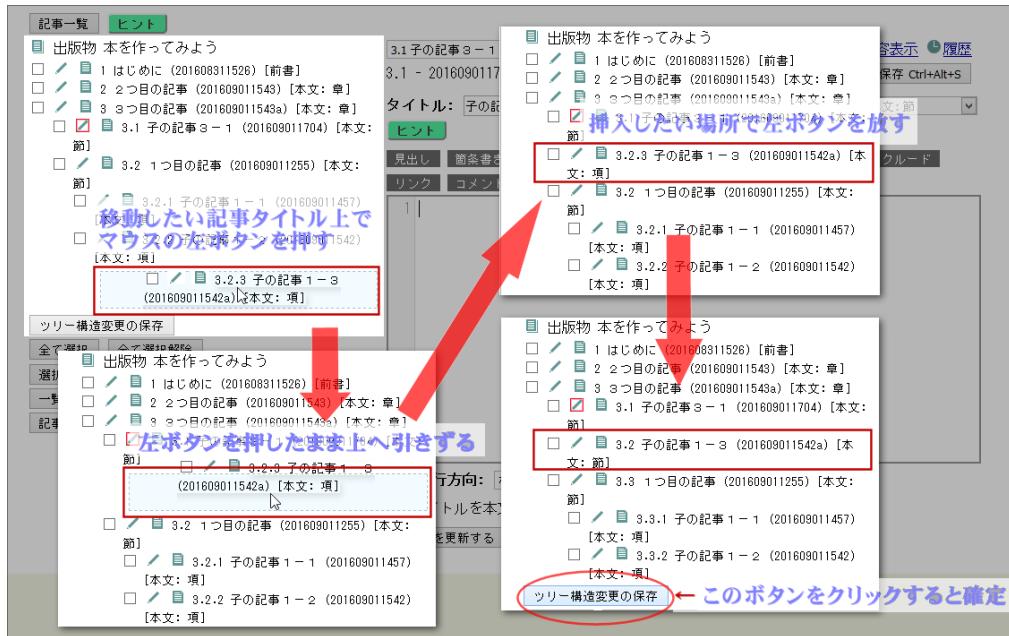


図18 ドラッグ&ドロップによる記事の移動

ドラッグ&ドロップでも、移動対象の記事に子の記事があれば、子の記事も一緒に移動します。

### 3.10 記事の削除

不要な記事の削除は、記事一覧を出して、記事一覧の記事タイトルの左にある  にチェックマークを付けてから、記事一覧の下にある【選択を削除する】ボタンをクリックします。親の記事を削除すると、子の記事も削除されます。

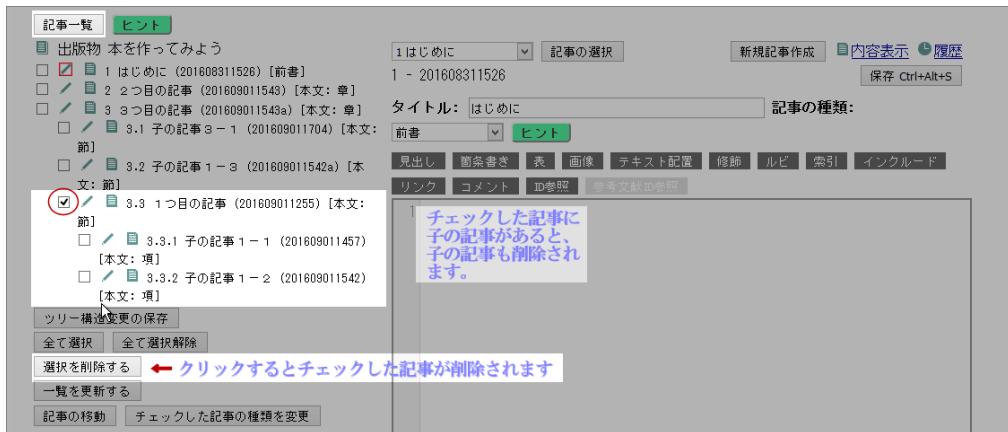
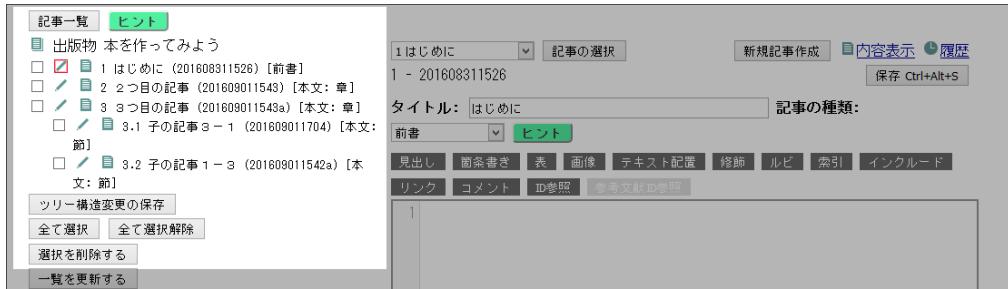


図19 チェックした記事が削除される

【選択を削除する】ボタンをクリックすると、削除対象ファイル名の一覧が表示されますので、削除してよいなら【削除】ボタンをクリックしてください。

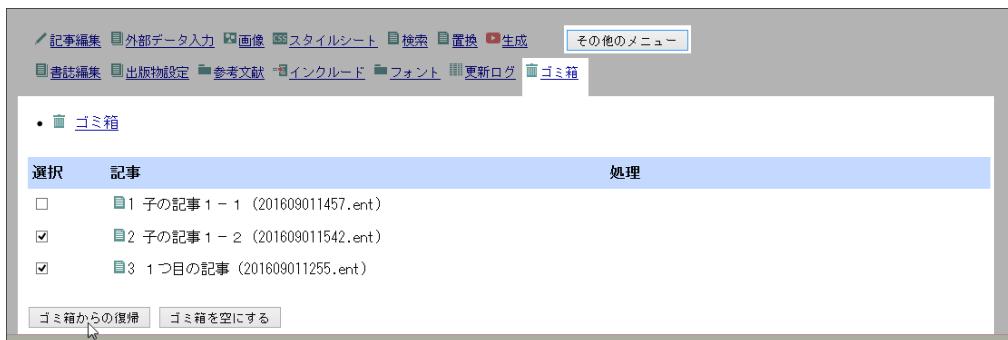


【削除】ボタンをクリックすると、記事が削除されます。



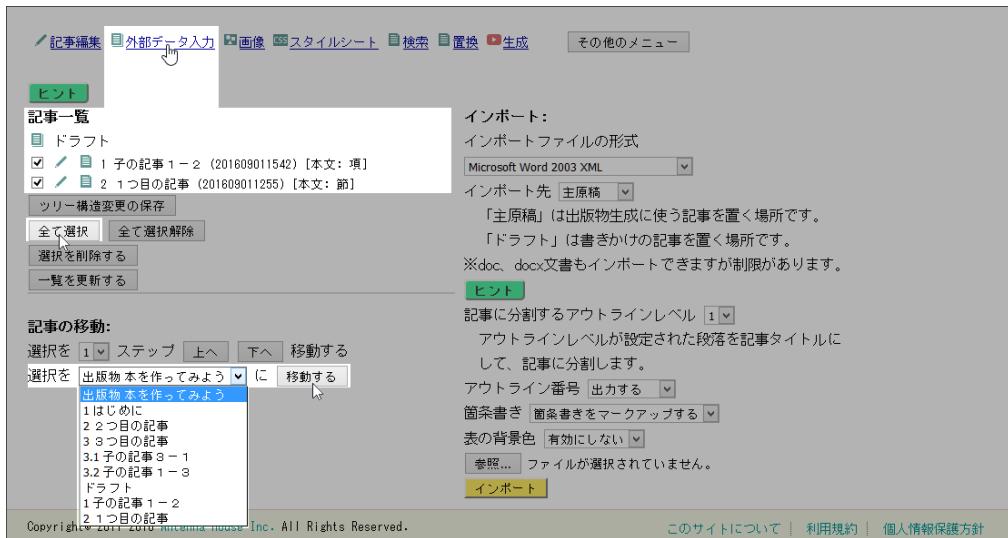
### 3.10.1 削除した記事の復帰

削除した記事はゴミ箱に入ります。



復帰させたい記事があれば、ゴミ箱画面で、記事タイトル左の  にチェックマークを付けてから【ゴミ箱からの復帰】ボタンをクリックします。

復帰した記事は、外部データ入力画面のドラフトに入りますので、ドラフトから主原稿へ移動してください。



[ゴミ箱を空にする] で、ゴミ箱内の記事がすべて消去されます。



図20 ゴミ箱を空にする

関 連 3.20 ドラフト (p. 44)、3.9 記事の移動 (p. 32)

### 3.11 記事の内容表示

記事編集画面の編集枠上にある「内容表示」をクリックすると、現在編集中の記事内容のマークアップを反映させた結果をブラウザで表示します。

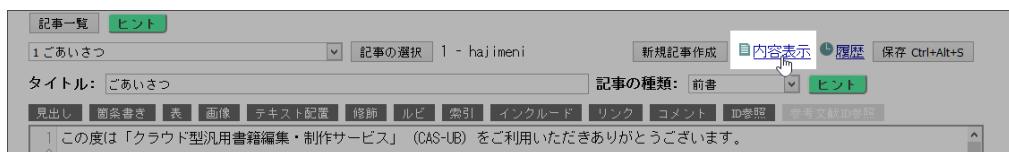


図21 内容表示

また、記事一覧で、記事タイトル左のプレビューアイコン (≡) をクリックすると、編集中の記事とは別の記事の内容を直接表示できます。

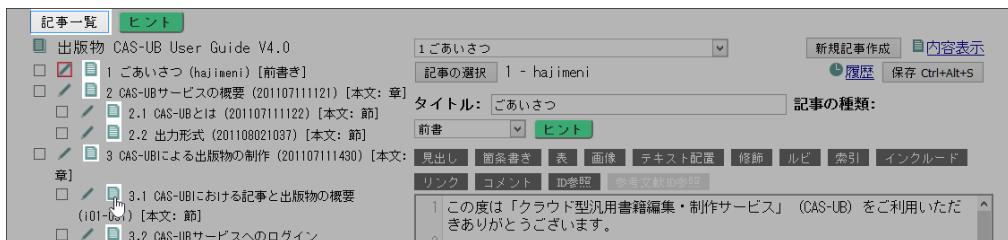


図 22 記事一覧から内容表示

### 3.11.1 内容表示での操作

画面上右（縦書表示のときは画面右側）にあるナビゲーションメニューで記事を移動します。また、表示の中にID参照やURL参照があれば、リンクのクリックで参照先の記事内容やWebページが表示されます。

図 23 内容表示例

内容表示には、「内容表示のテーマの選択 (p. 38)」で、EPUB等用のCSSのテーマ (p. 203)を反映させることもできます。また「ユーザー・スタイルシート (p. 205)」のCSSは常に表示に反映されます。

内容表示画面のナビゲーションメニューでは、次の操作ができます。

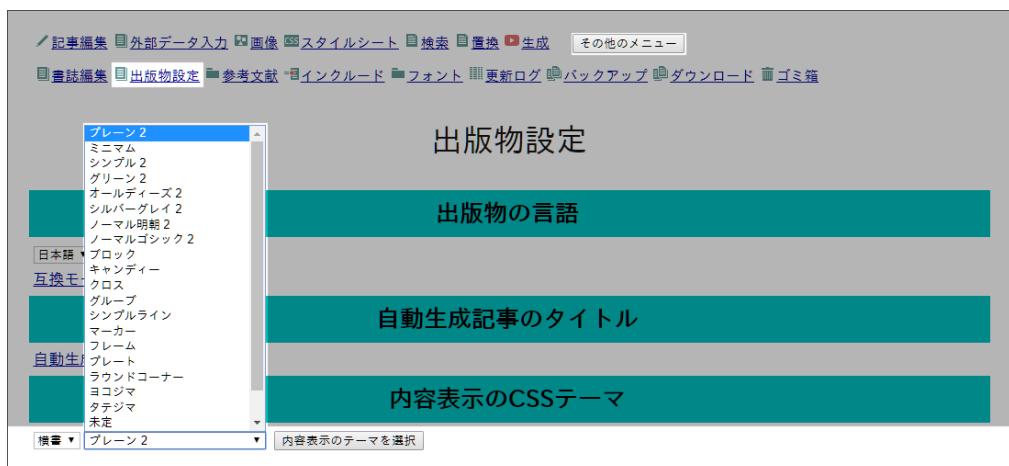
- **記事編集**  
表示中の記事の記事編集画面 (p. 21) に移ります。
- **履歴**  
表示中の記事の編集履歴 (p. 89) を表示します。
- **生成**  
EPUB3、PDFなどの生成画面 (p. 60) に移ります。
- **最初の記事**  
編集中の出版物の最初の記事内容を表示します。
- **前の記事**  
表示中の記事のひとつ前の記事内容を表示します。

- 次の記事  
表示中の記事の次の記事内容を表示します。
- 最後の記事  
編集中の出版物の最後の記事内容を表示します。
- ホーム（出版物一覧）  
ホーム（出版物一覧）画面（p. 17）に移ります。

### 3.12 内容表示のテーマの選択

CAS-UB では、EPUB3/EPUB2/Kindle 用に「CSS のテーマ」を用意しており、各ファイルの生成時に適用できます。記事の内容表示画面にも「CSS のテーマ」を反映させられます。

内容表示に適用する CSS テーマは、出版物設定画面の下側にある「内容表示の CSS テーマ」で指定します。「CSS のテーマ」の一覧は、横書と縦書に分けてあります。左端のプルダウンで横書または縦書を指定し、その右のプルダウンで「CSS のテーマ」を選択したのち [内容表示のテーマの選択] ボタンをクリックしてください。



縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでから「CSS のテーマ」を指定してください。



**注 意** 縦書用の「CSS テーマ」は、Google Chrome のような縦書に対応したブラウザでのみ縦書表示になります。Mozilla Firefox や IE では、縦書表示になりません（最新の Mozilla Firefox や Windows 10 の Edge では縦書き表示できるようです）。

**関 連** 12.1 CSS のテーマ（p. 203）

### 3.13 外部データ入力画面

外部データ入力画面では、次の作業を行います。

- Wordなどのインポート (p. 39)
- ドラフトに置かれた記事の編集と整理 (p. 44)

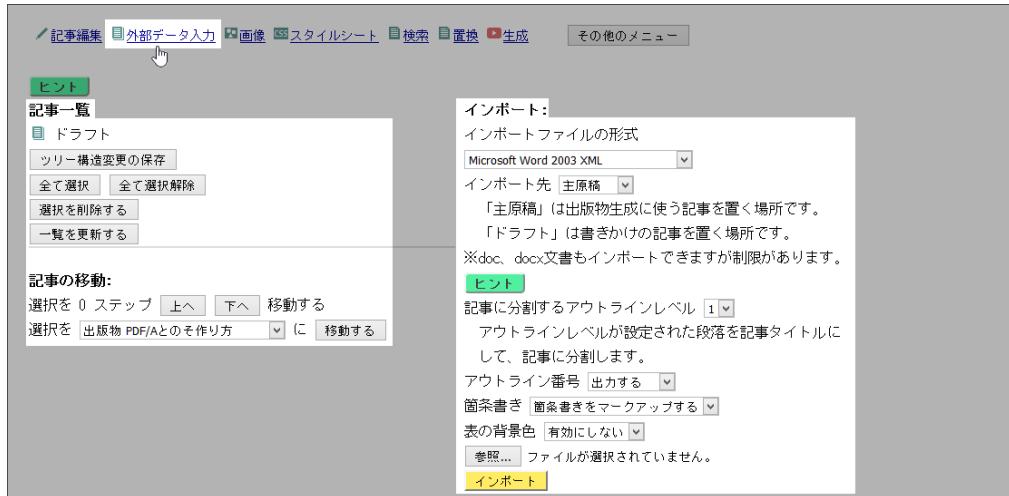


図 24 外部データ入力画面

**注 意** Web ブラウザのウィンドウ幅が狭いとき、インポートは記事一覧関連表示の下に表示されます。

### 3.14 インポート

CAS-UB では、以下の形式のファイルをインポートできます。

- Microsoft Word
- WordPress
- プレーンテキスト
- SVG の ZIP
- Picasol 整理済み XML

ファイルのインポートは、外部データ入力画面で実行します。



#### 3.14.1 インポートファイルの形式を指定

インポートファイルの形式により、設定項目などが異なりますので、「インポートファイルの形式」を変更すると、表示も切り替わります。



インポートファイルごとの設定については、それぞれの解説を参照してください。

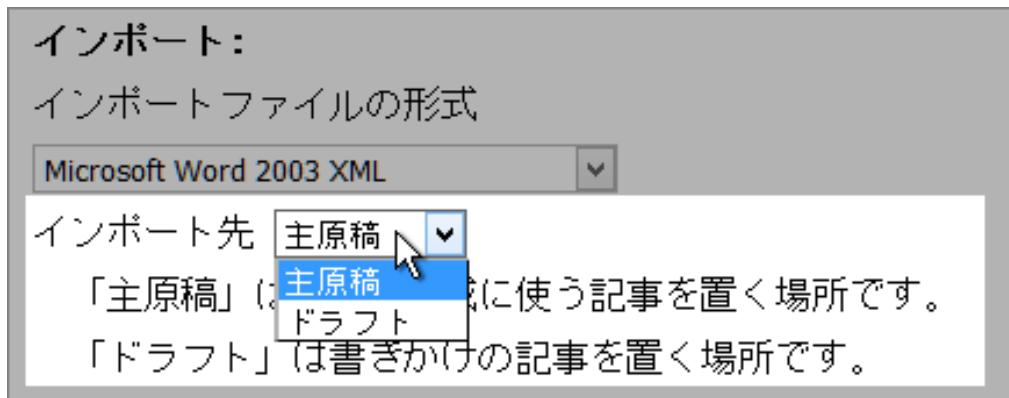
Microsoft Word 文書のインポートについては、『CAS-UB Word インポートと Word 変換の利用ガイド』を別資料として用意しています。<http://www.cas-ub.com/howto/>より PDF 版と EPUB 版をダウンロードできます。

それ以外については続く節で説明しています。

- WordPress のインポート (p. 41)
- プレーンテキストのインポート (p. 42)
- 複数の SVG ファイルの ZIP アーカイブ (p. 42)

### 3.14.2 インポート先

インポート先で、インポート結果の置き場所を指定します。



「主原稿」と「ドラフト (p. 44)」が選択できます。

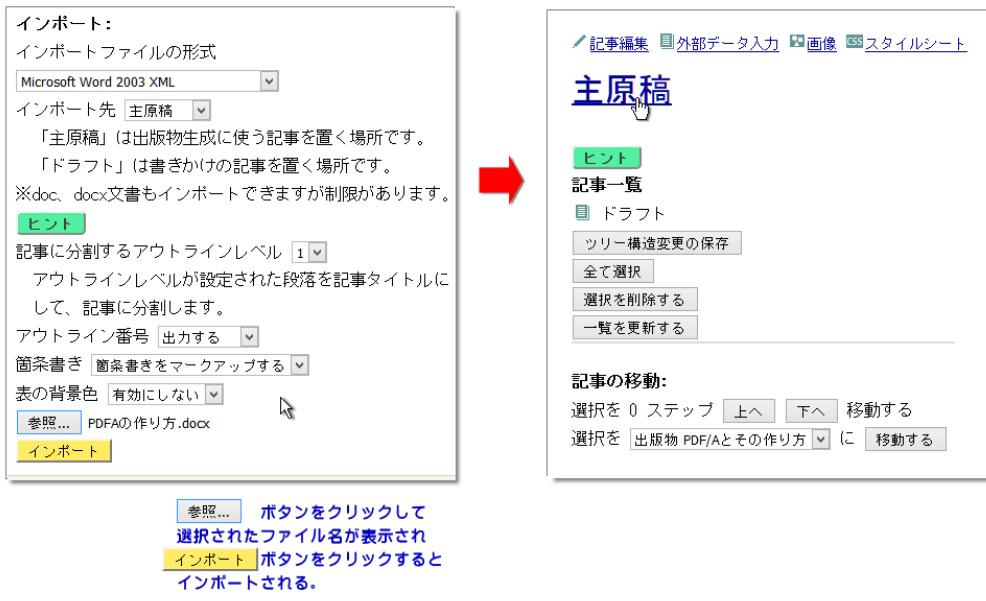
インポート結果をすべて使用するなら「主原稿」を指定してください。

インポート結果の一部だけを利用するなら、「ドラフト」を指定して、インポート後に必要な記事のみを主原稿に移動するとよいでしょう。

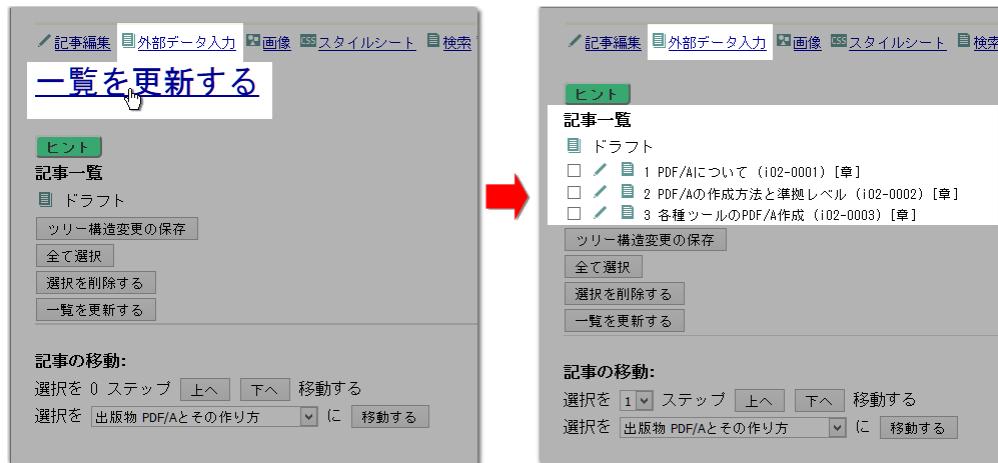
### 3.14.3 インポートの実行

[File Selection] ボタンをクリックしてインポートするファイルを指定します。次に [Import] ボタンをクリックするとインポートを開始します。

インポート先が「主原稿」のときは、画面左に大きく「主原稿」と表示されたら完了です。「主原稿」の表示をクリックすると記事編集画面に移ってインポート結果を確認できます。



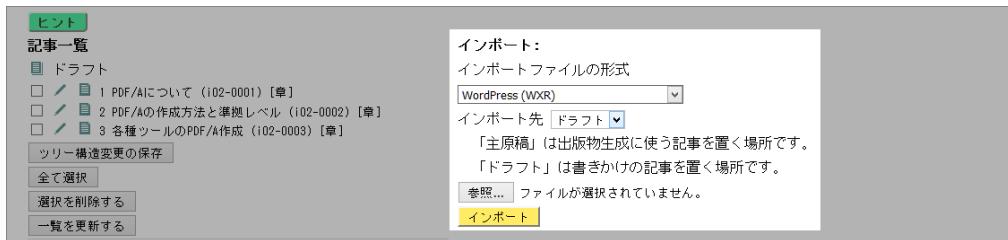
インポート先が「ドラフト」のときは、インポートが完了すると画面左に「一覧を更新する」と大きく表示されますので「一覧を更新する」をクリックしてください。画面左側に、インポートされた記事の一覧が表示されます。



### 3.15 WordPress のインポート

WordPress のインポートでは、WordPress のエクスポート形式ファイル (WRX) に対応しています。

「インポートファイルの形式」に「WordPress (WXR)」を選択すると、表示が次のように変わります。



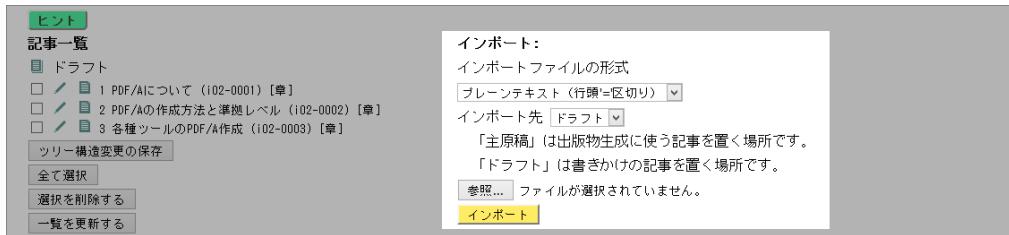
WordPress の記事ごとに、分割してインポートします。

関 連 「外部データ入力画面 (p. 39)、3.14 インポート (p. 39)

### 3.16 プレーンテキストのインポート

プレーンテキストのインポートでは、文字エンコーディングは UTF-8, UTF-16, Shift-JIS, EUC, JIS に対応しており、自動判別されます。

「インポートファイルの形式」に「プレーンテキスト（行頭'=区切り）」を選択すると、表示が次のように変わります。



プレーンテキストのインポートでは、行の先頭に = があると、その行を記事タイトルとして分割します。

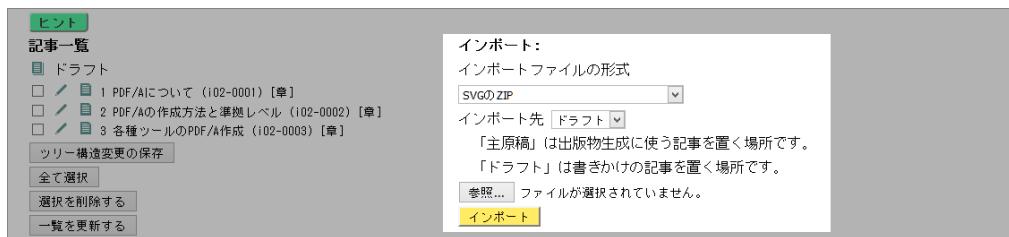
関 連 「外部データ入力画面 (p. 39)、3.14 インポート (p. 39)

### 3.17 SVG の ZIP のインポート

SVG ファイルの ZIP のインポートでは、複数の SVG ファイルを ZIP 形式でまとめたファイルを、SVG 記事 (p. 242) としてインポートできます。

SVG の ZIP をインポートすると、ZIP に含まれる SVG ファイルひとつが、個別の SVG 記事としてインポートされます。

「インポートファイルの形式」に「SVG の ZIP」を選択すると、表示が次のように変わります。

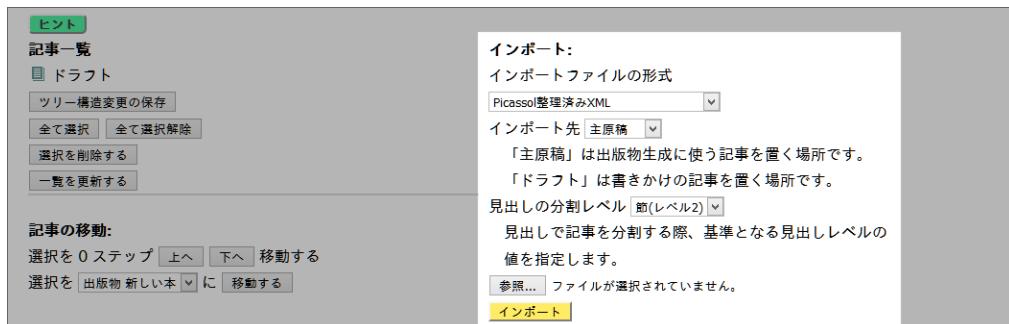


SVGのZIPを3.21 画像のアップロード (p. 45) でアップロードすると、JPEGなどと同様に画像ファイルとして扱うことができます。

関 連 「外部データ入力画面 (p. 39)、3.14 インポート (p. 39)

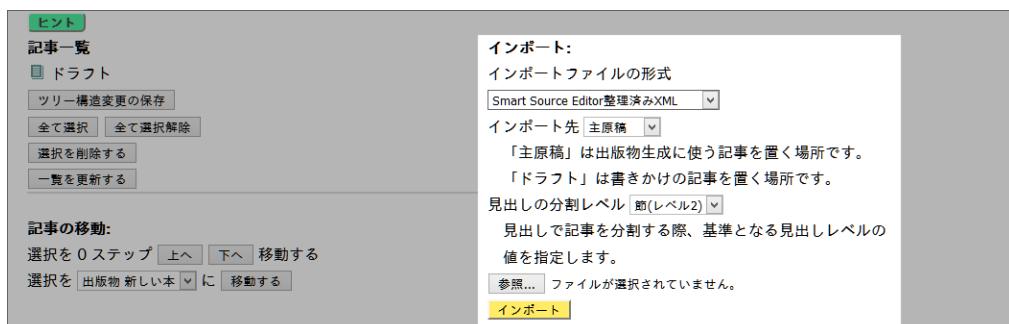
### 3.18 Picassol 整理済み XML のインポート

Picassol 整理済み XML のインポートでは、株式会社講談社と日本電気株式会社が開発した原稿作成・編集ソフト Smart Source Editor をベースに開発されたサービスの Picassol で出力された独自形式 XML (Picassol 整理済み XML) をインポートできます。



### 3.19 Smart Source Editor 整理済み XML のインポート

Smart Source Editor 整理済み XML のインポートでは、株式会社講談社と日本電気株式会社が開発した原稿作成・編集ソフト Smart Source Editor で出力された独自形式 XML (Smart Source Editor 整理済み XML) をインポートできます。



## 3.20 ドラフト

ドラフトは、採用未定の部分など暫定的な記事を置くための場所です。

ドラフトは、外部データ入力画面にあります。

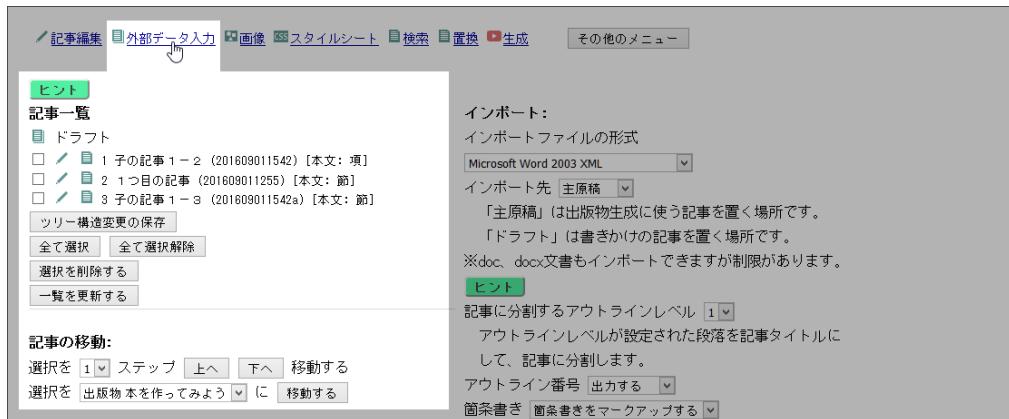


図 25 ドラフトに記事があるときの表示例

### 3.20.1 ドラフトに記事を入れる

ドラフトに記事を置くには、次の方法があります。

- Wordなどのインポート (p. 39)  
インポート先に「ドラフト」を指定します。
- 主原稿の記事編集画面から移動 (p. 32)  
記事の移動で、移動先にドラフトを指定します。
- 削除した記事を復活 (p. 35)  
ゴミ箱画面 (p. 34) で [ゴミ箱から復帰] を実行すると、ドラフトに記事が移動します。

### 3.20.2 ドラフトにある記事の操作

ドラフトに置かれた記事には、次の操作ができます。操作方法は、記事編集画面の記事一覧での操作とほぼ同じです。

- 移動 (p. 32)
- 削除 (p. 34)
- 内容表示 (p. 36)
- 編集 (p. 30)

### 3.20.3 記事の移動

記事編集画面の「記事の移動 (p. 32)」と同じ操作で、主原稿へもドラフト内の別の位置へも記事を移動できます。移動したい記事をチェックしておき、移動先を指定してから [移動する] ボタンをクリックしてください。

#### 3.20.4 記事の削除

削除したい記事をチェックしておき、[選択を削除する] ボタンをクリックすると、チェックしてある記事がゴミ箱に移ります。

#### 3.20.5 記事の内容表示

記事タイトル左にある  をクリックすると記事内容をブラウザで表示します。

#### 3.20.6 記事内容の編集

記事タイトル左にある  をクリックすると、ドラフトの記事編集画面 (p. 21) に移ります。

### 3.21 画像のアップロード

出版物の本文中のイメージ（ラスター）画像や図版（ベクトル画像）、表紙（カバー画像）、表紙や奥付のロゴに画像を使えます。これらはすべて画像管理（画像）画面で管理します。画像は出版物ごとにアップロードする必要があります。出版物をまたいでの利用はできません。

画像は、記事編集画面と、画像画面からアップロードできます。

#### 3.21.1 記事の編集中に画像をアップロードする

記事の入力・編集中に画像をアップロードできます。詳細については「画像-マークアップ支援機能 (p. 109)」を参照してください。

#### 3.21.2 画像画面

メイン・メニューの「画像」で画像画面に移ります。

画像画面では、単独画像のアップロード、複数画像の一括アップロード、アップロード済画像の削除といった操作ができます。

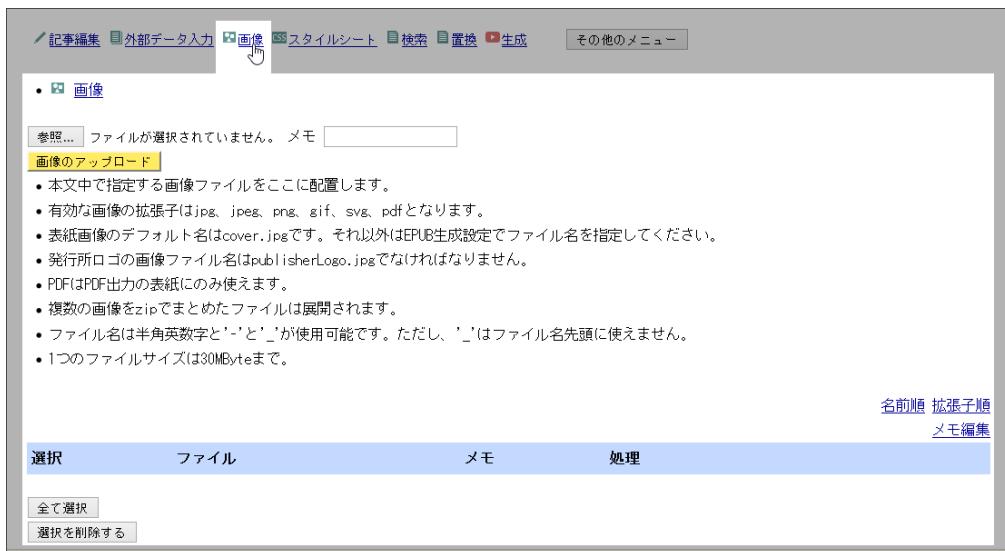


図 26 画像の画面

### 画像のアップロード

画像のアップロードは、左側にある[参照]ボタンをクリックして、アップロードするファイルを指定してから[画像のアップロード]ボタンをクリックしてください。画像がアップロードされて画面下部の画像一覧に名前が表示されます。既に同名の画像ファイルがアップロードされているときは上書きの確認表示が出ます（Internet Explorerでは上書きの確認はできません）。



図 27 アップロードする画像を指定して[画像のアップロード]ボタンをクリックする

複数の画像を一度にアップロードしたいときはZIPファイルでまとめたものをアップロードしてください。ZIPファイルを展開した内容が登録されます。ZIPファイルをアップロードしたときは、上書きの確認を行いませんのでご注意ください。



図28 アップロードされている画像の一覧

アップロードできる画像ファイルには下記の制限があります。

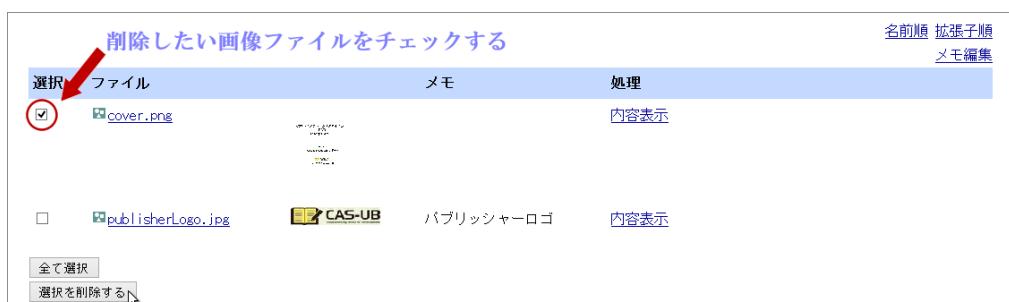
- ファイル形式はイメージ（ラスター）画像は JPEG、PNG、GIF です。ベクトル画像は SVG、PDF です。
- 有効な画像の拡張子は、jpg, jpeg, png, gif, svg, pdf です
- PDF は PDF 出力の表紙にのみ使用できます
- 複数の画像を zip でまとめたファイルはアップロード後に展開されて登録されます
- ファイル名は、半角英数字 と '-' と '\_' 以外使用できません
- ひとつのファイルサイズは 30MByte までです
- 表紙画像のデフォルト名は cover.jpg です。それ以外は生成時に表紙内容設定（PDF）、カバー画像（EPUB3/EPUB2）でファイル名を指定してください
- 出版社のロゴファイルは publisherLogo.jpg でなければなりません

アップロードの際に画像にコメントを付けることができます。ファイルを指定してから、[画像アップロード] ボタンの手前にあるメモ欄にコメントを入力して [画像アップロード] ボタンをクリックしてください。

アップロードした画像が、jpg, jpeg, png, gif のときは、ファイル一覧にサムネイル（画像の縮小版）が表示されます。

### 画像の削除

アップロード済の画像を削除するには、削除したい画像ファイル名の左にある  をクリックしてチェックマークを付けてから [選択を削除する] ボタンをクリックしてください。



[選択を削除する] ボタンをクリックすると、次のように確認表示が出ますので、ほんとうに削除してよいなら [削除] ボタンをクリックしてください。指定した画像ファイルが削除

されます。



画像の削除には、非常に時間がかかることがあります。

画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と大きく表示されますので、「一覧を更新する」をクリックしてください。



図29 画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と表示されるのでクリックしてください

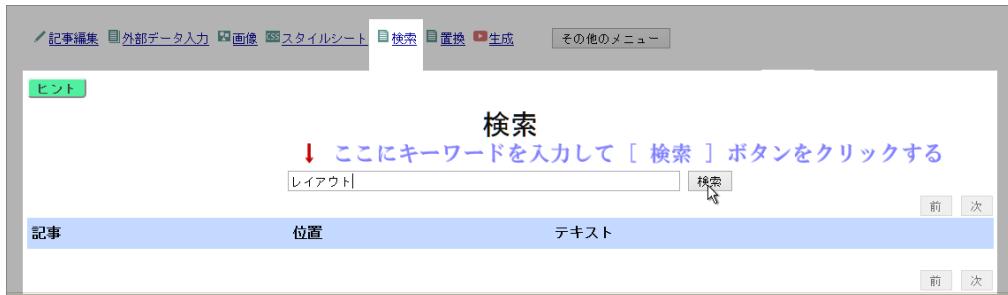
## 3.22 検索

検索画面で、任意のキーワードが含まれる記事を検索できます。



- 入力した文字列がそのまま検索キーワードになります。
- 空白などもそのまま検索されます。
- 改行を含む文字列は検索できません。

入力枠に検索キーワードを入力して [検索] ボタンをクリックすると検索結果が表示されます。



(n, n) カッコ内の数字は、 レイアウト 検索 次のページがあります ↓  
記事内の位置を、行数と桁数で示しています Page 1 (Remains 120 Files) 前 次

記事	位置	テキスト
hajimeni.ent	(13,18)	紙の出版物は決められた判型にページレイアウトされていますが、電子書籍形式では、ページサイズが可変であることを前提に制作する必要がありますので、紙の出版物向けの出版ワークフローでは対応が難しくなるかもしれません。
	(15,12)	CAS-UBは、ページレイアウト型の出版ワークフローに代わる、新しいワークフローを提案するものです。CAS-UBを使うと紙と電子書籍の双方を同時に制作でき、紙の出版物と電子書籍の双方をよりスムーズに制作できます。
	(28,26)	#画面の遷移は⇒：(例) **生成**⇒PDFの**レイアウト設定** 生成画面で、PDFのレイアウト設定のリンクをクリックすることを示します。
		<b>位置表示をクリックすると、記事編集画面に移って該当位置がハイライト表示されます</b>
<b>記事ファイル名をクリックすると、記事編集画面に移って記事内容を編集できます</b>		

図 30 検索結果の表示例

検索結果表示

記事	位置	テキスト
hajimeni.ent	(13,18)	紙の出版物は決められた判型にページレイアウトされていますが、電子書籍形式では、ページサイズが可変であることを前提に制作する必要がありますので、紙の出版物向けの出版ワークフローでは対応が難しくなるかもしれません。
	(15,10)	CAS-UBは、ページレイアウト型の出版ワークフローに代わる、新しいワークフローを提案するものです。CAS-UBを使うと紙と電子書籍の双方を同時に制作でき、紙の出版物と電子書籍の双方をよりスムーズに制作できます。

**位置表示をクリックすると、記事編集画面に移って該当位置がハイライト表示される**

出版物を読む手段として、従来通りの紙と、新しい電子端末の二つを使えるようになったのですが、しばらくの間、紙と電子端末の両方を出版手段として使う時代が続くと考えられます。  
そうなりますと、出版物を作る立場の人たちは、紙による出版と電子書籍形式による出版の両方を使いこなす必要があります。  
紙の出版物は決められた判型にページレイアウトされていますが、電子書籍形式では、ページサイズが可変であることを前提に制作する必要がありますので、紙の出版物向けの出版ワークフローでは対応が難しくなるかもしれません。

図 31 編集画面での検索文字列のハイライト表示例

**注 意** マークアップハイライトがオンになっていないと、記事編集画面での検索文字列のハイライト表示はされません。

**注 意** 記事内の検索は、ブラウザの検索機能をご利用ください。但し、マークアップハイライトがオフになっていると記事内検索ができません。記事内検索が必要なときは記事編集画面の編集枠下にある「マークアップハイライト機能」のチェックを外して実行してください。

**関 連** 3.4 記事内容入力と保存 (p. 23)、3.23 置換 (p. 49)

### 3.23 置 換

置換画面で、任意の文字列を編集中の出版物全体から検索して、別の文字列に置き換えできます。

記事編集 外部データ入力 画像 スタイルシート 検索 置換 生成 その他のメニュー ホーム(出版物一覧)

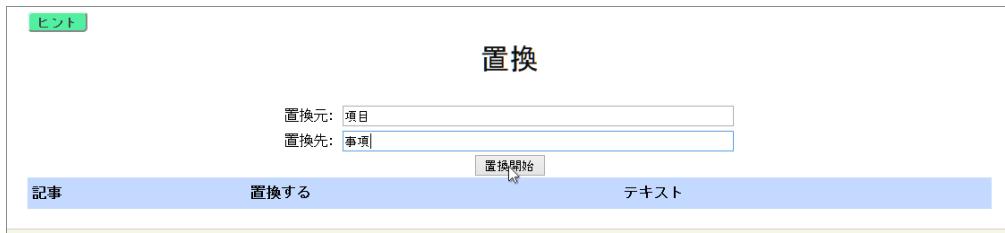


図 32 置換の実行

**置換元:** に、置換元の文字列を入力し、**置換先:** に、置換先文字列を入力してから、[置換開始] ボタンをクリックしてください。

置換元の文字列が見つかった部分が、その前後を含めて一覧されます。

記事	置換	テキスト
する		
01-001.ent (10, 3)	<input checked="" type="checkbox"/>	関連 項目_事項 : [[##e:201107261344記事の種類と出版物の種類]]
01-001.ent (31, 3)	<input checked="" type="checkbox"/>	関連 項目_事項 : [[##e:201107261344記事の種類と出版物の種類]]
sample-book.ent (19, 3)	<input checked="" type="checkbox"/>	関連 項目_事項 : [[##e:Word-to-CAS Wordのインポートで取り込まれる属性など]]
sample-book.ent (35, 77)	<input checked="" type="checkbox"/>	出版物のファイル名やタイトルを設定します。ファイル名は「how-to-PDF/A」、出版物のタイトルは「PDF/Aとその作り方」とします。このふたつが必須 項目_事項 です。出版物の種類は「書籍2」を選択します。それ以外は設定は変更しないで、一番下の [作成] ボタンをクリックします。
201107311251.ent (3, 50)	<input checked="" type="checkbox"/>	CAS-UBでは、表紙と奥付に出力するデータを書誌情報から引用しますので、表紙と奥付に記載が必要な 項目_事項 は書誌情報に記入しておきます。また、書誌情報は、EPUB3などのメタデータとして登録されます。
201107311251.ent (23, 19)	<input checked="" type="checkbox"/>	[[fig =著者のプロフィール 項目_事項 ]]

図 33 置換元文字列の検索結果表示例

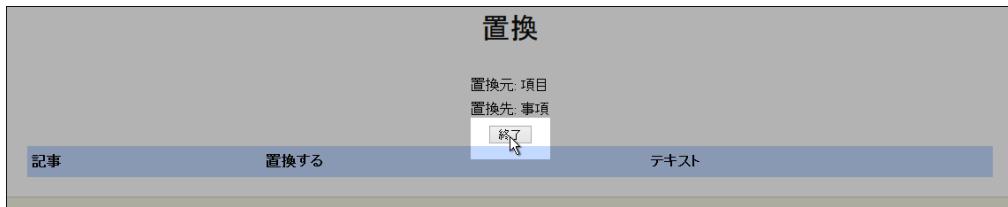
[置換して次] ボタンをクリックすると、表示されている一覧にある置換元文字列を置換先文字列に置き換えて、次の一覧を表示します。

[置換せず次] ボタンをクリックすると、表示している一覧を置換しないで、次の一覧を表示します。

一部だけ置き換えたくない場合は、置き換えたくない場所のチェックを外してから[置換して次] ボタンをクリックしてください。

201107311251.ent (3, 50)	<input checked="" type="checkbox"/>	CAS-UBでは、表紙と奥付に出力するデータを書誌情報から引用しますので、表紙と奥付に記載が必要な 項目_事項 は書誌情報に記入しておきます。また、書誌情報は、EPUB3などのメタデータとして登録されます。
201107311251.ent (23, 19)	<input type="checkbox"/>	[[fig =著者のプロフィール 項目_事項 ]]

置換対象をすべて処理すると、「終了」ボタンが出ます。「終了」ボタンをクリックすると、再度、置換作業を繰り返すことができます。



**注 意** 置換元文字列が一覧されないときも「置換して次」[置換せず次] ボタンが表示されている場合は、他に置換対象があります。

関 連 3.22 検索 (p. 48)

### 3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力

表紙や奥付を自動生成するときには、書誌情報の項目内容が引用されますので、書誌編集画面で必要な項目を入力してください。

図 34 書誌編集画面

以下、「表紙」というときは CAS-UB で表紙の自動生成機能を使う場合に該当します。表紙にできあいの画像を使うときは該当しません。また EPUB ではタイトルページ(本扉に相当する)を自動生成できますが、タイトルページにも自動生成する表紙と同じ内容を出力します。

出版物タイトルは必須ですが、その他の項目は必須ではありません。

#### 全般 (p. 52)

出版物タイトル [表紙・奥付]、出版物サブタイトル [表紙・奥付]、出版物タイトル (優先) [表紙・奥付]、出版物サブタイトル(優先) [表紙・奥付]、出版物レベル [表紙]

## プロフィール (p. 53)

著者 [表紙・奥付]、編著者 [表紙・奥付]、監修者 [表紙・奥付]、訳者 [表紙・奥付]、監訳者 [奥付]、編者 [表紙・奥付]、制作者 [奥付]、装丁者 [奥付]、イラストレーター [奥付]

## 著作権 (p. 55)

著作権者 [奥付]、著作権表記 [奥付]

## 管理番号 (p. 55)

ISBN [奥付]

## 改訂履歴 (p. 56)

版数 [表紙・奥付]、発行年月日 [表紙・奥付]、説明 [奥付]

## 発行所 (p. 57)

発行者 [奥付]、会社名 [表紙・奥付]、電話番号 [奥付]、ウェブ [奥付]、メールアドレス [奥付]

## 発売元 (p. 58)

会社名 [奥付]

発売元は、発行所と発売元が異なるときのみ記入してください。

## 印刷 (p. 58)

印刷会社名 [奥付]

## 製本 (p. 58)

製本会社名 [奥付]

### 3.24.1 修正内容の保存

これらの項目の修正内容は、入力項目末尾にある [保存] ボタンをクリックすると保存され、出版物の生成結果に反映されます。また、画面左下の [記事編集画面へ] または、入力項目先頭の上にある「生成」などをクリックすると、修正内容が保存されてから、クリックした画面に移ります。



### 3.24.2 全般

#### • 出版物タイトル [表紙・奥付]

出版物新規作成時に入力していますが、いつでも変更できます。

#### • 出版物サブタイトル [表紙・奥付]

出版物にサブタイトルを付けることができます。

#### • 出版物タイトル（優先） [表紙・奥付]、出版物サブタイトル（優先） [表紙・奥付]

タイトル、サブタイトルにルビ (p. 156) や縦中横 (p. 157) を使うため V3.0 で追加しました。詳しくは 3.25 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横 (p. 59) を参照して

ください。

- 出版物レーベル [表紙]

「x x 新書」といったブランド名や、シリーズ名などを付けることができます。

### 3.24.3 プロフィール

- 著者

著者は複数名の登録ができます。

- 名前(ペンネーム) [表紙・奥付]：著者の本名またはペンネーム、執筆チーム名など。複数登録すると、登録した名前が、表紙と奥付にすべて出ます。
- プロフィール [奥付]：著者のプロフィール。複数登録すると、登録した人のプロフィールが奥付にすべて出ます。
- 編著者 [表紙・奥付]、監修者 [表紙・奥付]、訳者 [表紙・奥付]、監訳者 [奥付]、編者 [表紙・奥付]、制作者 [奥付]、装丁者 [奥付]、イラストレーター [奥付]  
それぞれ複数登録できますが、先頭に登録されている 名前(ペンネーム) のみが出ます。プロフィールは出ません。登録の手順は著者と同様です。

プロフィール			
ここに指定したものを表紙や奥付に出力します。 すでにある出版物からプロフィールをコピーする			
著者	名前(ペンネーム) プロフィール	所属・肩書き	連絡先
			<b>編集</b>
編著者	名前(ペンネーム) プロフィール	所属・肩書き	連絡先
			<b>編集</b>

出版物プロフィール編集トップ					
著者					
名前(ペンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
[追加]をクリックするとプロフィールを追加できます					
<input type="button" value="追加"/> <input type="button" value="チームメンバーの公開プロフィールをコピーする"/>					
<b>戻る</b>					

## 出版物プロフィール編集

### 著者

名前 (ペンネーム)	<input type="text" value="support"/>
フリガナ	<input type="text" value="サポート"/>
プロフィール (800文字まで)	<input type="text" value="CAS-UBのサポート担当"/>
所属・肩書き	<input type="text" value="CAS-UBチーム"/>
公開する連絡先 (メールアドレス、 電話、住所など)	<input type="text" value="cas-support@antenna.co.jp"/>
<input type="button" value="保存"/> <span style="color: #ccc;">[保存]</span> <a href="#">戻る</a>	

図 35 プロフィール入力画面

名前（ペンネーム）と、必要があればプロフィールを入力して【保存】をクリックすると、プロフィールが登録されます。

通知:

- 出版物プロフィールを更新しました。
- 出版物情報を更新しました。

## 出版物プロフィール編集トップ

### 著者

名前(ペンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
support	サポート	CAS-UBのサポート担当	CAS-UBチーム	cas-support@antenna....	<a href="#">編集</a> <a href="#">削除</a>

<input type="button" value="追加"/>	<input type="text" value="チームメンバーの公開プロフィールをコピーする"/>
<a href="#">戻る</a>	

著者が複数いるときは、再度【追加】をクリックして、プロフィールを追加してください。  
「戻る」をクリックすると、プロフィール編集を終了します。

**参考** 著者などのプロフィールは出版物ごとに登録する必要がありますが、「公開プロフィール (p. 237)」が登録されていれば、執筆チームメンバーになっている出版物のプロフィールに公開プロフィールをコピーできます。

### 3.24.4 著作権

- 著作権者 [奥付]

複数行の入力が可能です。著作権者の名前または、法人名、団体名などを入力してください。

- 著作権表記 [奥付]

複数行の入力が可能です。Copyright © 2016 . . . といった著作権表記を入力してください。

※ これらの項目を修正したときは、画面一番下にある [保存] ボタンを必ずクリックしてください。

### 3.24.5 管理番号

ISBN を登録します。ひとつの出版物に複数の ISBN を割り当てているときは、すべてを書誌情報に登録しておいて、PDF や EPUB を生成する際に使用するものを指定できます。

#### 関連 「EPUB の一般設定 (p. 63)」

PDF の「一般設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/>で入手できる「CAS-UBによる PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

※ これらの項目を修正したときは、画面一番下にある [保存] ボタンを必ずクリックしてください。

ください。

Copyright © 2011-2016 Antenna House Inc. All Rights Reserved.

このサイトについて | 利用規約 | 個人情報保護方針

### 3.24.6 改訂履歴

改訂履歴は、表紙には最後に登録したもののみが出来ます。奥付には、最初に登録したものと最後に登録したものが出来ます。

- 版数 [表紙・奥付]  
初版、第二版、といった版数を入力します。
- 発行年月日 [表紙・奥付]  
発行年月日を入力します。日付の形式に制限はありません。
- 説明 [奥付]  
版についての説明が必要なら入力してください。

改訂履歴の追加と修正は、項目右にある [編集] ボタンをクリックしてください。改訂履歴の編集画面に移ります。

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
初版	2013年7月発行		<input type="button" value="追加"/>

戻る

改訂履歴に追加する項目を入力して、画面右の [追加] ボタンをクリックすると改訂履歴が追加されます。

**通知:**

- 改訂履歴を追加しました。
- 出版物情報を更新しました。

### 改訂履歴編集

版数	発行年月日	説明	処理
初版	2013年7月発行	<input type="text"/>	<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="更新"/>

---

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

[戻る](#)

追加した改訂履歴を修正したいときは、修正してから項目右の [更新] ボタンをクリックしてください。修正履歴の内容が更新されます。

### 改訂履歴編集

版数	発行年月日	説明	処理
初版	2013年7月発行	<input type="text" value="限定公開版"/>	<input type="button" value="削除"/> <input style="outline: 2px solid red;" type="button" value="更新"/>

---

追加したい改訂履歴情報

版数	発行年月日	説明	処理
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>

[戻る](#)

「戻る」をクリックすると、改訂履歴編集が終了します。

#### 3.24.7 発 行 所

発行所は、三つまで登録できますが、表紙と奥付に出るのはひとつ目だけです。

項目右の [編集] ボタンをクリックすると、発行所の編集画面に移ります。

### 発行所

1	<input style="outline: 2px solid red;" type="button" value="編集"/>
2	<input type="button" value="編集"/>
3	<input type="button" value="編集"/>

## 発行所・発売元編集

\* がついている項目は必須の項目です。

### 発行所1

発行者	<input type="text"/>
会社名 *	<input type="text"/>
住所 *	<input type="text"/>
電話番号 *	<input type="text"/>
ウェブ	<input type="text"/>
メールアドレス	<input type="text"/>

[保存](#)

[削除](#)

[戻る](#)

発行所の編集画面と発売元の編集画面は共通です。\* が付いている項目は必須の項目なので必ず入力してください。

必要な項目を入力して [保存] ボタンをクリックすると、入力した内容が保存されて、書誌編集画面に戻ります。

[削除](#) をクリックすると、登録内容が削除されて、書誌編集画面に戻ります。

[戻る](#) をクリックすると、修正を保存して書誌編集画面に戻ります。

### 3.24.8 発 売 元

発売元は、発行所と発売元が異なるときのみ記入してください。

発売元は、奥付に会社名のみが出ます。表紙には出ません。

登録の手順は、発行所 と同様です。

### 3.24.9 印刷会社名と製本会社名

印刷会社名と製本会社名は奥付にのみ出ます。これらの項目を入力・修正したときは、画面下の [保存] ボタンをクリックしてください。[保存] ボタンをクリックすると、入力内容が保存されて記事編集画面に移ります。

### 印刷

印刷会社名	<input type="text"/>
-------	----------------------

### 製本

製本会社名	<input type="text"/>
-------	----------------------

[保存](#)

### 3.24.10 入力補助機能

書誌情報は入力項目が多いので、変更したい項目を簡単に出せるようにリンクボタンを用意しています。

画面下にある、[全般へ] [プロフィールへ] [著作権へ] [改定履歴へ] [発行所へ] の各ボ

タンで、それぞれの入力項目の先頭位置に移ります。これらのボタンをクリックしても項目の変更内容はクリアされません。



### 3.25 タイトルとサブタイトルのルビと縦中横

自動生成の表紙、タイトルページと奥付の内容は書誌情報から生成します。V3 からタイトルページと奥付の書名（タイトル）とサブタイトルにルビと縦中横（縦組のとき）を使えるようになりました。PDF と EPUB 両方とも有効です。

V2.3 までと互換にするため、出版物の新規作成の際に入力するタイトルにはルビと縦中横を使えません。書名とサブタイトルにルビと縦中横を指定するには 書誌情報での出版物タイトル（優先）、出版物サブタイトル（優先）にタイトルとサブタイトルを入力し、CAS 記法でルビと縦中横をマークアップします。

オーナー名	tkobayashi
出版物識別名	CASNewfeature
出版物タイトル *	<input type="text" value="CAS-UB V3 の新しい機能"/> 1文字以上100文字まで。
出版物サブタイトル	<input type="text" value="2015年9月17日"/> 100文字まで。
<b>出版物タイトル(優先) V3.0で追加</b>	<input type="text" value="(((CAS-UB キャスユーピー))) [[[tcy V3]]] の新しい機能"/> 100文字まで。CAS記法でルビと縦中横を指定できます。
<b>出版物サブタイトル(優先)</b>	<input type="text" value="2015年[[[tcy 9]]]月[[[tcy 17]]]日"/> 100文字まで。CAS記法でルビと縦中横を指定できます。

図 36 書誌情報画面のマークアップ（例）

PDF のタイトルページを縦組にすると次のように出力されます。

CAS-UB  
V3  
の  
新  
しい  
機  
能  
2015年9月17日  
キャスユーピー

図 37 タイトルページのルビと縦中横

## 3.26 PDF/EPUBなどの生成

PDFやEPUB3などの生成は、生成画面で実行します。



### 3.26.1 生成の条件設定

PDF, EPUB3, EPUB2など、ファイル形式別に設定メニュー（一般、表紙内容設定、奥付け内容設定など）があります。生成の条件を変更するときは各設定メニューをクリックします。詳細は各ファイル形式別の生成設定を参照してください。

関連 3.27 EPUBの生成設定 (p. 62)、3.28 Kindleの生成設定 (p. 69)、3.30 HTMLヘルプの生成設定 (p. 73)

PDFの生成設定については、<http://www.cas-ub.com/howto/>で入手できる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」で解説しています。

### 3.26.2 生成設定の保存

生成の設定は、各生成メディアごとにそれぞれ3種類保存できます。

各設定画面の左側の「設定名」の上のプルダウンをクリックすると三つの設定名が表示されます。設定に名前を付けるには「設定名」右の枠に新しい設定名を入力して[保存]ボタンをクリックします。

The first screenshot shows a dropdown menu with three options: '設定1', '設定2' (highlighted in blue), and '設定3'. A tooltip message above the dropdown reads: '変更したい設定を保存する 設定名を指定し、新しい設定名を入力してから [保存] ボタンをクリック' (Specify the setting name to save the changed setting, enter a new setting name, and click the [Save] button). The second screenshot shows the '設定名' input field containing 'スマホ用' and the '保存' (Save) button being clicked.

保存が完了すると、「設定名」表示上のプルダウンに変更した設定名が表示されます。



保存した設定を使うには PDF を生成、EPUB3 を生成、EPUB を生成などのリンク脇のドロップダウンをクリックして、使用する設定名を選択し [保存] ボタンをクリックします。その後に生成を実行します。

図 38 [保存] ボタンをクリックしてから生成を実行する

### 3.26.3 生成時のエラーについて

生成実行時に、次のような ID の重複エラーが出ることがあります。

記事	位置	重複ID	テキスト
i01-0003.ent	(33,1)	h_i01-0003, 使用例	==使用例
i01-0003.ent	(39,1)	h_i01-0003, 使用例	==使用例

図 39 生成実行時のエラー表示例

ひとつの記事の中で同じ ID は使えません。

CAS-UB は、記事ファイル名と見出し (p. 125) または 8.10 キャプション (p. 136) から参照用の ID を自動生成しています。ひとつの記事中に同じ見出しやキャプションが複数存在すると、ID が重複してエラーになります。

重複 ID 一覧に表示されている記事のファイル名をクリックすると、該当する記事内容が表示されますので修正してください。ひとつの記事中で、見出しやキャプションに同じ言葉を

複数使いたいときは、末端に '#+' 識別文字' を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字が使えます。

## 例

```
=使用例
```

```
lang = {en}
```

```
=使用例#1
```

```
lang = {ja}
```

関 連 8.10.1 キャプションの ID (p. 136)

## 3.27 EPUB の生成設定

EPUB3/EPUB2 の生成設定は、5つの画面に別れています。EPUB3 と EPUB2 で設定項目はほぼ共通ですが、設定内容は個別に保存されます。



図 40 EPUB3 生成設定

- 一般

EPUB のメタ情報とタイトルページ及び奥付向けに、書誌情報に登録されている項目のうち複数の値が登録できる項目で、どの値を使うかを指定します。また、CSS のテーマと、自動生成項目を生成するか否か、目次に出力する見出しの最大レベルなども指定します。

- カバー画像

EPUB の表紙画像を指定します。本棚にならぶアイコンなどにも利用されます。

V5.0 アクセシビリティ対応

カバー画像の alt テキストに、書誌情報にある出版物タイトル・サブタイトルのテキストを入れるようにしました。

- タイトルページ

書誌情報からタイトルページに出力する項目を指定します。書誌情報が登録されていない項目は、出力するように設定しても出力されません。発行元ロゴは publisherLogo.jpg というファイル名で画像をアップロードしておく必要があります。  
(出版物の種類「ノート 1」にはありません)

- 奥付ページ

書誌情報から奥付に出力する項目を指定します。書誌情報が登録されていない項目は、出力するように設定しても出力されません。発行元ロゴは、タイトルページと同じ画像

が使用されます。

- その他の設定

章節番号や図表番号の付け方や、図表番号一覧の見出しについての指定をします。

設定を変更したら、各設定画面右下の [保存] ボタンをクリックして設定を保存してください。

設定は、3種類保存できます。生成実行時に使用する設定を指定してください。

## 関連 設定の保存（生成）(p. 13)

### 3.27.1 一般設定

- EPUB3のバージョン

通常は EPUB3.0 で生成します。EPUB3.1 で生成する必要があれば 3.1 に変更してください。【Kindle 向けのとき】3.0

- 発行所の選択

書誌情報に発行所が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発行所が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2 のメタ情報に使用されます。

- 発売元の選択

書誌情報に発売元が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発売元が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2 のメタ情報に使用されます。

- ISBN の選択

書誌情報に ISBN が登録されていないときは「未入力」と表示されます。ISBN が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2 のメタ情報に使用されます。

- CSS のテーマ

デザインテーマを選択します。好みのものを指定してください。

EPUB3 の「CSS のテーマ」は、横書と縦書に分けてあります。縦書のテーマを使いたいときは、「縦書」を選んでからテーマを指定してください。

「CSS のテーマ一覧」をクリックすると、用意されている CSS のテーマの適用例が一覧表示されますので参考にしてください。CSS のテーマを選択すると、選択した CSS のテーマのサンプル画像が表示されます。

- Nav の目次の内容 (EPUB3のみ)

EPUB3 のナビゲーション目次 (Nav) 内容を、飾りのない見出し（論理目次）と、ランドマークのどちらにするかを指定します。【Kindle 向けのとき】論理目次

- 論理目次の生成レベル (EPUB3のみ)

Nav が論理目次のとき、目次に表示する見出しのレベルを設定します。

「記事のみ」では、記事のタイトルだけを目次とします。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまで目次に追加します。「全部」では、すべてのタイトルと見出しが出ます。

- EPUB2 と互換の目次 (EPUB3 のみ)  
EPUB3 に、EPUB2 と互換の目次も入れるかどうかを選択します。通常は不要ですが、EPUB2 と互換の目次を必要とするリーダー向けに生成する場合はチェックしてください。  
【Kindle 向けのとき】OFF
- EPUB2 と互換の目次の生成レベル (EPUB3 のみ)  
目次内容を指定します。「記事のみ」では、記事のタイトルだけを目次とします。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまで目次に追加します。
- iBooks 向けメタ情報 (EPUB3 のみ)  
CSS テーマのフォント指定を iBooks で有効にするための設定を、EPUB のメタ情報に追加します。
- 章扉を作る (EPUB3 のみ)  
チェックすると、記事の種類が 章 の記事タイトルのみのファイル（章扉）が自動生成され、元記事のタイトルのみが非表示になります。
  - 章扉の文字進行方向 (EPUB3 のみ)  
なし : CSS テーマの文字進行方向になります。  
横書 : CSS テーマの文字進行方向にかかわらず横書になります。  
縦書 : CSS テーマの文字進行方向にかかわらず縦書になります。
- カバー V5.0 アクセシビリティ対応  
EPUB のカバーが画像（画像のみの表紙 XHTML ページ）を「出力する」「出力しない」を切り替えます。表紙を画像ではなくテキストで作成したいとき「カバー」を出力しないで、タイトルページを先頭ページとすることができます。
- タイトルページ  
タイトルページを生成するか否かを選択します。タイトルページは手作りまたは書誌情報から自動生成します。
  - 手作りするときは、「編集」画面で記事の種類を「タイトルページ」にします。
  - 自動生成するとしても記事の種類が「タイトルページ」の記事があるときは無効です。
- 本文の目次 (EPUB3 のみ)  
本文中に目次を生成するか、生成しないかを指定します。記事の種類が「ユーザー作成目次」の記事があれば、そちらを優先し「生成する」が指定されても本文の目次は生成されません。【Kindle 向けのとき】生成する
- 本文の目次の生成レベル (EPUB3 のみ)  
本文の目次に表示する見出しのレベルを指定します。「記事のみ」では、記事のタイトルだけを表示します。レベルを指定すると、記事中の指定レベルの見出しまでを表示します。「全部」では、すべてのタイトルと見出しが表示されます。
- 奥付  
奥付を生成するか否かを選択します。
- 索引  
索引を生成するか否かを選択します。

- 図表一覧

図表一覧を生成するか否かを選択します。

- 卷末注釈

卷末注釈を生成するか否かを選択します。

- 参考文献

参考文献を生成するか否かを選択します。参考文献画面に.bib ファイルが登録されていなければ生成されません。また記事の種類が「参考文献表」の記事は、この設定にかかわらず表示されます。

- Nav のランドマーク (EPUB3 のみ)

Nav にランドマークを追加するか否かを指定します。「Nav の目次の内容」にランドマークを指定しているときは、論理目次とランドマークの内容が同じになります。

- PDF 用の図表サイズ指定

PDF 生成では属性で指定した図表サイズが有効ですが、EPUB3/EPUB2 にサイズ指定をそのまま反映することはできないので、指定を削除するか、CSS スタイルに変換して残すかを指定してください。「別途設定する」を指定するとサイズ指定は削除されます。CSS スタイルに変換して残しても、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

- 自動生成記事の文字進行方向設定 (EPUB3 のみ)

次の自動生成記事の文字進行方向を変更できます。

- タイトルページ：自動生成されるカバー画像もこの設定に従います。
- 目次
- 索引
- 図表一覧
- 奥付
- 卷末注釈
- 参考文献

**関 連** 次の自動生成記事は、出版物設定画面の「自動生成記事のタイトル設定 (p. 245)」でタイトル文字列を変更することができます。

- 目次
- 索引
- 図表一覧
  - 図表一覧 図一覧
  - 図表一覧 表一覧
- 奥付
- 卷末注釈
- 参考文献

**関 連** 15.9 EPUB3 の目次 (p. 245)

### 3.27.2 カバー画像

カバー（表紙）は常に画像ファイルを使います。自分で表紙画像を用意していないときは、カバー画像を「未定」のままにしておくと、タイトルページを画像化して使用します。

- カバー画像ファイル名

右の枠をクリックすると、画像フォルダにアップロード済みの画像ファイル名が一覧されますので、カバー画像に使用するファイル名を選択してください。

このメニューで新たな画像をアップロードもできます。[ファイルを選択] ボタンをクリックしてアップロードする画像ファイルを指定してから、[画像のアップロード] ボタンをクリックすると指定した画像ファイルがアップロードされます。アップロードする前に「メモ」欄に画像についてのメモを入力しておくと、画像画面の一覧にメモも表示されます。

### 3.27.3 タイトルページ設定

書誌情報から引用する項目のうち、いくつかの項目は、有効にするか無効にするかを選択できます。また、発行所ロゴ画像を使用するときは、ここからアップロードできます。各項目内容は「3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51)」で情報が登録されていないときは出力されません。

出版物の種類によっては、出力されない項目があります。

- タイトル（常に有効）
- サブタイトル（常に有効）
- 発行年月

改訂履歴に最後に登録された発行年月日が引用されます。

- 版数

改訂履歴に最後に登録された版数が引用されます。

- 発行所ロゴ

- 発行所ロゴ画像

発行所ロゴ画像を新たにアップロードしたいときは、[ファイルを選択] ボタンをクリックしてアップロードする画像ファイルを指定してから、[画像のアップロード] ボタンをクリックして画像ファイルをアップロードしてください。アップロードする前に「メモ」欄に画像についてのメモを入力しておくと、画像画面の一覧にメモも表示されます。アップロードした画像は、ファイル名を publisherLogo.jpg に変更して登録されます。既に publisherLogo.jpg があるときは上書きされます。

- 発行所
- 著者（常に有効）
- 編著者
- 監修者
- 訳者
- 監訳者

- 編者
- プロジェクトの概要
- キーワード

#### タイトルページのレイアウト

タイトルページには、body に” titlepage” というクラス名が設定されます（<body class=” titlepage” …>）。

タイトルページのデザインをカスタマイズするときは、style.css ファイルを作成し、編集画面で「スタイルシート」にアップロードしてください。

#### 3.27.4 奥付ページ設定

書誌情報から引用する項目のうち、いくつかの項目は、有効にするか無効にするかを選択できます。また、発行所ロゴ画像を使用するときは、タイトルページからアップロードできます。

各項目内容は「3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51)」で情報が登録されていないときは出力されません。

出版物の種類によっては、出力されない項目があります。

- 執筆者情報
- タイトル（常に有効）
- サブタイトル（常に有効）
- 発行年月（常に有効）  
改訂履歴に最後に登録された発行年月日が引用されます。
- 版記述（常に有効）  
改訂履歴に最後に登録された説明が引用されます。
- 版数（常に有効）  
改訂履歴に最後に登録された版数が引用されます。
- 初版発行年月（常に有効）  
改訂履歴に最初に登録された発行年月日が引用されます。
- 初版版記述（常に有効）  
改訂履歴に最初に登録された説明が引用されます。
- 初版版数（常に有効）  
改訂履歴に最初に登録された版数が引用されます。
- 著者（常に有効）
- 編著者（常に有効）
- 監修者（常に有効）
- 訳者（常に有効）
- 監訳者（常に有効）
- 編者（常に有効）
- 制作者（常に有効）

- 装丁者（常に有効）
- 図版制作者（常に有効）
- レーベル（常に有効）
- 発行者（常に有効）
- 発行所（常に有効）
 

複数登録されているときは、一般設定（p. 63）で選択しておいてください。
- 発売元（常に有効）
 

複数登録されているときは、一般設定（p. 63）で選択しておいてください。
- ISBN（常に有効）
 

複数登録されているときは、一般設定（p. 63）で選択しておいてください。
- 著作権者（常に有効）
- 著作権表記（常に有効）
- 発行所ロゴ
 

発行所ロゴ画像は、タイトルページ設定（p. 66）からアップロードできます。
- 発行所（常に有効）

### 3.27.5 その他の設定

EPUB3/EPUB2 の生成内容について、次の設定ができます。

- 見出しに付加する連番をどのレベルまで自動生成するか
 

「0:番号なし」から「1:章のみ」（レベル1のみ）「2:章と節」（レベル2まで）・・・「6」（レベル6）まで指定できます。
- 章番号のプレフィックス
 

見出しレベル1（章）番号の前に付ける文字を指定します。  
例：第1
- 章番号のポストフィックス
 

見出しレベル1（章）番号の後に付ける文字を指定します。  
例：1章
- 章番号と節番号のデリミタ
 

章番号と節番号の間の区切り文字を指定します。選択肢は、CSS テーマが縦組用の場合と横組の場合で異なります。
 
  - 横：1-1（二分ダッシュ）、1.1（ピリオド）、1・1（中点）、1・1（半角カタカナ中点）
  - 縦：1-1（二分ダッシュ）、1—1（全角ダッシュ）、1・1（中点）、1・1（半角カタカナ中点）
- 図表番号の付与
 

図表番号を付けるか否かを指定できます。
- 図表番号の形式
 

図表番号の形式を指定します。選択肢は、CSS テーマが縦組用の場合と横組の場合で異なります。

- 横 : 1 (図表番号のみ)、 1-1 (二分ダッシュ)、 1.1 (ピリオド)、 1・1 (半角カタカナ中点)
- 縦 : 1 (図表番号のみ)、 1-1 (二分ダッシュ)、 1—1 (全角ダッシュ)、 1・1 (中点)、 1・1 (半角カタカナ中点)
- 図番号のプレフィックス  
図番号の前に付ける文字を入力してください。不要な場合は文字を削除してください。
- 表番号のプレフィックス  
表番号の前に付ける文字を入力してください。不要な場合は文字を削除してください。
- 図表一覧 大見出し  
自動生成される図表一覧の大見出しを指定します。見出しを入力してください。  
デフォルト値: 図表一覧
- 図表一覧 中見出し (図一覧見出し)  
自動生成される図表一覧中の図一覧見出しを指定します。見出しを入力してください。  
デフォルト値: 図一覧
- 図表一覧 中見出し (表一覧見出し)  
自動生成される図表一覧中の表一覧見出しを指定します。見出しを入力してください。  
デフォルト値: 表一覧
- 参照先のアンカー文字列の見出し番号・図表番号  
見出しやキャプションを参照 (p. 168) したときのアンカー文字列に、見出し番号や図表番号を付加するか否かを指定します。
- 参照先のアンカー文字列の見出し・キャプション  
見出しやキャプションを参照 (p. 168) したときのアンカー文字列に、見出し文字列やキャプション文字列を付加するか否かを指定します。
- フォントをサブセット化する  
フォント画面でアップロードされているフォントファイルを EPUB に埋め込む際に、フォントファイルをそのまま埋め込むか、必要な部分だけ (サブセット) にして埋め込むかを指定します。

**注 意** 「参照先のアンカー文字列の見出し番号・図表番号」と「参照先のアンカー文字列の見出し・キャプション」の両方で「付与しない」を指定したときは、アンカー文字列が「参照先」という文字列に置き換えられます。

**関 連** EPUB の生成 (p. 60)

### 3.28 Kindle の生成設定

※ Amazon 社の KDP (kindle direct publishing) では EPUB3 をそのままアップロードできます。Kindle 生成がうまくいかないときは、EPUB3 をご利用ください。

CAS-UB では、Amazon Kindle Paperwhite で表示できる、MOBI 形式と、Amazon KDP の入

稿に使用できる、Kindle向けEPUBを生成できます。

「Kindleを生成」で、MOBIとKindle向けEPUBが生成されます。

生成に関する設定は、EPUBの生成設定(p. 62)とほぼ同じなので、EPUBの生成設定(p. 62)を参照してください。



図41 Kindleの生成設定

関連 生成の実行 (p. 60)

### 3.29 Webページの生成設定

Webページを生成は、EPUB3の内容をWebブラウザで閲覧しやすいうように整理してZIPにまとめたものです。ZIPを解凍すれば、そのままWebブラウザで閲覧できます。

#### 3.29.1 Webページを生成の設定項目

Webページを生成に必要な設定は、EPUB3の設定とほとんど同じです。Webページ専用の設定項目についてはWebページを生成のWeb画面で設定します。

#### Web設定

設定項目	値
リンク1のURL	
リンク1の表示名	
リンク2のURL	
リンク2の表示名	
ナビゲーションの言語	日本語
目次のメニューアイコンを生成	生成しない
index.htmlにJavaScriptのリンクとJavaScriptを保存するディレクトリとファイルを新たに生成する	生成しない
タイトルページを生成	生成しない
全文検索機能を生成	生成しない

図42 Webの設定項目

- 【リンク1のURL】： 目次の先頭につけるリンクのリンク先URL1

- 【リンク1の表示名】: リンク1のURLのアンカーテキスト  
何も指定しなければリンクは挿入されません
- 【リンク2のURL】: 目次の先頭につけるリンクのリンク先URL2
- 【リンク2の表示名】: リンク2のURLのアンカーテキスト  
何も指定しなければリンクは挿入されません。

※【リンク1の表示名】と【リンク2の表示名】に <br /> などインライン系のHTMLタグを書くとそのままタグが挿入されます。但し、タグが有効か無効かは保証できませんので、自己責任でご利用ください。

- 【ナビゲーションの言語】: ページ送りのためのナビゲーションの言語を「日本語」と「英語」で選択できます。
- 【目次のメニューアイコンを生成】<sup>v5.0</sup>: 目次のメニューアイコンを各記事に挿入します。目次の表示方法は、スマホなどの小さい画面でも問題なく閲覧できるよう、画面サイズにより調整されます。  
表示例などは「13.3 目次のメニューアイコンを生成したときのレイアウト (p. 211)」を参照してください。
- 【index.html に JavaScript のリンクと JavaScript を保存するディレクトリとファイルを新たに生成する】: index.html に <script type="text/javascript" src="scripts/script.js"></script> を挿入し、scripts フォルダを作成して空のスクリプトファイル script.js を生成します。
- 【タイトルページを生成】<sup>v5.0</sup>: EPUB3 と同様のタイトルページを生成します。タイトルページを生成すると、タイトルページが index.html になります。
  - 手作りのタイトルページ（記事の種類が「タイトルページ」の記事）があるときは、手作りのタイトルページが採用されます。
  - 生成した Web ページでは、タイトルページが index.html になります。

※ タイトルページを生成しないときは、目次が index.html になります。

- 【全文検索機能を生成】<sup>v5.0</sup>: 目次に全文検索画面へのリンクを挿入します。  
生成結果の目次でリンクをクリックすると全文検索画面が表示されます。  
全文検索画面で入力枠にキーワードを入力すると、キーワードが含まれる記事タイトルとキーワード前後のテキストが一覧表示されます。検索結果をクリックすると、そのページが表示され、キーワードがハイライト表示されます。

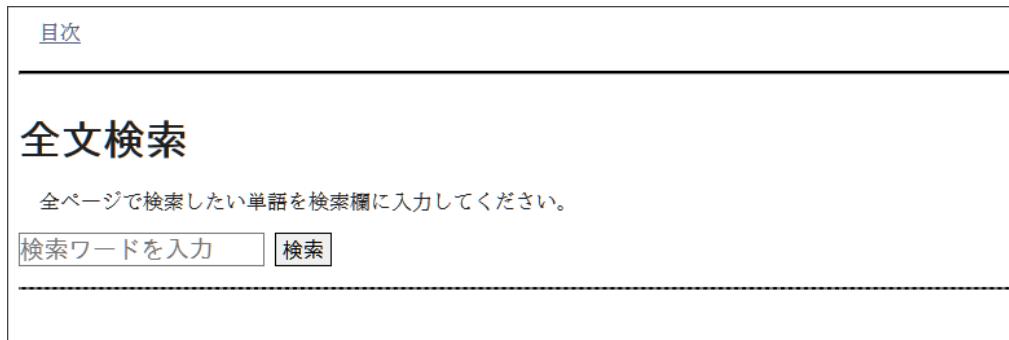


図 43 全文検索画面

※ 全文検索機能はスクリプト内に検索用のデータを持つため、大きな出版物では閲覧時にメモリ使用量が多くなりますので、ご注意ください。

### 一般設定

- EPUB3 の一般設定と同じですが、Web ページを生成に不要な項目はありません。
- 各設定項目の詳細は、EPUB の生成設定の「3.27.1 一般設定 (p. 63)」を参照してください。

### タイトルページ設定

- EPUB3 のタイトルページ設定と同じです
- 各設定項目の詳細は、EPUB の生成設定の「3.27.3 タイトルページ設定 (p. 66)」を参照してください。

### 奥付ページ設定

- EPUB3 の奥付ページ設定と同じです
- 各設定項目の詳細は、EPUB の生成設定の「3.27.4 奥付ページ設定 (p. 67)」を参照してください。

### その他の設定

- EPUB3 の一般設定と同じですが、Web ページを生成に不要な項目はありません。
- 各設定項目の詳細は、EPUB の生成設定の「3.27.5 その他の設定 (p. 68)」を参照してください。

## 3.29.2 Web ページの生成の実行

Web ページを生成は、生成画面で実行します。



生成画面の「Web ページを生成」をクリックすると、PDF などの生成と同様に「Web ページ生成中」と大きく表示されます。「Web ページ 生成中」が「Web ページ ダウンロード」に変

わったら生成完了です。「Web ページ ダウンロード」をクリックすると生成された Web ページの ZIP ファイルがダウンロードされます。



### 3.29.3 リンクとナビゲーションのレイアウトなど

Web ページの目次や各ページのナビゲーションのレイアウトは、CSS でカスタマイズできます。詳細は「第13章 Web のレイアウト (p. 209)」を参照してください。

## 3.30 HTML ヘルプの生成設定

HTML ヘルプの生成で、Microsoft HTML Help Workshop でコンパイルできるソース一式が生成できます。生成された ZIP ファイルを解凍して、中に含まれる拡張子が .hhp のファイルを Microsoft HTML Help Workshop で開けば、そのままコンパイルできます。

- Microsoft HTML Help Workshop で使用できる文字コードは Shift-JIS のみです。HTML ヘルプの生成を前提に出版物を作製する場合は、Shift-JIS コードの範囲外の文字を使わないようにご注意ください。
- 状況依存のヘルプを作成するときは、アプリケーションのヘルプ ID に対応付けられたファイル名（拡張子は不要）と同じ名前で、記事を作成しておく必要があります。

HTML ヘルプの設定画面は、「一般」「カバー画像」「タイトルページ」「奥付ページ」の4つがありますが、「一般」以外は、EPUB の設定と同じなので、そちらを参照してください。



図44 HTML ヘルプの生成設定

### 3.30.1 一般 設 定

#### • 発行所の選択

書誌情報に発行所が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発行所が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2 のメタ情報に使用されます。

#### • 発売元の選択

書誌情報に発売元が登録されていないときは「未入力」と表示されます。発売元が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。

- **ISBN の選択**

書誌情報に ISBN が登録されていないときは「未入力」と表示されます。ISBN が複数登録されているときは、どれを使うか選択できます。

選択した情報は、タイトルページ、奥付、EPUB3/EPUB2のメタ情報に使用されます。

- **CSS のテーマ**

デザインテーマを選択します。独自の CSS を使用したいときは「未定」を指定します。

独自のスタイルシートは、スタイルシート (p. 205) 画面で style.css と関連ファイルをアップロードしてください。

- **タイトルページ**

タイトルページを生成するか否かを選択します。タイトルページに独自の画像を使用するときは「生成しない」としてください。画像は「カバー画像 (p. 66)」で指定します。

- **奥付**

奥付を生成するか否かを選択します。

- **索引**

索引を生成するか否かを選択します。

- **巻末注釈**

巻末注釈を生成するか否かを選択します。

- **参考文献**

参考文献を生成するか否かを選択します。参考文献画面に.bib ファイルが登録されていなければ生成されません。また記事の種類が「参考文献表」の記事は、この設定にかかわらず表示されます。

- **PDF 用の画像サイズ指定** HTML ヘルプでも、PDF 生成向けに属性で指定した画像サイズは有効ですが、指定を削除することもできます。

関 連 EPUB の生成設定 3.27.2 カバー画像 (p. 66)

EPUB の生成設定 3.27.3 タイトルページ設定 (p. 66)

EPUB の生成設定 3.27.4 奥付ページ設定 (p. 67)

生成の実行 (p. 60)

# 第4章 記事の種類

## 4.1 記事の種類一覧

CAS-UB の記事には記事の種類を指定します。

### 4.1.1 記事の種類の役割

記事の種類は CAS-UB の自動処理で重要な役割を果たしています。EPUB や PDF などを生成するテーマで、本の構成、自動番号付けやレイアウト指定に記事の種類を使っています。たとえば、次のような指定を組み込んでいます。

- 記事の種類が属する区分毎に並び替えを行います。たとえば、「後書」を指定した記事はかならず本文の後に置きます。4.2.2 記事の並び替え (p. 79) を参照。
- 生成時に本文の章、節、図、表に番号を自動的に付けられます。たとえば、章番号は記事の種類「本文：章」の記事タイトルを対象にします。
- 目次を自動生成するとき、その挿入位置を前後の記事の種類を見て決定します。4.2.3 自動生成記事の挿入位置 (p. 81) を参照。

### PDF における記事の種類の役割

- 目次を自動作成するとき、「カバーページ」、「タイトル前」、「タイトルページ」、「プロフィール」、「奥付」は目次に表示しません。4.2.4 目次に表示しない記事 (p. 81) を参照。
- ノンブルを振るとき、そのスタート番号やりセットする位置を記事の種類により決定しています。「記事スタイル」機能で記事の種類毎にレイアウトをカスタマイズすることができます。「記事スタイル」機能については、「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」(CAS-UB サポート & ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/>) より配布) を参照してください。

### EPUB における記事の種類の役割

EPUB 生成時には、記事の種類は次のように扱います。

- 手作りの記事は、編集時に設定したファイル名のまま EPUB のコンテンツを構成するファイルとして登録します。
- 自動生成の記事は、記事の種類に応じたファイル名で、出版物の種類で設定されている順序で EPUB のファイルとして登録します。
- 記事の種類の情報は、各記事 (XHTML ファイル) body 要素のクラス (class) 属性値として設定します。
- 記事の種類毎に、それぞれのレイアウトを設定する固有の CSS をリンクします。  
詳細については、「CSS レイアウトのカスタマイズガイド」(CAS-UB サポート & ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/>) より配布) を参照してください。

#### 4.1.2 V5.0 で使える記事の種類一覧

縦組商業書籍では、索引や権利関係のページを横組に設定したり、参考文献ページの文字サイズ、一行文字数、行送りを本文と変更するなど多様なページレイアウト指定が混在しています。CAS-UB V5.0 で使える記事の種類は、表 1 記事の種類一覧 (p. 76) に示すとおりです。

表 1 記事の種類一覧

記事の種類	説明
カバーページ（表紙）	EPUB では出版物の先頭に挿入します。ユーザーが用意した画像を使うか、自動的に作成する画像を使うかなどの指定ができます。指定は「生成」画面にて PDF と EPUB で個別に行うことができます。
タイトル前	タイトルページの前の扉。英語の本の半扉などを想定しています。
タイトルページ（本扉）	自動生成のタイトルページと、通常の記事と同じように手作業で作成するタイトルページを使えます。 自動生成は出版物のタイトルと書誌情報から自動生成します。手作りのタイトルページがあるときは生成する指定にしても生成されません。
権利関係	PDF 生成でも EPUB 生成でも、「権利関係」の記事は常にタイトルページの直後に配置されます。
献辞	権利関係の後に配置されます。
前書	権利関係の後に配置されます。
目次	自動生成の目次と、通常の記事と同じように手作りで作成する目次が使えます。 自動生成では PDF 生成時に本文の前に挿入されます。EPUB 生成では EPUB のナビゲーションファイル (nav.xhtml) として出力し、さらに本文の目次（オプション）としても出力できます。目次に出力するレベルは PDF と EPUB それぞれで指定できます。手作りの目次があるときは設定にかかわらず自動生成されません。 ※ EPUB3 の生成で「EPUB2 と互換の目次」を生成する場合、手作りの目次は、記事のファイル名先頭をアルファベットにしてください。記事の種類が「目次」に設定された記事のファイル名先頭がアルファベットでない場合、epubcheck で「EPUB2 と互換の目次」(NCX) がエラーになります。
目次後	目次の後に配置されます。
本文の扉	書籍本文の扉です。
プロローグ	序章などで使います。
本文： 章	本文です。 記事一覧で第 1 階層（出版物直下）にある本文は章として扱われます。 第一階層にあって初出の「未定」も章として扱われます。
本文： 節	本文です。 記事一覧で第 2 階層にある本文は節として扱われます。
本文： 項	本文です。 記事一覧で第 3 階層にある本文は項として扱われます。
本文： 目	本文です。

	記事一覧で第4階層にある本文は目として扱われます。
エピローグ	本文の最後に配置されます。終章などで使います。
付録	巻末に配置します。
後書	巻末に配置します。
謝辞	巻末に配置されます。
巻末注釈	手作業の記事中の「注 (p. 159)」のマークアップから自動生成します。
図表一覧	図とキャプションのマークアップから自動生成します。本文の後に挿入されます。図表一覧にはキャプションの付いていない図表は記載されません。キャプションの付いた図表がひとつもない場合、図表一覧は出力されません。
参考文献	手作りで作成するほか、bibファイルから自動生成することもできます。
索引	索引 (p. 162) のマークアップから自動生成します。索引がマークアップされていない場合は出力されません。
プロフィール	奥付の直前に出力されます。著者プロフィールを手作りしたいときに使います。
奥付	自動生成の奥付と手作りの奥付を使えます。 最後に出力されます。書誌情報から奥付に出力する項目を引用して生成します。 指定は PDF と EPUB で個別に行うことができます。自動生成の奥付と手作りの奥付は両方出力されます。
記事の続き	前の記事の続きとして処理されます。EPUBなどでは生成時に前の記事と連結されてひとつのファイルになります。記事サイズが大きくなり過ぎて分割が必要なときなどに使用します。
未定	過去に作成した出版物との互換のためのものです。記事の種類は「未定」は使わないでください。

#### 4.1.3 区分・クラス名

##### 区分

区分は書籍の大きな構成です。出版物は、表紙、前付、本文、後付、奥付類の順序で構成されます。

##### 記事の種類

日本語で編集中（ブラウザの優先言語が日本語のとき）に、記事編集において【記事の種類】に表示される名前です。（ ）で囲った記事の種類はCAS-UBの自動処理で作る記事のため、ユーザー向けの選択肢としては表示されません。

##### 記事クラス名

記事の種類を表すアルファベットの名前です。EPUBでは XHTML ファイルの body 要素の class 属性の値 (<body class=""> の "") 内) として設定します。また、PDF で記事毎にページレイアウトを指定する「記事スタイル」機能では記事クラス名を使います。「記事スタイル」機能については、「CAS-UBによる PDF 生成のためのガイド」(CAS-UB サポート & ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/>) より配布) を参照してください。

V3

○印は CAS-UB V3.0 (2015年9月) から新規に追加した記事の種類です。

自動と手作りの項は 4.4 手作りの記事と自動生成の記事 (p. 84) を参照してください。

表2 「書籍3」の記事の種類

区分	記事の種類	記事クラス名	V3	自動	手作り	備考
表紙	(表紙)	cover		○	×	
前付	タイトル前	before-title	○	×	○	本扉の前の扉（半扉）
前付	(タイトルページ)	opening		○	×	EPUBのタイトルページ（本扉）
前付	(タイトルページ)	titlepage-auto	○	○	×	PDFのタイトルページ（本扉）
前付	(手作り) タイトルページ	titlepage		×	○	タイトルページを手で作成するとき
前付	権利関係	rights		×	○	デフォルトで改ページ（本扉の裏）
前付	献辞	dedication		×	○	
前付	前書	preface		×	○	前付記事
前付	(手作り) 目次	mltoc		×	○	手作りの目次
前付	(目次)	mltoc		○	×	EPUB自動生成の目次
前付	(目次)	toc		○	×	PDF自動生成の目次
前付	目次後	preface-after-toc	○	×	○	目次の後の前付記事
本文	本文の扉	body-title	○	×	○	書籍本文の扉
本文	プロローグ	body-start	○	×	○	序章などで使うため
本文	章	chapter		×	○	章
本文	節	section		×	○	節
本文	項	subsection		×	○	項
本文	目	subsubsection		×	○	目
本文	エピローグ	body-end	○	×	○	終章などで使うため
後付	付録	appendix		×	○	
後付	後書	postface		×	○	後付記事
後付	謝辞	acknowledgment		×	○	
後付	(巻末注釈)	xnotes		○	×	本文に注があるとき自動生成
後付	(図表一覧)	loft		○	×	本文に図・表があるとき自動生成
後付	(手作り) 参考文献	references		×	○	
後付	(参考文献)	references-auto		○	×	bibファイルがあるとき自動生成
後付	(索引)	publ-index		○	×	本文に索引があるとき自動生成
奥付類	プロフィール	profile	○	×	○	著者のプロフィールのため
奥付類	(手作り) 奥付	colophon	○	×	○	手作りの奥付
奥付類	(奥付)	copyright	○	×		自動生成の奥付
その他	記事の続き	—		×	○	前の記事の続き

## 4.2 出版物の種類と構成

### 4.2.1 デフォルト出版物

CAS-UB の著者ページで出版物新規作成をクリックすると、新しい出版物の設定画面になります。

図1 新しい出版物の作成

出版物の言語 [日本語] を選んで新規作成すると内部的には出版物の種類が「書籍3」となります。V2.3で同じように新規作成した出版物は「書籍2」です。V2.3までに作成した出版物に対して、V3.0以降で強化された機能を適用するには「書籍3」に変更します。このためには出版物設定⇒出版物の種類をクリックして表示される画面で「日本語」または「英語」を選んで [出版物の種類を選択] をクリックします。

図2 出版物の種類を変更

### 4.2.2 記事の並び替え

- 1) 「書籍3」では、EPUB、PDF生成時に記事を前付、本文、後付、奥付類の区分ごとに並び変えます。区分については表1 記事の種類一覧 (p. 76) を参照してください。
- 2) 前付、本文、後付、奥付類の各区分内では、記事一覧 (p. 30) の順序のままになります。

**互換性** 「書籍2」は、EPUB生成時に記事の並び変えを行っていません。このため、EPUBは「書籍2」と「書籍3」で記事の順序が非互換となります。

#### 例：編集時の記事の順序とPDF出力

次の図は、記事のタイトルに記事クラス名をアルファベットで入力し、記事の順序を記事一覧で記事クラス名のアルファベット順に並べた出版物です。なお、章、節、項、目は図のように本文を階層構造にすることで自動的に設定されます。

記事一覧	ヒント
出版物「書籍3」の記事の順序	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 1 acknowledgment (i01-001) [謝辞]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 2 appendix (i01-002) [付録]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 3 before-title (i01-003) [タイトル前]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 4 body-end (i01-004) [エピローグ]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 5 body-start (i01-005) [プロローグ]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 6 body-title (i01-006) [本文の扉]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 7 chapter (i01-007) [本文：章]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 7.1 section (i01-008) [本文：節]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 7.1.1 subsection (i01-009) [本文：項]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 7.1.1.1 subsubsection (i01-010)	
[本文：目]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 8 colophon (i01-011) [奥付]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 9 dedication (i01-012) [献辞]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 10 postface (i01-014) [後書]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 11 preface (i01-015) [前書]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 12 preface-after-toc (i01-016) [目次後]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 13 profile (i01-017) [プロフィール]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 14 references (i01-018) [参考文献表]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 15 rights (i01-019) [権利関係]	
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 16 titlepage (i01-020) [タイトルページ]	

図3 記事一覧（記事編集画面）の記事の順序

各行は左から順に、チェックボックス、編集へのリンクアイコン、内容表示へのリンクアイコン、番号、記事のタイトル、（ファイル名）、[記事の種類] です。

#### 本文の扉とプロローグ

本文の扉（記事クラス名はbody-title）とプロローグ（記事クラス名はbody-start）の区分はいずれも「本文」で同じです。生成物で本文の扉—プロローグの順にするには、記事一覧でこの順序にしておく必要があります。

PDF、EPUBなどの生成物では前付、本文、後付、奥付類の区分中では記事一覧での並び順になります。そこで、上の出版物のPDFを生成すると目次は次のようにになります（目次の生成時にレベル1タイトルのみを目次にするように指定していますので、節、項、目は表示されません）。

## 目 次

dedication .....	v
preface .....	vii
preface-after-toc .....	xi
body-start .....	1
body-title .....	3
第1章 chapter .....	5
1.1 section .....	5
body-end .....	7
acknowledgment .....	9
appendix .....	11
postface .....	13
references .....	15

図4 PDF生成（目次）での記事の順序

## 4.2.3 自動生成記事の挿入位置

- 1) 表紙は先頭に挿入します。
- 2) タイトルページはタイトル前があればその直後に、タイトル前がなければ表紙の直後に挿入します。
- 3) 目次は前書の後に挿入します。
- 4) 卷末注釈は英語・日本語とも図表一覧の前とします。
- 5) 図表一覧は、英語版は目次の直後（V2.3からV3で変更）。日本語は参考文献の前に挿入します。
- 6) 参考文献は索引の直前に挿入します。
- 7) 索引は後付の最後（奥付類の直前）に挿入します。
- 8) 奥付は最後に挿入します。

## 4.2.4 目次に表示しない記事

編集で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと記事のタイトルが目次に表示されなくなります。

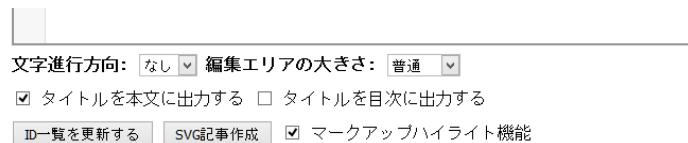


図5 タイトルを目次に出力しない

**注 意** 【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと、その記事の子の記事も目次に出力されません。また、本文の途中の記事で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずすと見出し番号が正しく付加できなくなります。

## PDF

PDFの目次には、次の記事の種類は表示されません。

- 表紙
- タイトル前
- タイトルページ
- 権利関係
- 目次
- 奥付類

## EPUB

EPUBの本文の目次には、次の記事の種類は表示されません。

- 表紙
- 目次
- 奥付

その他の記事を目次に表示しないようにするには、記事編集画面で【タイトルを目次に出力する】のチェックをはずしてください。

## 4.3 本文の記事による階層化と本文見出しのレベル設定

### 4.3.1 コンテンツの階層化

一般の書籍の本文には、大見出し、中見出し、小見出しという見出しつけて整理します。これはコンテンツの階層化にあたります。CAS-UBでは、コンテンツを階層化する方法として、①記事をツリー構造に配置する、②記事の本文の中で見出しのランクをマークアップするというふたつの方法があります。また、①、②を組み合わせて階層化する方法もあります。

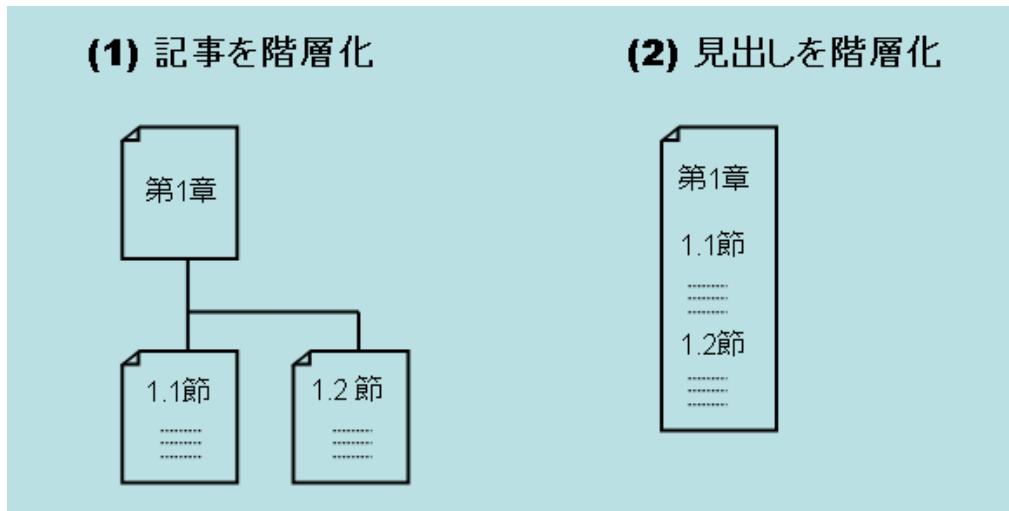


図6 ふたつのコンテンツ階層化

### (1) 記事をツリー構造にする

本文を記述するための記事の種類は「本文」のみです。本文の記事を階層化することにより、自動的に「本文：章」「本文：節」「本文：項」「本文：目」となります。これらの記事を使いわけるときは、章の記事の下に節の記事をおき、節の記事の下に項の記事をおき、項の記事の下に目の記事をおくというようにツリー構造にしなければなりません。

記事のツリー構造の編集は、記事編集画面の記事一覧で行ないます。

**注 意** 「本文」以外の記事は、記事一覧で階層化しても生成時に並べ替えられて同じレベルになります。「本文」以外の記事で見出しを階層化したいときは、記事内に見出しランクをマークアップしてください。

**関 連** 3.9 記事の移動 (p. 32)、3.8.1 記事一覧を出す (p. 30)

### (2) 見出しランクをマークアップする

記事の見出しのランクをマークアップすると、見出しの階層化ができます。たとえば、「章」にはタイトルをつけます。さらに、章の本文には、ランク1 ('=' ) からランク6 ('=====') まで見出しのランクをマークアップできます。このようにするとき、「章」のタイトルは章見出し、本文のランク1の見出しあは節の見出し、ランク2の見出しあは項の見出し、ランク3の見出しあは目の見出しあなります。章見出しに続く本文または章のリードは章に続けて書きます。

**関 連** 8.3 見出し (p. 125)

### 4.3.2 記事の分割と階層化の使い分け

記事自体を階層化する方法と記事の中で見出しを階層化する方法のどちらを使っても、コンテンツの階層化は同等です。

## PDF生成

PDF生成では、すべての本文記事をひとつに結合してから組版処理をします。記事をどのように分割しても生成されるPDFのレイアウト結果は同じものとなります。PDFでは記事の分割方法については考慮する必要はありません。階層化のみがレイアウトに影響を与えます。

## EPUB生成

EPUBの記事の分割は、次のように考えてください。

- EPUB3.0のリーダーやKindleは、ファイルの区切りで改ページします。EPUBでは強制的に改ページしたい位置で記事を分けると良いでしょう。CAS-UBでは強制改ページのマークアップがありますが、EPUBリーダーによっては強制改ページが行なわれません。
- 章扉のような、章のタイトルを1画面として、画面の上下・左右の中央にタイトルを配置するというレイアウトを実現するには、章のタイトルだけをひとつの記事とする必要があります（章扉については、生成の一般設定で「章扉を作る」をチェックすることで、章タイトルだけの記事を作らなくても章扉を生成できます）。
- 章扉を作らないで、章の開始で改ページして、章のタイトルと章の最初の節のタイトルを同一のページに配置するならば、章の本文の最初の節の見出しは、章の記事中に見出しをマークアップする必要があります。
- 節のタイトルで改ページするならば節毎に記事を分けます。節のタイトルでは改ページしないのならばすべての節を一つの記事の中で記述しなければなりません。
- 章と節で記事を分割して別の記事とする場合、章の下に節の記事を配置するように記事を階層化してください。

関連 8.21 水平線と強制改ページ (p. 153)

### 4.3.3 HTMLHelp

HTMLHelpで、状況依存のヘルプ表示が必要な場合は、アプリケーションのメニューと記事のファイル名の対応付けを行ない、アプリケーションのメニューにあわせて記事を分割・階層化します。

## 4.4 手作りの記事と自動生成の記事

### 自動生成の記事

表1 記事の種類一覧 (p. 76) の表2 「書籍3」の記事の種類 (p. 78) で自動の欄に○印のある記事は、EPUB、PDFなどの成果物を生成するときにCAS-UBの自動処理で内容を作りだす記事です。

### 手作りの記事

表2 「書籍3」の記事の種類 (p. 78) で手作りの欄に○のある記事は記事編集画面で内容を入力・編集する記事です。記事内容はキーボードで入力したり、他のアプリでコピーしたテキストをペーストして入力します。外部データ入力でMicrosoft Word文書

などをインポートして記事の内容にもできます。

#### 4.4.1 手作りの記事の作成

手作りの記事の種類は、記事編集画面の【記事の種類】で指定します。

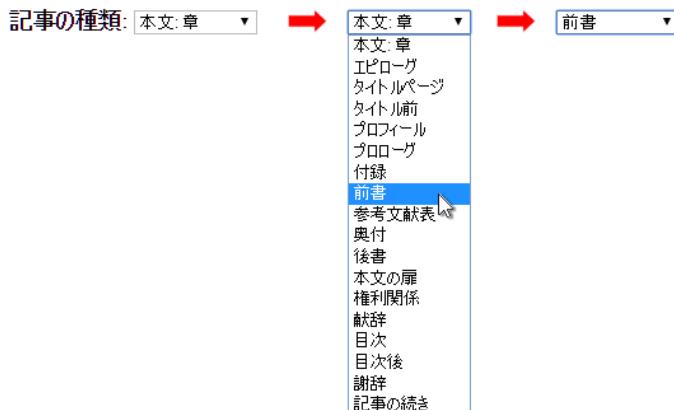


図7 記事の種類を設定

※ 本文（章、節、項、目）の記事は、記事の種類に「本文」を指定しておくことで、記事一覧の階層により自動的に決定されます。

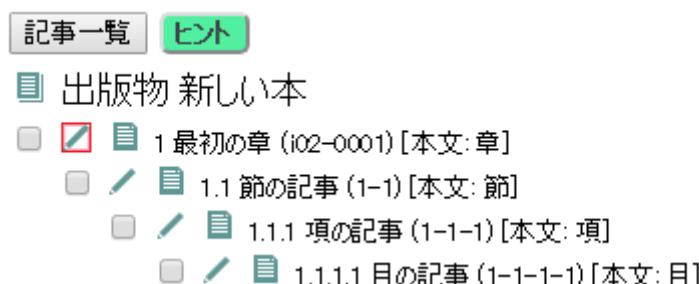


図8 記事の種類が「本文」のとき、階層位置で 章 節 項 目 の何れになるかが決まる

#### 4.4.2 自動生成の記事の作成

- 自動生成の記事は CAS-UB のプログラムで作ります。元データは次の表のようになります。
- 記事を作成するかどうかは、4.4.3 PDF の自動生成記事 (p. 86)、4.4.4 EPUB の自動生成記事 (p. 87) を参照してください。
- 記事の種類により CAS-UB が記事クラス名を設定します。

表3 自動生成の記事の作り方

記事の種類	元データ	備考
表紙	書誌情報からピックアップまたは表紙画像を指定します。	EPUB では必須、PDF ではオプションです。
タイトルペ	書誌情報からピックアップします。	書名（タイトル）とサブタイト

記事の種類	元データ	備考
ページ		ル、発行日、発行所などを記載する本扉に相当します。EPUB、PDFともオプション
奥付	書誌情報からピックアップします。	EPUB、PDFともオプション
目次	前付、本文、後付のタイトルと見出しを集めます。	EPUB、PDFともオプション。EPUBでは「本文の目次」といいます。
参考文献	参考文献のbibファイルから作成します。	文献をbib形式でアップロードして用意してください。
巻末注釈	前付、本文、後付の記事内容の後注マークアップを一覧にします。	EPUB、PDFともオプション
図表一覧	前付、本文、後付の記事内容の特殊化した図と表のキャプションを一覧にします。	EPUB、PDFともオプション。
索引	前付、本文、後付の記事内容の索引マークアップから索引語を取り出してキーでソートして作成します。	EPUB、PDFともオプション

関連 特殊化については、8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化（p. 135）を参照してください。

#### 4.4.3 PDFの自動生成記事

PDFの自動生成記事を生成するかどうかは、生成⇒PDF一般で設定します。

##### 表紙とタイトルページ

- 1) 表紙を生成するかどうかは、一般的【表紙】で指定します。表紙の内容は生成⇒PDF表紙内容設定で項目を選択します。
- 2) タイトルページを生成するかどうかは、一般的【タイトルページ】で指定します。内容は表紙内容設定で指定します。但し、タイトルページに画像は使えません。手作りのタイトルページ（【記事の種類】に「タイトルページ」を指定した記事）があるときは、自動生成のタイトルページは生成しません。

##### 目次

- 1) 目次を生成するかどうかは、一般的【目次】で指定します。目次のレイアウトは、生成⇒PDFレイアウト設定⇒レイアウト詳細設定の【目次】で指定します。なお、手作りの目次（【記事の種類】に「目次」を指定した記事）があるときは、自動生成の目次は生成しません。

##### 巻末注釈、図表一覧、参考文献、索引

- 1) 巷末注釈は本文につけた後注マークアップから生成します。巷末注釈を生成するかどうかは、一般的【巷末注釈】で設定します。「生成する」としても本文に後注マークアップがないと生成されません。
- 2) 図表一覧は本文の特殊化された図表から生成します。図表一覧を生成するかどうか

は、一般的【図表一覧】で設定します。「生成する」としても本文に特殊化された図表がないと生成されません。

- 3) 自動生成の参考文献は参考文献にアップロードされている bib ファイルから生成します。参考文献を生成するかどうかは、一般的【参考文献】で設定します。「生成する」としても参考文献に bib ファイルがないと生成されません。手作りの参考文献（【記事の種類】に「参考文献」を指定した記事）の有無には左右されません。
- 4) 索引は、本文の索引マークアップから生成します。索引を生成するかどうかは、一般的【索引】で設定します。「生成する」としても本文に索引のマークアップがないと生成されません。

## 奥付

- 1) 奥付を生成するかどうかは、一般的【奥付】で指定します。日本語書籍はデフォルトで「生成する」、英語書籍はデフォルトで「生成しない」となっています。奥付の内容は生成⇒PDF 奥付内容設定で項目を選択します。手作りの奥付（【記事の種類】に「奥付」を指定した記事）の有無には左右されません。

### 4.4.4 EPUB の自動生成記事

EPUB の自動生成記事を生成するかどうかは、生成⇒EPUB 一般で設定します。

## 表紙とタイトルページ

- 1) EPUB は表紙を画像にします。表紙画像は必須であり、表紙を生成するかどうかの指定はありません。表紙の画像は生成⇒EPUB カバー画像で指定します。カバー画像が指定されていないときタイトルページから表紙用の画像を自動で作成します。ただし、カバー画像作成はフォールバック機能ですのでレイアウトや画像の品質はあまり高くありません。
- 2) タイトルページを生成するかどうかは、一般的【タイトルページ】で指定します。タイトルページの内容は生成⇒EPUB タイトルページで項目を選択します。なお、手作りのタイトルページ（【記事の種類】に「タイトルページ」を指定した記事）があるときは、自動生成のタイトルページは生成しません。

## 目次

- 1) EPUB3 ではナビゲーション形式目次（「nav の目次」）は必須で、CAS-UB は常に自動生成します。「nav の目次」の内容を一般的【Nav の目次の内容】で指定します。
- 2) 本文の目次はオプションです。本文の目次を生成するかどうかは、一般的【本文の目次】で指定します。なお、手作りの目次（【記事の種類】に「目次」を指定した記事）があるときは、本文の目次は生成しません。

## 巻末注釈、図表一覧、参考文献、索引

各記事を生成するかどうかは、生成⇒EPUB 一般で設定します。生成の仕組みは PDF と同じ

です。

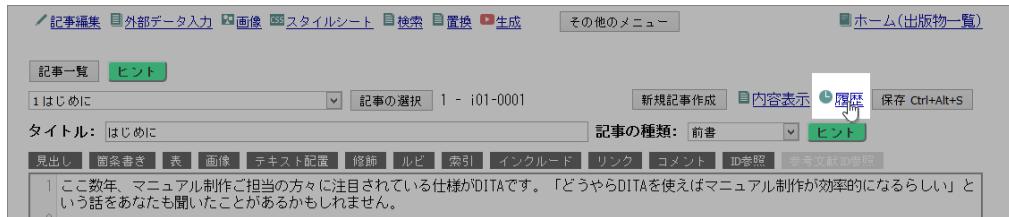
### 奥付

- 1) 奥付を生成するかどうかは、一般的の【奥付】で指定します。日本語書籍はデフォルトで「生成する」、英語書籍はデフォルトで「生成しない」となっています。奥付の内容は生成⇒EPUB 奥付ページで項目を選択します。手作りの奥付（【記事の種類】に「奥付」を指定した記事）の有無には左右されません。

# 第5章 出版物ソーステキストの入出力とデータ管理

## 5.1 履歴

記事内容は、ログイン後、最初に記事編集画面に入ったときの状態が履歴として保存されます。過去の状態を参照したいときは、記事の編集画面で「履歴」をクリックします。



履歴があれば、保存日時の一覧が表示されますから、参照したい日時の右にある「編集」をクリックしてください。そのときの内容で記事の編集状態になります。そこで保存をすると、そのときの内容が最新に置き換わります。

A screenshot of the 'History' list interface. The title bar says '履歴'. Below it, there's a search bar with dropdowns for '年' (Year), '月' (Month), '日' (Day), and '付近の履歴' (Recent History). The main table has two columns: 'リビジョン' (Revision) and 'コミット日時' (Commit Time). The table rows show revisions 249, 244, 198, and 49 with their respective commit times. To the right of the table, there's a blue link '履歴内容を呼び出して編集する' (Edit history content) with a red arrow pointing to it. Below the table, there's a note '↓ 比較対象のリビジョン番号を指定する' (Specify the revision number to compare against) and a button '差分を表示' (Show differences).

画面下部にある「差分を表示」で、現在の内容と履歴が保存されたときの内容の違いを確認できます。確認したい履歴日付のリビジョン番号を指定してから「差分を表示」をクリックしてください（リビジョン番号は、履歴の保存時に適当に割り当てられますので連続していません）。

2013 年 10 月 24 日 付近の履歴 検索

リビジョン	コミット日時	
249	2013-01-25 14:48:56	<a href="#">編集</a>
244	2013-01-17 17:20:42	<a href="#">編集</a>
198	2012-04-13 10:06:48	<a href="#">編集</a>
49	2011-11-22 11:27:23	<a href="#">編集</a>

リビジョン 244 と 現状 の 差分を表示

From revision 244: line 12, 11 lines. ← リビジョン 244 の 12 行目から 11 行分と、  
To working copy: line 12, 11 lines. ← 現状の 12 行目から 11 行分を比較

前付け、本文、後付けの大枠で構成され、本文は章と節で構成されます。出版物を構成する記事にはこの構造に沿った「\*\*記事の種類\*\*」の指定が必要になります。この指定は構成編集や記事の編集時に変更することができます。

```
[[!fig =書籍1の構造
-{{book1-ja.png | book1-ja.png}} ← リビジョン 244
+{{book1-ja2.png | book1-ja2.png}} ← 現状
]]
[[!fig =記事の種類の指定
-{{kiji-class.jpg | kiji-class.jpg}} ← リビジョン 244
+{{kiji-class2.png | kiji-class2.png}} ← 現状
]]

```

その他、表紙、目次、奥付などは、生成時に自動または半自動で付加されます。

## 5.2 UB テキスト

CAS-UB V5 から、クラウドサービスで編集中の記事をテキスト（「UB テキスト」と呼びます）として PC にダウンロードし、Windows のテキストエディタなどで編集したあと、再アップロードできるようになりました。[v5.0](#)

### 5.2.1 UB テキストとは

出版物を構成する単位である記事について、全ての記事または一部の記事を一つに結合したテキストファイルです。出版物の構成とツリー構造を表現できます。各記事の内部は、CAS 記法でマークアップします。

#### ファイル形式

UB テキストをダウンロード／アップロードするときのファイル形式は次の 2 通りあります。

- UB テキスト ZIP ファイル
- UB テキストファイル（出版物全体）

UB テキスト ZIP ファイルは UB テキストファイルと画像ファイルをまとめて ZIP で圧縮したファイルです。

- <出版物識別名>.b/casbulk.txt <出版物識別名>.b/images/
- 出版物識別名は出版物新規作成時に設定する出版物名です。
  - casbulk.txt は、ファイル名固定の UB テキストファイルです。
- UB テキストファイルについては次項を参照してください。

#### UB テキストファイル

- テキストファイルの符号化方式は “UTF-8” (BOM なし) としてください。

- 一つの記事のみでも、複数の記事を一つのファイルにまとめてどちらでも構いません。
- 出版物全体を UB テキストにするときは、ファイルの先頭に出版物ヘッダー部を置きます。一部の記事のみを UB テキストにするときは、出版物ヘッダー部は不要です。
- 各記事の先頭には記事ヘッダー部を置きます。一部の記事のみを UB テキストにするときは、ファイルの先頭に記事ヘッダーを置きます。
- UB テキストファイルのファイル名は半角英数字を使用してください。

### 出版物ヘッダー部の構成

- 出版物ヘッダー部の各行は'+'項目名':'項目データの構成です。

表1 出版物ヘッダーの項目名と項目データ

項目名	項目データ
updated	(オプション) 更新日です。ダウンロードの時に設定されます。変更してもアップロードでは無効です。
ahax\$kind	(オプション:固定) article。ダウンロードの時に設定されます。変更してもアップロードでは無効です。
author	(オプション) ダウンロードの時に設定されることがあります。変更してもアップロードでは無効です。
title	(オプション) 出版物名。ダウンロードの時に設定されます。変更してもアップロードでは無効です。
name	(必須:固定) publ
ahax \$entryClass	(オプション:固定) book3。ダウンロードの時に設定されます。変更してもアップロードでは無効です。

### 出版物ヘッダー部のサンプル

```
+ updated: 2017-12-06T14:17:44+0900
+ ahax$kind: article
+ author: Antenna House
+ title: 新しい本
+ name: publ
+ ahax$entryClass: book3
```

### 記事ヘッダー部の構成

- 記事のヘッダー先頭行は'+'8文字からなる行でなければなりません。
- ヘッダーの2行目以降は、ヘッダーのデータ行を置きます。
- データ行は'+'項目名':'項目データの構成です。'+'と項目名、項目名と':'、':'項目データの間の半角空白はあっても無視されます。

表2 記事ヘッダーの項目名と項目データ

項目名	項目データ
updated	(オプション) 更新日をアラビア数字により(YYYY-MM-DD形式)で記述します。

ahax\$kind	(オプション) article (記事のとき) または fragment (記事の続きのとき)
author	(オプション) ダウンロードのときのみ設定することができます。変更してもアップロードでは無効です。
title	(オプション) 記事のタイトル (日本語も使えます)。設定しないと記事のタイトル欄が空になります。
name	(必須) 記事のファイル名をラテンアルファベットとアラビア数字で設定します。クラウド上の出版物に同名のファイルがあるときクラウド上のファイルを置き換えます。
ahax\$parent	(オプション) 親記事のファイル名をラテンアルファベットとアラビア数字で指定します。クラウド上に該当する親記事があるとき、その子供として登録します。章の場合は出版物自体が親になりますので'publ' (固定) を設定します。親記事が指定されていないときは「ドラフト」に登録されます。
ahax \$entryClass	(オプション) 記事の種類を「記事クラス名」で指定します。指定していないとき「未定」となります。

※ 記事クラス名は、表2 「書籍3」 の記事の種類 (p. 78) を参照してください。

記事ヘッダー部のサンプル

```
+++++
+ updated: 2017-12-06T14:15:59+0900
+ ahax$kind: article
+ author:
+ title: 最初の章
+ name: i02-0001
+ ahax$parent: publ
+ ahax$entryClass: chapter
```

章の記事内容

```
+++++
+ updated: 2017-12-06T14:17:15+0900
+ ahax$kind: article
+ title: 節の記事
+ name: 1-1
+ ahax$parent: i02-0001
+ ahax$entryClass: section
```

節の記事内容

### 5.3 UB テキストのダウンロード

出版物の UB テキストのダウンロードができるのは自分自身がオーナーになっているか、執筆チームのメンバーになっているときです。

### 5.3.1 ダウンロード画面の表示

UBテキストのダウンロード画面は、記事編集画面の【その他のメニュー】をクリックすると表示されるメニューから「ダウンロード」を選択します。

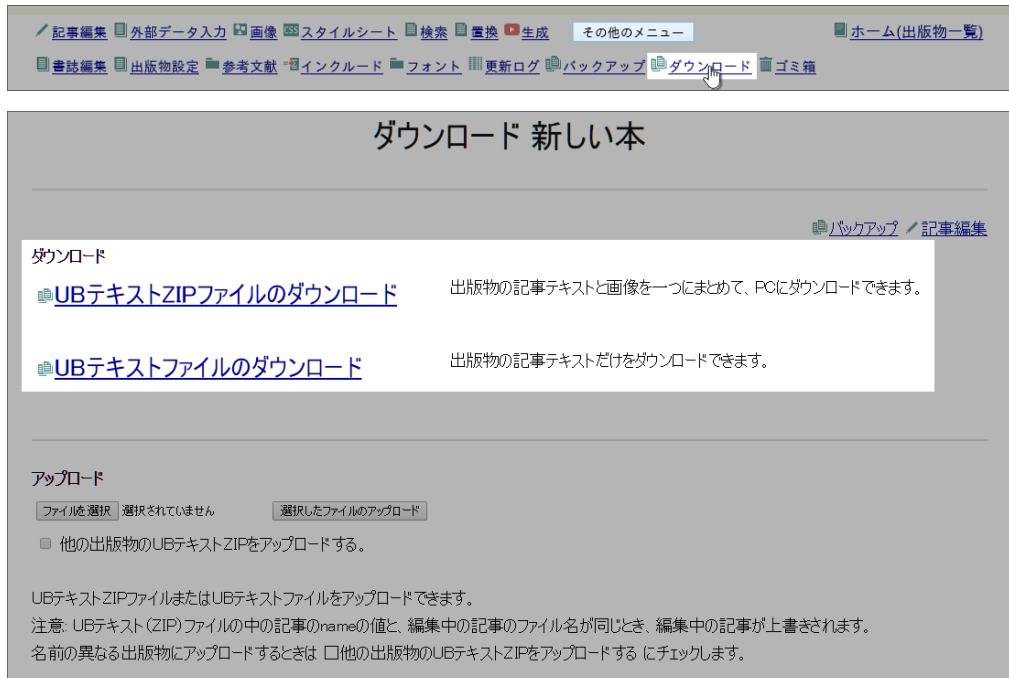


図1 ダウンロード画面の表示例

- 「UBテキストZIPファイルのダウンロード」をクリックすると、UBテキストZIPファイルがダウンロードされます。
- 「UBテキストファイルのダウンロード」をクリックすると、UBテキストZIPファイルが画面に表示されます。また、マウスの右ボタンで、ダウンロードファイルの保存先を選択して保存できます。

**注 意** ダウンロード画面の操作は、お使いのブラウザによって異なることがあります。

### 5.4 UBテキストのアップロード

出版物のUBテキストのアップロードができるのは自分自身がオーナーになっているか、執筆チームのメンバーになっていて「編集」が許可されているときです。

#### 5.4.1 アップロード画面の表示

アップロードのメニューは、ダウンロード画面の共通で、ダウンロード画面の下部にあります。

UBテキストのダウンロード画面は、記事編集画面の【その他のメニュー】をクリックする

と表示されるメニューから「ダウンロード」を選択します。

ダウンロード

UBテキストZIPファイルのダウンロード

UBテキストファイルのダウンロード

バックアップ 記事編集

アップロード

ファイルを選択 選択されていません 選択したファイルのアップロード

他の出版物のUBテキストZIPをアップロードする。

UBテキストZIPファイルまたはUBテキストファイルをアップロードできます。  
注意: UBテキスト(ZIP)ファイルの中の記事のnameの値と、編集中の記事のファイル名が同じとき、編集中の記事が上書きされます。  
名前の異なる出版物にアップロードするときは 他の出版物のUBテキストZIPをアップロードするにチェックします。

図2 UB テキストのアップロードは、ダウンロード画面で実行する

画面の下部の「[ファイルを選択]」ボタンをクリックして、UBテキストファイルまたはUBテキストZIPファイルを選択してから、「[選択したファイルのアップロード]」ボタンをクリックします。

- ※ 出版物識別名の異なる出版物にUBテキストZIPファイルをアップロードするときは「他の出版物のUBテキストZIPをアップロードする。」をチェックする必要があります。  
UBテキストファイルは、出版物識別名が違っていてもアップロードできます。

## 5.5 バックアップ

出版物の状態を一つのファイルにまとめてZIPファイルとしてローカル(PCなど)にダウンロードできます。バックアップの目的は、オーナーが自分の手元にデータを保存できるようにすることです。

### 5.5.1 バックアップできるデータ

バックアップされるのはバックアップ時点の状態を表すデータのみです。各記事のバックアップ時点より前の内容データはバックアップされません。

このためリストア後には、記事の履歴内容は参照できなくなります。

注 意 更新ログ(誰が、いつ、どのエントリーを編集したか)はバックアップされます。

## 5.5.2 バックアップ操作

バックアップ操作ができるのは、自身がオーナーの出版物に限られます。

### 出版物一覧からバックアップ

出版物一覧の画面でバックアップしたい出版物の処理「バックアップ」を選択します。

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作つてみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>
how-to-PDFa	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>

執筆チームメンバーとして参加している出版物

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌表示</a>

Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved

このサイトについて | 利用規約 | 個人情報保護方針

バックアップ画面で大きく表示されている「バックアップファイルのダウンロード」をクリックすると、バックアップファイルがダウンロードされますので、ファイル名に日時を入れるなどして管理してください。

リストア

バックアップファイルを選択してアップロードすると編集中の記事は完全に置き換わりますので、注意してください。

参照... ファイルが選択されていません。  選択したファイルのアップロード

書誌情報の復帰。  他の出版物のバックアップで上書きする。

バックアップした出版物を名前の異なる出版物にリストアするときは  他の出版物のバックアップで上書きするにチェックします。  
編集履歴はバックアップされません。バックアップ・ファイルをクラウド上の同一出版物にリストアするとそれまでの編集履歴が失われます。

## 記事編集画面からバックアップ

記事編集画面の「[その他のメニュー]」をクリックすると表示されるメニュー項目から「バックアップ」をクリックするとバックアップ画面に移ります。V5.0

自分がオーナーでない出版物（執筆チームメンバーとして参加している出版物）の編集画面では、「[その他のメニュー]」をクリックしても「バックアップ」は表示されません。



### バックアップのデータ形式

CAS-UB の内部では、次のデータ以外は業界標準を使っていて、ZIP アーカイブを解凍すれば、比較的簡単にデータを再利用できます。

- Atom エントリー内で、ahax 名前空間接頭辞で修飾された要素・属性は cas-ub で独自拡張したもので、他システムの互換性はありません。
- CAS 記法は、CreoleWiki ベースの Wiki 構文ですが、若干の修正と多くの拡張マークアップを含んでいます。

## 5.6 リストア

ローカル PC などにバックアップ (p. 94) した出版物のバックアップ ZIP ファイルを CAS-UB のサーバにアップロードしてバックアップ時点の編集状態に戻す機能です。

バックアップしたデータをリストアすると、サーバ側で編集中の記事や画像が完全に置き換えられ、編集履歴も失われます。

### 5.6.1 リストアの手順

#### バックアップ画面を表示

リストアはバックアップ画面から実行します。バックアップ画面の表示方法は、バックアップ (p. 94) を参照してください。

The screenshot shows the CAS-UB interface for an author named 'support'. At the top, there are navigation links: 'ユーザー情報', '公開プロフィール', and 'ログアウト'. Below that is a menu bar with options: '出版物新規作成', 'Word変換', 'メルマガ変換', 'ディスク使用量', and 'CAS-UB修正情報'. The main title is 'supportさんの著者ページ'. A green button labeled 'リストア' is visible. The page displays a table of published works:

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作つてみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>
how-to-PDFA	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌編集</a> <a href="#">削除</a> <a href="#">バックアップ</a>

Below the table, it says '執筆チームメンバーとして参加している出版物' and shows one entry:

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	<a href="#">編集</a> <a href="#">生成</a> <a href="#">書誌表示</a>

At the bottom, there is a copyright notice: 'Copyright © 2011-2015 Antenna House Inc. All Rights Reserved.' and links for 'このサイトについて', '利用規約', and '個人情報保護方針'.

バックアップZIPファイルを選択してリストア

バックアップ画面の下部分がリストア画面です。

The screenshot shows the 'Backup' section of the CAS-UB interface. On the left, there is a sidebar with 'バックアップ' and two buttons: 'バックアップファイルのダウロード' and 'リストア'. On the right, there is a large red warning message: 'バックアップファイルを選択してアップロードすると編集中の記事は完全に置き換わりますので、注意してください。' (Select the backup file and upload it to replace the articles in the editing process completely, so please be careful). Below this message is a form with a '参照...' button, a file input field containing 'my-book20171207.p.zip', a '選択したファイルのアップロード' button, and a checked checkbox '書誌情報の復帰' (Restore catalog information). At the bottom, there is a note: 'バックアップした出版物を名前の異なる出版物にリストアするときは□他の出版物のバックアップで上書きするにチェックします。' (When listing a publication with a different name, check the box 'Check to replace with other publications' if you want to overwrite it).

[参照] ボタンをクリックしてリストアするZIPファイルを選択すると、ボタンの右にファイル名が表示されますので、その右にある「選択したファイルのアップロード」ボタンをクリックするとリストアされます。

The screenshot shows the 'Restore' form. It displays the uploaded file 'my-book20171207.p.zip' and a checked checkbox '書誌情報の復帰' (Restore catalog information). The text 'リストア' (Restore) is displayed prominently at the top of the form.

リストアが成功すると、「記事編集」と大きく表示されます。「記事編集」をクリックすると記事編集画面に移ります。

**記事編集**

◀ ダウンロード / 記事編集

**バックアップ**

[バックアップファイルのダウンロード](#)

クラウド上の出版物のテキストや画像などを一つにまとめてバックアップ・ファイルとして、PCにダウンロードできます。

---

**リストア**

バックアップファイルを選択してアップロードすると編集中の記事は完全に置き換わりますので、注意してください。

### 新規出版物作成時に実行

出版物新規作成画面の「作成方法」のリストボックスで「バックアップファイルからの復帰」を選択します。v5.0

「バックアップファイル」という項目が表示されますので、「参照」ボタンをクリックしてバックアップファイルを選択してください。

**出版物新規作成**

\* は必須の項目です。

全般

オーナー名	support01
出版物識別名 *	New-Books-02 CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。 1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字。空白や記号は使えません。
出版物タイトル *	新しい本 出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。
作成方法	バックアップファイルからの復帰
バックアップファイル *	<input type="button" value="参照..."/> my-book20171207.p.zip
<input type="button" value="作成"/>	

### 関 連 3.2 出版物新規作成 (p. 20)

#### 5.6.2 書誌情報の復帰

バックアップした出版物に設定されている書誌情報をバックアップ先出版物の書誌情報として登録します。但し、バックアップ先出版物の書誌情報の中で「執筆チームメンバー」は変更しません。v5.0

バックアップ先の書誌情報を変更しないときは、チェックを外してください。

参照... my-book20171207.p.zip  選択したファイルのアップロード

書誌情報の復帰。  他の出版物のバックアップで上書きする。

#### 5.6.3 ほかの出版物のバックアップで上書きする

リストアの既定の設定では、出版物識別名の異なるバックアップファイルを受け付けない

ようしています。しかし、「ほかの出版物のバックアップで上書きする。」をチェックしておいて【バックアップファイルのリストア】を実行すると、出版物識別名が違っていてもリストアできます。



**注意** 上書きされたほうのデータは完全になくなりますので、ご注意ください。

## 5.7 出版物の削除

不要な出版物の削除は、出版物一覧画面で、出版物識別名の右にある【削除】をクリックしてください。

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	処理
books20150310	本を作ってみよう	2015-03-10 14:36:44+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
denshi-shoseki-no-jidai	電子書籍の時代	2015-03-10 13:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ
how-to-PDFa	PDF/Aとその作り方	2015-03-09 15:20:46+0900	編集 生成 書誌編集 削除 バックアップ

出版物識別名	出版物タイトル	作成日	オーナー	処理
sample1	学問のすすめ	2014-11-21 08:10:04+0900	cas-support	編集 生成 書誌表示

図3 出版物を削除する

次の確認メッセージが表示されますので、ほんとうに削除してよいなら【削除】ボタンをクリックしてください。出版物が削除されて出版物一覧画面に戻ります。

出版物 電子書籍の時代 のページ

出版物削除

出版物を削除すると、この出版物に付属するファイルもすべて削除されます。

必要に応じて、出版物のバックアップを取っておいてください。  
バックアップがない場合、それは完全に失われてしまいます。

上記に同意して、削除したい場合は、「削除」を押してください。  
削除を中止したい場合は、「戻る」を押してください。

図4 出版物の削除確認

削除の実行をキャンセルしたいときは、【戻る】をクリックしてください。削除を実行せずに出版物一覧画面に戻ります。



# 第6章 マークアップの基本

## 6.1 マークアップとは

CAS-UB は、外部データ入力で、たとえば Microsoft Word のファイルを取り込んで EPUB や PDF にできます。しかし、それだけでは CAS-UB の機能をフルに使いこなしていません。編集機能をフルに活用するにはマークアップについて理解して使いこなす必要があります。

### 6.1.1 CAS-UB の仕組み

CAS-UB は、原稿（記事ファイル）の入力・編集時に CAS 記法という簡略記法で記事にマークアップします。生成処理ではマークアップを中間 HTML に変換し、中間 HTML ファイルから EPUB や PDF を生成します。

こうした仕組を採用している理由は、HTML のタグを直接編集するには、HTML についての専門的な知識が必要であり、また、タグの入力そのものにも手間がかかるためです。CAS 記法を使うことで HTML を詳しく勉強する必要がなくなり、また HTML を編集するより手間が減ります。

CAS 記法を使えば、HTML について詳しく知る必要はないのですが、それでも要素や属性についての基本的な知識は必要です。

### 6.1.2 マークアップ

記事の内容に要素や属性を示す印をつけることを「マークアップ」といいます。従来の編集作業におけるマークアップは、編集者が DTP 制作者向けに原稿に付加している、見出し、箇条書き、体裁などの指示に相当します。CAS-UB でのマークアップは、原稿に CAS 記法で要素と属性の印を付けることです。マークアップに用いる文字は半角のアルファベット・記号・数字です。

### 6.1.3 要素とは

HTML で文書を構成する基本単位を「要素」といいます。具体的には、html（ルート要素）、body（本文）、p（段落）、div（ブロック範囲指定）、img（イメージ）、a（アンカー）などは HTML の要素です。

- HTML で使える要素の種類は HTML の仕様で決まっています。
- CAS 記法で記述できる要素は HTML 仕様で使える要素の種類の一部です。

### 6.1.4 属性とは

要素には属性を付けられます。属性は要素の役割や表示のレイアウトを指定するために使います。

HTML の属性は<要素名 属性名="value (属性値)">の形式をとります。属性名="value (属

性値）”の部分が属性です。属性で一番多く使うのはクラス（class）属性です。クラス属性は class=”value”形式です。

- EPUB では使用できる属性が決まっています。使用できない属性を設定すると EPUB チェック時にエラーとなります。

### 属性の書き方

CAS 記法では要素マークアップの直後（段落の場合は行頭）の’：’に続けて属性指定を置きます。

- クラス属性は、’要素マークアップ記号:属性値’の形式でマークアップします。
- その他の属性は、’要素マークアップ記号:属性名=属性値’の形式でマークアップします。
- 複数の属性を連続して書けます。

#### 6.1.5 編集対象要素

CAS-UB（CAS 記法）で指定して、EPUB や PDF に指定を有効に出力できる要素と属性の組み合わせ（編集対象要素）は HTML と EPUB で使える要素と属性の一部です。

- 編集対象要素の一部は、メニューからダイヤログで対話的に入力できます。詳しくは、第 7 章 マークアップ支援機能（p. 105）を参照してください。
- すべての編集対象要素を使いこなすには、要素と属性を CAS 記法で直接記述する必要があります。

関連 第 8 章 CAS 記法のマークアップリファレンス（p. 121）

第 9 章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス（p. 175）

## 6.2 はじめてのマークアップ

簡単な段落を例として、CAS 記法によるマークアップとそれがどのような HTML になるかを説明します。そして、成果物である EPUB、PDF のレイアウトにどのように反映されるかを説明します。

補足 CAS-UB のテーマで EPUB と PDF を作成するだけであれば、HTML について意識する必要はありません。自分で EPUB のレイアウトを変更するために CSS をカスタマイズする場合には、HTML を意識しなければなりません。

### 6.2.1 段落の例

段落は HTML では<p>～</p>で囲った要素として表します。CAS 記法での段落は、文章の前後を空行で区切ります。「段落 1」と「段落 2」の二つの段落を作るには間に空行（先頭に改行を入力）を入力します。

段落 1

段落 2

## 6.2.2 H T M L

そうすると次のようなHTMLになります。

```
<p>段落1</p>
<p>段落2</p>
```

## 6.2.3 属性指定

「段落1」を中央寄せ、「段落2」を右寄せするには次のように入力します。

```
:center 段落1
:right 段落2
```

## 6.2.4 属性指定したHTML

```
<p class="center">段落1</p>
<p class="right">段落2</p>
```

## 6.2.5 成果物レイアウトへの反映

CAS-UB システムは、EPUB と PDF を作成するときのテーマを用意しています。そのテーマに「center」クラス属性には中央寄せ、「right」クラス属性には右寄せになるようにレイアウトを設定しています。そこで、成果物としての EPUB と PDF を生成すると「段落1」が中央寄せ、「段落2」が右寄せになります。

テーマに組み込まれている属性については、第9章 CAS 記法の属性マークアップリファレンス (p. 175) を参照してください。

CAS-UB で生成する EPUB のレイアウトをカスタマイズするには、CSS スタイルシートを自分でカスタマイズします。12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）(p. 205) を参照してください。



# 第7章 マークアップ支援機能

## 7.1 マークアップ支援ボタン

### 7.1.1 マークアップ支援ボタンとは

マークアップ支援ボタンは、記事内容の編集画面のタイトルの下に配置しているボタンです。このボタンには代表的なCAS記法の組み合わせを割り当ててあります。マークアップ支援ボタンを利用すれば、CAS記法を覚えなくても主なマークアップ機能を使えます。

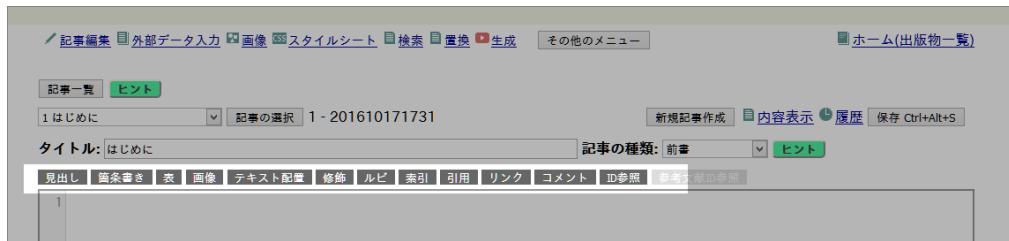


図1 マークアップ支援ボタン

### 7.1.2 マークアップ支援ボタンの操作

- 1) テキスト編集エリアでマークアップしたい範囲を選択します。
- 2) マークアップ支援ボタンをクリックします。
- 3) 各ボタンの機能に対応するダイアログが表示されますので、適切なテキストを入力、オプションをチェックします。
- 4) [CAS記法] ボタンをクリックします。
- 5) テキスト編集エリアにCAS記法によるマークアップが挿入され、ダイアログが閉じます。

### 7.1.3 マークアップ支援ボタンの一覧

CAS記法の組み合わせは非常に多種類になります。その中で比較的良く使うと思われる組み合わせだけをマークアップ支援ボタンに割り当てています。現在用意しているマークアップ支援ボタンは次の通りです。

- 1) 見出し (p. 106)
- 2) 箇条書き (p. 107)
- 3) 表 (p. 108)
- 4) 画像 (p. 109)
- 5) テキスト配置 (p. 111)
- 6) 修飾 (p. 112)
- 7) ルビ (p. 113)

- 8) 索引 (p. 113)
- 9) 引用 (p. 114)
- 10) リンク (p. 116)
- 11) コメント (p. 117)
- 12) ID 参照 (p. 117)
- 13) 参考文献 ID 参照 (p. 118)

## 7.2 各ボタンの機能説明

### 7.2.1 見出し

#### (1) 機能説明

- 見出しのランクに相当する数の'='を段落の行頭に入れます。
- テキストを選択しないで、「見出し」ボタンをクリックしたときは行頭に見出しランクに相当する'='を入力します。
- 段落テキストの一部分だけを選択した場合は、選択したテキストを見出しとして、その前後で段落を分割します（二つ目の図参照）。
- CAS記法では見出しの前後には空行を置くのが原則です。そこで、ダイアログは見出し（選択したテキスト範囲）の「前後に空行を入れる」がデフォルト値になっています。

関連 8.3 見出し (p. 125)

#### (2) 操作

①見出しにしたい文字列を選択して、②[見出し] ボタンをクリックします。③ダイアログで見出しのランク（見出しランク 1～6 から選択）を選択して、[CAS記法] ボタンをクリックします。④選択した文字列の上下に空行が入り、選択した行の先頭にマークアップ'='が挿入されます。

#### (3) 使用例

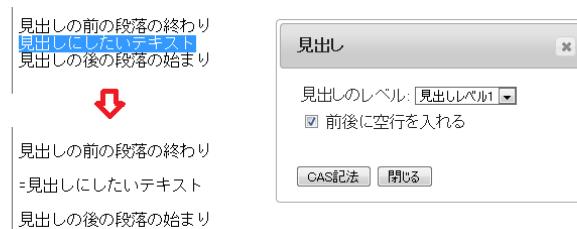


図2 見出しのマークアップ

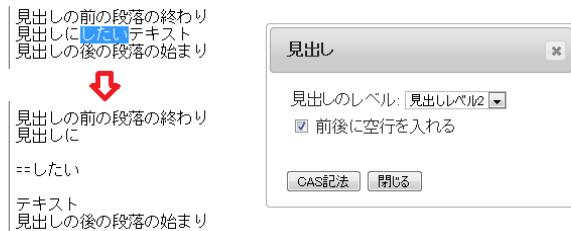


図3 見出しのマークアップ2

## 7.2.2 箇条書き

### (1) 機能説明

- 複数の項目を選択して、各項目の行頭にダイアログで選択した箇条書き種類に対応する箇条書きマーク ('\*' または '#') が挿入されます。
- 「前後に空行を入れる」のチェックがオンならブロック全体の上下に空行を入れます。オフなら入れません（ネストした箇条書きにするときは「前後に空行を入れる」のチェックははずします）。
- 先頭から改行（[ENTER] キーで入力したコード）が入力されている箇所までが 1 項目です。テキスト入力エリアの右端で自然に改行している位置は項目の終わりではありません。

### 関連 8.7 箇条書き (p. 131)

### (2) 操作

- ①ブロック範囲を選択して、②[箇条書き] ボタンをクリックします。③ダイアログで箇条書きの種類（番号なし、番号付き）を選択して、[CAS記法] ボタンをクリックします。④選択したブロック範囲の上下に空行が入り、選択した各行の先頭に箇条書きのマークアップ ('\*' または '#') が挿入されます。

### (3) 使用例

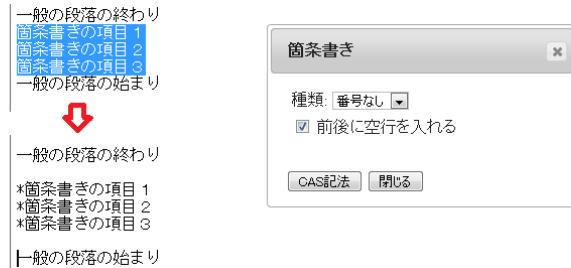


図4 番号なし箇条書き

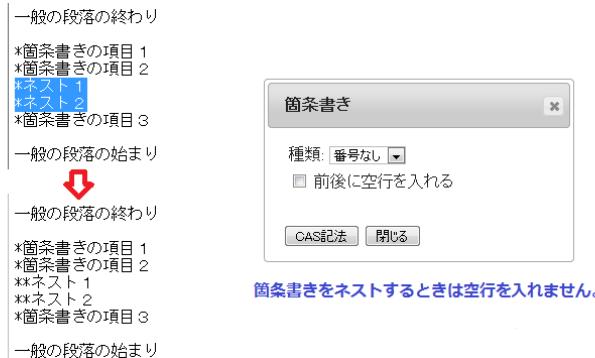


図5 箇条書きのネスト

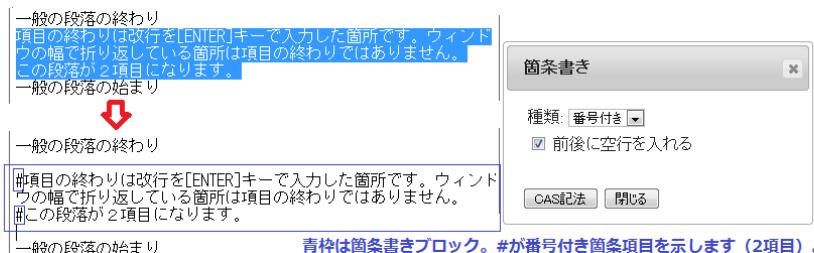


図6 項目の長い箇条書き

### 7.2.3 表

#### (1) 機能説明

- CAS 記法をつかうと n 行 m 列の表を作れます。[表] ボタンは、n 行 1 列の基本的な表を作るものです。表ボタンで入力したマークアップを元にして表の列を増やすには、行毎に列の区切りに ' | ' を入れます。すべての行で列数が一致している必要があります。
- 「表を ブロック範囲指定で囲む」にチェックしたときは、表マークアップ全体を表の属性をもつブロック範囲指定で囲みます。
- 表のキャプション・テキストを入力できます。
- 「表を ブロック範囲指定で囲む」がオフなら、ブロック範囲指定とキャプションともに出しません。
- 「先頭行を表のヘッダ行にする」がオンなら表の一行目が見出し行になるように設定します。
- 「先頭行を見出しセルにする」がオンなら表の一行目が見出しのセルになるように設定します。
- 表ブロックの前後には常に空行を入れます。

#### 関連 8.12 表 (p. 140)

#### (2) 操作

- ①ブロック範囲を選択、②「表」ボタンをクリックします。③ダイアログで表をブロック範囲指定で囲むかどうかチェック、(囲むとき) キャプションを入力します。またオプションで表の見出しセルを指定、④[CAS 記法] をクリックします。⑤表の基本マークアップが挿入

されます。なお、選択したブロック範囲内の各行を表の1列目のセルにします。

### (3) 使用例

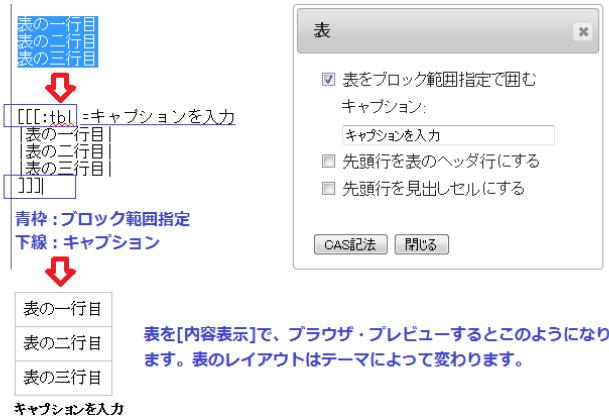


図7 ブロック範囲指定・キャプションあり

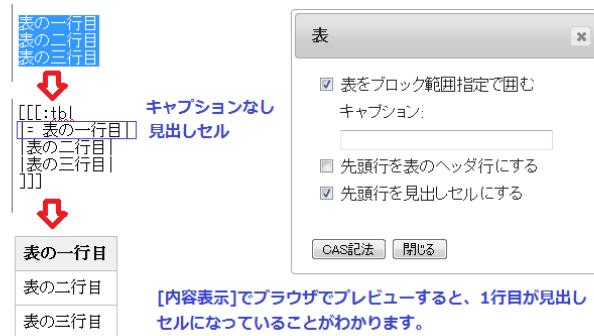


図8 ブロック範囲指定・1行目見出し

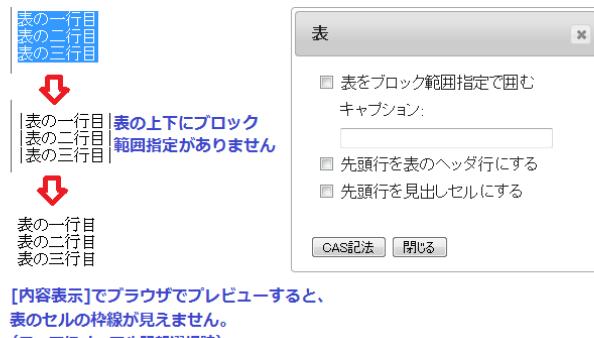


図9 ブロック範囲指定なし

## 7.2.4 画像

### (1) 機能

- 画像（図版またはイメージ画像）の配置方法は複数の行にわたるブロック画像、または行中（インラインの）画像のどちらかです。ブロック画像として配置するなら「画像をブロック範囲指定で囲む」の設定をオンにします。

- ・ ブロック画像にはキャプションを入力できます。なお、キャプションは必須ではありません。
- ・ 画像をオンラインで配置するなら「画像をブロック範囲で囲む」をオフにします。オンライン画像は前後に空の行は置かず、キャプションを出さないで、テキスト内のカーソル位置に画像を挿入します。
- ・ 画像ファイルはアップロード済みのものの一覧から選択するか、[参照] ボタンをクリックしてローカル（手元）のPCからアップロードすべき画像ファイルを選択します。画像をアップロードするときは内容についての「メモ」をつけることができます。
- ・ 画像には必ず代替テキストをつけなければなりません。ダイアログで代替テキストを入力できます。もし、入力しないときは、画像のファイル名を代替テキストに使用します。

## 関 連 8.11 イメージと図版（画像）(p. 137)

### (2) 操作

①画像を配置したい箇所にカーソルを置きます。②「画像」ボタンをクリックします。③ダイアログで必要事項を入力します（利用例を参照）。④[CAS記法] をクリックするとダイアログの指定内容をカーソル位置に挿入します。⑤図をアップロードするときは、アップロード済みのメッセージが表示されることを確認してから次の操作に進みます。

### (3) 利用例



図 10 ブロック画像の例



図 11 インライン画像の例

### 7.2.5 テキスト配置

#### (1) 機能

- CAS-UB で作成する日本語出版物の段落内テキスト配置のデフォルト値は両端揃えです。これを段落単位で行頭寄せ、中央寄せ、行末寄せに設定変更できます。
- 段落全体（テキストのブロック）を選択して配置を指定します。ブロック前後に空行を挿入します。既にブロック前後に空行があるときは空行を 2 重に入れる必要はありません。
- 段落テキストの一部分を選択した場合は、選択したテキストの部分で分割して新たにブロックにします。

関 連 9.2 組み込みクラス属性値一覧 (p. 178)

#### (2) 操作

①ブロックを選択します。②[テキスト配置] ボタンをクリックします。③ダイアログの「段落の配置」から設定を選択します。④[CAS記法]をクリックします。

#### (3) 利用例

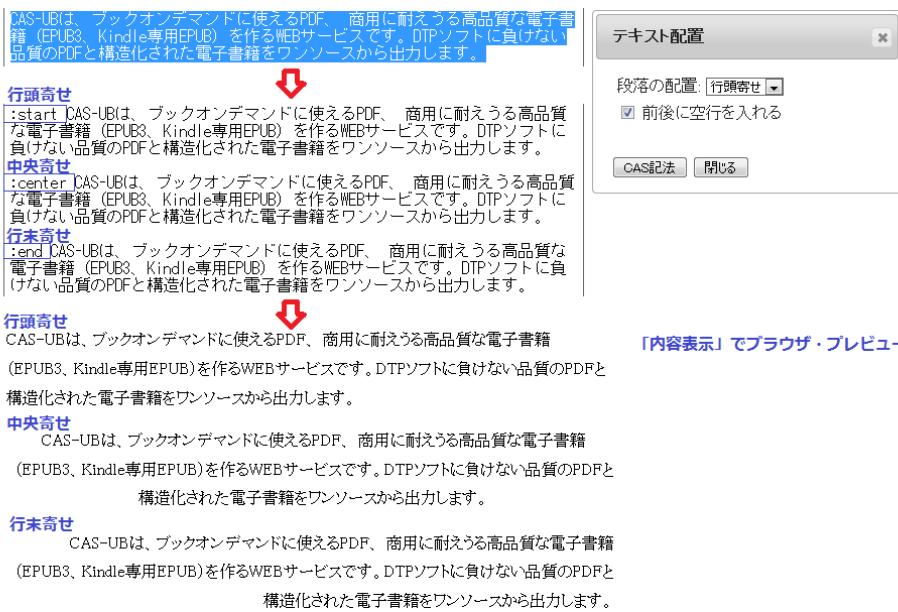


図 12 段落配置の設定例

## 7.2.6 修 飾

### (1) 機能

- ・ インラインのテキスト（段落の一部）を対象として強調など文字修飾のマークアップを設定します。
- ・ CAS 記法の強い強調（ボールド）、強調（イタリック）、注意（アンダーライン）の3種類と、圈点（ゴマ点、点、円）、縦中横を設定できます。
- ・ マークアップ支援ボタンでは修飾の組み合わせは設定できません。修飾の組み合わせが必要なときは手作りでマークアップを設定してください。

関 連 8.22 強調 (p. 155)、8.23 圈点 (p. 156)、8.25 縦中横 (p. 157)

### (2) 操作

①テキスト範囲を選択、②[修飾] ボタンをクリックします。③ダイアログで修飾の種類を選択、④[CAS 記法] をクリックします。

### (3) 利用例

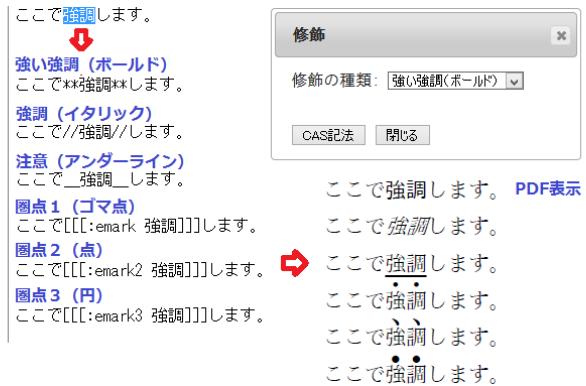


図 13 修飾の適用例

## 7.2.7 ルビ

### (1) 機能

- ルビを設定したいテキストに対してルビのマークアップをつけます。

### 関連 8.24 ルビ (p. 156)

### (2) 操作

①ルビを設定したい文字列を選択します。②「ルビ」ボタンをクリックします。③「振り仮名」にルビを入力して、[CAS記法] ボタンをクリックします。

### (3) 利用例

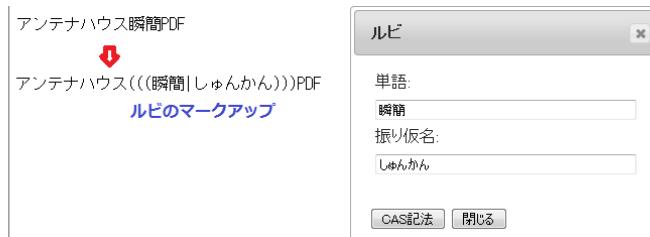


図 14 ルビのマークアップ例

## 7.2.8 索引

### (1) 機能

- 単純な索引のマークアップができます。(入れ子の索引などの複雑な索引はマークアップを手作りしてください)。
- 索引語に拾いたい文字を指定すると、指定した文字を「単語」(索引語)として取り込みます。
- 索引語を、インライン範囲指定、強調、弱い強調のどれで囲むかを設定します。索引語を強調しないときはインライン範囲指定で、索引語を強調するときは強調または弱い強調で囲みます。
- 「索引のみ表示」をオンになると、索引語が非表示になります。
- 索引を並べるときの「読み」(ソートキー)を入力します。索引語が数字、アルファベツ

ト、かたかな、かなのときは読みを入力する必要はありません。索引のページでは読みの先頭から数字、アルファベット、かな、カタカナの順で索引語が並びます。

- 入れ子の索引は、CAS記法を手作りしてマークアップしてください。

#### 関連 8.31 索引の指定 (p. 162)

##### (2) 操作

①索引に拾いたい文字を選択します。②「索引」ボタンをクリックします。③索引語の範囲指定の種類を選びます。④索引語のよみを入力します。⑤[CAS記法]をクリックすると索引の設定になります。

##### (3) 利用例

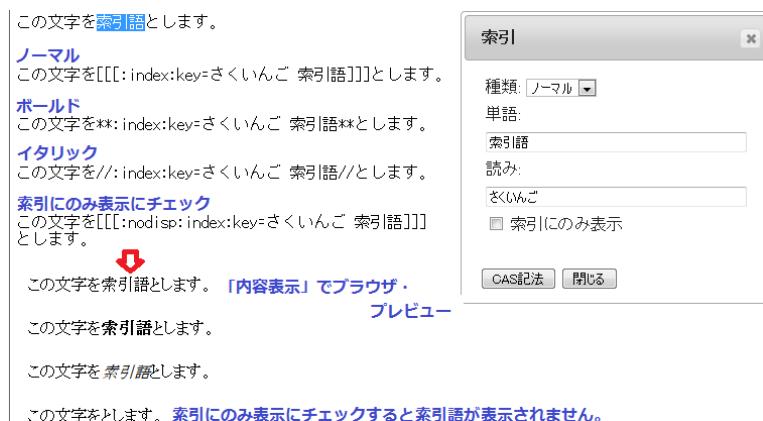


図15 索引を指定した例

#### 7.2.9 引用

##### (1) 機能

- ブロック引用と整形済みブロックのマークアップを支援します。
- ブロック引用のみ、整形済みブロックのみ、ブロック引用と整形済みブロックの両方といった指定ができます。
- 整形済みブロックには、マークアップを有効にする ':markup' 属性を付加できます。

#### 関連 8.16 ブロック引用 (p. 145)、8.17 整形済みブロック (p. 146)、8.17.1 整形済みブロックでマークアップを有効にする (p. 147)

##### (2) 操作

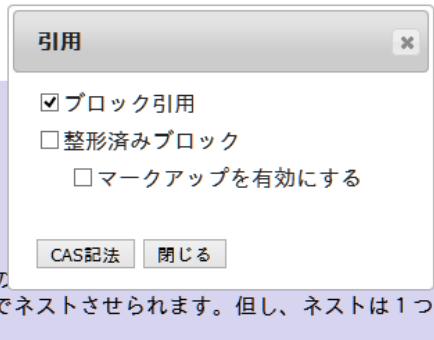
①ブロックに含めたい範囲を選択します。②「引用」ボタンをクリックします。③ダイアログで諸設定をします。④[CAS記法]をクリックするとブロック引用および整形済みブロックのマークアップを挿入します。

##### (3) 使用例

:nodisp:index:key=かじょうがき 箇条書き (CAS記法)

箇条書きのマークアップ規則は次の通りです。

- \* 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。
- \*\* 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。（但し、見出しの直後などは不要です。）
- \*\* 箇条書きのブロックは、空行で終了します。
- \* 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。
- \*\* 箇条書きの項目間に空行は不要です。
- \*\* 項目は段落のように複数行に跨ることができます。
- \*\* 1つの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の箇条書き項目などがあります。
- \* 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストは1つまでです。



 引用指定する範囲を選択して [CAS記法] をクリックします。

## |>> ブロック引用開始

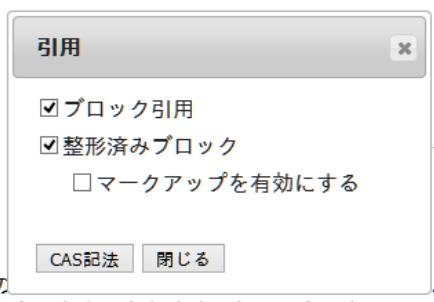
- \* 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。
- \*\* 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。（但し、見出しの直後などは不要です。）
- \*\* 箇条書きのブロックは、空行で終了します。
- \* 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。行頭の空白文字などは不要です。
- \*\* 項目は段落のように複数行に跨ることができます。
- \*\* 1つの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の箇条書き項目などがあります。
- \* 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストは1つまでです。

## |<< ブロック引用終了

図16 選択範囲をブロック引用にする

|>> ブロック引用開始  
{ {{ 整形済みブロック開始

- \* 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。
- \*\* 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。（但し、見出しの直後などは不要です。）
- \*\* 箇条書きのブロックは、空行で終了します。
- \* 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。
- \*\* 箇条書きの項目間に空行は不要です。
- \*\* 項目は段落のように複数行に跨ることができます。
- \*\* 1つの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の箇条書き項目などがあります。
- \* 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストは1つまでです。



} } } 整形済みブロック終了  
|<< ブロック引用終了

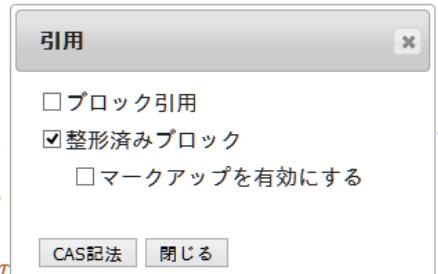
図17 選択範囲をブロック引用中の整形済みブロックにする

### **{{{ 整形済みブロック開始**

\* 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。  
\*\* 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。（但し、  
\*\* 箇条書きのブロックは、空行で終了します。  
\* 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。  
\*\* 箇条書きの項目間に空行は不要です。  
\*\* 項目は段落のように複数行に跨ることができます。  
\*\* 1つの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の  
\* 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストは1つ

### **}}} 整形済みブロック終了**

図18 選択範囲を整形済みブロックにする



### **{{{markup 整形済みブロック開始（マークアップ有効）**

\* 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。  
\*\* 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。（但し、  
\*\* 箇条書きのブロックは、空行で終了します。  
\* 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。  
\*\* 箇条書きの項目間に空行は不要です。  
\*\* 項目は段落のように複数行に跨ることができます。  
\*\* 1つの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の  
\* 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数で

### **}}} 整形済みブロック終了**

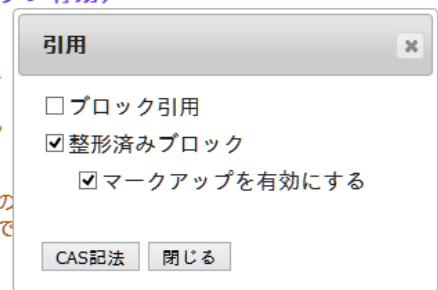


図19 選択範囲をマークアップ可能な整形済みブロックにする

#### **注 意**

- 選択範囲は、ブロック要素全体を指定してください。
- マークアップを有効にする をチェックしても、整形済みブロック がチェックされていなければ、CAS 記法は出力されません。

#### **7.2.10 リンク**

##### **(1) 機能**

- 外部の URL へのリンクを設定します。
- URL (http:, https: から開始する文字列) を選択したときは、「URL」のテキストエリアに選択したテキストを入れます。
- それ以外のテキストを選択したときは、「アンカーテキスト」に選択したテキストを入れます。
- なにも選択しないでリンクをクリックしたときは、「URL」と「アンカーテキスト」の両方とも空白とします。
- 「アンカーテキスト」がブランクのときは URL がアンカーテキストになります。
- 「PDF にリンクを印刷する」をチェックしたとき、PDF に URL も表示します。
- 「リンクを新しいウィンドウで開く」をチェックしたとき、リンクをクリックすると新しいウィンドウが開くように指定します。

#### **関 連 8.33 URL と記事へのリンク (p. 164)**

## (2) 操作

①URLまたはアンカーにするテキスト範囲を選択します。②[リンク]ボタンをクリックします。③ダイアログでURLまたはアンカーテキストに適切なデータを入力します。④[CAS記法]をクリックするとリンクのマークアップになります。

## (3) 利用例

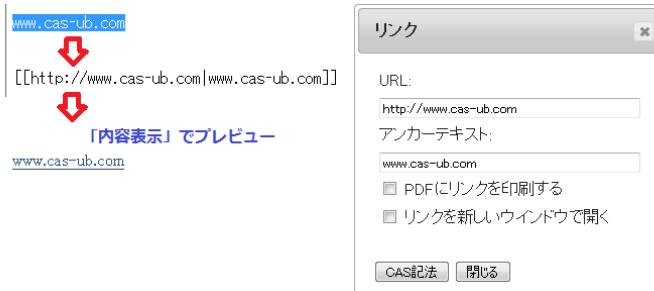


図20 リンクの設定例

## 7.2.11 コメント

## (1) 機能

原稿を編集画面では残しておいて、PDFやEPUBなどの生成物では無視するときに使います。

## (2) 操作

①対象とする範囲を選択します。②[コメント]ボタンをクリックします。③[CAS記法]をクリックするとコメントのマークアップになります。

## (3) 利用例

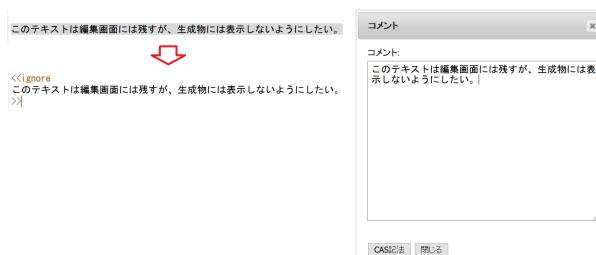


図21 コメントの設定例

## 7.2.12 ID参照

## (1) 機能

- CAS-UBでは、タイトル・見出し・キャプションに、自動的にIDがつきます。また、数式と任意の位置にユーザーIDをつけられます。
- 「ID参照」には、自動的につけたIDとユーザーIDの一覧を表示します。
- 参照先のIDを選択して「CAS記法」ボタンをクリックします。
- 「アンカーテキスト」を入力しますと、ID参照のアンカーテキストになります。
- 「アンカーテキスト」を入力しないと、参照先のID位置の見出しなどからアンカーテキ

ストを作り出します。

関 連 8.35 記事内の特定位置を参照する（ID 参照）(p. 168)、8.34 記事内の特定位置に目印（ID）をつける (p. 166)

(2) 操作

①アンカーテキストを選択（選択しないときはブランク）、②「ID 参照」のボタンをクリック、③ダイアログで参照先の ID を選択して、必要ならアンカーテキストを入力します。④[CAS 記法] をクリックすると ID 参照のマークアップになります。

(3) 利用例

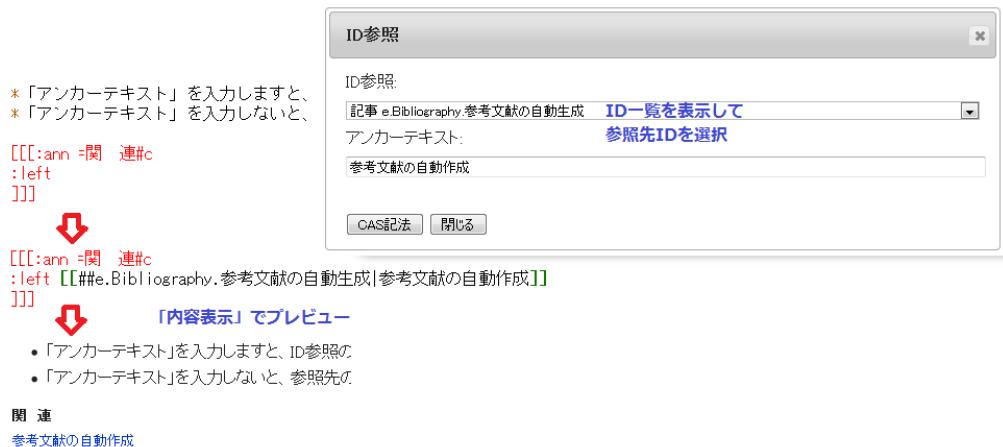


図 22 ID 参照のマークアップ支援

### 7.2.13 参考文献 ID 参照

(1) 機能

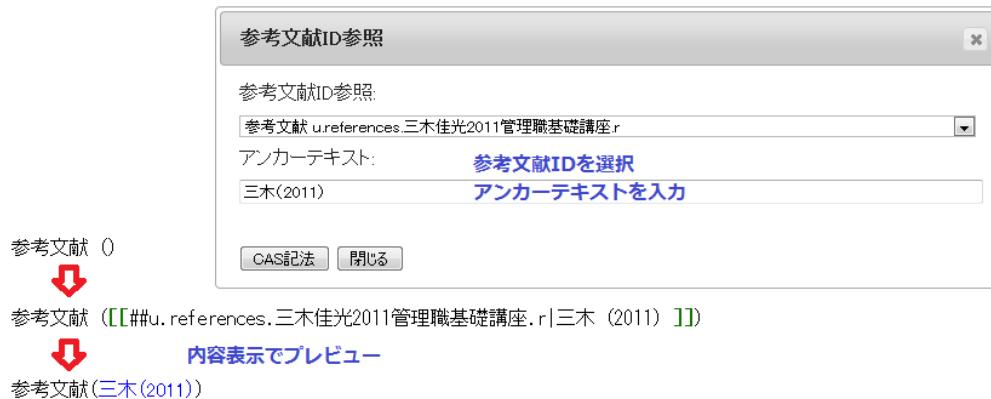
- 参考文献 (bib) ファイルの各文献に自動的に ID がつきます。また、参考文献に手作業で ID をつけることができます。
- 「参考文献 ID 参照」では参考文献の ID 一覧を表示します。
- 参考文献が設定されていないときは、参考文献の ID 一覧は表示しません。
- 参照先の ID を選択して「CAS 記法」ボタンをクリックします。
- 必要に応じて、本文中の参考文献参照用のテキストを「アンカーテキスト」に入力します。

関 連 参考文献の自動作成 (p. 243)

(2) 操作

①アンカーテキストを選択（選択しないときはブランク）、②「参考文献 ID 参照」のボタンをクリック、③ダイアログで参照先の ID を選択して、必要ならアンカーテキストを入力します。④[CAS 記法] をクリックすると ID 参照のマークアップになります。

(3) 利用例





## 第8章 CAS記法のマークアップリファレンス

### 8.1 編集対象要素の一覧

要素には①ブロック要素と②インライン要素があります。見出し、段落、箇条書きなどはブロック要素です。範囲を指定した強調、リンクなどはインライン要素です。

#### 8.1.1 ブロック要素

CAS記法で使えるブロック要素は次の通りです。ブロック要素は、原則としてブロック範囲の前後に空行（行頭が改行の行）をおいてマークアップします。

- 段落 (p. 122)
  - セパレータ用段落 (p. 124)
- 見出し (p. 125)
- 記事タイトル (p. 128)
- 箇条書き (p. 131)
  - 番号付き箇条 (p. 132)
  - 番号なし箇条 (p. 132)
  - ラベル無し箇条書き (p. 134)
- 用語定義リスト（定義箇条）(p. 134)
- ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 135)
  - キャプション (p. 136)
  - イメージと図版（画像）(p. 137)
  - 表 (p. 140)
  - コラム (p. 144)
  - 要約（サマリー）(p. 144)
  - 注記（ノート）(p. 145)
- ブロック引用 (p. 145)
- 整形済みブロック (p. 146)
- 埋め込みブロック (p. 148)
- インクルード (p. 149)
- ブロック数式 (p. 151)
- 水平線と強制改ページ (p. 153)

#### 8.1.2 インライン要素

CAS記法で使えるインライン要素は次の通りです。インライン要素はブロック要素の内部で使うのが一般的ですが、インライン要素のなかで組み合わせることもできます（但し組み合わせの制限があります）。

- 強調 (p. 155)
  - 強い強調 (ボールド) (p. 155)
  - 強調 (イタリック) (p. 155)
  - 注意を促す (アンダーライン) (p. 155)
- 圈点 (p. 156)
- ルビ (p. 156)
- 縦中横 (p. 157)
- 上付き・下付き (p. 158)
- 強制改行 (p. 158)
- 注 (p. 159)
- イメージと図版 (インライン) (p. 160)
- 範囲指定 (p. 161)
- 索引の指定 (p. 162)
- タイプライター (p. 163)
- URL と記事へのリンク (p. 164)
- 記事内の特定位置に目印 (ID) を付ける (p. 166)
- 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 168)
- インライン数式 (p. 170)

**注 意** CAS 記法のインライン要素のマークアップでは、途中に空行が入るとその直前でインライン要素の終了とみなします。

### 8.1.3 マークアップのネスト

CAS 記法では、ある要素マークアップの中での他の要素のマークアップ（マークアップのネスト）ができますが、制限があります。

- 見出しテキスト内のマークアップ (p. 127)
- 記事タイトル内のマークアップ (p. 129)
- キャプションのマークアップ (p. 137)
- 表のセル内のマークアップ (p. 141)
- アンカーテキストのマークアップ (p. 169)

## 8.2 段 落

ひと続きの文字列を段落と言います。段落を指定するための特別なマークアップ記号は使わず、テキストを次の規則で段落にします。

- 段落と段落の区切りには空行が必要です。
  - 記事の最初の段落以外は、新しい段落を入力するには前に空行を入力しなければなりません。従って、本文中で段落を区切るには改行を 2 回入れる必要があります。
  - 記事の最後の段落以外で段落を終了するには、空行を入力する必要があります。
- 前の行の最後と次の行の先頭の両方が非 ASCII 文字のとき、前の行の最後の改行を削除

してふたつの行をつなげます。どちらかがASCII文字（英文など）のときは改行を削除しません。

- 行の先頭の空白文字は削除します。

### 8.2.1 改 行

改行とはキーボードで[ENTER]キーを押して入力される制御文字であり、通常、画面には見えません。

### 8.2.2 ASCII文字

以下に列挙する、アルファベットと数字(0~9)、および記号類

```
!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@  
0123456789  
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ  
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz  
{|}~[¥]^`
```

### 8.2.3 空 白 文 字

画面上で空白（スペース）を表す文字には、①全角の空白文字<sup>1)</sup>、②タブ<sup>2)</sup>、③半角空白文字<sup>3)</sup>があります。CAS記法ではタブと半角空白を空白文字として扱います。全角空白文字は空白文字として扱いません。

行頭の空白文字は削除しますが、全角空白文字は行頭にあっても削除しません。

#### 例

##### (1) CAS記法

行の先頭の空白は削除する。

行の最後の改行は削除する。

この行は前の行と連結して一つの段落となる。

段落と見出しや箇条書きなどの始まりは空行で区別する必要がある。

\* この行は箇条書きにならずに前の行とつながっていると見なす。

段落の終わり

\* この行は箇条書きになる。

CSS is a abbreviation  
of Cascading Style Sheets.

##### (2) 表示例

1) かな漢字入力モードで[SPACE]キーを押して入力される文字

2) [TABキー]を押して入力される文字

3) 英文字入力モードで[SPACE]キーを押して入力される文字

行の先頭の空白は削除する。

行の最後の改行は削除する。この行は前の行と連結して一つの段落となる。

段落と見出しや箇条書きなどの始まりは空行で区別する必要がある。 \* この行は箇条書きにならずに前の行とつながっていると見なす。

段落の終わり

- この行は箇条書きになる。

CSS is a abbreviation of Cascading Style Sheets.

#### 8.2.4 セパレーター用段落

段落間の空きを空けないか空けるかは、EPUB、PDF生成のテーマ（スタイルシート）で指定します。「段落間により大きな空きを取りたい」時のため、ピリオド一文字だけの行で一定量の空きを作る専用の段落をつくれます。

- ピリオドだけの行は、HTMLでは

/ >となります。
- EPUBではセパレーターの空きはCSSで調整します。EPUBのCSSテーマで1行分の空きを設定しています。PDFでは1行分の空きになります。
- ピリオド（'.'）のみの行、または、複数のピリオド行を連続させて使えます。
- ピリオド（'.'）のみの行は、前後が空行で行頭に':line-gap'属性を付けた空の行と同じです。

#### 例

##### (1) CAS記法

段落1

.

段落2

.

.

.

段落3

これは次と同じです。

段落1

:line-gap

段落2

:line-gap

:line-gap

:line-gap

段落3

## (2) 表示例

段落1

段落2

段落3

これは次と同じです。

段落1

段落2

段落3

**注 意** ピリオド一文字だけの段落を書きたいときは、チルダエスケープします。

## 例

- ・CAS記法

- ・表示例

### 8.3 見 出 し

行頭に'='がある文章は見出しになります（前に空行が必要）。

- ・'='の数で見出しのランクを表します。
- ・終了の(右側の)等号はオプションであり、開始と終了を両方入力する必要はありません。
- ・左側の等号の前後に空白を置いても問題ありません。
- ・行頭から始まる'='に続いて'='以外の文字がないとエラーになります。'='の並びを飾りなど見出し以外の目的に使うときは、先頭の'='をチルダでエスケープしてください。

## 例

- (1) CAS記法

= ランク1（最大）
------------

== ランク2
---------

```
==== ランク 3  
===== ランク 4  
===== ランク 5  
===== ランク 6  
== これもランク 3 #1 =  
== これもランク 3 #2 ==  
== これもランク 3 #3 ===
```

## (2) 表示例

### 8.3.1 ランク 1 (最大)

ランク 2  
ランク 3  
ランク 4  
ランク 5  
ランク 6  
これもランク 3  
これもランク 3  
これもランク 3

上述例の見出しランクは、HTML の h1～h6 タグに相当します。

見出しテキストには、漢字などにルビをつけたり、(縦書時) 縦中横の設定などマークアップができます。マークアップの方法は次の項を参照してください。

関 連 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 127)

10.1 記号や空白をそのまま使う (エスケープ) (p. 193)

### 8.3.1 出版物全体での見出しのレベル

EPUB 生成、PDF 生成の設定メニューには見出しのレベルの指定があります。生成メニューでは出版物全体の見出しレベルで指定します。

記事本文の見出しのランクと出版物の中における見出しのレベルの対応関係は次のようになります。

- 1) 最上位の記事タイトルがレベル 1。最上位の記事の種類は「章」なので「章」のタイトルがレベル 1 となります。
- 2) レベル 1 の記事本文中で '=' から始まる見出し (ランク 1 の見出し) は出版物の中ではレベル 2。章の本文のランク 1 の見出しあは、出版物全体ではレベル 2 の見出し (節見出し) となります。
- 3) 記事自体を階層化したとき、たとえば、章の下位に「節」に相当する記事を置いたとき、その記事のタイトルはレベル 2 (節見出し) となります。レベル 2 の記事本文中で '=' から始まるランク 1 の見出しあは出版物の中ではレベル 3 (項見出し) として扱います。

### 8.3.2 見出しへの ID 付与

- 見出しには ID をつけます。ID は見出しのテキストから自動的に作成します。

- 他の記事の中から見出しを参照するには ID 参照を使います。ID 参照の方法については 8.35 記事内の特定位置を参照する（ID 参照）（p. 168）を参照してください。

ID は記事内で重複できません。記事内に同じ見出しがあるときは、見出しの末尾に'#+'識別文字'を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字を使えます。

### 見出しテキストの中の#

見出しテキストの中の'#'は、重複する ID を区別するため特殊な役割があります。'#'を文字として使うときは'~#'のようにエスケープする必要があります。

但し、見出しの中の'~#'のエスケープが有効にならないことがあります。その場合、見出しの中の#（U+0023）は全角文字の' #'に置き換えてみてください。

関連 10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ）（p. 193）

## 8.4 見出しテキスト内のマークアップ<sup>①</sup>

記事の見出しのテキスト（見出し文字列）内には、段落内と同様にマークアップできます。但し、有効なマークアップはインライン要素のみです。箇条書きや表などブロック要素のマークアップは無効です。

見出しテキストにマークアップするときは、'=’の直後に、半角縦棒（'|’）で挟んで ID 用見出し文字列をマークアップなしで記入し、その後にマークアップした見出しを記入してください。

### 例

#### (1) CAS 記法

##### 見出し文字列にルビのマークアップ

=|仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する|((仙鳳趾|せんぽうし))は((厚岸湾|あっけしづわん)))の端に位置する

タイトル: (((仙鳳趾|せんぽうし))の((社説|かき))) 記事の種類: 章

見出し 箇条書き 表 画像 テキスト配置 組版 ルビ 索引 インクルード リンク ID登録 案を文書に挿入

1 =|仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する|((仙鳳趾|せんぽうし))は((厚岸湾|あっけしづわん)))の端に位置する

図1 見出しにルビのマークアップ

#### (2) 表示（PDF 生成）例

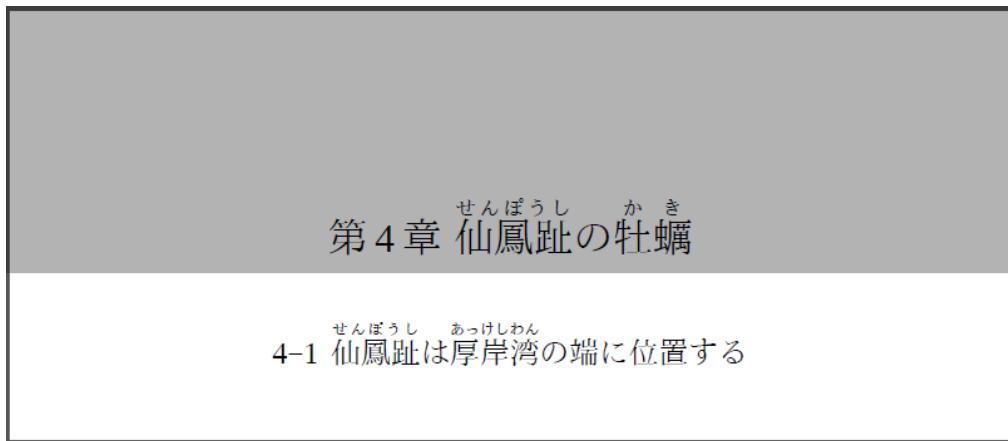


図2 見出しにルビのマークアップをしたときのPDF生成例

このとき、リンク用のIDには、| |内の「仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する」が使用されます。

関連 8.6 記事タイトル内のマークアップ (p. 129)

8.10.2 キャプションのマークアップ (p. 137)

## 8.5 記事タイトル

EPUB、Kindle、Webページの作成（EPUB等）では一つ一つの記事がXHTMLファイルとなります。PDF生成ではすべての記事を一つに結合します。

このとき記事タイトルは次のように扱います。

- 1) EPUB等では各記事（XHTMLファイル）先頭の見出し（body直下のh1要素）の内容として出力します。但し、h1要素に記述できる内容かどうかはチェックしていません。PDF生成では本文の見出しと同等の扱いとなります。
- 2) EPUB等では各記事（XHTMLファイル）のタイトル（title）の内容にもコピーします。

### 8.5.1 記事タイトルの用途

記事のタイトルは、次の用途に使用されます。

- ID参照用のID文字列

他の記事で8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照）(p. 168) のマークアップをすると、記事タイトル位置へのリンクを設定できます。このとき記事タイトルがID文字列として使用されます。記事タイトルを変更したら、ID参照のマークアップも修正する必要がありますので注意してください。

- 本文中の見出しとして表示

PDFでもEPUBでも、記事タイトルは見出しとして本文中に表示されます。本文に記事タイトルを表示しないときは記事編集画面の下にある「タイトルを本文に出力する」のチェックを外してください。

- 目次に表示

PDFでは、目次を生成する見出しレベルを指定できます、PDF生成設定で指定した見出

しレベルであれば、記事タイトルが目次に表示されます。デフォルト値では章（見出しレベル1）と節（見出しレベル2）の記事タイトルが目次に出力されます。EPUBやKindleでは、記事タイトルはすべて目次に出力されます。表示させたくないときは、記事編集画面下の「タイトルを目次に出力する」のチェックを外してください。

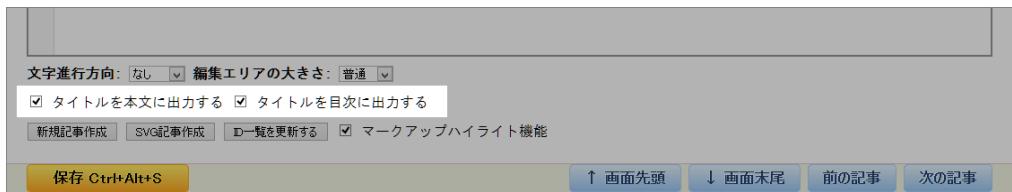


図3 記事タイトルを本文・目次に出すかどうか設定

### 8.5.2 記事タイトルの中の#

記事タイトルの中では'#'をそのまま使うことができます。

**注 意** 但し、#を使った場合、記事への参照がエラーになります。ID参照を使うときは、#を全角文字に変更してください。

## 8.6 記事タイトル内のマークアップ

記事タイトルにもマークアップできます。但し、マークアップはインライン要素のみ有効です。箇条書きや表などブロック要素のマークアップはマークアップの内容とともに削除します。

### 8.6.1 PDF/EPUB の見出し

- 記事タイトルを見出し(h1)にするときは、次表「インラインマークアップの例」の右端の欄のようになります。
- '~~'マークアップはチルダを取り去った文字となります。

#### EPUB 等の'title'

- EPUBの生成では、記事タイトルのマークアップを、原則として削除して'title'の内容にコピーします。
- \$\$～\$\$で囲ったインライン数式は、数式がTeXならば、外側の\$を一つ削除し、内側の\$を残して'title'の内容にコピーします。数式がMathMLならば、\$\$～\$\$全体を削除します。

表1 インラインマークアップの例

マークアップ	マークアップ例	titleの内容	<h1>の内容
強調・ボールド	**強調**	強調	<strong>強調</strong>
強調・イタリック	//ここはemになる//	ここはemになる	<em>ここはemになる</em>

強調・下線	<u>underline</u>	underline	<span class="notice">underline</span>
ルビ	((難 むずか)) しい	難(むずか) しい	<ruby>難<rp>(</rp><rt>むずか</rt><rp>)</rp></ruby>しい
上付き	^superscripted^	superscripted	<sup>superscripted</sup>
下付き	,, subscripted,,	subscripted	<sub>subscripted</sub>
強制改行	強制改行￥あり	強制改行あり	強制改行 あり
注釈	作成する。((ここ は注釈の内容で す。))	作成する。こ こは注釈の内 容です。	EPUB で巻末注釈を生成すると本文は「作成す る。<sup>[1]</sup>」となり、巻末注釈 (xnote.xhtml) に「[1] ここは注釈の内容で す。」が記載され、本文と巻末注釈間に相互リ ンクが付きます。
イメージと 図版	画像 {{CAS- Mark.jpg CAS- Mark.jpg}} である	画像 CAS- Mark.jpg で ある	画像である
範囲指定	範囲指定で [[[:emark この範 囲]]] を囲む	範囲指定でこ の範囲を囲む	範囲指定で<span class="gext emark">この範 囲</span>を囲む
タイプライ ター	一例: {{{** // this// ** }}}}	一例: // this//	一例:<span class="tt"> //this// </span>
URL と記事へ のリンク	[[http://www.cas- ub.com cas-ub]]	cas-ub	<a href="http://www.cas-ub.com">cas- ub</a>
ID 参照	[[#t.20130707160 0.ID の種類.1 表 1]]	表 1	<a href="201307071600.ent#t.201307071600.ID の種類.1">表 1</a>
インライン 数式	\$\$y=X^2\$\$	\$y=X^2\$	<span class="mathmlsection"><math><mrow><mi>y</mi><mo maxsize="1.0em">=</mo><msup><mi>X</mi><mn>2</mn></msup></mrow></math></span>
チルダ	~#1 の売上げ	#1 の売上げ	#1 の売上げ

## 例

### (1) CAS 記法

記事タイトルにルビのマークアップ

((仙鳳趾|せんぽうし)) の ((牡蠣|かき))

タイトル: ((仙鳳趾 せんぽうし)) の ((牡蠣 かき))	記事の種類: 章
<a href="#">見出し</a> <a href="#">箇条書き</a> <a href="#">表</a> <a href="#">画像</a> <a href="#">テキスト配置</a> <a href="#">修飾</a> <a href="#">ルビ</a> <a href="#">索引</a> <a href="#">インクルード</a> <a href="#">リンク</a> <a href="#">参考文献</a> <a href="#">差し替える</a>	
<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; font-family: monospace; font-size: 0.8em;">1 = 仙鳳趾は厚岸湾の端に位置する ((仙鳳趾 せんぽうし))は((厚岸湾 あっけしわん)))の端に位置する 2</div>	

図4 記事タイトルにルビのマークアップ

### (2) 表示 (PDF 生成) 例

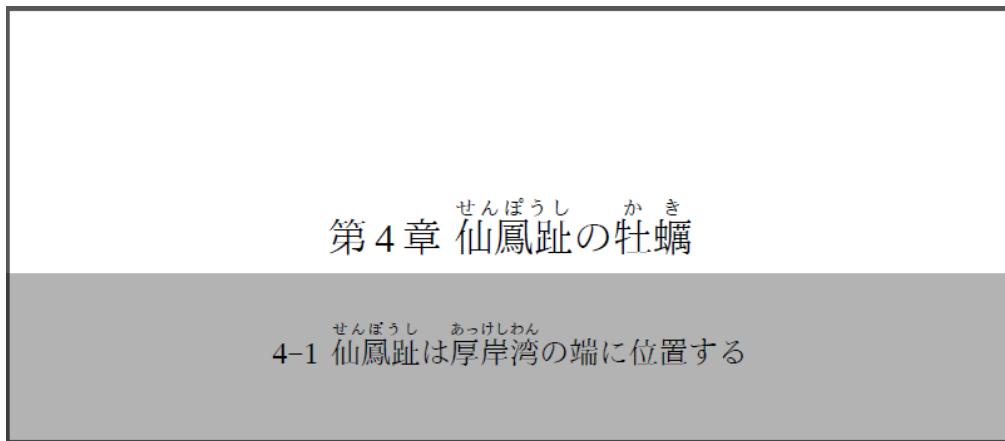


図5 記事タイトルにルビのマークアップをしたときのPDF生成例

このとき、リンク用のIDには、記事タイトルの文字列からマークアップを除いた「仙鳳趾(せんぽうし)の牡蠣(かき)」が使用され、EPUBの論理目次には「仙鳳趾(せんぽうし)の牡蠣(かき)」が使われます。EPUB本文の目次・見出し、PDF本文の目次・見出しには、ルビが付きます。

関連 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 127)

8.10.2 キャプションのマークアップ (p. 137)

## 8.7 箇条書き

箇条書きのマークアップ規則は次の通りです。

- 箇条書きは全体としてひとつのブロックとなります。
  - 箇条書きブロック全体の前に空行が必要です。(但し、見出しの直後など例外として空行が不要です。)
  - 箇条書きのブロックは、空行で終了します。
- 各項目は行の先頭を '\*' または '#' から開始します。行頭の空白文字は無視します。
  - 箇条書きの項目間に空行は不要です。
  - 項目は段落のように複数行に跨ることができます。
  - ひとつの箇条書き項目は、①次の箇条書き項目、②下位の箇条書き項目、③箇条書きブロックの終了、で終了します。
- 箇条書きブロックは、行の先頭 '\*' または '#' の数でネストさせられます。但し、ネストはひとつずつ深くする必要があります。

注意 PDF生成では、番号なし箇条書きのラベル文字や番号付き箇条書きのラベルスタイルを変更できます。この指定の詳細は <http://www.cas-ub.com/howto/> からダウンロードできる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」の番号なし箇条書きと番号付き箇条書きをご確認ください。

### 8.7.1 箇条書きの項目内のマークアップ

番号なし箇条書き項目の先頭文字を強調（ボールド）指定するときは、箇条書きのマークアップ'\*'と強調のマークアップ'\*\*'の間を空白文字で空けてください。

- 各項目の内部では主なインライン要素のマークアップができますが、それらは複数の項目に跨ることはできません。
- 項目内には空行を置けません。レイアウト上の改行は'¥¥'（強制改行）で指定します。

### 8.7.2 番号付き箇条書き

行頭が'#'から始まる段落が番号付き箇条となります。

#### 例

##### (1) CAS 記法

```
# 第一項目  
# 第二項目は2行にわたります。¥¥  
第二項目の2行目です。  
## 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。  
## 同第二項目です。  
# **第三項目は強調しています。**
```

##### (2) 表示例

- 1) 第一項目
- 2) 第二項目は2行にわたります。  
第二項目の2行目です。
  - ① 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
  - ② 同第二項目です。
- 3) 第三項目は強調しています。

### 8.7.3 番号なし箇条書き

行頭が'\*'から始まる段落が、番号なし箇条となります。

#### 番号なし箇条とボールドについて

箇条書きブロック中の先頭行以外で、'\*\*'から開始する行を入力すると、ネストした番号なし箇条として処理します。行の途中にある'\*'はボールドテキストの開始として処理します。

#### 例2

##### (1) CAS 記法

```
* 第一項目  
* 第二項目は2行にわたります。¥¥  
第二項目の2行目です。
```

\*\* 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。  
 \*\* 同第二項目です。  
 \* \*\*第三項目は強調しています。\*\*

## (2) 表示例

- 第一項目
- 第二項目は2行にわたります。
 

第二項目の2行目です。

  - 第二項目の下にネストした箇条書きの第一項目です。
  - 同第二項目です。
- 第三項目は強調しています。

## 8.7.4 番号付きと番号なしの混在

番号付き箇条書きと番号無し箇条書きを混在できます。但し、番号付き箇条書きをネストするときは、番号付き箇条書きの中で1階層目からネストしなければなりません。

## 例3

## (1) CAS記法

```
* 番号なし項目1
* 番号なし項目2
# 番号あり項目3-1
# 番号あり項目3-2
** 番号なし項目4-1
** 番号なし項目4-2
# 番号あり項目3-3
## 番号あり項目4-1
### 番号あり項目5-1
## 番号あり項目4-2
# 番号あり項目3-4
* 番号なし項目3
```

## (2) 表示例

- 番号なし項目1
- 番号なし項目2
  - 1) 番号あり項目3-1
  - 2) 番号あり項目3-2
    - 番号なし項目4-1
    - 番号なし項目4-2
  - 3) 番号あり項目3-3
    - ① 番号あり項目4-1
      - ① 番号あり項目5-1
      - ② 番号あり項目4-2
    - 4) 番号あり項目3-4

- 番号なし項目 3

#### 8.7.5 ラベル無し箇条書き

番号無し箇条の'\*'に':nolabel'クラス属性を付けると、箇条書きのラベルが付かなくなります。原稿で番号がついている段落を箇条書きで表すときなどのために使います。

#### 例4

##### (1) CAS 記法

```
*:nolabel 一、天下の政権を朝廷に奉還せしめ、政令宜しく朝廷より出づべき事。  
*一、上下議政局を設け、議員を置きて万機を參贊せしめ、万機宜しく公議に決すべき事。  
*一、有材の公卿・諸侯((及|および))天下の人材を顧問に備へ、官爵を賜ひ、宜しく從来有名無実の官を除くべき事。
```

##### (2) 表示例

一、天下の政権を朝廷に奉還せしめ、政令宜しく朝廷より出づべき事。  
一、上下議政局を設け、議員を置きて万機を參贊せしめ、万機宜しく公議に決すべき事。  
一、有材の公卿・諸侯<sup>および</sup>天下の人材を顧問に備へ、官爵を賜ひ、宜しく從来有名無実の官を除くべき事。

### 8.8 用語定義リスト

用語定義リストは、用語とその定義を対で記述する方式の箇条書きです。

- 行頭のアスタリスク'\*'の後のハイフンふたつ'--'に挟まれた語句が用語となり、ふたつ目の'--'の後に用語の説明を書きます。
- 用語定義ブロック全体の前後に空行が必要です。
- 用語定義の項目間には空行は不要です。

#### 例

##### (1) CAS 記法

```
-- 用語 1 --用語 1 についての説明  
-- 用語 2 --用語 2 についての説明
```

##### (2) 表示例

###### **用語 1**

用語 1 についての説明

###### **用語 2**

用語 2 についての説明

## 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化

記事の中で、ある部分を範囲指定したいとき、三つの開き大括弧'[[[' (開始マークアップ) と三つの閉じ大括弧']]'] (終了マークアップ) で囲みます。

範囲指定マークアップは次の規則によってブロック範囲指定 (HTML の `div` 要素) またはインライン範囲指定 (HTML の `span` 要素) になります。

### 8.9.1 ブロック範囲指定

- 1) 開始マークアップの前に空行があること
- 2) 開始マークアップが行頭から始まること。行頭空白文字は削除します。
- 3) 開始マークアップに続き、属性 (':' から始まる文字列) と、キャプション ('=' から始まる文字列) を置くことができます。この後に改行があった場合にはブロック範囲指定の開始と解釈します。
- 4) 終了マークアップは行頭から始まること。行頭空白文字は削除します。
- 5) これ以外はインライン範囲指定となります。

属性はブロック範囲指定の役割・種類やレイアウトを指定するものです。ブロック範囲指定だけでは要素のグループ化の意味しか持たずレイアウト上の処理はありません。

#### 例

##### (1) CAS 記法

```
[[[
プロック範囲指定

* 箇条書き
** 箇条書き

この文章には//イタリック//を含んでいます。
http://www.antenna.co.jp/
]]]
```

##### (2) 表示例

プロック範囲指定

- 箇条書き

- 箇条書き

この文章にはイタリックを含んでいます。 <http://www.antenna.co.jp/>

**注 意** 上の例のようなプロック範囲指定だけでは文脈上の意味もなく表示上の区別もできません。

### 8.9.2 ブロックの特殊化

CAS 記法では、役割を特化したプロック範囲指定を 5 種類規定しています。これは特殊化

したブロックと呼ぶこともあります。特殊化したブロック毎に適切なレイアウト指定機能をデザインテーマに組み込んでいます。

表2 特殊化したブロック

クラス（種類）名	意味
fig	図 (figure)
tbl	表 (table)
col	コラム (column)
sum	要約 (summary)
ann	注記 (annotation)

関 連 第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス (p. 175)

## 8.10 キャプション

特殊なブロックには必要に応じてキャプションが付けられます。開始マーク'[[['と同じ行内で、'=」の後に置いた文字列がキャプションとなります。キャプションはブロックにつけた見出しにあたります。

### 8.10.1 キャプションのID

特殊なブロックのキャプションにはIDを自動的に付与します。IDは記事内で重複はできませんので、記事内に同じキャプションがあるときは、キャプションの末端に '#+' 識別文字'を付けて区別してください。識別文字には半角のアルファベットと数字が使えます。

例

#### (1) CAS記法

```
[[[:sum  
属性名は sum であり、キャプションがない。  
]]]  
  
[[[:col = これはキャプション  
属性名は col であり、キャプション付きとなる。  
]]]
```

#### (2) 表示例

属性名は sum であり、キャプションがない。

これはキャプション

属性名は col であり、キャプション付きとなる。

### 8.10.2 キャプションのマークアップ

キャプションには、通常の段落内と同様にマークアップできます。

但し、有効なマークアップはインライン要素のみです。箇条書きや表などブロック要素のマークアップは無効です。

キャプションにマークアップするときは、'=' の直後に半角縦棒（'|'）2本に挟んで、ID用文字列をマークアップなしで記入し、その後にマークアップした見出しを記入してください。マークアップされたキャプションを終了するには空行を置きます。

#### 例2

##### (1) CAS記法

```
[[[:tbl =|特殊化したブロック属性の種類|//(((特殊化|とくしづか))) したブロック属性の種類//  
|=クラス名|=意味|  
|fig|図 (figure) |  
|tbl|表 (table) |  
|col|囲み記事 (column) |  
|sum|要約 (summary) |  
|ann|注記 (annotation) |  
]]]
```

##### (2) 表示例

表3 特殊化したブロック属性の種類

クラス名	意味
fig	図 (figure)
tbl	表 (table)
col	囲み記事 (column)
sum	要約 (summary)
ann	注記 (annotation)

上の例ではキャプション全体を斜体にし、「特殊化」にルビをつけています。

**注 意** キャプションにマークアップするとき、キャプションが複数行に渡ることができます。このため表の開始を識別するためにキャプションと表の開始の間にキャプションの終了を示す空行が必要です。

**関 連** 8.4 見出しテキスト内のマークアップ (p. 127)

8.6 記事タイトル内のマークアップ (p. 129)

### 8.11 イメージと図版（画像）

写真のようなイメージ（ラスター）画像、SVGのような線画（ベクトル画像）を一括して

画像と言います。

画像を記事の中に表示するには、'{{画像ファイル名|代替テキスト}}'として記述します。

### 8.11.1 ブロック画像

画像を文章の行中に置くとインライン配置です。次のようにブロック範囲指定に':fig'クラス属性を付加して特殊化したブロックで囲むとブロック画像になります。

```
[[[:fig  
{{画像ファイル名|代替テキスト}}  
]]]
```

**注 意** 大きな画像は、PDFではブロック画像は版面に合わせて縮小されます。EPUBではリーダーに依存しますが、多くの場合画面幅に縮小されます。

#### 例

##### (1) CAS 記法

このようにマークアップしたイメージは {{CAS-Mark.jpg|CAS サービスマーク }} インラインとして扱います。

イメージをブロックとして扱いたいときは、イメージを特殊化ブロックにします。

```
[[[:fig  
{{CAS-Mark.jpg |CAS サービスマーク }}  
]]]
```

上のイメージはブロック（独立の段落）として扱います。

##### (2) 表示例



このようにマークアップしたイメージは



インラインとして扱います。

イメージをブロックとして扱いたいときは、イメージを特殊化ブロックにします。



上のイメージはブロック（独立の段落）として扱います。

### 8.11.2 画像のキャプション

ブロック画像にはキャプションを付けられます。そしてキャプションには ID が付与されます。

キャプションは、'[[[:fig' の後に半角空白と '=' を置き、その後に付けてください。

関 連 8.10 キャプション (p. 136)

8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 135)

## 8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照）(p. 168)

V3.0 から、PDF では縦組のときに限り、画像のキャプションが長い時に図の幅で折り返します。（横組のときは、図の幅に合わせて折り返しません）。

## 例 2

## (1) CAS 記法

```
[[[:fig =キャプション
{{CAS-Mark.jpg | CAS サービスマーク }}
]]]
```

## (2) 表示例



図 6 キャプション

**注 意** キャプションは EPUB では画像の下に出力されます。PDF ではレイアウト詳細設定で上・下どちらに出すかを指定できます。

## 8.11.3 画像のサイズ指定

画像には属性でサイズを指定できます。幅の属性名は 'width' 、高さは 'height' です。'{ ' の直後に ':属性名=値' の形式で指定してください。属性値は数値に単位を付けて指定します。属性値と画像のファイル名の間には半角空白が必要です。

関 連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 181)

10.5 単位 (p. 195)

**注 意** 画像のサイズ指定は PDF 生成でのみ有効です。EPUB はサイズ指定を CSS のスタイルに変換できます (EPUB の生成設定 (p. 62) を参照)。但し、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

## 例 3

## (1) CAS 記法

```
[[[:fig =width=30%を指定：版面の30%幅になります
{{:width=30% CAS-Mark.jpg | CAS-Mark.jpg}}
]]]
```

## (2) 表示例

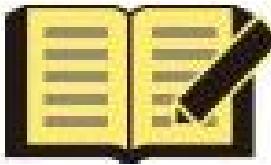


図 7 width=30%を指定：版面の 30%幅になります

注 意 上の表示例は PDF が対象です。EPUB では生成設定とリーダー依存です。

#### 8.11.4 画像の説明文

特殊化した画像には説明文を付けられます。

##### 画像のキャプションと説明文の位置

特殊化した画像に、画像の説明文を付けたとき、それを PDF に出力できるようにしました。  
(V2.3までは画像の説明文を記述する機能はありません。)

```
[[[:fig =キャプション      ←特殊化した図のマークアップとキャプション
  {{画像ファイルを指定}}    ←画像ファイル名

  一行空けて図の説明文を記述する ←図の説明文
]]]
```

キャプションの位置に関わらず、特殊化した画像の説明文は画像の下に配置します。画像のキャプションの位置は、生成⇒PDF レイアウト設定⇒レイアウト詳細設定の【図キャプションの場所】で指定します。

- 1) キャプションが画像の下のときは、キャプションの下に説明文を出します。
- 2) キャプションが画像の上のときは、画像の下に説明文を出します。

注 意 EPUB では、画像のキャプションは常に画像の下に出ますが、説明文はキャプションの上に出てしまいます。

また、説明文は本文と区別ができないので、何らかのレイアウト調整をする場合は、適当な属性値を指定する必要があります。

##### 画像の説明文のレイアウト

- 1) テキストインデントはなし。
- 2) 図の開始端に揃えます。
- 3) 長い時は、図の幅で折り返します。
- 4) フォントサイズはキャプションと同じです。
- 5) フォントファミリーは serif 体。

## 8.12 表

行と列から構成する簡単な表をマークアップできます。

**注 意** セルを結合したり、斜線をいれたりした複雑な表は、①図版として別途作成して埋め込むか、②XHTMLの表として作成した上で埋め込みブロック機能（8.18 埋め込みブロック（p. 148））をつかって埋め込むことができます。

### 8.12.1 表のマークアップ

- 表ブロック全体の前に空行が必要です。
- 行頭の縦棒（' |' (U+007C)）が表の行と最初のセルの始まりになります。
- 行内のセルの区切りは縦棒で分離します。
- 改行があると表の最後のセルと行の終了となります。
- 縦棒に続く等号（'=」）があるとき見出しのセルを示します。（ない時はデータセル）。

#### 表ヘッダ行

ヘッダ行にしたい行の行頭に’|=::ah\_head’を指定します。

- EPUBではヘッダ行のレイアウトはテーマに依存します。
- PDF生成では、表の途中で改頁するとヘッダ行を繰り返し挿入します。見出しのセルがあってもヘッダ行の指定がないと繰り返しません。

#### 表の列幅指定

PDF生成では、’|’に続いて（他の属性が指定されているときは前の属性に続けて）’:width=<幅>’と指定することにより列幅を指定できます。<幅>は、数値に単位を付けて指定してください。

#### 関 連 10.5 単位（p. 195）

**注 意** 表の列幅は最初の行で指定してください。その指定は列全体に適用されます。

### 8.12.2 表のセル内のマークアップ

- セルの内部には、インライン要素のマークアップが使えます。但し、ルビのマークアップは使えません。インラインの数式（MathML等）を使うときは、数式が長くなってしまって途中で改行しないでください（セル内では改行できません）。
- セル内では、空行で段落を分けることができません。
- レイアウト上の改行は’\n’（強制改行）で指定します。

### 8.12.3 表の特殊化

表は、ブロック範囲指定に表属性（’:tbl’属性）をつけていないときと、表属性（’:tbl’属性）をつけて特殊化したときとでレイアウト上の扱いが異なります。

#### 関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化（p. 135）

### 8.12.4 特殊化していない表

特殊化していない表は、次の特徴があります。

- ・ キャプションがつかず、ID は付与されないので図表一覧に載りません。
- ・ 本文内のマークアップした位置に成り行きで配置されます。
- ・ 表の前後に空行はできません。
- ・ 横組では左寄せ、縦組では上寄せに配置されます。
- ・ 罫線が表示されません。

## 例

### (1) CAS 記法

```
|=: ah_head 先頭行見出し 1-a |= 先頭行見出し 2-a |= 先頭行見出し 3-a |
|= 先頭列見出し 1-b |セル 2-b |セル 3-b |
|= 先頭列見出し 1-c |セル 2-c |セル 3-c |
```

### (2) 表示例

先頭行見出し 1-a	先頭行見出し 2-a	先頭行見出し 3-a
先頭列見出し 1-b	セル 2-b	セル 3-b
先頭列見出し 1-c	セル 2-c	セル 3-c

## 8.12.5 特殊化した表

特殊化した表は、次の特徴を持ちます。

- ・ 特殊なブロックにはキャプションを付けられます。キャプションを付けると、ID が付与され、ID 参照が可能になります。
- ・ 表の前後（横書では上下、縦書では左右）に空行が入ります。
- ・ 表に罫線が表示されます。

## 関連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 135)

### 8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 168)

## PDF 生成における表のレイアウト

### (1) 表の組方向

特殊なブロックの表には次のように組み方向を指定できます。

表 4 PDF 生成における表のレイアウト指定

マークアップ	組み方 向指定	説明
[[[:tbl 表 ]]]	属性 なし	ブロックの進行方向に表の行が進む表。表の途中で改ページが起きる。表ヘッダ行の指定があるとき表の途中で改ページが起きたらヘッダ行を繰り返す。
[[[:tbl:lrb 表 ]]]	lrb	横組のときは、属性なしと同じ。縦組のときは、表を横組の表とする。表の行が、上から下に進む。表が頁に収まらないときは途中で改ページが起きる。表ヘッダ行の指定があるとき、表の途中で改ページが起きたらヘッダ行を繰り返す。
[[[:tbl:as-fig	as-fig	本文の組方向如何に関わらず、表は横組とし、図の設定を適用し

表 ]]]	て図と同じようにフロートさせる。表の途中では改ページしない。
----------	--------------------------------

## (2) 表の配置

PDF レイアウトのデフォルト値では、特殊化された表は、①横組の表では左右の中央に、②縦組の表では上下の中央に配置します。次の指定により横組の表では左右に、縦組の表では上下に配置ができます。

表5 PDF 生成における表の配置

マークアップ	説明
:tbl:start (または left)	横組では表全体を左寄せにします。縦組では表全体を上寄せにします。
:tbl:center	表全体の中央寄せします。
:tbl:end (または right)	横組では表全体を右寄せにします。縦組では表全体を下寄せにします。

## 8.12.6 CSV 形式の表の取り込み

インクルード機能を使うと、EXCEL などで作成した CSV ファイルを表として取り込めます。

- CSV ファイルを CAS-UB のインクルード・フォルダーにアップロードします。
- インクルード（マークアップ）でその CSV ファイルを指定します。

関連 8.19 インクルード (p. 149)

## 8.12.7 インクルードのオプション

CSV ファイルを表として取り込むときは、'table' オプションの指定が必須です。

CSV ファイルの 1 行目または 1 列目を見出しのセルにするために次のオプションが使えます。

- hh -- 1 行目を見出しとして扱う (|= とマークアップされる)
- vh -- 1 列目を見出しとして扱う (|= とマークアップされる)
- hh vh -- 1 列目 1 行目を見出しとして扱う。鍵形の見出し

### オプションの指定方法

```
<<include foo.csv table>> -- すべてデータ欄 (td) として扱う。
<<include foo.csv table hh>> -- 1 行目を見出し (th) として扱う。hh = horizontal headers
<<include foo.csv table vh>> -- 1 列目を見出しとして扱う。vh = vertical headers
<<include foo.csv table hh vh>> -- 1 行目 1 列目を見出しとして扱う。鍵形の見出し
```

### CSV ファイル形式

CSV ファイルの拡張子は小文字で csv とし、テキストファイルの符号化は UTF-8 としてください。また、'.csv' 以外にピリオドがあるとエラーになります。

## 例2

### (1) CAS 記法

```
<<include foo.csv table>>

[[[:tbl =CSV インクルード
<<include foo.csv table hh vh>>
]]]
```

foo.csv の内容

```
先頭行 1-a, 先頭行 2-a, 先頭行 3-a
先頭列 1-b, セル 2-b, セル 3-b
先頭列 1-c, セル 2-c, セル 3-c
```

### (2) 表示例

```
先頭行 1-a 先頭行 2-a 先頭行 3-a
先頭列 1-b セル 2-b セル 3-b
先頭列 1-c セル 2-c セル 3-c
```

表6 CSV インクルード

先頭行 1-a	先頭行 2-a	先頭行 3-a
先頭列 1-b	セル 2-b	セル 3-b
先頭列 1-c	セル 2-c	セル 3-c

## 8.13 コ ラ ム

特殊化したブロックでコラムを表現できます。

### 8.13.1 例

#### (1) CAS 記法

```
[[[:col =コラム
この文章はコラムの内部です。
]]]
```

#### (2) 表示例

コラム

この文章はコラムの内部です。

関 連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 135)

## 8.14 要約 (サマリー)

特殊化したブロックで要約のブロックを表現できます。

### 8.14.1 例

#### (1) CAS 記法

```
[[[:sum =要約
この文章は要約ブロックの内部です。
]]]
```

#### (2) 表示例

##### 要約

この文章は要約ブロックの内部です。

## 8.15 注記（ノート）

特殊化したブロックで注記を表現できます。

### 8.15.1 例

#### (1) CAS 記法

```
[[[:ann =注記
この文章は注記の内部です。
]]]
```

#### (2) 表示例

注記 この文章は注記の内部です。

## 8.16 ブロック引用

段落単位の引用をブロック引用と言います。ブロック引用のマークアップは次の通りです。

- 行の先頭の'>>'マークで開始し（前に空行が必要）、行の先頭の'<<'で終了します。
- ブロック引用をネストできます。
- ブロック引用の中で各種のマークアップを使えます。

**注 意** ブロック引用の中で他のブロック要素のマークアップをするとき、次のマークアップの前には空行を置いてください。

- ・箇条書き
- ・用語定義リスト
- ・表
- ・整形済みブロック
- ・埋め込みブロック
- ・インクルード

- ・水平線

## 例

### (1) CAS 記法

```
|>>
段落単位の引用（ブロック引用を開始します）。
|>>
この部分はブロック引用をネストしています。
* 箇条書き
** 箇条書き 2
* 箇条書き
//イタリック//
|<<
プロック引用の続きです。
|<<
```

### (2) 表示例

段落単位の引用（ブロック引用を開始します）。

この部分はブロック引用をネストしています。

- ・ 箇条書き
  - 箇条書き 2
- ・ 箇条書き

イタリック

プロック引用の続きです。

## 8.17 整形済みブロック

整形済みブロックではブロック範囲内のマークアップを解釈しないでテキストをそのまま表示します。整形済みブロックでは他の箇所ではエスケープ文字として使われるチルダについても解釈しません。但し、V4.0 から 8.17.1 整形済みブロックでマークアップを有効にする (p. 147) 機能を追加しました。

- ・ 行頭の三つの開き波括弧記号'{{{'だけの行がブロック開始マークアップです(前に空行が必要)。
- ・ 行頭の三つの閉じ波括弧記号'}}}'だけの行が終了マークアップとなります。
- ・ 開始から終了までの範囲が整形済みブロックとなります。
- ・ 整形済みブロックの中に整形済みブロックを含める(ネストさせる)ことはできません。

## 例

### (1) CAS 記法

```
{{{{
この部分は整形済みブロックなので//イタリックにならず
/**ボールドにもならない。**
```

```
}}}
```

この部分は整形済みブロックの外なので//イタリックになり  
/\*\*ボールドにもなる。\*\*

## (2) 表示例

```
この部分は整形済みブロックなので//イタリックにならぬ  
/**ボールドにもならない。**
```

この部分は整形済みブロックの外なのでイタリックになり ボールドにもなる。

### 8.17.1 整形済みブロックでマークアップを有効にする

整形済みブロック内でマークアップを使いたいときは、整形済みブロックの開始マークアップに :markup 属性を付けます。

整形済みブロック内で使用できるマークアップは、インライン要素のみです。

## 例

### (1) CAS記法

```
{{{:markup
— **入力 XML 文書 ( Hello.xml ) ** —
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<doc>
<head>
<title>//サンプル//</title>
</head>
<body>
<p>//Hello World!//</p>
<p>//はじめての//<b>//SimpleDoc//</b>//です。 //</p>
</body>
</doc>
}}}
```

### (2) 表示例

入力 XML 文書 ( Hello.xml )

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<doc>
<head>
<title>サンプル</title>
</head>
<body>
<p>Hello World!</p>
<p>はじめての<b>SimpleDoc</b>です。</p>
</body>
</doc>
```

この例では、1行目で、下線と強い強調のマークアップを指定し、以降で、xml タグ以外にイタリックのマークアップを指定しています。

**注 意** 整形済みブロックは、EPUB リーダーによっては行途中で折り返しされないものがありますので、長い文字列には適当な改行を入れておかないと、全体を判読できなかつたり、リーダーによっては表示が崩れることができます。

## 8.18 埋め込みブロック

CAS 記法で表現できない複雑な表を XHTML で作成して記事中に直接埋め込むことができます。

- 行頭の'<<embed' が埋め込みブロックの開始（前に空行が必要）。
- 次の行から埋め込みブロックです。埋め込みブロックの内容は XHTML の表のみ許可します。
- 行頭の'>>' が埋め込みブロックの終了。

**注 意** 埋め込んだ内容は、そのまま PDF 生成・EPUB 生成に使われます。EPUB で利用が許されていないタグ付テキストを埋め込むと、EPUB チェックでエラーになりますので注意してください。

### 例

#### (1) CAS 記法

```
:center **XHTML で作成した表の埋め込み**  
  
<<embed  
<table border="1">  
<tr><th colspan="2">ふたつのセルが結合されている</th></tr>  
<tr><td>あああ</td><td>aaaaa</td></tr>  
<tr><td>いいいい</td><td>bbbbbb</td></tr>  
<tr><td>ううううう</td><td>cccccc</td></tr>  
<tr><td>ええええええ</td><td>dddddd</td></tr>  
</table>  
>>
```

#### (2) 表示例

XHTML で作成した表の埋め込み

ふたつのセルが結合されている	
あああ	aaaaa
いいいい	bbbbbb
ううううう	cccccc
ええええええ	dddddd

#### (3) XHTML

```

<div class="__embededsection__">
<table border="1">
<tr><td colspan="2">ふたつのセルが結合されている</td></tr>
<tr><td>あああ</td><td>aaaaa</td></tr>
<tr><td>いいいいい</td><td>bbbbbb</td></tr>
<tr><td>ううううう</td><td>cccccc</td></tr>
<tr><td>えええええ</td><td>dddddd</td></tr>
</table>
</div>

```

埋め込みブロックには'\_\_embededsection\_\_'という属性が付くので、CSSで埋め込みブロック内の表をカスタマイズしたいときは、'.\_\_embededsection\_\_'を使ってCSSプロパティを指定してください。

**注 意** '‘<<embed’ . . . ’>’ 中に埋め込める表はひとつだけです。複数の表を埋め込みたいときは、別の埋め込みブロックに分けてください。

**関 連** 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）(p. 205)

## 8.19 インクルード

インクルードは外部のテキストファイルを取り込む機能です。たとえば、プログラムのソースファイルなどをそのまま出版物の中に取り込むときに利用すると便利です。

- インクルードはブロック要素なので、マークアップの前後に空行が必要です。
- インクルードテキスト内のマークアップも評価されます。
- インクルードにはオプションをつけてインクルードしたファイルの解釈を変更できます。
  - 'pre' オプションを指定すると、インクルードテキスト内容は「8.17 整形済みブロック (p. 146)」として扱われ、CAS記法の評価はされません。
  - インクルード機能を利用してCSV（カンマ区切り）形式の表を取り込むことができます。表として取り込む場合は'table'オプションが必要です。詳細は次の項目を参照してください。

**関 連** 8.12.6 CSV形式の表の取り込み (p. 143) (表)

### 8.19.1 インクルード対象ファイルの形式

インクルードする対象ファイルの形式は次のようにになります。

- ファイル形式はテキストファイルのみです。
- 符号化方式はUTF-8のみを扱うことができます。

### 8.19.2 インクルード対象ファイルの管理

- インクルード対象ファイルは、出版物毎にインクルード画面でアップロードします。

- ・アップロードしたファイルはCAS-UBのインクルード・フォルダーに保存されます。
- ・インクルード対画面で、インクルードテキストの削除、内容の確認などもできます。
- ・記事の入力中にもアップロードできます。



例

(1) CAS 記法

include-test.txt の内容

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

\* インクルード対象ファイル形式は\*\*テキストファイル\*\*のみです。

pre オプションのないインクルード

<<include include-test.txt >>

pre オプションのあるインクルード

<<include include-test.txt pre>>

include-test.txt の内容

---ここから>

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

\* インクルード対象ファイル形式は\*\*テキストファイル\*\*のみです。

〈ここまで----

(2) 表示例

pre オプションのないインクルード

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

- ・ インクルード対象ファイル形式はテキストファイルのみです。

pre オプションのあるインクルード

本文の中に取り込まれるためのテキストです。

\* インクルード対象ファイル形式は\*\*テキストファイル\*\*のみです。

関 連 8.17 整形済みブロック (p. 146)

## 8.20 ブロック数式

ブロック数式は、行頭からはじまる'\$\$'だけの行で前後を囲んで表します（ブロックの前に空行が必要）。

- 数式の表現には、MathML、AMSLaTeXを使えます。
- 数式にIDをつけるには、開始の'\$\$'の直後に':#id@m'のようにします。'id'はID識別用の固有文字列です。
- ブロック数式にIDをついた場合、数式番号を自動付加できます。付加するかどうかは、EPUB・PDFなどの生成設定で指定します。

数式表現の詳細仕様は15.8 数式の記述（p. 244）を参照してください。

**注 意** 数式種別をもつIDはブロック範囲指定にも付与できます。するとそのブロックに数式番号をつけることができます。

### 例

#### (1) CAS記法

```
$$
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block">
<mstyle scriptminsize="0">
<mrow>
<munder>
<mo>&Product;</mo>
<mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
</munder>
<mspace width="-0.3em"/>
<mrow>
<mfenced open="(" close=")"><mrow>
<munder>
<mo>&Sigma;</mo>
<mrow><mi>j</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
</munder>
<mspace width="-0.3em"/>
<mrow>
<msub><mi>b</mi><mrow><mi>i</mi><mi>j</mi></mrow></msub>
<msub><moer accent="true"><mi>x</mi><mo></mo></moer><mi>i</mi></msub>
</mrow>
</mrow></mfenced>
<mrow>
<mo>=</mo>
<mrow>
<mfenced open="(" close=")"><mrow>
<munder>
<mo>&prod;</mo>
<mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
</munder>
```

```

</munder>
<mspace width="-0.3em"/>
<mrow>
  <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo></mo></mover><mi>i</mi></msub>
</mrow>
</mrow></mfenced>
</mrow>
<mspace width="0.15em"/>
<mtext>per</mtext>
<mspace width="0.25em"/>
<mi>B</mi>
</mrow>
</mstyle></math>
$$

```

(2) 表示例

$$\prod_{i \in n} \left( \sum_{j \in n} b_{ij} x_i \right) = \left( \prod_{i \in n} x_i \right) \text{per } B$$

### 例 2

(1) CAS 記法 (TeX)

```

$$
\$prod_{i\$in\$mathbf{n}}\$biggl(\$sum_{j\$in\$mathbf{n}}b_{ij}\$hat{y}_j\$biggr)
=\$biggl(\$prod_{i\$in\$mathbf{n}}\$hat{y}_i\$biggr)\$det\$mathbf{B}.
$$

```

(2) 表示例 (TeX)

$$\prod_{i \in \mathbf{n}} \left( \sum_{j \in \mathbf{n}} b_{ij} \hat{y}_j \right) = \left( \prod_{i \in \mathbf{n}} \hat{y}_i \right) \det \mathbf{B}.$$

### 例 3

ブロック数式への番号付け

ブロック数式には番号をつけることができます。番号は開始の \$\$ の直後に'#:id@m' の形式でつけます。# は ID、@m は ID の種類が数式であることを意味します。

(1) CAS 記法

```

$$: #m6@m
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML" display="block">
<mstyle scriptminsize="0">
<mrow>
  <mo>&Product;</mo>
  <mrow><mi>i</mi><mo>&#x2208;</mo><mi>n</mi></mrow>
</mrow>
<mspace width="-0.3em"/>

```

```

<mrow>
  <mfenced open="(" close=")"><mrow>
    <munder>
      <mo>Σ</mo>
      <mrow><mi>j</mi><mo>×</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mfenced>
  <mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <msub><mi>b</mi><mrow><mi>i</mi><mi>j</mi></mrow></msub>
    <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo>×</mo></mover><mi>i</mi></msub>
  </mrow>
</mrow></mfenced>
</mrow>
<mo>=</mo>
<mrow>
  <mfenced open="(" close=")"><mrow>
    <munder>
      <mo>prod;</mo>
      <mrow><mi>i</mi><mo>×</mo><mi>n</mi></mrow>
    </munder>
  </mfenced>
  <mspace width="-0.3em"/>
  <mrow>
    <msub><mover accent="true"><mi>x</mi><mo>×</mo></mover><mi>i</mi></msub>
  </mrow>
</mrow>
<mspace width="0.15em"/>
<mtext>per</mtext>
<mspace width="0.25em"/>
<mi>B</mi>
</mrow>
</mstyle></math>
$$

```

## (2) 表示例

$$\prod_{i \in n} \left( \sum_{j \in n} b_{ij} x_i \right) = \left( \prod_{i \in n} x_i \right) \text{per } B \quad (1)$$

上の数式番号を参照するときは数式 [[#u.201306301039.m6.m|(1)]] 参照のようにマークアップします。

## 8.21 水平線と強制改ページ

区切りのための水平線と強制改ページを入力できます。

### 8.21.1 水 平 線

- 行頭から連続4つのハイフン('–')記号を水平線とします（前に空行が必要）。
- ハイフンの前後には空白を置くことができますが、空白以外の文字があってはいけませ

ん。

- 二つの水平線を続けて引くには、間に空行が必要です。

#### 例

##### (1) CAS 記法

```
----  
----
```

##### (2) 表示例

---

---

#### 8.21.2 強制改ページ

連続4つの'+'記号で強制改ページとなります。

- 強制改ページのマークアップには、前後に空行が必要です。
- 強制改ページは、プレビューでは改ページされません。
- 強制改ページは、EPUBの場合、改ページするかどうかはリーダーに依存します。

注 意 たとえば、記事の末尾に強制改ページを入力したmobi形式のファイル（パーソナルドキュメント）をKindle Paperwhiteで開くと、強制改ページのある先へ進むことができずリセットされます（Kindle 5.3.6で確認）。Readiumでは強制改ページを指定しても改ページされません（Windows版0.9.1で確認）。

#### 例2

##### (1) CAS 記法

```
++++
```

##### (2) 表示例

## 8.22 強調

段落中のひと続きの文字を強調する機能には、①強い強調（ボールド）、②強調（イタリック）、③注意を促す（アンダーライン）の三つあります。複数の行に渡る文字列を強調できます。

### 8.22.1 強い強調（ボールド）

強調したい文字列の前後を、アスタリスクふたつ ‘\*\*’ で挟むとボールドになります。

#### 例

##### (1) CAS記法

```
**ボールド**
```

##### (2) 表示例

ボールド

### 8.22.2 強調（イタリック）

強調（イタリック）は、必ずイタリックになるわけではなく、ビューアにより表示結果が異なることがあります。

#### 例2

##### (1) CAS記法

```
//イタリック//
```

##### (2) 表示例

イタリック

イタリックとボールドを両方指定したいときは、イタリックを先に指定してください。ボールドを先に指定するとイタリックが無視され//がそのまま出力されます。

#### 例3

##### (1) CAS記法

```
/**イタリックと強調**//
```

##### (2) 表示例

イタリックと強調

### 8.22.3 注意を促す（アンダーライン）

注意を促す（アンダーライン）は、必ずアンダーラインになるわけではなく、ビューアにより表示結果が異なることがあります。

#### 例4

##### (1) CAS 記法

```
文章の一部にアンダーラインをつけることができます。
```

##### (2) 表示例

文章の一部にアンダーラインをつけることができます。

### 8.23 圏 点

圏点は、強調 (p. 155) または 8.30 範囲指定 (p. 161) のクラス属性としてマークアップします。

圏点のクラス属性値は、emark、emark2、emark3 の 3 種類を使えます。PDF では「レイアウト詳細設定」の「圏点」で、emark、emark2、emark3 に、点、円、二重円、三角形、ゴマ点から割り当てできます。

注 意 • EPUB3 では、圏点の表示はリーダーに依存します。

- 圏点を強調 (p. 155) でマークアップしても通常の EPUB3 リーダーでは強調になりません。

圏点がサポートされていない EPUB リーダーでは圏点の代替として強調になります。

- アンダーラインと圏点指定の組み合わせはできません。

関 連 PDF の「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/> で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

#### 例

##### (1) CAS 記法

```
**:emark 圏点にゴマ点を指定**  
//:emark2 圏点に点を指定//  
[[[:emark3 圏点に円を指定]]]
```

##### (2) 表示例

● ● ● ● ● ●  
` ` ` ` ` `  
○ ○ ○ ○ ○ ○  
圏点にゴマ点を指定  
圏点に点を指定  
圏点に円を指定

### 8.24 ル ビ

ルビ（ふりがな）のマークアップは、親文字とルビ文字の対を”|”で区切り、その全体を 3 重丸括弧で囲います。

## 例

## (1) CAS記法

```
((((魑魅魍魎|ちみもうりょう))))
```

## (2) 表示例

ちみもうりょう  
魑魅魍魎

## 8.25 縦 中 横

英数字などのASCII文字は半角字形で表示されます。半角字形の文字は縦書の文章では右に90度回転して表示されます。このような文字列に縦中横を指定して正立させることができます。

- 注 意
- ・縦中横に指定する文字数が多いと、左右の行と文字が重なることがあります。
  - ・EPUBリーダーによっては縦中横を表示できません。
  - ・EPUBリーダーによっては縦中横が3文字以上になると縦中横を解除して表示します。

## 例

## (1) CAS記法

```
[[[:tcy 30]]] 年前に開店した中華食堂。
```

## (2) 表示例（横書テーマでは無効）

30年前に開店した中華食堂。



図8 縦書のテーマで表示した例

## 8.26 上付き・下付き

### 8.26.1 上 付 き

キャレットふたつ '^^' に挟まれた文字列が上付きになります。

例

(1) CAS 記法

$\text{m}^{^2}{^{\wedge\wedge}}$  (平方メートル)

(2) 表示例

$\text{m}^2$  (平方メートル)

### 8.26.2 下 付 き

コンマふたつ ',,' に挟まれた文字列が下付きになります。

例 2

(1) CAS 記法

$\text{H}_{,,2},,0$

(2) 表示例

$\text{H}_20$

### 8.26.3 上付き・下付き

例 3

(1) CAS 記法

$\sum^{^5}{^{\wedge\wedge}},,n=1,,$

(2) 表示例

$\sum_{n=1}^5$

## 8.27 強制改行

段落の中で強制的に改行するには、改行したい位置に '¥¥' (半角記号) を入力します。なお、¥記号を使えない場合は、-/で代替できます。

例

(1) CAS 記法

文中に¥¥があるとその位置で改行します。

この行の行末で改行したい。¥¥  
 次の行は行頭から始めたい。  
 ¥記号を使えない場合は-/-でも強制改行できます。

## (2) 表示例

文中に

があるとその位置で改行します。この行の行末で改行したい。  
 次の行は行頭から始めたい。¥記号を使えない場合は  
 でも強制改行できます。

**注 意** '¥' (U+005C) は、バックスラッシュですが、Windows の日本語環境では円記号で表示されます。  
 Mac では、Option + ¥ キーで入力します。

## 8.28 注

注は文章に補足的な説明やただし書きをつけるためのものです。注のマークアップは文中に注の内容を'((と))'で囲みます。この注はHTMLのプレビューでは()内に表示されます。  
 注のマークアップはPDFとEPUBを生成する際に、1冊分集められて巻末注釈になります。

## 8.28.1 脚注

注の開始マークアップの直後に':footnote'属性値を指定するとPDF出力時に脚注として扱います。脚注はPDFでは各ページ、段落、縦組の本では奇数ページに配置できます。配置方法はPDFレイアウト設定のレイアウト詳細設定で指定します。

**注 意** EPUBでは':footnote'は使えません。':footnote'クラス属性を付けた注は文中に()で囲って表示します。

## 例

## (1) CAS記法

例1. 文章の中に注をつける方法((この文字列は注の文字列です))です。

例2. この文章の末尾には注が付いています。((この注は書籍(紙)では章末にまとめる。))

例3. この文章の末尾には注が付いています(:footnote この注はPDF出力のとき脚注となります。))。

## (2) 表示例

## EPUBの注と脚注

- 例1. 文章の中に注をつける方法<sup>注1)</sup>です。
- 例2. この文章の末尾には注が付いています。<sup>注2)</sup>
- 例3. この文章の末尾には注が付いています<sup>4)</sup>。

4) この注はPDF出力のとき脚注となります。

## 注と脚注の例

- 例1. 文章の中に注をつける方法<sup>注1)</sup>です。
- 例2. この文章の末尾には注が付いています。<sup>注2)</sup>
- 例3. この文章の末尾には注が付いています<sup>1)</sup>。

---

1) この注は PDF 出力のとき脚注となります。

1

## PDF の注釈一覧

### 注 釈 一 覧

#### 注と脚注の例

- 1) この文字列は注の文字列です (p. 1)
- 2) この注は書籍（紙）では章末にまとめる。(p. 1)

3

## 8.29 イメージと図版（インライン）

画像を記事の中に表示するには、'{{画像ファイル名|代替テキスト}}' として記述します。画像を文章の行中に置くとインライン配置となります。

**注 意** PDF では大きなインライン画像はそのままの大きさで配置されますので版面からはみ出します。EPUB ではリーダーに依存しますが、多くの場合画面幅に縮小されます。

### 8.29.1 画像のサイズ指定

画像には属性でサイズを指定できます。幅の属性名は'width'、高さは'height'です。  
'{{'の直後に':属性名=値'の形式で指定してください。属性値は数値に単位を付けて指定します。属性値と画像のファイル名の間には半角空白が必要です。

#### 例

##### (1) CAS記法

このようにマークアップしたイメージは {{:width=2em CAS-Mark.jpg|CASサービスマーク}} インラインとして扱います。

##### (2) 表示例

このようにマークアップしたイメージは  インラインとして扱います。

関連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 181)

10.5 単位 (p. 195)

**注意** 画像のサイズ指定はPDF生成でのみ有効です。EPUBはサイズ指定をCSSのスタイルに変換できます(EPUBの生成設定(p. 62)を参照)。但し、サイズ指定が正しく適用されるかどうかはリーダー依存です。

## 8.30 範囲指定

範囲指定(インライン)は、ブロック範囲指定と同じ記号'[[['(開き大括弧)と']]']'を使います。範囲指定のマークアップをしたものの中で、ブロック範囲指定として認識されないものはインラインの範囲指定となります。

関連 8.9 ブロック範囲指定とブロックの特殊化 (p. 135)

#### 例

##### (1) CAS記法

文章の一部に対して、[[[:index:key=はんいをしていする 範囲を指定する]]]のがインライン範囲指定である。

##### (2) 表示例

文章の一部に対して、範囲を指定するのがインライン範囲指定である。

注記 ※ この例では、範囲指定を使って索引のマークアップ(p. 162)をしています。

**注意** インライン範囲指定の内部に空行をおくことはできません。空行があるとその直前でインライン範囲指定は終了となります。

## 8.31 索引の指定

索引は、強い強調（ボールド）、強調（イタリック）または範囲指定を使って指定します。索引見出し語を要素の内容とし、そのkey属性の値として読みを指定します。単純な索引だけではなく、入れ子の索引を作ることができます。

### 8.31.1 単純な索引

例

(1) CAS 記法

```
**:index:key=でんしょせき 電子書籍**  
//:index:key=でんしょせき 電子書籍//  
[[[:index:key=でんしょせき 電子書籍]]]
```

(2) 表示例

電子書籍  
電子書籍  
電子書籍

### 8.31.2 索引見出し語を表示しない

索引見出し語が本文の表示・印刷に現れないようにするときは':nodisp'を使います。

例2

(1) CAS 記法

```
[[[:nodisp:index:key=でんしょせき 電子書籍]]] 電子的に配布する書籍
```

(2) 表示例

電子的に配布する書籍

注 意 nodispにより索引語を不可視にすると、EPUBリーダーによっては索引から索引語の位置に正しくジャンプしません。iBooks3.0ではこの問題のため、ファイルの先頭位置にジャンプします。

### 8.31.3 入れ子の索引

次のような入れ子の索引を作ることができます。

```
【て】
```

```
電子書籍 .... 25  
-- 作り方 .. 38  
-- 歴史 .... 26
```

入れ子の索引は親の索引語と子の索引語にmindexを指定した上で、親の索引語には

prim、子の索引にはsecondを指定します。

### 例3

#### (1) CAS記法

```
[[[:mindex [[[:prim:key=でんしょせき 電子書籍]]] の [[[:second:key=つくりかた 作り方]]]]  
を述べる。]]]
```

#### (2) 表示例

電子書籍 133  
作り方 134

図9 親子索引

### 8.31.4 入れ子の索引をふたつ作る

ふたつの索引項目「電子書籍」と「作り方」を、「電子書籍/作り方」と「作り方/電子書籍」の両方の組み合わせで使いたいときは、次のようにマークアップします。

### 例4

#### (1) CAS記法

```
[[[:index **:both:key=でんしょせき 電子書籍**の**:both:key=つくりかた 作り方**を述べ  
る。]]]
```

#### (2) 表示例

作り方  
電子書籍 134

電子書籍  
作り方 134

図10 兄弟の索引

### 8.32 タイプライター

段落の文章の中で三つの開き括弧('{{{'と三つの閉じ括弧('}}}')で囲った範囲の中では、エスケープ文字であるチルダを含めてすべてのマークアップの解釈を行いません。HTMLのインラインの整形済み(タイプライター)の扱いとなります。

### 例

#### (1) CAS記法

```
この括弧 {{{{{CAS-Mark.png |図は挿入されない}}}}}  
の中ではマークアップは解釈されない。
```

#### (2) 表示例

この括弧 ({{CAS-Mark.png |図は挿入されない}}) の中ではマークアップは解釈されない。

関連 8.17 整形済みブロック (p. 146)

## 8.33 URL と記事へのリンク

### 8.33.1 外部リンク

外部の Web ページなどへのリンクは、'[[URL|アンカーテキスト]]' の形式で記述します。

- ・アンカーテキストを省略して'[[URL]]'のようにマークアップすることもできます。
- ・アンカーテキストを省略した場合、URL をアンカーテキストとして設定します。

例

(1) CAS 記法

```
* [[http://www.abc.co.jp/ |ABC 社の Web ページ]]
* ABC 社のオンラインショップ : [[https://www.abc.co.jp/shop/html/]] (アンカーテキストを省略)
* ABC の Web ページ (FTP サイト) : [[ftp://www.abc.co.jp/]]
```

(2) 表示例

- ・ABC 社の Web ページ
- ・ABC 社のオンラインショップ : <https://www.abc.co.jp/shop/html/> (アンカーテキストを省略)
- ・ABC の Web ページ (FTP サイト) : <ftp://www.abc.co.jp/>

注 意 CAS-UB では、URL を検出してアンカーを自動生成する処理は行いませんので、マークアップされていない URL はリンクされません。

### 8.33.2 URL の表示オプション

EPUB や PDF を一般的なビューアーで表示する場合は、アンカーをクリックするとリンク先にジャンプしますので URL を表示させる必要がありません。

しかし、PDF を印刷した場合、URL が印刷されていないとリンク先を参照できません。このため CAS-UB では、URL の前に感嘆符 '!' を付けると PDF 生成時に URL を出力します。'!' と URL の間には半角空白が必要です。

また、ブラウザ用にリンク先を別ウインドウで開くオプション'>'もあります。

例 2

(1) CAS 記法

```
* [[! http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
* [[> http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
* [[!> http://www.antenna.co.jp/ | アンテナハウストップ]]
```

## (2) 表示例

EPUB

- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)
- アンテナハウストップ
- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)

PDF

## URL と記事へのリンク

- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)
- アンテナハウストップ
- アンテナハウストップ (<http://www.antenna.co.jp/>)

2

## 8.33.3 他の記事へのリンク

CAS-UB の出版物内の特定箇所を参照するには ID 参照が基本です。詳しくは 8.35 記事内の特定位置を参照する（ID 参照）(p. 168) を参照してください。

例外として、出版物中の他の記事へのリンク機能も使えます。

リンク先は記事ファイル名から拡張子（'ent'）を除いて指定してください。

記事のファイル名は、記事一覧などで記事タイトルの右に表示しています。たとえば、この記事のファイル名は '201108021925a.ent' ですが、リンク先の指定では '.ent' を付けないで指定します。

アンカーテキストが指定されていないときは、EPUB/PDF 生成時にアンカーテキストとして記事タイトルが挿入されます。但し、編集中の「内容表示」（プレビュー）では記事タイトルを挿入する処理は行いません。

## 例 3

## (1) CAS 記法

- \* [[201307271019]] を参照
- \* [[201307271019|アンカーテキストあり]] を参照
- \* [[##e. 201307271019. 記事の種類一覧]] を参照
- \* [[##e. 201307271019. 記事の種類一覧|アンカーテキストあり]] を参照

**注 意** 上ふたつの例は他の記事へのリンク、下ふたつの例は ID 参照による他の記事への

リンクです。

## (2) 表示例

- 4.1 記事の種類一覧 (p. 75) を参照
- アンカーテキストあり (p. 75) を参照
- 4.1 記事の種類一覧 (p. 75) を参照
- アンカーテキストあり (p. 75) を参照

## 8.34 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける

CAS-UB の編集機能は ID 参照の設定を支援しています。本節と次の節で、CAS-UB の ID 参照で支援できるマークアップについて説明します。この他に、CAS 記法の属性付与を使えば EPUB などの文法として有効な ID 属性と ID 値をマークアップできます。この方法で入力した ID は CAS-UB の ID 参照機能の対象にはなりません。

関 連 9.1.2 ID 属性 (p. 176)

### 8.34.1 ID の付与と参照の関係

ある記事のある位置（参照元またはアンカー）から、その記事または他の記事内の特定項目・位置（参照先）を参照するには次のようにします。

- 1) 参照先に目印 (ID) をつける。
- 2) 参照元で ID 参照を設定する。

この節では ID のつけ方について説明します。次の節で ID 参照の方法を説明します。

### 8.34.2 自動付与する ID とユーザー付与 ID

CAS-UB の編集機能で ID 参照・参考文献 ID 参照の対象となる ID には①CAS-UB のシステムが自動付与する ID と、②ユーザーが編集時にマークアップするユーザー付与 ID の 2 種類があります。

### 8.34.3 自動付与する ID

タイトル、見出し、特殊なブロック（図・表など 5 種類）のキャプションには、自動的に ID を付与します。ID の値は文字列から自動的に生成したものとなります。

関 連 8.10 キャプション (p. 136)

表 7 ID の種類

付与対象	ID の種類 (ID 一覧 の表示)	説明
タイトル	記事	記事のタイトル・テキストを元に ID を作ります。
見出し	項目	本文中の'='で開始する見出し段落のテキストから ID を作ります。
特殊なブ	図	[[[:fig から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから

ロックの キャプシ ョン		IDを作ります。
表	[[[:tbl から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。	
要約	[[[:sum から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。	
コラム	[[[:col から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。	
注記	[[[:ann から始まる行の'='で開始するキャプションのテキストから IDを作ります。	

次の ID は編集の ID 参照の一覧には表示されません。CAS-UB で注釈一覧や索引を作成するときのリンク作成用です。

- 注の内容に ID を付与します。後注（注釈一覧）を作成するとき、後注から注へのリンクを自動生成します。
- 索引語に ID を付与します。索引を作成するとき、索引語から本文へのリンクを自動生成します。

## 例

### (1) CAS 記法

```
=自動付与する ID
```

### (2) 表示例

- ID は参照時にジャンプする先の位置を表すものなので、内容表示、EPUB/PDF などで表示できません。

### (3) XHTML

- 内容表示で XHTML を確認すると次のようになっています。`'id='` の後ろの引用符`”`で囲まれた部分が自動生成した ID です。

```
<div id="h.201108021925a.自動付与する ID"><h1>自動付与する ID</h1>...</div>
```

## 8.34.4 ユーザー付与 ID

ユーザー付与 ID は、要素のマークアップ直後の`'#:'`に続く固有の文字列であらわします。固有の文字列はユーザー ID の識別用です。その後の`'@'`の後にオプションで用途を指定できます。用途を指定する文字として、`'r'`、`'m'`、`'p'`の3種類を使うことができます。

- CAS-UB は、ユーザーが指定した文字列を元にして、EPUB・PDF で使える ID を作り出します。

表8 IDの種類

付与対象	IDの種類（ID一覧の表示）	入力の例
任意場所	用途指定なし	:#id-value
	参考文献	:#id-value@r
	数式（任意のブロック）	[[[:#id-value@m
	ブロック数式	\$\$:#id-value@m
	任意の場所	:#id-value@p

注 意 任意のブロックに数式のIDを付けると、ブロックに数式番号を振ることができます。

## 例2

### (1) CAS記法

```
*:#mkm1@r 三上 喜貴『文字符号の歴史 アジア編』共立出版 2002
```

### (2) 表示例

- IDは、内容表示、EPUB/PDFなどで画面に表示されません。

### (3) XHTML

- 内容表示で XHTML を確認すると次のようになっています。' id=' の後ろのダブル引用符 (‘”’) で囲まれた部分が、id の値となります。CAS-UB は、ユーザーが設定した文字列を加工して id の値を作成しています。

```
<li id="u.201112292212.mkm1.r">三上 喜貴『文字符号の歴史 アジア編』共立出版 2002</li>
```

## 8.34.5 ID の重複

ひとつの記事の中に同じ ID が出てくると生成時にエラーになります。異なる記事では同じ ID を使うことができます。

関 連 3.26.3 生成時のエラーについて (p. 61)

## 8.35 記事内の特定位置を参照する（ID 参照）

ID 参照は出版物内で ID をつけた箇所へのリンクを作成する機能です。ID の付与は前節を参照してください。

関 連 記事内の特定位置に目印（ID）を付ける (p. 166)

ID 参照は' [[参照先 ID|アンカーテキスト]]' または' [[参照先 ID]]' と入力します。アンカーテキストを省略した場合、参照先の見出しありキャプションがアンカーテキストとして出力されます。

- '##' で始まる参照は CAS-UB の ID 参照です。生成時にプログラムが介入して、参照の変

換処理（章・節番号を付加、参照先テキストに置換など）を行ないます。

- 指定された ID が出版物内に存在しない場合、内容表示でリンクをクリックすると「Link Error: Entry Deleted」というメッセージを表示します。

## 例

### (1) CAS 記法

```
* (記事) [[#e.201108021925a.記事内の特定位置に目印_EF_BC_88ID_EF_BC_89をつける]]を参照
* (記事) [[#e.201108021925a.記事内の特定位置に目印_EF_BC_88ID_EF_BC_89をつける|記事内の特定位置に目印(ID)をつける]]を参照
* (見出し) [[#h.201108021925a.自動付与するID]]を参照
```

### (2) 表示例

- (記事) 8.34 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける (p. 166) を参照
- (記事) 記事内の特定位置に目印 (ID) をつける (p. 166) を参照
- (見出し) 8.34.3 自動付与する ID (p. 166) を参照

**注 意** 同一記事内の ID は' #'で始まる参照でも設定できます。

**関 連** マークアップ支援ボタン-ID 参照 (p. 117)

## 8.36 アンカーテキストのマークアップ

外部参照や ID 参照のアンカーテキストでは、次のマークアップが有効です。

表9 アンカー内で有効なマークアップ

意味	マークアップ
強い強調	**...**
強調 (イタリック)	//...//
注意をうながす (アンダーライン)	_____
ルビ	(((... ...)))
上付き	^^...^~
下付き	,,...,,
注釈	((...))
画像	{... ..}
オンライン範囲指定	[[[...]]]
タイプライター (オンライン Pre)	{{...}}
オンライン数式	\$\$...\$\$

ブロック要素のマークアップに関しては無視します。

**関 連** 8.33 URL と記事へのリンク (p. 164)、8.35 記事内の特定位置を参照する (ID 参照) (p. 168)、マークアップ支援ボタン - ID 参照 (p. 117)

## 8.37 インライン数式

文章中に埋め込んだ数式は、インライン数式と言います。インライン数式は、段落の中の任意の位置に'\$\$'と'\$\$'で囲って記述します。

- 数式の記述には、MathML、AMSLaTeXを使えます。
  - インライン数式には、数式番号をつけることはできません。
- 数式の表現についての詳細仕様は次を参照してください。

関 連 15.8 数式の記述 (p. 244)

### 例

#### (1) CAS 記法

```
数式$$<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML"><mstyle scriptminsize="0">
<mrow>
<mi>B</mi><mo>=</mo>
<mfenced open="(" close=")">
<msub><mi>b</mi></msub><mrow><mi>i</mi><mi>j</mi></mrow></msub>
</mfenced>
</mrow>
</mstyle></math>$$を $$<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML"><mstyle scriptminsize="0">
<mrow>
<mi>n</mi><mo>\times</mo><mi>n</mi>
</mrow>
</mstyle></math>$$行列とし、 $$<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML"><mstyle scriptminsize="0">
<mrow>
<mi>n</mi><mo>=</mo>
<mfenced open="{" close="}">
<mn>1</mn>
<mo>\#x22EF;</mo>
<mi>n</mi>
</mfenced>
</mrow>
</mstyle></math>$$とする。すると次の結果が…
```

#### (2) 表示例

数式  $B = (b_{ij})$  を  $n \times n$  行列とし、 $n = \{1, \dots, n\}$  とする。すると次の結果が…

## 8.38 コメントアウト

記事中の一部を無効にしたり、コメントを残したいときは、'<<ignore' と '>>' で囲った範囲の中に記入することでコメントアウトできます。

'<<ignore' と '>>' で囲った範囲は、内容表示にも生成結果にも一切出力されません。記事編集画面でのみ確認できます。

## 例

### (1) CAS 記法

```
<<ignore
整形済みブロックでマークアップを有効にする機能は CAS V4.0 (2016/10) で追加された。
>>

:left CAS記法

:left {{{:markup
整形済みブロック内で**CAS記法**を有効する
}}}

:left 表示例

{{{:markup
整形済みブロック内で**CAS記法**を有効する
}}}

<<ignore
:left で字下げを無効にしている
>>
```

### (2) 表示例

CAS 記法  
{{{:markup  
整形済みブロック内で\*\*CAS記法\*\*を有効する  
}}}  
表示例

整形済みブロック内で CAS 記法を有効する

## 8.39 ページ分割マーク

ページ分割マークは、EPUB と紙（PDF）の本が両方あるとき、EPUB に紙の本のページ番号を設定するために使うマークアップです。EPUB3 のナビゲーションファイル (nav.xhtml) にページリストを作成し、ナビゲーションを展開したとき、紙の本のページ番号も一緒に表示できるようになります。V5.0 アクセシビリティ対応

読者が EPUB を閲覧中に、必要に応じて紙のページ番号に相当する位置にジャンプさせます。主にデジタル教科書としての利用が想定されています。

ページ分割マークは本文のページ区切りの位置に、内容のない範囲指定を使って次のように記述します。

```
[[[:#n@b ]]]
```

nに原本（紙・PDF）のページ番号を自然数（1、2、3、…）で設定します。bはページマークであることを意味します。bの後に半角の空白を付けます。

#### 関連 8.34.4 ユーザー付与 ID (p. 167)

##### 例

ページリストは章見出し（記事のタイトル）、本文の見出し、本文の途中、箇条書きの項目の間、など様々な場所に設定する必要があります。次に設定例を示します。

タイトル: [[[:#9@b ]]]XSL-FOによる組版の概要 記事の種類: 本文: 章

図11 記事のタイトルに設定する例

```
11  
12 ==|単純ページマスターのプロパティ|[[[:#24@b ]]]単純ページマスターのプロパティ  
13
```

図12 本文の見出しに設定する例

```
要である。  
56  
57 [[[:#12@b  
58 ]]]  
59  
60 =XSL-FOによる組版プロセス
```

図13 段落ブロックの間（行間）に設定する例

```
76 XSL-FOによる組版の対象となるXMLドキュメントのタグセットはどのようなものでも構わない。  
文書型（DTDやスキーマ）を伴っていても良いし、伴わない整形式のXMLドキュ[[[:#13@b ]]]メントでも良い。文書型はユーザーが独自に設定したものでも標準のものでも良い。但し、XSLTスタイルシートを作成するには、XMLの文書型について知っていることが前提である。次は簡単なXMLドキュメントの一部である。
```

図14 段落の文章の中に設定する例

```
30 * ページの上下左右のマージンを、本文のページと、そうでないページで切り替える。  
[[[:#10@b ]]]  
31 * 目次ページを作成する。目次の項目にはページ番号を添える。
```

図15 箇条書きの項目の間に設定する例

##### 表示例

ページリストはEPUBやPDFなどの画面には表示されません。

##### 出力例

ページリストはEPUB3を生成したとき、navファイルに次のように設定されます。

```
<nav epub:type="page-list">  
<ol>  
<li><a href="i01-0002.xhtml#u_2ei01-0002_2ei_2eb">i</a></li>  
<li><a href="i01-0003.xhtml#u_2ei01-0003_2ei_2eb">1</a></li>
```

```
<li><a href="i01-0003.xhtml#u_2ei01-0003_2e2_2eb">2</a></li>
<li><a href="i01-0004.xhtml#u_2ei01-0004_2e3_2eb">3</a></li>
<li><a href="i01-0004.xhtml#u_2ei01-0004_2e4_2eb">4</a></li>
<li><a href="i01-0005.xhtml#u_2ei01-0005_2e5_2eb">5</a></li>
<li><a href="i01-0005.xhtml#u_2ei01-0005_2e6_2eb">6</a></li>
...
</ol>
</nav>
```



# 第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス

## 9.1 属性指定の詳細

CAS記法を属性マークアップの側面から整理します。

### 9.1.1 クラス属性

任意の要素にクラス属性をつけられます。クラス属性の値は、要素の分類や見え方の指定をするキーワードとして使います。

- クラス属性は、マークアップ記号の直後に':value'の形式で指定します。':'で属性を示し、classを省略して'value'だけ指定します。
- 一つの要素に複数のクラス属性値を連続して指定できます。連続して指定するときは、':value1:value2'のように間を空けないで記述します。
- 最後の属性値と他のマークアップの間に' '（空白）は必要ありません。
- 最後の属性値と本文テキストの間は' '（空白）で区切ります。

### 例

#### (1) CAS記法

:center この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。

#### (2) 表示例

この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。

#### (3) HTML

```
<p class="center">この段落にはclass="center"という属性が付きます。テーマにスタイル指定がありますので中央揃えになります。</p>
```

### テーマで使えるクラス属性値

CAS-UBのテーマでクラス属性値にレイアウトを設定しています。このクラス属性値を組み込みクラス属性値と言います。組み込みクラス属性の種類については 9.2 組み込みクラス属性値一覧 (p. 178) を参照してください。

### クラス属性によるレイアウトカスタマイズ

EPUBを生成するときは、自分で自由にクラス属性値を決め、スタイルシートを作成してそのクラス属性値を使ってレイアウト指定の追加ができます。

関連 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）(p. 205)

PDFでは、':styleset1'～':styleset20' というクラス属性値を使ってPDFレイアウトをカスタマイズできます（スタイルセット機能：「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」（CAS-UB サポート&ガイド (<http://www.cas-ub.com/howto/>) より配布を参照)。

### 9.1.2 ID 属性

ID属性は、HTMLで任意の位置に目印を付けるものです。':id=value' 形式で指定します。  
'value'には記事内で固有の値を指定します。

- ID属性はクラス属性同様汎用の属性でありほとんどの要素に設定できます。
- ID属性値として使える文字の種類には制限があります。詳しくはXMLの仕様などを参照してください。

関連 8.34 記事内の特定位置に目印（ID）をつける（p. 166）

#### 例2

##### (1) CAS記法

ここで [[[ :img: id=math\_i1 {{math\_i1.png}} ]]] は XXX を表わす。

##### (2) 表示例

ここで  $k$  は XXX を表わす。

##### (3) HTML

ここで `<span id="math_i1" class="img"></img></span>` は XXX を表わす。

#### ID属性の利用

本項の ID属性はHTML文法上は有効ですが、CAS-UBのID参照（8.35 記事内の特定位置を参照する（ID参照）（p. 168））機能の処理対象ではありません。

### 9.1.3 一般の属性

一般の属性は属性名と属性値の両方を指定します。

- ':attribute=value' の形式で attribute に属性名、value に属性値を指定します。
- 属性名・属性値の文字列中に'='、':', '' を入れたいときは直前に'~'を付けてエスケープします。
- 一つの要素に複数の属性と属性値を連続して指定できます。連続して属性と属性値をつけるときは、前の属性値の直後に':'を置きます。属性値の後ろに空白をはさないでください。
- 最後の属性値と他のマークアップの間に' '（空白）は必要ありません。
- 最後の属性値と本文テキストの間は、原則として' '（空白）で区切ります。（本文テキストがかなや漢字で始まるときは空白で区切る必要はありません）。

注意 CAS記法を使えば、一般の属性を自由にマークアップできます。しかし、EPUBの

仕様で許されていない一般属性を定義するとEPUBチェックでエラーになります。  
また、PDF生成では無視されます。

### 例3

#### (1) CAS記法

例として、言語指定をしてみます。

```
//:xml~:lang=en Hellow, world//
```

#### (2) 表示例

*Hellow, world*

#### (3) HTML

```
<em xml:lang="en">Hellow, world</em>
```

### 例4

#### (1) CAS記法

段落にスタイル属性で境界線を付けてみます。これはEPUBでのみ有効です。

```
:style="border~:solid~ thin~ red" この段落には赤の細実線で境界線が付いています。
```

#### (2) 表示例

この段落には赤の細実線で境界線が付いています。

#### (3) HTML

```
<p style="border:solid thin red">この段落には赤の細実線で境界線が付いています。</p>
```

コロン’:’、空白’ ’は、CAS記法のマークアップでは属性の開始、区切りの役割をもちます。上の例ではCAS記法での役割をキャンセルするためにエスケープしています。

関連 10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ）(p. 193)

### 一般の属性の利用

図などのサイズ指定には属性名と属性値の設定を使います。図のサイズ指定については次の関連項目を参照してください。

関連 9.3 組み込み属性と属性値 (p. 181)

### 9.1.4 親要素に属性を付与

箇条書きや表のように要素が親子関係になっているとき親要素に属性を付けたいことがあります。

たとえば、番号なし箇条書きは、CAS記法では次のようにマークアップします。

```
*第一項目  
*第二項目  
*第三項目
```

これはHTMLでは次のようにul要素-li要素という2階層になります。

```
<ul>  
<li>第一項目</li>  
<li>第二項目</li>  
<li>第三項目</li>  
</ul>
```

このようなとき子供要素のマークアップ直後に'::'で属性を設定すると、その属性は親の要素に付きます。

#### 例5

(1) マークアップ例

箇条書きのラベルを任意の記号に変更する例

```
*:nolabel ♦ 第一項目  
*♣ 第二項目  
*♥ 第三項目
```

(2) 表示例

- ♦ 第一項目
- ♦ 第二項目
- ♥ 第三項目

(3) HTML

```
<ul class="nolabel">  
<li>♦ 第一項目</li>  
<li>♣ 第二項目</li>  
<li>♥ 第三項目</li>  
</ul>
```

関連 表ヘッダ行 (p. 141)、8.7.5 ラベル無し箇条書き (p. 134)

## 9.2 組み込みクラス属性値一覧

次の表はCAS-UBのシステムであらかじめ処理を組み込んでいるクラス属性です。

表1 CAS-UB 標準のクラス属性値

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:nodisp	非表示	注意(3)を参照 (p. 180)	○	○	○
:index	索引 (p. 162)	段落、インラインの範囲 指定 強い強調、強調	○	○	○

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:mindex	入れ子の索引 (p. 162)	段落、インラインの範囲指定 強い強調、強調	○	○	○
:prim	親索引 (p. 162)	入れ子の索引	○	○	○
:second	子索引 (p. 162)	入れ子の索引	○	○	○
:both	兄弟の索引 (p. 163)	入れ子の索引	○	○	○
:fig	特殊化した図 (p. 138)	ブロック範囲指定	○	○	○
:fig:fullpg	画像を1ページ丸ごと使って配置	特殊化した図	○		
:fig:fullpg-l90	画像を1ページ丸ごと使って配置 反時計回りに90度回転	特殊化した図	○		
:fig:fullpg-r90	画像を1ページ丸ごと使って配置 時計回りに90度回転	特殊化した図	○		
:fig:float-start	画像を行頭に寄せてテキストを回り込み (p. 187)	特殊化した図	○ <sup>(5)</sup>	○	
:fig:float-end	画像を行末に寄せてテキストを回り込み (p. 187)	特殊化した図	○ <sup>(5)</sup>	○	
:tbl	特殊化した表 (p. 142)	ブロック範囲指定	○	○	○
:tbl:span-all	表を段抜きする	特殊化した表	○		
:sum	要約 (p. 144)	ブロック範囲指定	○	○	○
:sum:span-all	要約を段抜きする	特殊化した要約	○		
:col	コラム (p. 144)	ブロック範囲指定	○	○	○
:col:span-all	コラムを段抜きする	特殊化したコラム	○		
:ann	注記 (p. 145)	ブロック範囲指定	○	○	○
:ann:span-all	注記を段抜きする	特殊化した注記	○		
:footnote	脚注 (p. 159)	注	○		
:left	左(上)寄せ	段落、見出し、表のセル内	○	○	○
:left	左(上)寄せ	特殊化した表全体	○	○	
:start	左(上)寄せ	段落、見出し、表のセル内	○	○	○
:start	左(上)寄せ	特殊化した表全体、同図	○ <sup>(4)</sup>	○	
:center	中央	段落、見出し、表のセル内	○	○	○
:center	中央	特殊化した表全体、同図	○ <sup>(4)</sup>	○	
:right	右(下)寄せ	段落、見出し、表のセル内	○	○	○

属性値	効果	使用可能な要素	PDF で 有効	EPUB3 で有効	EPUB2 で有効
:right	右（下）寄せ	特殊化した表全体	○	○	
:end	右（下）寄せ	段落、見出し、表のセル内	○	○	○
:end	右（下）寄せ	特殊化した表全体、同図	○ <sup>(4)</sup>	○	
:start1 :start2 :start3	左（上）マージン	段落、ブロック引用、整形済みブロック	○	○	
:end1 :end2 :end3	右（下）マージン	段落、ブロック引用、整形済みブロック	○	○	
:justify	両端揃え	ブロック		○	
:tcy	縦中横 (p. 157)	インラインの範囲指定	○	○	
:emark :emark2 :emark3	圈点 (p. 156)	インラインの範囲指定 強い強調、強調	○	○	
:smaller	文字サイズ小	任意		○	
:del	消し線	任意		○	
:(色名), :(色名)-bg	文字色と背景色 (p. 190) 基本 16 色(色名)は CSS 標準のカラー名 -bg は背景	任意		○	
:gaiji	外字画像を文字と同じサイズにする	外字画像の img 要素	○	○	
:line-gap	段落間の行間を空ける	段落	○	○	
::ah_head	表のヘッダ行の指定 (p. 141)	表の第1行第1列セル	○		
::nolabel	ラベルの無い箇条書き (p. 134)	番号無し箇条第1項目	○	○	
:inside-p	継続段落として扱う	段落	○		
:markup	整形済みブロック内のマークアップを評価する (p. 147)	整形済みブロック	○	○	○

- 注 意 (1) EPUB3.0 で有効に○印のついている属性値は、EPUB3 用のテーマで設定済みです。○印がついていない属性を使うには、ユーザースタイルシート (style.css) でユーザーがレイアウト指定してください。
- (3) nodisp 属性値は CSS の'display:none' プロパティ設定によって不可視とされています。これを参照先（索引語などを本文中で不可視にするなど）に使用すると、EPUB リーダーによっては参照先 ID の位置に正しくジャンプしません。iBooks3.0 でこの現象を確認しています。

- (4) PDFでは、属性指定による特殊化された図の配置指定は無効です。
- (5) PDFでは、テキストの回り込みは、PDF生成の「PDF：レイアウト詳細設定」 - 「図表レイアウト - 図版と表のフロートのさせ方」の指定が優先します。PDFでは、回り込み属性の指定はコラム内でのみ有効です。

## 9.3 組み込み属性と属性値

CAS-UB であらかじめ処理を組み込んでいる一般属性と属性値がいくつかあります。これらは、そのままでは EPUB で文法上エラーになるため、EPUB 生成時に削除したり、形式変更するなどの処理を行います。

- マークアップ時に索引には'key="よみ"'を設定します。CAS-UB の内部で索引作成（並び替え）処理を行なったあと EPUB 生成時に削除します。
- PDF 生成用に、図の幅、表の列の幅に'width="値"'を設定できます。しかし、そのままでは EPUB3 生成で EPUB チェックするとエラーとなりますので、EPUB 生成時にスタイル属性 ('style="width:value; height:value"' ) の形式に変換するか削除するかを EPUB3 生成の設定で選択します。
- PDF 生成用に、図の高さに'height="値"'を設定できます。しかし、そのままでは EPUB3 生成 EPUB チェックするとエラーとなりますので、EPUB 生成時にスタイル属性 ('style="width:value; height:value"' ) の形式に変換するか削除するかを EPUB 生成の設定で選択します。
- ブロックまたはインラインに対して':lang=en など（言語コード指定）' または ':xml:lang=en など（言語コード指定）'

## 9.4 フォントの埋め込みとフォントの指定

### 9.4.1 PDFのフォント埋込

PDFでは、生成画面の PDF：フォント設定 及び PDF：レイアウト設定 の レイアウト詳細設定 で指定されたフォントは、自動的に生成結果の PDF に埋め込まれます。

またフォント画面でアップロードしたフォントも、PDF：フォント設定 及び PDF：レイアウト設定 の レイアウト詳細設定 で指定できます。フォント画面でアップロードしたフォントも、生成結果の PDF に埋め込まれます。

### 9.4.2 PDFのフォント指定

PDFのフォント指定は、生成画面の PDF：フォント設定 及び PDF：レイアウト設定 の レイアウト詳細設定 で指定します。また、マークアップで任意の範囲へのフォント指定もできます。

- PDF：フォント設定：ゼネリックフォントに割り当てるフォントファミリーを、スクリプト毎に指定します。詳細は「CAS-UB サポート&ガイド一覧 (<http://www.cas-ub.com/howto/index.html>)」で閲覧できる「PDF生成のためのガイド」の「3-7 フォント設定

(<http://www.cas-ub.com/howto/web-manual/cas-pdflayout/PDFfont.html>)」を参照してください。

- PDF：レイアウト詳細設定：本文、見出し、キャプション、強調、などに、それぞれフォントファミリー名またはゼネリックフォントを指定します。詳細は「CAS-UB サポート&ガイド一覧 (<http://www.cas-ub.com/howto/index.html>)」で閲覧できる「PDF生成のためのガイド」の「第4章 書籍のレイアウト詳細設定 (<http://www.cas-ub.com/howto/web-manual/cas-pdflayout/book2-youshi.html>)」の各項を参照してください。
- マークアップによるフォント指定：次項以降の EPUB3 のフォント埋込とフォント指定、他を参照してください。以降の解説にあるフォント関連の設定は、PDF でも有効です。

#### 9.4.3 EPUB3 のフォント埋込とフォント指定

EPUB では、ブロックやインラインのスタイルにフォント・ファミリー（フォント）を指定できます。しかし、指定したフォントがEPUBリーダーに備わっていないとフォント指定は有効になりません。どのEPUBリーダーでもフォント指定が有効になるようにするには、EPUBファイルの中にフォントを同梱して、スタイル指定から同梱したフォントを参照する必要があります。これをフォント埋め込みと言います。

CAS-UB V2.3よりEPUB3へのフォント埋め込み（サブセット埋め込み）ができるようになりました。また、CAS-UBシステム上のフォントをEPUBに埋め込むこともできます。

フォント埋め込みを使う方法は次の通りです。

- 1) 「フォント」をクリックして、フォント画面を表示します。
- 2) 埋め込みに使いたいフォントを、ローカルPCからアップロードします。
- 3) アップロードした各フォントには、CAS-UBがクラス名を割り当てます。
- 4) フォントを指定したいブロックまたはインライン要素に、フォントに対応するクラス名を設定します。
- 5) 生成画面の EPUB3：一般で「フォントの埋め込み：する」に設定してEPUB3を生成します。また、EPUB3：その他の設定で「フォントをサブセット化する：する」に設定することでフォントをサブセット化できます。

※ フォント埋め込み指定は、PDFでも有効です。

※ PDFでは、フォントは常にサブセット化して埋め込まれます。

#### 9.4.4 フォント・ファイル管理画面

「フォント」をクリックするとフォント・ファイルを管理するフォント画面となります。



「参照」ボタンでローカルPCのフォント・ファイルを指定して、[フォントファイルのアップロード] ボタンをクリックすると、指定したフォントが出版物毎のフォント・フォルダーに登録されます。

注 意 フォントのファイル名は半角英数字と'-'と'\_'が使用できます。フォントのファイル名

ル名に、かな・漢字などが使われているときはファイル名を変更してください。

各出版物の初期状態では、フォント・フォルダーには何も登録されていません。下の図は、三つのフォント（① ackaisyo、② AoyagiKouzanFontT、③ BokutachinoGothic）をアップロードした状態です。

選択	ファイル	フォント名	クラス
<input type="checkbox"/>	<a href="#">ackaisyo.ttf</a>	ackaisyo	font-ackaisyo
<input type="checkbox"/>	<a href="#">aoyagi.ttf</a>	AoyagiKouzanFontT	font-AoyagiKouzanFontT
<input type="checkbox"/>	<a href="#">bokutachi.otf</a>	BokutachinoGothic	font-BokutachinoGothic

図1 フォント・ファイル管理画面の例

#### 9.4.5 フォントに割り当てたクラス名

フォント名は、フォントファイルの内部に記述されているデータです。フォントのクラス名はCAS-UBが自動的に割り当てたものです。

表2 フォント名とクラス名の例

ファイル名	フォント名	クラス名
ackaisyo.ttf	ackaisyo	font-ackaisyo
aoyagi.ttf	AoyagiKouzanFontT	font-AoyagiKouzanFontT
bokutachi.otf	BokutachinoGothic	font-BokutachinoGothic

#### 例

フォントを適用したい箇所に、そのフォントのクラス名をCAS記法のクラスとして設定します。

##### (1) CAS記法

次はブロック範囲にフォントを指定する例です。

```
アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

[[[:font-BokutachinoGothic アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア
製品の開発・販売会社である。]]]

[[[:font-ackaisyo アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開
発・販売会社である。]]]

[[[:font-AoyagiKouzanFontT アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア
製品の開発・販売会社である。]]]
```

##### (2) 表示例

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

アンテナハウス株式会社は、東京都中央区に本社を置くソフトウェア製品の開発・販売会社である。

図2 フォントを埋め込んだEPUBのiBooksによる表示例

※ 埋め込んだフォントの指定は、PDFでも有効です。

- 注 意
- ・フォント埋め込みをすると、アップロードしたフォントはEPUBの中に同梱して再配布されます。フォントを埋め込み再配布する場合は、各フォントの制作者・供給元のライセンス契約の再配布条件に準拠する必要があります。各フォントのライセンス契約を確認してください。
  - ・埋め込んだフォントの難読化は行なっていません。
  - ・iBooks 3.1で埋め込んだフォントを有効にするには、EPUB生成の「一般」設定で[iBooks用メタ情報]をチェック（有効）してください。

#### 9.4.6 CAS-UB のシステムフォントを EPUB に埋め込む

CAS-UB では、以下のシステムフォントを使用できます。

表3 CAS-UB で用意している主なシステムフォント

フォント名	言語	スクリプト	特徴
IPAMincho (IPA 明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝 固定幅書体
IPAGothic (IPA ゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシック 固定幅書体
IPAexNincho (IPA ex明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝の欧文文字のみプロポーショナル書体
IPAexGothic (IPA exゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシックの欧文文字のみプロポーショナル書体
IPAPMoncho (IPA P 明朝)	ja(jpn)	Jpan	IPA 明朝のプロポーショナル書体
IPAPGothic (IPA P ゴシック)	ja(jpn)	Jpan	IPA ゴシックのプロポーショナル書体
NotoSansJP	ja(jpn)	Jpan	Google Noto フォント日本語（7ウエイト）

NotoSansSC	zh-CN	Hans	Google Noto フォント中国語簡体字（7 ウエイト）
NotoSansTC	zh-TW	Hant	Google Noto フォント中国語繁体字（7 ウエイト）
NotoSansKR	ko(kor)	Hang	Google Noto フォント韓国語（7 ウエイト）

以上その他にも、数種類欧文フォントを使用できます。

リーディングシステムにないフォントを指定すると、文字が表示されなかつたり文字化けしますので、システムフォントもEPUBに埋め込む必要があります。

システムフォントの埋め込みは、[フォントの追加]ボタン左の枠をクリックするとシステムフォント名の一覧が表示されるので、埋め込むフォント名をクリックして選択してから[フォントの追加]ボタンをクリックしてください。



図3 システムフォント一覧の表示例

埋め込みを指定したシステムフォントは、ファイル名の先頭に「cas-ub-」が付いています。



図4 埋め込み指定したシステムフォント名の表示例

システムフォントも、アップロードしたフォントファイルと同様に、フォントを適用したい箇所にフォントのクラス名をCAS記法のクラスとして設定します。

#### 関連 9.1 属性指定の詳細 (p. 175)

## 9.5 ブロックマージン

文書中の特定ブロックの左右余白（縦組では上下余白）を文書全体とは別の値に設定できます。ブロックマージンを指定できるのは次のブロックです。

- 段落 (p. 122)
- ブロック引用 (p. 145)

- 整形済みブロック (p. 146)

ブロックマージンは、ブロックに属性をつける（9.1 属性指定の詳細（p. 175）を参照）ことで指定します。ブロックマージン用のクラス属性名は次のとおりです。

表4 ブロックマージンの属性名

マージンの種類	属性名
ブロックの開始マージン 1	start1
ブロックの終了マージン 1	end1
ブロックの開始マージン 2	start2
ブロックの終了マージン 2	end2
ブロックの開始マージン 3	start3
ブロックの終了マージン 3	end3

### 9.5.1 PDF 生成時

余白幅は、PDF の「レイアウト詳細設定」の ブロックマージン で設定します。初期値はすべて 0em になっていますので、必要な値を設定してください。

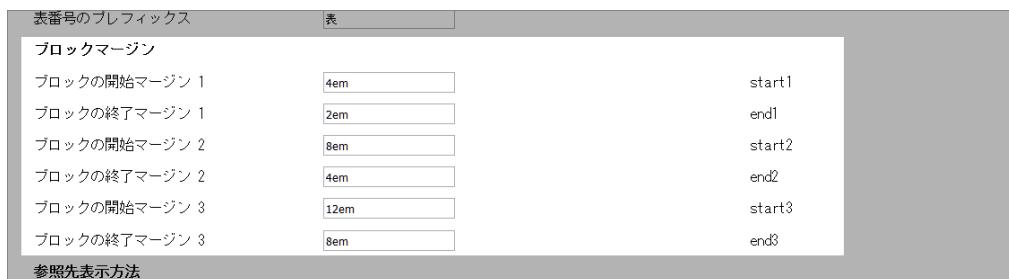


図5 ブロックマージンの設定例

### 9.5.2 EPUB 生成時

EPUB3 用の各テーマには、ブロックマージンの初期値が次のように設定されています。

```
.start1 { margin-left: 1em; }
.start2 { margin-left: 2em; }
.start3 { margin-left: 4em; }
.end1 { margin-right: 1em; }
.end2 { margin-right: 2em; }
.end3 { margin-right: 4em; }
```

#### 例

##### (1) CAS 記法

:start1:end1 この段落の開始マージンを start1 に設定された幅に変更し、終了マージンを end1 に設定された幅に変更します。

|>>:start3

このブロック引用の開始マージンを start3 に設定された幅に変更します。

[[[:tbl =ブロック引用の中の表

```

|=|= A |= B |= C
| 1 |あ|い|う
| 2 |か|き|く
| 3 |さ|し|す
]]]
|<<
{{{:start2:end3
**整形済みブロック**の左右余白を変更する。
開始マージンを :start2 にし、終了マージンを :end3 に設定。
}}}

```

## (2) 表示例

この段落の開始マージンを start1 に設定された幅に変更し、終了マージンを end1 に設定された幅に変更します。

このブロック引用の開始マージンを start3 に設定された幅に変更します。

表5 ブロック引用の中の表

	A	B	C
1	あ	い	う
2	か	き	く
3	さ	し	す

\*\*整形済みブロック\*\*の左右余白を変更する。  
開始マージンを :start2 にし、終了マージンを :end3 に設定。

関連 PDFの「レイアウト詳細設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/>で入手できる「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」で解説しています。

## 9.6 画像の回り込み

## 9.6.1 画像の配置

CSSテーマの既定値では、ブロック画像とキャプションは中央に配置され、その後のテキストは次のブロックに配置されます。

## (1) CAS記法

```

[[[:fig =PDF インフラストラクチャ解説#1
{{PDFinfla-sam.jpg | PDFinfla-sam.jpg}}
]]]

```

PDFが生まれて約20年になる。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のためのふたつの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。

(以下、略)

## (2) 表示例

### 回り込み指定なし



図6・3 PDFインフラストラクチャ解説

PDFが生まれて約20年になる。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための2つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。

図6 画像の回り込みなし

### 9.6.2 回り込み指定をする例

ブロック画像にテキストを回り込ませるには、画像に対してクラス属性‘float-start’または‘float-end’を指定します。

**注 意** PDFでの画像の回り込みは、PDF：レイアウト詳細設定の「図版と表のフローのさせ方」で調整するため、クラス属性‘float-start’の指定は無効です。但し、コラム指定された特殊化ブロック(p. 144)内では、PDFでも‘float-start’は有効です。

#### (1) CAS 記法

```
[[[:fig:float-start =PDF インフラストラクチャ解説#2
{{PDFinfla=sam.jpg | PDFinfla=sam.jpg}}
]]]
```

PDFが生まれて約20年になる。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のためのふたつの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。  
(以下、略)

#### (2) 表示例

### 回り込み指定あり



図6・4 PDFインフラストラクチャ解説

PDFが生まれて約20年になる。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための2つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラのひとつとなった。

PDFについてエンドユーザーの立場で書かれた活用本は多数ある。また、PDF仕様書は公開されており、ISO標準にもなっているのでPDF製品を実装するための技術情報は不足していない。しかし、制作者や情報技術者のためにPDFの技術的側面を解説した書籍は少ない。PDFをシステム的に活用するには一定の前提となる知識が必要なのだが、そのような情報はあまり多くない。

本書はPDFについてバランスのとれた技術的解説書とすることを目指している。第一段階として、2005年10月から2008年7月にかけて1000日間にわた

図7 画像の回り込み

### 9.6.3 回り込みの解除

任意の位置で回り込みを解除したいときは、回り込みを解除したいブロックの先頭などにクラス属性 ‘float-clear’ を指定します。

#### (1) CAS記法

```
[[[:col = 「PDF インフラストラクチャ解説 電子の紙 PDF とその周辺技術を語り尽す」(2016年1月発行)
```

```
:line-gap
```

```
[[[:fog:float-end
{{PDF-144px.png}}
]]]
```

★2016年1月、紙版（ペーパーバック）と電子書籍版（Amazon Kindle本）を発売しました！  
2015年12月末まで無償配布していた「PDF インフラストラクチャ解説」に大幅加筆のうえ、副タイトルを付けて出版します。

:float-clear 内容紹介抜粋 20世紀を代表する技術のひとつであるPDFが生まれて約20年過ぎた。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための二つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラの一つとなった。（中略）「PDF千夜一夜」ブログで取り上げなかった項目、2015年までの新たな動きについても追加している。

```
]]]
```

#### (2) 表示例

「PDF インフラストラクチャ解説 電子の紙 PDF とその周辺技術を語り尽す」(2016年1月発行)

★2016年1月、紙版（ペーパーバック）と電子書籍版（Amazon Kindle本）を発売しました！2015年12月末まで無償配布していた「PDF インフラストラクチャ解説」に大幅加筆のうえ、副タイトルを付けて出版します。

内容紹介抜粋 20世紀を代表する技術のひとつであるPDFが生まれて約20年過ぎた。今ではPDFはHTMLと並んで現代における情報流通のための二つの柱であり、情報化社会をささえる最重要インフラの一つとなった。（中略）「PDF 千夜一夜」ブログで取り上げなかった項目、2015年までの新たな動きについても追加している。



## 9.7 文字色と背景色

文字色と背景色は、EPUB3ではCSS標準の16色をカラーネームで指定できます。

表6 CSS標準カラーネーム一覧

カラーネーム	RGB値
black	#000000
gray	#808080
silver	#c0c0c0
white	#ffffff
maroon	#800000
red	#ff0000
purple	#800080
fuchsia	#ff00ff
green	#008000
lime	#00ff00
olive	#808000
yellow	#ffff00
navy	#000080
blue	#0000ff
teal	#008080
aqua	#00ffff

背景色は、カラーネームの末尾に’-bg’を付けることで指定します。

注 意 色指定はRGB値ではできません。

カラーネームによる色指定は、PDFとEPUB2では無効です。

## (1) CAS記法

```
色指定 [[[ :red:yellow-bg 赤文字黄色背景 ]]]
```

```
[[[ :col:purple:aqua-bg =コラム内の背景色を水色にし文字色を紫にした  
**:purple 文字色は** ( purple )  
]]]
```

## (2) 表示例 (EPUB3)

色指定 **赤文字黄色背景**

**コラム内の背景色を水色にし文字色を紫にした  
文字色は ( purple )**

注 意 ブロックに付けた属性は、ブロック内の要素によっては継承されないことがあります。継承されないときは、その要素範囲にも属性指定が必要です。

例.

上記の CAS 記法例では、コラムブロック中の強い強調に文字色を再度指定しています。

```
**:purple 文字色は** ( purple )
```

XHTML は下記のようになります。

```
<p><strong class="purple">文字色は</strong> ( purple ) </p>
```

<p></p> にはコラムブロックに指定した文字色が継承されますが、強い強調には継承されないので、強い強調にも色指定をしています。



# 第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

## 10.1 記号や空白をそのまま使う（エスケープ）

マークアップするための記号をマークアップ用途ではなく、記号のまま表示したい場合は、その記号の前に'~~'（チルダ）を置きます。'~~'（チルダ）を置くことをエスケープするといいます。

### 10.1.1 エスケープの規則

- 1) 直後の1文字だけをエスケープします。それ以上でもそれ以下でもありません。たとえば、'~~{{{' すると、'{ {' はマークアップとして生き残ります。
- 2) エスケープはURLの内部では効果がありません。[[http://example.jp/~ichiro/]] するとURLの中の'~~'はそのまま文字として扱います。
- 3) 整形済みまたはタイプライターの内部では、エスケープの効果がありません。

#### 例

- 箇条書きの記号（\*、#）をエスケープして箇条書きにしないとき。
- 属性名・属性値の文字列中に'=', ':', ''を入れたいとき。

#### 例2

次は索引のソートキーに空白を入れる例です。

##### (1) CAS記法

索引のソートキーに“environment variable”のように空白を含む文字列を指定する例：

```
:nodisp:mindex **:both JAVA_HOME** **:both:key=environment~ variable environment  
variable**
```

##### (2) 表示例

PDFの索引の例：

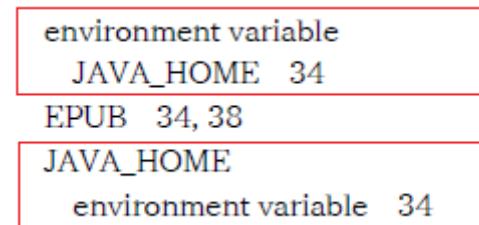


図1 索引の例

## 10.2 円記号（¥）の扱い

Windows アプリケーションは、キーボードで円記号（¥）をタイプすると、文字コードは U+005C が入力されます。そして、マイクロソフトの MS 明朝など多くの日本語フォントは、Unicode の U+005C を円記号（¥）として表示します。このため、Microsoft Word などで作成した原稿では、円記号を表すのに U+005C を使うことが多くなっています。

しかし、Unicode では、U+005C はバックスラッシュです。Microsoft 以外の欧文フォントをはじめとして、日本語フォントでも U+005C をバックスラッシュで表示するものがあります。

EPUB では、字形は EPUB リーダーが内蔵するフォント依存となります。このため円記号を表すのに U+005C を使った場合、円記号になるかバックスラッシュになるかは予測できません。これを回避するには、フォント埋め込みなどが必要です。

元の原稿が円記号に U+005C を使っているとき、PDF 生成でこれを円記号（¥）として表示するには、基本（ラテン）フォントに IPA 明朝と IPA ゴシックを割り当てます。CAS-UB の PDF 生成ではフォントを埋め込みますので文字が化けることはありません。

関連 PDF の「フォント設定」については、<http://www.cas-ub.com/howto/>で入手できる「CAS-UB による PDF 生成のためのガイド」で解説しています。

Unicode は、円記号に U+00A5 を割り当てますので、できるだけこちらを使うようにしてください。U+00A5 は、Unicode 番号を直接指定（p. 195）する方法で入力できます。

### 例

#### (1) CAS 記法

```
 {{&#x00A5;}}3000
```

#### (2) 表示例

¥3000

## 10.3 予約済みの記号

CAS-UB は、将来における CAS 記法の拡張のために次の記号を予約しています。予約済みの記号を使いたい場合は、'~' でエスケープしてください。

- ' @@'
- ' ##'
- ' %%'
- ' &&'
- ' ++'
- ' ~~~~'

### 10.3.1 警告メッセージ

予約記号をエスケープなしで使用した場合、PDF または EPUB を生成するときに警告メッセージがでます。

#### 例

- (1) CAS 記法

```
@@
```

- (2) 表示例

SYS-WARNING: @@ is reserved for future function. Please escape with tilde(~)

## 10.4 文字の Unicode 番号を直接指定

直接入力が困難な Unicode 文字、外字による絵文字や古代文字などは、Unicode の番号を直接指定できます。これを文字番号参照と言います。文字番号参照のマークアップは ’{{&’ の 3 文字をマークアップの開始とし、’}}’ でマークアップを終了します。複数の文字を続けて指定するときは、セミコロン ’;’ で区切って ’&#’ から文字番号を指定してください。

#### 例

- (1) CAS 記法

十進数指定

```
{{#0169;#0174;}}
```

十六進数指定

```
{{#x00A9;#x00AE;}}
```

- (2) 表示例

十進数指定

©®

十六進数指定

©®

## 10.5 単位

CAS-UB では、マークアップおよび生成の設定で値を指定するとき、単位が必要です。  
CAS-UB で使用できる単位は次のとおりです。

### 10.5.1 絶対単位

表1 絶対単位

単位	意味	説明
pt	ポイント。1 ポイントは 72 分の 1 インチ	主に文字サイズの指定に用います
pc	パイカ。1 パイカは 12 ポイント	主に文字サイズの指定に用います
in	インチ。1 インチは 2.54 センチメートル	主に幅や高さの指定に用います
cm	センチメートル	主に幅や高さの指定に用います
mm	ミリメートル	主に幅や高さの指定に用います

### 10.5.2 相対単位

表2 相対単位

単位	意味	説明
em	基本文字サイズの全角 1 文字分を 1 とする相対値	主に文字サイズや幅の指定に用います
rem	基本文字サイズの全角 1 文字分を 1 とする相対値	主に文字サイズや幅の指定に用います
lh	基本文字サイズの高さ (縦組では全角幅) + 行間を 1 とする相対値	ブロック前後の空き量の指定に用います
%	上位ブロックに対する比率	主に幅や高さの指定に用います
px	ピクセル ・ EPUB3/EPUB2 では出力機器 (デバイス) の表示解像度などに依存 ・ PDF では 96dpi で換算した絶対単位となる	主に画像のサイズ指定に使用します

# 第11章 縦組の指定

## 11.1 本全体の縦組（本の開き方）

本全体の横組・縦組指定と記事毎の横組・縦組指定ができます。PDFとEPUBは本全体が横組のときは左開き、本全体を縦組にすると右開きになるよう生成されます。

### 11.1.1 PDF全体の横組・縦組指定

本全体の横組・縦組は、PDF：レイアウト設定画面で指定します。

本全体を縦組にするには、生成⇒PDFレイアウト設定の【テーマ】で「縦組書籍」または「縦組マニュアル」を選択して【テーマ選択】をクリックします。

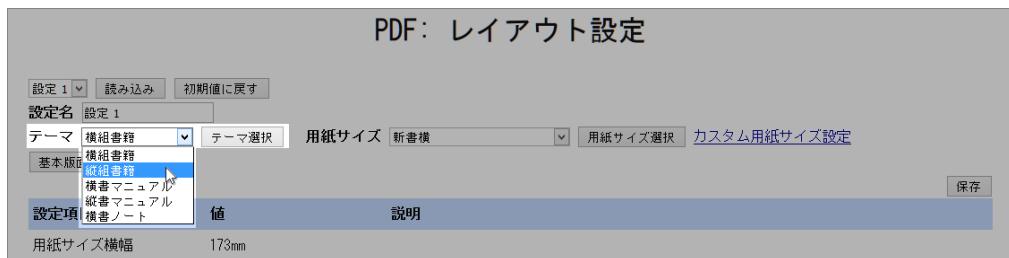


図1 PDF 縦組テーマの指定

### 11.1.2 EPUB3/Kindle 本全体の横組・縦組指定

生成⇒EPUB/Kindle一般の【CSSのテーマ】で「縦書」を選択し、表示されるテーマの一覧から好みのテーマを選択します。

関連 12.1 CSSのテーマ (p. 203) を参照してください。

## 11.2 編集時の文字進行方向の指定

横組（左開き）の本では、一部の記事だけ縦組にすることはほとんどありません。それに対して縦組の本では本の一部を横組にすることが頻繁にあります。

さらに、EPUBでは縦組の本の中の画像や扉のタイトルを中央揃えするために、扉などのページに横組を指定する場合があります。これはEPUBリーダーの機能不足を補うための方便としての横組指定ですが、現実に、このような指定方法も良く使われます。

CAS-UBは記事編集画面 (p. 21) の、記事入力・編集枠の下にある【文字進行方向】で、文字進行方向を記事ごとに指定できます。



上で説明したように PDF と EPUB とで縦組指定の目的が少し違うため、この設定は本文(章-節-項-目)について PDF 生成時と EPUB 生成時で取り扱いに少し違いがあります。次の表を参照してください。

表1 手作り記事の文字組方向

区分	記事の種類名	手作り記事の文字組方向の扱い	
		PDF では	EPUB では
前付	タイトル前	有効	有効
前付	タイトルページ	有効	有効
前付	権利関係	有効	有効
前付	献辞	有効	有効
前付	前書	有効	有効
前付	(手作り) 目次	有効	有効
前付	目次後	有効	有効
本文	本文の扉	有効	有効
本文	プロローグ	有効	有効
本文	章	有効	有効
本文	節	無効・章と同じ	有効
本文	項	無効・章と同じ	有効
本文	目	無効・章と同じ	有効
本文	エピローグ	有効	有効
後付	付録	有効	有効
後付	後書	有効	有効
後付	謝辞	有効	有効
後付	(手作り) 参考文献	有効	有効
奥付類	プロフィール	有効	有効
奥付類	(手作り) 奥付	有効	有効

### 11.3 PDF 生成時：記事毎の文字進行方向指定

次に PDF 生成時における記事の種類毎の文字組方向の指定方法を説明します。

#### 11.3.1 表紙とタイトルページの文字組方向

PDF の表紙を作るときは画像のみを使うか、それとも背景画像を指定してタイトルページを重ねて作ります。

##### 製本するとき

CAS-UB で作った PDF から印刷・製本するときは表紙を作らず、くるみの表紙画像を別途

用意してください。

- 表紙とタイトルページの文字組方向はレイアウト詳細設定の表紙【文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

### 11.3.2 扇の文字組方向

#### 目次の扉

PDFのテーマが縦組書籍のときには、レイアウト詳細設定で目次の扉を作成できます。目次の扉を作成すれば目次の内容を見開きにできます。

#### 目次の扉

目次の扉の作り方	<input checked="" type="checkbox"/> 扇は作らず、目次は奇数ページから始まる	
目次の扉の文字組方向	<input checked="" type="checkbox"/> 横組	
目次の扉のタイトルの行進行方	<input checked="" type="checkbox"/> 中央	
向の開始位置		
目次の扉のタイトルの行進行方	30mm	行進行方向の開始位置が指定するとき
向の開始位置の値		
目次の扉のタイトルの文字進行	<input checked="" type="checkbox"/> 中央	
方向の揃え		
目次の扉のタイトルの文字進行	10mm	縦組のときは上下余白
方向の左右余白		

図2 目次の扉の生成機能

- 自動目次扉の文字組方向はレイアウト詳細設定の【目次の扉の文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

#### 章扉

章のタイトルを本文とは別建ての扉にできます。

- 章扉の文字組方向はレイアウト詳細設定の章扉【文字組方向】で指定します。デフォルトは横組です。

### 11.3.3 前付・後付・奥付類の文字組方法

前付・後付・奥付類の文字組方向は11.2 編集時の文字進行方向の指定(p. 197)で記事毎に文字進行方向を設定します。

たとえば、PDF【テーマ】で「縦組書籍」を選択した本で、権利関係(記事クラス名はrights)を横組にするには、編集の【文字進行方向】で「横組」にします。この時はEPUBの権利関係も「横書」になります。

### 11.3.4 奥付の文字組方向

自動生成の奥付の文字組方向は縦組時も横組をデフォルトに変更しました。

### 11.3.5 記事スタイル機能

PDFの記事は「記事スタイル」で個別に指定できます。PDF【テーマ】で「縦組書籍」を選択したときでも、たとえば、権利関係、謝辞、索引、参考文献だけ、それぞれ個別に記事スタイルで横組指定できます。

自動生成の記事の文字組方向は編集で指定はできません。記事毎の文字組方向は記事スタイルによる指定のみです。

手作り記事は、編集で文字進行方向を指定できます。編集の指定よりも記事スタイルの指定が優先します。

PDFの記事スタイルを使えば、EPUBとPDFで文字組方向を変えることもできます。たとえば、EPUBの権利関係は縦のままでし、PDFの権利関係のみ横組にしたいときは、次の内容の記事スタイル・ファイル(*entrystyle-pdf.css*)を用意して、スタイルシートにアップロードします。

```
.rights {  
tbrl:no;  
}
```

自動生成の奥付は横組がデフォルトです。縦組にするなら、次の内容の記事スタイル・ファイル(*entrystyle-pdf.css*)を用意して、スタイルシートにアップロードします。

```
.copyright {  
tbrl:yes;  
}
```

「記事スタイル」では文字組方向以外のレイアウト指定もできます。記事スタイルの詳細は「CAS-UBによるPDF生成のためのガイド」(<http://www.cas-ub.com/howto/>)（更新予定）を参照してください。

## 11.4 EPUB生成時：記事毎の文字進行方向指定

### 11.4.1 手作り記事の文字進行方向

手作りの記事の指定は、11.2 編集時の文字進行方向の指定(p. 197)を参照してください。必要な記事の値を設定して、画面右側の[保存]ボタンをクリックしてください。「なし」「縦書」「横書」を指定すると XHTML の *html* 要素にクラス属性値が設定されます。

表2 EPUB記事毎の文字進行方向クラス設定

文字進行方向	設定値
なし	なし
横書	<html class="hltr">
縦書	<html class="vrtl">

記事の縦組・横組を有効にするには、CSSのテーマで記事クラスの縦組・横組指定が必要

です。(CAS-UB のテーマは未完成です)。

関 連 12.3 レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート) (p. 205)

#### 11.4.2 自動生成の記事

生成⇒EPUB 一般の一番下に用意されている自動生成記事の文字進行方向設定リンクをクリックします。



図3 リンク

すると、自動生成の記事毎に文字進行方向を設定する画面になります。

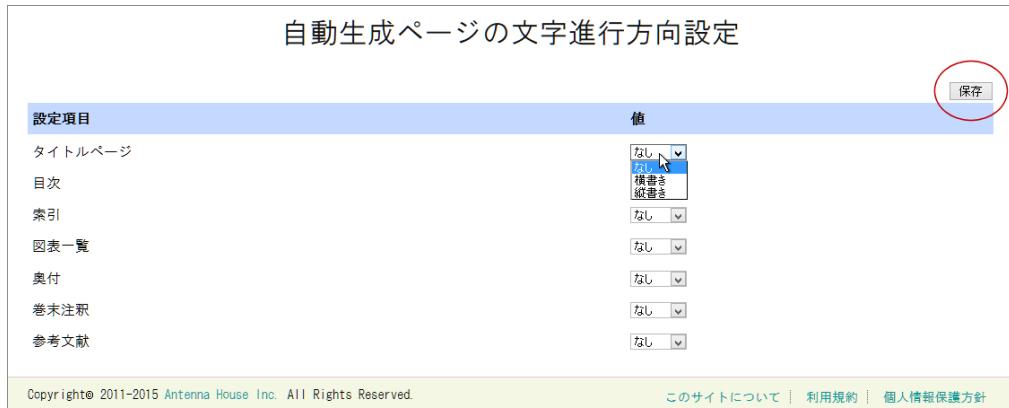


図4 自動生成ページの文字進行方向設定画面

ここで「なし」「縦書」「横書」を指定すると XHTML の html 要素にクラス属性値が設定されます。

記事の縦組・横組を有効にするには、CSS のテーマで記事クラスの縦組・横組指定が必要です。(CAS-UB のテーマは未完成です)

**注 意** 自動生成記事の文字進行方向の設定内容は EPUB でのみ有効です。カバー画像を自動生成する場合の文字進行方向はタイトルページと同じになります。

#### 11.4.3 章 扉

章のタイトルを本文とは別建ての扉にできます。

章扉の作成と章扉の文字組方向は、生成⇒EPUB 一般で指定します。

- 章扉を作る：をチェックすると章扉が生成されます。
- 章扉の文字進行方向：なし（出版物全体の文字組方向と同じ）、横組、縦組を指定できます。

- 章扉を作ると、章扉と本文が分離されて別ファイルになり、章扉はタイトルのみのファイルになります。
- 章が記事タイトルのみのときは、ファイルの分離はされません。
- 章扉の XHTML には、<body>要素に属性値 'chapter-titlepage' が付加されます。

関 連 EPUB3 生成の一般設定 (p. 63)

# 第12章 EPUBのレイアウト指定

## 12.1 CSSのテーマ

EPUBのレイアウトはCAS-UBのシステムに用意している「CSSのテーマ」で指定します。「生成」画面の「EPUB3」→「一般」タブの「CSSのテーマ」で選択します。

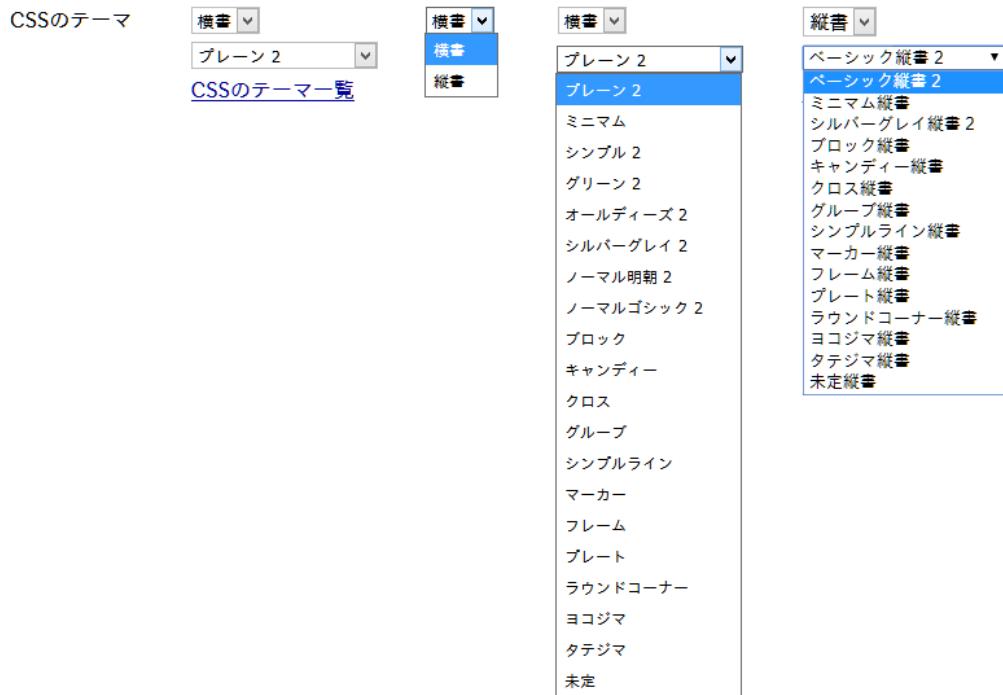


図1 横書・縦書テーマの一覧

### 12.1.1 レイアウトを変更したいとき

ユーザー・スタイルシートでCAS-UBで用意したテーマのレイアウトに対して自分流の変更を加えられます。

関連 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）(p. 205)、3.12 内容表示のテーマの選択 (p. 38)

## 12.2 CSSのテーマの機能と設定変更

### 12.2.1 テーマの機能

CAS-UBのテーマでは、次のようなきめ細かい設定を用意しています。

- 全テーマで圈点を利用可能です。

- ・特殊化した表の左右配置を指定可能です。
- ・特殊化した図の左右配置を指定可能です。
- ・数式に数式番号を付与できます。
- ・段落間の空き行指定ができます。
- ・小さい文字の指定ができます。
- ・消し線の指定ができます。
- ・ブロックの開始・終了マージンの初期値を設定しています。
- ・基本16色のクラス属性値を定義しています。
- ・色指定を可能にしています。

#### 12.2.2 レイアウト統一

ユーザーがカスタマイズし易いように、CSSのレイアウト指定ができるだけ同じ方法を採用しています。特に次の点は全テーマ共通です。

- ・段落先頭行の字下げを1文字分に設定しています。
- ・段落間の空きはありません。
- ・表ブロックを指定（特殊化）しているときには、表とキャプションを左右中央に配置し、表の罫線を表示します。表のブロック指定をしていないときには表は行頭寄せとし表の罫線を表示しません。
- ・ブロック画像とキャプションは中央寄せに設定しています。
- ・原則として段落両端揃えを設定しています。

#### 12.2.3 設定変更（CSSの調整）

次の5項目については「CSSの調整」メニューを使って設定を変更できます。

- 1) 段落先頭行の字下げ
- 2) 段落間の空き
- 3) 表の罫線
- 4) 段落の揃え
- 5) 見出しの文字サイズ

#### 12.2.4 設定変更メニューの表示

設定変更のメニューはスタイルシート画面の「CSSの調整」をクリックして表示します。

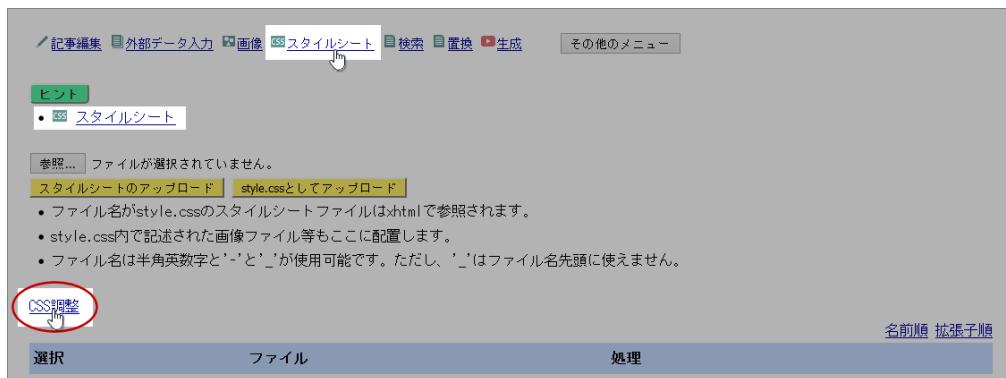


図2 CSS の調整へのリンク

次の CSS テーマの設定変更メニューを表示します。



図3 テーマの設定変更

- 1) 段落先頭行の字下げを原稿で行なっているときは、字下げを「なし」に変更します。
  - 2) 段落間の空きをあけたいとき、「あり」に変更します。
  - 3) 特殊化していない表にも罫線をつけないとき、「あり」にします。
  - 4) 段落の揃えを左寄せにしたいとき「あり」にします。
  - 5) 見出しの文字サイズを、小さめ、中間、大きめに変更できます。
- テーマの設定を変更したら、右上の「保存」をクリックします。すると、設定内容が「スタイルシート」の'config.css' ファイルとして追加されます。

## 12.3 レイアウトのカスタマイズ（ユーザー・スタイルシート）

ユーザー・スタイルシートを追加して EPUB のデザインやレイアウトをカスタマイズ できます。

### 12.3.1 スタイルシートの扱い方

追加するスタイルシートは次のように扱います。

- スタイルシートのファイル名は `style.css` にする必要があります。CSS ファイルをアップロードする際に、ファイル名を `style.css` に変更できます。ご自分の PC で別のファイル

ル名をつけても構いません。

- 符号化方式は UTF-8 にしてください。
- スタイルシートは出版物ごとに用意されるスタイルシートフォルダにアップロードします。
- スタイルシート内で画像を参照している場合は、その画像もスタイルシートフォルダにアップロードしてください。

ユーザー・スタイルシート作成には、<http://www.cas-ub.com/howto/> からダウンロードできる「CSS レイアウトのカスタマイズガイド」を参考にしてください。

### 12.3.2 段落レイアウトのカスタマイズ

たとえば、「ノーマル明朝」の段落のレイアウトは次のように、字下げ「あり」(`text-indent:1em`) の設定で、段落間の空きは設定されていません。

```
p {  
    position: relative;  
    padding-left: 0;  
    text-indent: 1em;  
    line-height: 1.6;  
}
```

EPUB3にはナビゲーション文書が必須である。これはHTML5のnav要素を使って作成し、電子書籍リーダのナビゲーション用のパネルに表示するものである。EPUB2のときはNCX形式で作っていたものの後継であり、論理目次という言い方をすることもある。ここでは、EPUB3のnav形式のファイルを「ナビゲーション文書」という[1]。

一方、本文の見出しを取り出してリストにして並べ、リストの各項目から本文の当該見出しへのリンクを張ったXHTML5文書を作成して、この文書をEPUB3の本文内容文書のひとつとして扱うこともできる。これを「目次文書」という。目次文書はEPUB3リーダからみたら本文の一部であるが、読者からみたら目次の役割を果たす。このようなものを視覚的な目次という言い方もできるかもしれない[2]。

図4 「ノーマル明朝」の段落レイアウト

段落に字下げをなしを指定し、段落間を空きを入れるには、次のような内容の style.css を用意して、それをスタイルシート・フォルダーにアップロードします。

```
p {  
    text-indent: 0;  
    margin-top: 0.9em;  
}
```

EPUB3にはナビゲーション文書が必須である。これはHTML5のnav要素を使って作成し、電子書籍リーダのナビゲーション用のパネルに表示するものである。EPUB2のときはNCX形式で作っていたものの後継であり、論理目次という言い方をすることもある。ここでは、EPUB3のnav形式のファイルを「ナビゲーション文書」という[1]。

一方、本文の見出しを取り出してリストにして並べ、リストの各項目から本文の当該見出しへのリンクを張った XHTML5 文書を作成して、この文書を EPUB3 の本文内容文書のひとつとして扱うこともできる。これを「目次文書」という。目次文書は EPUB3 リーダからみたら本文の一部であるが、読者からみたら目次の役割を果たす。このようなものを視覚的な目次という言い方もできるかもしれません [2]。

図5 「ノーマル明朝」の段落の字下げと空きを変更

上の字下げの例は、CSSの調整機能を使って調整もできます。詳しくは、12.2 CSSのテーマの機能と設定変更（p. 203）を参照してください。

**注 意** CAS-UBのテーマで指定している内容を style.css の内容で上書きしたり打ち消すことができるかどうかは、CSSのカスケーディング規則によります。一般的には、style.css の内容はテーマの記述内容よりも詳しく記述する必要があります。このため、ユーザー・スタイルシートを作成するには、既存のテーマがどのように適用されているかを知っていなければなりません。詳しくは「CSS レイアウトのカスタマイズガイド」を参照してください。



# 第13章 Web のレイアウト

Web ページのレイアウトは、記事内容については EPUB と同様なので「第12章 EPUB のレイアウト指定 (p. 203)」を参照してください。

ここでは、Web ページの目次と、各ページに付けられるナビゲーションのレイアウトについて解説します。

## 13.1 Web レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート)

Web ページを生成でも、EPUB と同様にユーザー・スタイルシートを追加してデザインやレイアウトをカスタマイズできます。

スタイルシートは、EPUB 用の `style.css` が適用されますが、Web 専用のスタイルシートを用意することで、EPUB とは別にカスタマイズできます。v5.0

Web 用スタイルシートのファイル名は `style_epub3web.css` です。

スタイルシートの扱い方は、ファイル名が異なること以外は EPUB 用の `style.css` と同じなので、詳細は「EPUB のレイアウト指定 - 12.3 レイアウトのカスタマイズ (ユーザー・スタイルシート) (p. 205)」を参照してください。

※ Web ページを生成では、`style_epub3web.css` があると生成される HTML には `style.css` はリンクされないので、EPUB と共通の指定は `style_epub3web.css` にも入れる必要があります。

## 13.2 Web ページの HTML 内容

Web ページを生成で生成される HTML には、Web ページを閲覧するためのナビゲーションなどが追加されます。

Web ページを生成の Web 画面の設定 (p. 70) により、HTML の内容が異なります。

### 13.2.1 記事本文の HTML

記事本文の HTML は次のように構成されます。v5.0

```
<body class="add-toc-menu-icon">
<!-- ↑ メニューアイコンを生成すると class="add-toc-menu-icon" が追加される --&gt;

<!-- ↓ メニューアイコンブロック --&gt;
<!-- ↓ メニューアイコンを生成すると追加される --&gt;

&lt;div class="toc-menu-area-pc"&gt;
&lt;iframe class="toc-iframe-menu-pc" src=". /index.html" frameborder="no"&gt;&lt;/iframe&gt;</pre>
```

```

</div>
<div class="toc-menu-area-smart">
<iframe class="toc-iframe-menu-smart" src="./index.html" frameborder="no"></iframe>
</div>
<!-- ↑ メニューアイコンブロック -->

<!-- ↓ 記事内容とナビゲーション ここから -->
<div class="wrapper-text-area">

<!-- ↓ 上部ナビゲーションブロック -->
<div class="nav-top">
<a class="nav-toc-link" href="index.html">目次</a> <a class="nav-next-article"
href="0002.html">次へ</a>
</div>
<br />
<!-- ↑ 上部ナビゲーションブロック -->

<h1>記事タイトル</h1>

<!-- 記事本文 -->

<!-- ↓ 下部ナビゲーションブロック -->
<div class="nav-bottom">
<a class="nav-toc-link" href="index.html">目次</a> <a class="nav-next-article"
href="0002.html">次へ</a>
</div>
<!-- ↑ 下部ナビゲーションブロック -->

</div>
<!-- ↑ 記事内容とナビゲーション ここまで -->
</body>

```

### 13.2.2 目次の HTML

目次の HTML は次のように構成されます。 V5.0

```

<body style="-webkit-text-size-adjust: 100%;" class="mltoc">
<!-- ↑ 目次の<body>要素には class="mltoc" が付く -->

<!-- ↓ 記事内容とナビゲーション ここから -->
<div class="wrapper-text-area">

<!-- ↓ 「リンク 1」と「リンク 2」 -->
<p class="to_home">
<a class="pagetop_url1-link" href="http://www.link1.co.jp/">リンク 1</a>
<a class="pagetop_url-link" href="http://www.link2.co.jp/">りんく 2</a>
</p>

<!-- ↓ 「全文検索」画面へのリンク -->

```

```

<p class="search_all_page">
<a class="pagetop_url-link" href=". /search.html">全文検索</a>
</p>

<hr />

<!-- ↓ 目次項目 ここから -->
<h1>目次</h1> <!-- 記事タイトル -->

<ol>
<li><a class="wrapper preface level2" href="0001.html">はじめに</a></li>
  :
<li><a class="wrapper postface level2" href="0010.html">あとがき</a></li>
</ol>
<!-- ↑ 目次項目 ここまで -->

<!-- ↓ 下部ナビゲーションブロック -->
<br />
<div class="nav-bottom"><a class="nav-title-link" href="index.html">タイトルページ</a> <a class="nav-next-article" href="0002.html">次へ</a>
</div>
<!-- ↑ 下部ナビゲーションブロック -->

</div>
<!-- ↑ 記事内容とナビゲーション ここまで -->
</body>

```

### 13.3 目次のメニューアイコンを生成したときのレイアウト

【目次のメニューアイコンを生成】 = 「生成する」にしたときは、HTML に次の内容が挿入されます。 V5.0

- <body>タグにクラス属性 add-toc-menu-icon が追加されます。  
メニューアイコンがあるときだけのカスタマイズに利用します。
- メニューアイコン関連のタグ（メニューアイコンブロック）が挿入されます。  
メニューアイコンはスクリプトで制御しているので、メニューアイコン自体のカスタマイズは困難です。

HTML 内容については「13.2.1 記事本文の HTML (p. 209)」を参照してください。

#### 13.3.1 画面サイズによる表示切替

【目次のメニューアイコンを生成】 = 「生成する」にしたときは、画面サイズにより表示が切り替わります。

- 画面幅が広いとき： 生成した Web ページでは、画面左側に目次が常時表示されます。  
目次項目をクリックすると、画面右側に対応する記事内容が表示されます。

The screenshot shows a narrow web page with a sidebar on the left containing a table of contents for Chapter 3. The main content area features a large title '第1章 CAS-UBサービスの概要' and navigation buttons.

- [2.5はじめてのEPUB制作～EPUBの生成](#)
- [2.6完成したEPUBをiBooksで表示](#)
- 第3章 CAS-UBの画面と機能**
- [3.1ホーム\(出版物一覧\)画面](#)
- [3.2出版物新規作成](#)
- [3.3記事編集画面](#)
- [3.4記事内容入力と保存](#)
- [3.5記事の書き方・基本](#)
- [3.6マークアップと自動処理](#)
- [3.7記事の追加](#)
- [3.8記事の構成を編集する](#)
- [3.9記事の移動](#)
- [3.10記事の削除](#)
- [3.11記事の内容表示](#)
- [3.12内容表示のテーマの選択](#)
- [3.13外部データ入力画面](#)

操作説明書

**第1章 CAS-UBサービスの概要**

前へ 次へ

Copyright © 2011-2017 Antenna House, Inc. All rights reserved.  
Antenna House is a trademark of Antenna House, Inc.

- 画面幅が狭いとき：生成したWebページでは、画面左上隅にメニューアイコンが表示されます。メニューアイコンをタップまたはクリックすると、表示中の記事に被さるよう目次が表示されます。

The screenshot shows a wide web page with a sidebar on the left containing a table of contents for Chapter 1. The main content area features a large title '第1章 CAS-UBサービスの概要' and navigation buttons.

操作説明書

**第1章 CAS-UBサービスの概要**

前へ 次へ

Copyright © 2011-2017 Antenna House, Inc. All rights reserved.  
Antenna House is a trademark of Antenna House, Inc.

CAS-UB Web  
ANTENNA HOUSE Web

全文検索

---

目次

[ごあいさつ](#)  
[サポートについて](#)  
[凡例](#)

[第1章 CAS-UBサービスの概要](#)

[1.1 CAS-UBとは](#)  
[1.2 出力形式](#)

[第2章 CAS-UBによる出版物の制作](#)

[2.1 CAS-UBにおける記事と出版物](#)

操作説明書

サービス

### 13.3.2 画面サイズ毎のカスタマイズ

画面が広いときと狭いときで異なるレイアウトが必要なときはメディアクエリを使います。

- 画面幅が広いとき

```
/* 画面が広いとき、目次枠と記事内容の間に隙間を入れる */
@media screen and (min-width: 769px) {
    body.add-toc-menu-icon div.wrapper-text-area {
        padding-left: 0.5em;
    }
}
```

- 目次ボタンを生成したときは、画面幅 769px で表示が切り替わります。
- 目次ボタンを生成すると、<body>タグに add-toc-menu-icon 属性が追加されます。
- ナビゲーションを含む本文全体は <div style="wrapper-text-area"> </div> に含まれます。

れるので、`wrapper-text-area` の左にマージンを付けます。

- 画面幅が狭いとき

```
/* 画面が狭いとき、目次ボタンとナビゲーションが重ならないようにする */
@media screen and (max-width: 768px) {
    body.add-to-menu-icon div.nav-top {
        padding-left: 35px;
    }
}
```

## 13.4 ナビゲーションなどのカスタマイズ

生成した Web ページには、各ページの上部と下部にページ送りなどナビゲーション用のリンクが挿入されます。

カスタマイズなしでは、前へ (p. 213) 次へ (p. 213) といった表示です。

これをカスタマイズするには、ナビゲーションブロックに付けられ属性名を利用します  
(13.2.1 記事本文の HTML (p. 209) 参照)。

- 上部ナビゲーションブロックの属性名 : `nav-top`
- 下部ナビゲーションブロックの属性名 : `nav-bottom`

### 13.4.1 ナビゲーションのリンクテキストのカスタマイズ

「13.3.1 画面サイズによる表示切替 (p. 211)」の表示例のように枠囲みで表示するには、次のように上下ナビゲーションブロックの内の `<a>` タグに対して枠囲みの指定をします。

```
/* ナビゲーションリンクに枠線を付ける */
div.nav-bottom a, /* ボトムナビゲーションの a タグ用 */
div.nav-top a { /* トップナビゲーションの a タグ用 */
    font-size:.8em; /* ボタン内の文字サイズ */
    padding:0.3em 0.5em; /* ボタン内の空き */
    border: 1px #6666FF solid; /* ボタンの囲み罫 */
    color:#666; /* ボタン内の文字色 */
}
```

これだけでは、ナビゲーションブロック内に余裕がないので、ナビゲーションブロック内の余白や、本文との境界線を指定します。

```
/* トップナビゲーションブロック */
div.nav-top {
    width: 100%; /* ブロックの幅 100% */
    height:1.8em; /* ブロックの高さ */
    padding-top:0.5em; /* ブロック内上の空き */
    border-bottom: #999 1px solid; /* ブロックに下線を付ける */
}

/* ボトムナビゲーションブロック */
div.nav-bottom {
```

```

clear : both;           /* 本文のフロート指定に影響されないようにする */
margin: 0;             /* マージンリセット */
width: 100%;            /* ブロックの幅 100% */
padding-top:0.4em;      /* ブロック内上の空き */
padding-bottom:0.3em;   /* ブロック内上の空き */
border-top: #999 1px solid; /* ブロックに上線を付ける */
}

```

### 13.4.2 トップナビゲーションにタイトル文字列を表示する

次のように指定することでトップナビゲーションに「操作説明書」などのタイトル文字列を追加できます。

```

/* トップナビゲーションにタイトルを付ける */
div.nav-top:before{
    content:"操作説明書";          /* タイトルテキスト */
    white-space: pre;              /* 連続する空白をそのまま出す */
    font-family: sans-serif;       /* タイトルテキストのフォントファミリー */
    font-weight: bold;             /* タイトルテキストを強調表示にする */
    font-size: 1.2em;              /* タイトルテキストの文字サイズ */
    float:right;                  /* タイトルテキストを右寄せにする */
    color:#555;                   /* タイトルテキストの文字色 */
    margin: 0;                     /* マージンリセット */
}

```

メニューアイコンを生成すると、画面が狭いときにメニューアイコンが表示されるため、トップナビゲーションの表示が右にずれ、タイトル文字列の右側切れるので、次のように指定して調整します。

```

/* 画面が狭いとき、
目次ボタンとナビゲーションが重ならないようにしたために、
テキストの右側が切れるのを防ぐ */
@media screen and (max-width: 768px) {           /* 画面が狭いとき */
    body.add-to-c-menu-icon div.nav-top:before{
        padding-right:1.8em;
    }
}

```

### 13.4.3 ボトムナビゲーションに copyright などを表示する。

次のように指定することで、ボトムナビゲーションに copyright などを表示できます。

```

/* ボトムナビゲーションブロックに copyright を入れる */
div.nav-bottom:after{
    content:"¥A ¥A Copyright 2011-2017¥00A9 Antenna House, Inc. All rights reserved.¥A
    Antenna House is a trademark of Antenna House, Inc.¥A ¥A"; /* copyright テキスト */
    white-space: pre-wrap;           /* 半角空白をそのまま出し、右端で自動折り返しする */
    font-size: 0.8em;                /* テキストの文字サイズ */
}

```

#### 13.4.4 ナビゲーションや目次を印刷しない

ナビゲーションや目次は、本文を印刷する際には不要です。次のように指定すると、印刷時にナビゲーションや目次が出力されません。

```
/* 目次とナビゲーションを印刷しない */
@media print {
  div.toc-menu-area-pc,
  div.nav-top,
  div.nav-bottom {
    display:none;
  }
}
```

### 13.5 目次のカスタマイズ

目次は、次のブロックで構成されています。V5.0

- 「リンク 1」と「リンク 2」
- 「全文検索」画面へのリンク
- 記事タイトル
- 目次項目
- 下部ナビゲーションブロック

目次の HTML 内容については「13.2.2 目次の HTML (p. 210)」を参照してください。

#### 13.5.1 「リンク 1」と「リンク 2」のカスタマイズ

Web ページを生成の Web 画面で、「リンク 1」と「リンク 2」のどちらか、または両方を指定すると挿入されます。

「リンク 1」と「リンク 2」の HTML は、次の構成です。

```
<p class="to_home">
<a class="pagetop_url1-link" href="http://www.link1.co.jp/">リンク 1</a>
<a class="pagetop_url-link" href="http://www.link2.co.jp/">リンク 2</a>
</p>
```

「リンク 1」と「リンク 2」は、class="to\_home" が付けられた 1 つの

</p>

要素に入りますので、カスタマイズするときは p.to\_home を利用します。

#### カスタマイズ例

```
/* 「リンク 1」と「リンク 2」の間に改行を入れる */
body.mltoc p.to_home a {
  display:block;
}
```

```
/* 「リンク 1」の右に1文字分の空きを入れる */
```

```

a.pagetop_url1-link {
    margin-right:1em;
}

/* 「リンク 1」と「リンク 2」に囲み罫を付ける */
body.mltoc p.to_home a {
    padding:0.2em;           /* ボタン内の空き */
    border: 1px #6666FF solid; /* ボタンの囲み罫 */
    color:#666;             /* ボタン内の文字色 */
}

/* 囲み罫の上が切れないように調整 */
body.mltoc p.to_home {
    padding-top:0.1em;
}

```

### 13.5.2 「全文検索」画面へのリンクのカスタマイズ

Web ページを生成の Web 画面で「全文検索機能の生成」 = 「生成する」にしたとき、「リンク 1」と「リンク 2」の後に挿入されます。

「全文検索」画面へのリンクの HTML は、次の構成です。

```

<p class="search_all_page">
<a class="pagetop_url-link" href=". /search.html">全文検索</a>
</p>

<hr />

```

「全文検索」画面へのリンクは、class="search\_all\_page" が付けられた<p></p>要素に入りますので、カスタマイズするときは search\_all\_page を利用します。

#### カスタマイズ例

```

/* 全文検索画面へのリンクブロック */
p.search_all_page {
    text-indent:0;           /* 字下げをしない */
    margin:0.5em 0;         /* ブロックの上下余白調整 */
}

/* リンクテキストのカスタマイズ */
p.search_all_page a {
    margin-left:1em;        /* 左 1 文字空き */
    font-family:sans-serif; /* フォントファミリー指定 */
    font-size:0.8rem;       /* フォントサイズ */
    font-weight: bold;      /* 強調表示 */
    padding:0.5em;          /* 内側の空き */
    background-color:#6A5ACD; /* 背景色 */
}

/* リンクの表示 */
p.search_all_page a {
    text-decoration: none;   /* リンクテキストの下線を消す */
    color:aliceblue;        /* 文字色：アイスブルー */
}

```

```

}
/* リンクにマウスポインタが乗ったときの表示 */
p.search_all_page a:hover {
color:yellow; /* 文字色：黄色 */
}

```

```

/* 全文検索画面へのリンク下の水平線を非表示にする */
.mltoc hr {
display:none; /* 表示しない */
}

```

「全文検索」画面へのリンクのカスタマイズ表示と実行例

### 13.5.3 記事タイトル

記事タイトルの HTML は、次の構成です。

```
<h1>目次</h1>
```

<h1>タグは目次以外にも使われているので、カスタマイズ対象を目次のみにする必要があります。

目次の<body>要素には class="mltoc" が付きます。目次にだけ適用したいレイアウト指定は、"body.mltoc" を利用します。

#### カスタマイズ例

```

/* 目次タイトルの文字間を空ける */
body.mltoc h1 {
letter-spacing:2em; /* 文字間を2文字分にする */
}

```

#### 13.5.4 目次項目

目次項目のHTMLは、箇条書になっています。箇条書は目次以外にも使われているので、カスタマイズ対象を目次のみにする必要があります。

<a>タグには、元の記事タイトルまたは記事内見出しに付いている属性値が付きます。

```
<ol>
<li><a class="wrapper preface level2" href="0001.html">はじめに</a></li>
<li><a class="wrapper chapter level2" target="_top" href="ch1.html">第1章</a>
<ol>
<li><a class="wrapper section level3" target="_top" href="sct1-1.html">1-1 節</a>
</li>
<li><a class="wrapper section level3" target="_top" href="sct1-2.html">1-2 節</a>
</li>
</ol></li>
<li><a class="wrapper chapter level2" target="_top" href="ch2.html">第2章</a>
<ol>
:
<li><a class="wrapper preface level2" href="0010.html">あとがき</a></li>
</ol>
```

#### カスタマイズ例

```
/* 目次項目の文字サイズを本文より小さくする */
.mltoc li {
    font-size:0.8rem;           /* 文字サイズ */
}
```

```
/* 章タイトルだけを強調表示にする */
.mltoc li a.chapter {
    font-size:0.9rem;           /* 文字サイズ */
    font-weight: bold;          /* 強調表示 */
}
```

#### 13.5.5 下部ナビゲーション

下部ナビゲーションは、Webページを生成の「Web画面の設定 (p. 70)」で【目次のメニューアイコンを生成】=「生成しない」にしたときに挿入されます。

下部ナビゲーションは本文のナビゲーションと同じです。詳細は「13.4 ナビゲーションなどのカスタマイズ (p. 213)」を参照してください。

# 第14章 メルマガ変換

## 14.1 メルマガ EPUB 変換機能の利用方法

CAS-UB のメルマガ変換では、メルマガファイルをアップロードして EPUB に変換します。

自分で作成したメルマガであれば、この機能を使って制作した EPUB3 は自由にお使いいただくことができます。（自分以外の作者のメルマガを変換した場合は、私的利用を超える利用は著作権者の許諾が必要です。）

### 14.1.1 メルマガ EPUB 変換機能の選択

CAS-UB にログインすると、ユーザー毎のホーム画面を表示します。メルマガ変換機能を使うにはホーム画面上で【メルマガ変換】のボタンをクリックします。



### 14.1.2 メルマガ変換機能のメニュー

次の画面がメルマガ変換機能のメニューです。この画面で「\*」がついている項目は必ず入力してください。

## 変換設定

オーナー名	m-okawa
出版物識別名 *	<input type="text"/> ← クラウド上のファイル名 CAS-UBシステムで使う名前。6文字以上25文字まで。 1文字目は半角英文字。2文字目からは、半角英文字、半角数字と半角'-'(ハイフン)。最後は半角英文字か半角数字。
出版物タイトル *	<input type="text"/> ← 出版物の表題に相当 出版物のタイトル、書名。1文字以上100文字まで。
著者名	<input type="text"/>
ISBN	<input type="text"/>
発行所	<input type="checkbox"/>
発行所ロゴ	<input type="text"/> [ファイルを選択] 選択されていません 発行所ロゴ画像ファイルを指定します。publisherLogo.jpgとして画像フォルダにアップロードされます。 有効な画像の拡張子はjpg、jpegとなります。
メルマガ種別 *	<input checked="" type="radio"/> メルマガU ← メルマガの種別（テンプレート種類） メルマガの雛形を選択します。自動変換で見出しなどを正しく設定できるためには雛形にそって記述されている必要があります。
CSSテーマ	<input type="text"/> ノーマル明朝 (EPUB3)
iBooks向けメタ情報	<input type="checkbox"/>
メルマガテキスト *	<input type="text"/> [ファイルを選択] 選択されていません ← メルマガテキスト（ローカル） 変換対象のメルマガテキストファイルを指定します。
カバー画像	<input type="text"/> [ファイルを選択] 選択されていません EPUBの表紙に使う画像ファイルを指定します。指定がないとき出版物タイトルなどからカバー画像を自動生成します。 有効な画像の拡張子はjpg、jpeg、png、gifとなります。
<input type="button" value="メルマガをEPUB3に変換"/>	

\* のついていない項目も、EPUB のメタ情報などに必要なものもありますので、できるだけ入力してください。

- ・ 著者名 : EPUB のメタ情報に入ります。また、タイトルページにも出ます。
- ・ ISBN : EPUB のメタ情報に入ります。
- ・ 発行所 : チェックすると入力欄が出ます。タイトルページに出ます。

発行所	<input checked="" type="checkbox"/> ← チェックすると下の入力欄ができます
会社名 *	<input type="text"/>
住所 *	<input type="text"/>
電話番号 *	<input type="text"/>

- ・ 発行所ロゴ : タイトルページに出ます。[ファイルを選択] をクリックして、ロゴ画像ファイルを指定してください。
- ・ CSS テーマ : デザインテーマです。好みのものを使ってください。

- iBooks向けメタ情報：チェックすると、iBooksでCSSのフォント指定を有効にするためのメタ情報が入ります。
  - カバー画像：リーダーの書棚アイコンなどに表示される画像を指定します。[ファイルを選択]をクリックして、画像ファイルを指定してください。
- メルマガ種別は、現在、次の4つあります。メルマガは作者によって書き方ルールが異なるため、作者毎のルールを選択してください。
- メルマガK
  - メルマガH
  - メルマガT
  - メルマガU

ちなみに、この4つの種別は次の4つの有料メルマガの書き方に対応します。但し、作者が書き方を変えてしまうと、うまく変換できなくなりますので、ご注意ください。現在のところ、次の4種類のメルマガ以外を正しく変換することはできません。

- メルマガK：小寺信良の「金曜ランチボックス」（「夜間飛行」より配信）
- メルマガH：『堀江貴文のブログでは言えない話』
- メルマガT：津田大介の「メディアの現場」
- メルマガU：内田樹メールマガジン 大人の条件（「夜間飛行」より配信）

「マグマグ」より配信されているメルマガは、ファイルが分割されていますが、分割されたファイルはヘッダーとフッターを削除して、ひとつのファイルにまとめてからお試しください。

入力すべき項目をすべて入力してから、一番下の「メルマガをEPUBに変換」のボタンをクリックすると、変換が始まります。

変換には30秒～1分程度の時間がかかります。

#### 14.1.3 EPUB3ダウンロード

変換が完了すると次の画面になります。ブラウザのダウンロード機能を使ってEPUBをダウンロードできます。

The screenshot shows a web interface for publishing. At the top, there's a navigation bar with links to 'ホーム(出版物一覧)', 'ユーザー情報', '公開プロフィール', and 'ログアウト'. Below the navigation, the title '出版物 メルマガ変換確認 の生成確認' is displayed. Underneath the title, there's a horizontal menu bar with several icons: 記事編集, 外部データ入力, 画像, スタイルシート, 検索, 置換, 生成, and '他のメニュー'. A large blue button in the center of the page is labeled 'EPUB3ダウンロード'. In the bottom right corner of the page area, there's a small link 'Dropboxに保存'.

#### 14.2 メルマガ変換ルール

CAS-UBのメルマガEPUB変換では、「14.1.2 メルマガ変換機能のメニュー (p. 219)」の説

明にもありますように、メルマガの種別毎に変換ルールを用意しなければなりません。サービス利用してみたいというメルマガ作者の方は、メルマガ変換ルール作成についてご相談ください。

ここでは、サンプルに用意しているテンプレートの変換ルールについて、それぞれ解説します。

### 14.3 メルマガUテンプレート

☆メルマガUのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しどなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しへ「Untitled」となります。

☆ヘッダーページに限り、各行の行末に強制改行が入ります。

```
| メルマガ表題  
└□————  
2012年7月10日号
```

☆ヘッダーページの区切りは「└□————」ですが、その次の空行までが表題ページに入ります。

```
ご挨拶  
みなさんこんにちは。
```

☆前書ページのタイトルは「はじめに」（固定）となります。

```
いつもメルマガUをお読みいただきありがとうございます。  
=====  
今週の目次  
=====
```

☆目次というキーワードがある行を目次開始行と判断します。目次開始行が目次のタイトルとなります。目次開始行の前後の飾りは削除されます。

☆目次開始行の次の段落を目次の本文とします。

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1、2…」のような半角1桁または「01、02…」のような半角数字2桁とします。

```
01 メルマガUの構成
```

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。（一致していないときはリンクが設定されません。）

```
02 本文の書き方
```

- 03 小見出しの目印
- 04 その他の目印記号
- 05 最後の記事

☆空の行があるとそこで目次の終わりと見なします。

☆この行は、空行があるため、目次ページではなく、前書ページの一部となります。

#### 01 | メルマガの構成

メルマガは先頭からタイトルページ、前書、目次ページ、本文（複数の記事）、フッターページから構成されます。

EPUBに変換するとき、タイトルページ、前書、目次ページ、本文記事単位、ヘッダーページでファイルを分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印は、次のような飾りです。

#### 02 | 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しあは、上のような形式になっていることを想定しています。

##### ■段落切り

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

- (1) 前の行が半角66文字以上の長さがあると、前の行とつながります。
- (2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

##### ■段落間の空き

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

##### ■行頭の字下げ

EPUBのメルマガ標準スタイルシートは段落先頭の字下げは「なし」の設定になっています。段落先頭の字下げは、テキストに「　」（全角空白）を入力して行ってください。

☆特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

☆小見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるとき限り、小見出しどなります。

■見出し1

行頭が■で始まる行は見出しどなります。

第1回<のれん>

上のような「第+数字+回<テキスト>」形式の行も見出しどなります。

■URL の扱い

・画像、外部リンクともリンクを設定します。

○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regist-here.png>

<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

■箇条書き

箇条書きはありません。

■区切り線

2種類の区切り線を使うことができます。

1. "—" 細い罫線 (U+2500)
2. "—" ダッシュ (U+2015)

1.

---

2.

---

**■最後の記事の小見出し**

☆メルマガUの「フッター（奥付け）」開始は次の形式の罫線行です。



メルマガフッターには、「メルマガタイトル（奥付け）」を設定します。

メルマガの終わり

## 14.4 メルマガKテンプレート

### メルマガKテンプレート

☆メルマガKのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しどなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しへは「Untitled」となります。

☆ヘッダーページに限り、各行の行末に強制改行が入ります。

| メルマガヘッダー

□――

2012年7月10日号

☆ヘッダーページの区切りは「□――」ですが、その次の空行までが表題ページに入ります。

ご挨拶

みなさんこんにちは。

いつもメルマガKをお読みいただきありがとうございます。

☆前書ページのタイトルは「はじめに」（固定）となります。

今週の目次

☆目次というキーワードがある行を目次開始と判断します。目次開始行は目次のタイトルとなります。

☆目次開始行の次の段落を目次の本文とします。

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1、2…」のような半角1桁または「01、

02…」のような半角数字2桁とします。

### 01 メルマガKの構成

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。(一致していないときはリンクが設定されません。)

### 02 本文の書き方

### 03 見出しの目印

### 04 その他の目印記号

### 05 最後の記事

☆空の行があるとそこで目次の終わりと見なします。

☆この行は、空行があるため、目次ページではなく、前書ページの一部となります。

### 01 | メルマガKの構成

メルマガKは先頭からヘッダーページ、前書、目次ページ、本文（複数の記事）、フッターページから構成されます。

EPUBに変換するとき、ヘッダーページ、前書、目次ページ、本文記事単位、フッターページでファイルを分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印は、下のような飾りです。

### 02 | 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しある場合は、数字の後ろに改行以外の文字が必要です。該当する大見出しがないとき「Untitled」となります。

#### ■段落区切り

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

- (1) 前の行が半角66文字以上の長さがあると、前の行とつながります。
- (2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

#### ■段落間の空き

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

**■行頭の字下げ**

EPUB のメルマガ標準スタイルシートは段落先頭の字下げは「なし」の設定になっています。段落先頭の字下げは、テキストに「　」(全角空白) を入力して行なってください。

---

03 | 見出しの目印

---

## メルマガK独自の中見出し 記述方式

☆行の上下に下線 (U+FF3F)、上線 (U+FFE3) のある行はメルマガK独自の中見出しどなります。中見出しへは、EPUB3 の目次に入ります。また、見出し番号がつきます。

☆特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

**■小見出し1**

行頭が■で始まる行は小見出しえなります。

☆小見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるとき限り、小見出しどなります。

---

04 | その他の目印記号

---

**■URL の扱い**

- ・画像（拡張子 : png、jpg）へのリンクは、画像のダウンロードが許可されているとき画像を取り込みます。
- ・画像以外はリンクを設定します。短縮リンクは内容を見ません。

## ○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regist-here.png>  
<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

## ○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

**■箇条書き**

箇条書きはありません。

**■区切り線**

2種類の区切り線を使うことができます。

1. "—" 細い野線 (U+2500)
2. "=" 等号 (U+003D)

1.

---

2.

---

---

05 | 最後の記事

最後の記事の本文です。

☆メルマガKの「フッター（奥付け）」開始は「——」（細い罫線）行です。

メルマガフッターには、「メルマガタイトル（奥付け）」を設定します。

メルマガの終わり

## 14.5 メルマガTテンプレート

☆メルマガTのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトルと奥付けの見出しどなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しへは「Untitled」となります。

☆ヘッダーページでは各行の行末に強制改行を設定します。

☆メルマガTには前書ページはありません。

目次

☆目次というキーワードがある行がヘッダーページの終わりとなり、目次開始と判断します。目次開始行はそのまま、目次ページのタイトルとなります。

1. メルマガTの構成

2. 本文の書き方

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1.」のように半角数字とピリオドで区切ります。

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。（一致していないときはリンクが設定されません。）

## 3. 小見出しの目印

## 4. その他の目印記号

## 5. 最後の記事

☆目次の最後には改行を入れます。記事の見出しの前の行には罫線行（「—」）と改行を置きます。区切り目印でメルマガを記事単位に分割します。

☆ダッシュ（「—」 U+2015）が目次の最後（最初の章）の区切り目印です。

## 1. メルマガTの構成

メルマガTは先頭からヘッダーページ、目次ページ、本文（複数の記事）から構成されます。

EPUBに変換するとき、ヘッダーページ、目次ページ、本文は記事単位に分割します。

目次ページの開始目印は「目次」というキーワード、本文記事の分割目印はダッシュ（「—」 U+2015）または細罫線（「—」 U+2500）とそれに続く改行です。

## 2. 本文の書き方

☆記事の見出し（大見出し）の前後で改行します。大見出しあは、数字とピリオドで開始していかなければなりません。該当する大見出しがないとき見出しが「Untitled」となります。

## ■段落の区切り■

行頭が改行の行を空行と言います。行と行の間に一つ以上の空行を置くと段落の区切りとなります。前の行との間に空行のない行の扱いは次のようになります。

- (1) 前の行が半角68文字以上の長さがあると、前の行とつながります。
- (2) 前の行がそれより短いとき前の行の最後に強制改行が入ります。

☆タイトルページでは例外です。各行の行末に強制改行が入ります。

## ■段落間の空き■

段落間の空行はEPUBのメルマガ標準スタイルシートでは段落間の空きとして設定しています。

## ■行頭の字下げ■

EPUB の メルマガ 標準スタイルシート は 段落先頭 の 字下げ は 「なし」 の 設定 に なっています。段落先頭 の 字下げ は、テキスト に 「 」 (全角空白) を 入力 し 行なってください。

☆各章の最後は、ダッシュ (「—」 U+2015) または細罫線 (「—」 U+2500) で区切れます。章の区切りは削除されます。

### 3. 小見出しの目印

特定の記号を小見出しのための目印として使うことができます。

☆見出しの前には空行が必要です。また、記事の終わりの区切りまでに文章があるときに限り、見出しどなります。

#### ■見出し 1 ■

行頭と行末を ■ で囲った行は見出しどなります。

#### ■Q1

行頭の 「■」 から 「Q」 と 「数字」 まで 小見出しどなります。

#### □A1

行頭の 「□」 と 「A」 と 「数字」 まで 小見出しどなります。

#### ▼人名

行頭の 「▼」 は 人名 を 見出しどにする ことを 意味 します。著者プロフィールなどに 使います。

#### ==見出し 2 ==

見出しおの本文です。

#### ==見出し 3 ==

【TV ラジオ】

★NHK 明日の明かり (再放送)

#### <見出し 4 >

行頭の 「<」 と 行末の 「>」 で 囲った 範囲 が 見出しどなります。

### 4. その他の目印記号

<URL の扱い >

- ・画像（拡張子：png、jpg）へのリンクは、画像のダウンロードが許可されているとき画像を取り込みます。
- ・画像以外はリンクを設定します。短縮リンクは内容を見ません。

○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regisit-here.png>  
<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

<注釈>

注釈の合印[\*1]と、注釈の項目番号との間の相互リンクを張ります。

<箇条書き>

箇条書きはありません。

<区切り線>

次の記号の繰り返しを区切り線として使うことができます。

1.

+++++

2.

=====

3.

-----.

4. 太い罫線（「—」 U+2501）

---

[\*1] <http://www.cas-ub.com>  
(注釈の項目は記事の最後でなければなりません。)

---

5. 最後の記事

☆メルマガTには「フッター（奥付け）」に相当する記事がありません。

メルマガの終わり

## 14.6 メルマガHテンプレート

☆メルマガHのテンプレートのサンプル兼解説です。

☆メルマガファイルの先頭行に「」で囲った文字列があると、それがメルマガのタイトル

と奥付けの見出しどなります。「」で囲った文字がないとタイトルの見出しへ「Untitled」となります。

☆ヘッダーページでは各行の行末に強制改行を設定します。

☆ヘッダーページと前書の間には、罫線行を置きます。罫線行は削除されません。

ご挨拶  
本文1行目

☆罫線行の次がメルマガの前書ページとなります。前書ページのタイトルは「はじめに」固定となります。

あいさつ本文2行目

あいさつ本文3行目

目次

☆目次というキーワードがある行が目次の開始行となります。目次開始行は目次のタイトルとなります。

1. メルマガHの構成  
2. 本文の書き方

☆目次項目には行頭に番号をつけます。番号は「1.」のように半角数字とピリオドで区切ります。

☆目次項目と本文の見出しが一致しているとき、リンクを自動的に設定します。(一致していないときはリンクが設定されません。)

3. 小見出しの目印  
4. その他の目印記号



☆目次の最後には改行を入れます。記事の見出しの前の行には「■□」からなる区切りの目印を置きます。区切り目印でメルマガを記事単位に分割します。

■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□  
1. メルマガHの構成

メルマガHは先頭からヘッダーページ、前書、目次ページ、本文（複数の記事）、フッターページから構成されます。



『見出し3』（補足）

行頭から『テキスト』（テキスト）という形式の文章は、括弧を削除せず見出しことで設定します。

『見出し3』

『』で囲っただけでは見出しえません。

《見出し4》

改行に続く「《」と「》」で囲ったテキストは見出しえなります。

【見出し6】

行頭の「【」と連続する行の行末「】」で囲った範囲が見出しえなります。

【見出し6 続く】

【第73回に続く】

文章が入るとき。

【SNS燃焼実験動画】

行頭の「【」と連続する行の行末「】」で囲った範囲が見出しえなります。次の【第73回に続く】は、前に改行がありますが、後ろのに文章がないので小見出しえなりません。

【第73回に続ける】



4. その他の目印記号

【URLの扱い】

- ・画像（拡張子：png、jpg）へのリンクは、ダウンロードが許可されている場合に、画像を取り込みます。（ダウンロードが許可されていない場合、取り込めません。）
- ・画像以外はリンクを設定します。短縮リンクは内容を見ません。

○画像

<http://www.cas-ub.com/user/img/regist-here.png>

<http://www.cas-ub.com/project/cover/cover-150.jpg>

○外部リンク

<http://www.cas-ub.com>

★pngが取り込まれない。

【箇条書き】

行頭の「◆」を箇条書き項目の目印と見なします。

◆箇条書き1

◆箇条書き2

**◆箇条書き 3**

行頭の「・」を箇条書き項目の目印と見なします。

- ・箇条書き

- ・箇条書き 2

- ・箇条書き 3

★最初の箇条書きと二つ目の箇条書きの違いは？

【区切り線】

ハイフンの連続は区切り線と見なします。

1.

-----

2.

-----

3.

----

【罫線】

最後の記事の次にでてきた細い罫線「—」の位置から後ろをメルマガの奥付け（フッター）とします。奥付けのタイトルは、メルマガの先頭行の「」で括った文字列となります。

1. 細い罫線（「—」）

-----

2. 太い罫線（「—」）

-----

メルマガの終わり



# 第15章 その他の情報・設定など

## 15.1 公開プロフィール

出版物に記載するプロフィールを「公開プロフィール」に登録しておくと、出版物毎にプロフィールを入力する手間を軽減できます。

### 15.1.1 公開プロフィールの登録

登録は、画面右上にある「公開プロフィール」をクリックしてください。

The screenshot shows the CAS-UB system interface. At the top, there is a navigation bar with links for 'User Information', 'Public Profile' (which is circled in red), and 'Logout'. Below the navigation bar, there is a sub-menu with links for 'New Publication Creation', 'Word Conversion', 'Mail Conversion', 'Disk Usage', and 'CAS-UB Correction Information'. The main content area displays a message: 'supportさんの著者ページ' (Author page for support).

プロフィールを入力したら、[保存] ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the 'Edit Public Profile' form. The title is '公開用プロフィール編集'. The form contains the following fields:

- 名前 (ペンネーム): 'supprt'
- フリガナ: 'サポート'
- プロフィール (800文字まで): 'CAS-UBのユーザーサポート担当'
- 所属・肩書き: 'CAS-UBチーム'
- 公開する連絡先 (メールアドレス、電話、住所など): 'cas-support@antenna.co.jp'

At the bottom right of the form is a '保存' (Save) button.

### 15.1.2 公開プロフィールの参照

登録した公開プロフィールは、書誌編集画面の 3.24.3 プロフィール (p. 53) の入力時に参照できます。

また、他の人がオーナーの出版物の編集チームに入っているときは、編集チームに入っている出版物の「書誌情報」からも参照されます。

公開プロフィールの参照は、書誌編集画面の「3.24.3 プロフィール (p. 53)」で、著者などのプロフィール追加時に[チームメンバーの公開プロフィールをコピー]ボタンをクリックしてください。

**出版物プロフィール編集トップ**

<b>著者</b>					
名前(ベンネーム)	フリガナ	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	処理
[追加]					
[チームメンバーの公開プロフィールをコピーする]					
戻る					

公開プロフィールが登録されている、執筆チームメンバーは、ユーザー名の左にチェックボックスが出ますので、公開プロフィールをコピーしたいメンバーをチェックしてから[コピー]ボタンをクリックすると、プロフィールがコピーされます。

**チームメンバーの公開プロフィールのコピー**

コピーするチームメンバーを選んでください。

ユーザー名	名前	プロフィール
<input checked="" type="checkbox"/> seminar01	seminar01	CAS-UB トレーニングセミナー担当
<input checked="" type="checkbox"/> support	supprt	CAS-UB のユーザーサポート担当

公開プロフィールをコピーしたいメンバーにチェックを付けて [コピー] をクリック

[コピー]

戻る

**プロフィール**

ここに指定したものを表紙や奥付に出力します。

著者	名前(ベン ネーム)	プロフィール	所属・肩書き	連絡先	編集
	seminar01	CAS-UB トレーニングセミナー 担当	CAS-UB チー ム		
	supprt	CAS-UB のユーザーサポート担 当	CAS-UB チー ム	cas-support@antenna.co.jp	

## 15.2 出版物のオーナー

出版物を新規に作成すると、作成者が、その出版物のオーナーとなります。

以下の操作は、出版物のオーナーだけが行えます。

- 「書誌情報」の入力・修正 (p. 51)
- オーナー変更 (p. 239)

- タイムゾーンの変更 (p. 239)
- 執筆チームメンバーの追加・削除 (p. 240)
- 出版物のバックアップ (p. 94)・リストア (p. 96)

### 15.2.1 オーナー変更

他のCASユーザーを、出版物のオーナーにします。

オーナーを変更したい出版物の書誌編集画面でオーナー名（あなたのユーザー名が表示されています）の右にある[オーナー変更]ボタンをクリックすると、出版物オーナー変更画面に移ります。

The screenshot shows three main panels. The top panel is a navigation bar with various links like '記事編集', '外部データ入力', '画像', etc., and a 'その他メニュー' dropdown. The middle panel is titled '書誌情報' and has a teal header '全般'. It shows the current owner as 'support' and a field for a new owner named 'support02'. A '変更' (Change) button is highlighted with a cursor. The bottom panel is titled '出版物オーナー変更' and shows the old owner 'support' and the new owner 'support02' again, with a '戻る' (Return) button at the bottom.

新オーナー名の欄に、新オーナーのユーザー名を入力して[変更]ボタンをクリックすると、その出版物のオーナーが変更されて書誌編集画面に戻ります。既にあなたは、その出版物のオーナーではないので[オーナー変更]ボタンは表示されませんし、書誌情報の入力・修正はできなくなっています。

### 15.2.2 タイムゾーン

タイムゾーンは、日本の場合、GMT+9を指定してください。

タイムゾーンの変更は、書誌編集画面に入り、一般の最後にあるタイムゾーンのドロップダウンから選択します。書誌編集画面の下端にある[保存]ボタンをクリックすると、変更が保存されます。

The screenshot shows a search bar with 'キーワード' and a note '100文字まで' (Up to 100 characters). Below it is a dropdown menu for 'タイムゾーン' set to 'GMT+9'. A note says '例 日本標準時は、GMT+9。アメリカ東部標準時は、GMT-5。'. At the bottom is a teal header '執筆チームメンバー' and a note 'すでにある出版物からチームメンバーをコピーする'.

関連 3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51)、15.3 執筆チームメンバー

### 15.3 執筆チームメンバー

CAS-UB では、ひとつの出版物を、複数の著者や編集者によって制作できます。

複数で出版物を制作するときは、出版物のオーナー (p. 238) が、他のメンバーを執筆チームメンバーに追加してください。

執筆チームメンバーの追加は、表紙と奥付に使われる項目の入力画面 (p. 51) の「執筆チームメンバー」で、ユーザー名という表示の右にある [編集] ボタンをクリックしてください、チームメンバー編集画面に移ります。

The screenshot shows the 'Edit Team Member' page. At the top, there is a navigation bar with various buttons like '記事編集', '外部データ入力', '画像', 'スタイルシート', '検索', '置換', '生成', 'その他メニュー', 'ホーム(出版物一覧)', '書誌編集', '出版物設定', '参考文献', 'インクルード', 'フォント', '更新ログ', and 'ゴミ箱'. Below the navigation bar, there is a teal header bar with the title '執筆チームメンバー'. Underneath it, there is a button labeled 'すでにある出版物からチームメンバーをコピーする'. The main area has a light blue background. It contains a table with one row:

ユーザー名	名前	メール	許可	処理
support	supprt	support@antenna.jp	L E G S	<a href="#">編集</a> <a href="#">削除</a>

Below the table, there is a note about permissions: 'L: チームメンバーリストに出す E: 編集可能 G: 生成可能 S: 生成の設定可能'. Then, there is a form for adding a new member:

追加したいユーザー名

追加したいユーザー名の欄にユーザー名を入力して [追加] ボタンをクリックすると、そのユーザー名が執筆チームメンバーに追加されます。

通知:  
• チームメンバーを追加しました。

### チームメンバー編集トップ

ユーザー名	名前	メール	許可	処理
support	supprt	support@antenna.jp	L E G S	<a href="#">編集</a> <a href="#">削除</a>
support01	不明	cas-support01@antenna.co.jp	L E G S	<a href="#">編集</a> <a href="#">削除</a>

バーミッション:  
L: チームメンバーリストに出す E: 編集可能 G: 生成可能 S: 生成の設定可能

執筆チームメンバーを削除したいときは、ユーザー名の右にある 削除 をクリックしてください。

また、執筆チームメンバーの権限を制限ができます。ユーザー名の右にある 編集 をクリックすると、チームメンバー編集画面に移ります。

### チームメンバー編集

support01

チームメンバーリストに出す  
 編集可能  
 生成可能  
 生成の設定が可能

[保存](#) [戻る](#)

- チームメンバーリストに出す：チェックを外すと、オーナー以外は、この人がメンバーであることを確認できなくなります。
- 編集可能：チェックを外すと、記事を編集する権限がなくなります。
- 生成可能：チェックを外すと、PDF や EPUB を生成する権限がなくなります。
- 生成の設定が可能：チェックを外すと、PDF や EPUB の生成で、設定を変更する権限がなくなります。

権限を変更したら、[保存] ボタンをクリックしてください。チームメンバー編集画面に戻ります。

関 連 3.24 表紙と奥付に使われる項目の入力 (p. 51)、15.2 出版物のオーナー (p. 238)

## 15.4 他の出版物の設定をコピーする

出版物新規作成 (p. 20) で、作成方法に「他の出版物の設定をコピーする」「他の出版物の設定と内容をコピーする」を指定したとき、次の設定が「設定コピー元出版物」からコピ

一されます。

- 出版物の種類
- 内容表示のテーマ (p. 38)
- 書誌情報 (p. 51) : 「オーナー名」「出版物識別名」「出版物タイトル」を除く、すべての設定。
- 生成 (p. 60) : 生成のすべての条件設定

## 15.5 記事のファイル名

記事のファイル名は、記事の追加 (p. 29) 時の日時から自動的に設定されますが、変更もできます。

ファイル名には、半角英数字と '-' だけが使用できます。

また、自動生成される記事で使用されるファイル名は指定できません。

### 15.5.1 使用できないファイル名

- publ
- publ-index
- opening
- cover
- nav
- toc
- mltoc
- loft
- copyright
- xnotes
- references

## 15.6 S V G 記事

EPUB3 では、XHTML と同様に SVG ファイルをひとつのページとして入れることができます。これを使うと、全画面をひとつの SVG 画像で表すことができます。CAS-UB では、SVG 記事でこれに対応しています。

SVG 記事は、通常の記事と同様に、記事編集画面 (p. 23) から作成できます。

SVG ファイルは、画像画面でアップロードしたものを使うか、SVG 記事の作成時にアップロードできます。SVG 記事の作成時にアップロードした SVG ファイルは画像画面には登録されませんので、SVG 画像を他の記事でも利用するときは、画像画面にアップロードしてから SVG 記事を作成してください。

SVG 記事のタイトルは本文には表示されませんが、目次に出すことはできます。SVG 記事のタイトルを目次に出したいときは、記事編集画面で、画面下側にある「タイトルを目次に出

力する」をチェックして〔保存〕ボタンをクリックしてください。

- 注 意**
- ・SVG記事が表示できるかどうかはリーダーに依存します。
  - ・SVG記事は、EPUB3以外では、生成時にXHTMLを被せて出力します。

## 15.7 参考文献の自動生成

CAS-UBでは、bibファイルから参考文献の一覧を自動生成できます。

### 15.7.1 bibファイルの登録

bibファイルは、参考文献画面でアップロードしてください。



bibファイル内容は、PDFやEPUBの生成時に「参考文献」のページとして自動生成され、参考文献データはbibファイル内の登録順に出力されます。

bibファイルを複数アップロードしたときは、参考文献画面での登録順に出力されます。

### 15.7.2 出力される参考文献データの項目

参考文献データを構成する項目をフィールドと呼びます。bibファイルのフィールドの順序によらず、CAS-UBでは次の順序で出力します。現在、ユーザーによる順序変更の機能はありません。また、ここに書かれていないフィールドは出力されませんが、カスタマイズは可能ですので、お問い合わせください。

#### (1) 和書の場合（日本語用の出版物の種類を使用したとき）

author editor 編 「title」 『journal』 『booktitle』 publisher year 年 month 月 pages  
和書ではフィールド間を空白で区切れます。

出版物の言語に関係なく常に和書の配置にしたいときは、lang フィールドを追加して、  
lang = {ja} としてください。

#### (2) 洋書の場合（英語用の出版物の種類を使用したとき）

author. editor ed. “title.” journal. booktitle. address: publisher. month  
year. pages.

※ month は数字ではなく、文字列の短縮形で表します。

洋書ではフィールド間の区切りに' .+空白' を置きます。

出版物の言語に関係なく常に洋書の配置にしたいときは、lang フィールドを追加して、  
lang = {en} としてください。

### 15.7.3 参考文献のレイアウト

EPUBで参考文献のレイアウトを変更する場合、下記をふまえてCSSを作成してください。

- ・参考文献の記事は、XHTMLのbody要素のclass属性の値（クラス名）に、referencesが設定されます。

- 例 : <body class="wrapper references">
- 参考文献の一覧は、番号なし箇条書きとしています。
  - li 要素の class 属性の値に、bib-entry が設定されます。  
例 :  
<ul>  
<li class="bib-entry" id="u.references.antenna2013.r">
  - 各フィールドデータは、span 要素の class 属性の値に 'bib-value-' + フィールド名' が設定されます。  
例 :  
author フィールドの場合、  
<span class="bib-value-author">アンテナハウス</span>

#### 15.7.4 参考文献の参照

参考文献画面で、bib ファイルをアップロードしておくと、ID 参照 (p. 168) で、参考文献の ID が一覧されます。本文から参考文献を参照するときは、ID 参照で参照したい参考文献の ID を選んで CAS 記法を取り込んでください。

### 15.8 数式の記述

数式の表現には、MathML、LaTeX(AMSLaTeX) を使えます。

#### 15.8.1 MathML

- \$\$～\$\$ の間に置くことができる<math>要素はひとつだけです。<math>要素が二つ以上あるとエラーになります。
- <math>要素には名前空間を設定してください。名前空間を設定しないと EPUBCheck でエラーになります。

#### 名前空間設定例

```
<math xmlns="http://www.w3.org/1998/Math/MathML">
```

#### 15.8.2 LaTeX

- LaTeX にはドキュメントを記述する命令があります。しかし、CAS-UB では数式モードの中でドキュメント本文に属するテキストを入力しても命令としては扱われません。数式の途中でテキストを入力するときは、数式モードをいったん終了してからテキストを入力し、再び数式モードに切り替えて数式を入力しなければなりません。
- CAS-UB は、PDF と EPUB3 生成時に LaTeX コマンドを MathML に変換します。変換ができる LaTeX のコマンドは付録の「数式リファレンス」を参照してください。

## 15.9 EPUB3 の目次

EPUB3 には、次の目次を入れることができます。

- **nav**

リーディングシステムでナビゲーションに使われる目次で、EPUB3 には必須です。

nav には論理目次とランドマークを入れることができます。

- 論理目次： 章や節などのタイトルと見出しで構成された目次です。

- ランドマーク： 表紙や目次、索引など大まかなパートのみで構成されます。

- **EPUB2 と互換の目次**

リーディングシステムによっては、EPUB2 と互換の目次（NCX 形式）を必要とするものがあるため、含めてもよいことになっています。内容は nav の論理目次と同様の構成となります。

- **本文の目次**

通常の記事と同様に本文の一部として表示する目次です。CAS-UB で自動生成しますが、通常の記事と同様に手作業で作成もできます。

自動生成の場合は、nav の論理目次とは別に目次を生成するレベルを指定できます。

手作業で作成した目次には記事の種類に「ユーザー作成目次」を指定してください。ユーザー作成目次があると自動生成しません。

関 連 3.27 EPUB の生成設定 (p. 62)

## 15.10 自動生成記事のタイトル変更

自動生成の記事のタイトルは、表紙／タイトルページ以外の記事のタイトルを任意に指定できます。

出版物設定⇒自動生成記事のタイトル設定の各記事の種類でタイトルに表示するテキストを入力してください。

- 目次

- 索引

- 図表一覧

- 図表一覧 図一覧

- 図表一覧 表一覧

- 卷末注釈

- 参考文献

の入力枠に任意のタイトルを入力します。



## 付録：数式リファレンス

### Symbols & Environments

- %
- &
- ^
- \_
- {
- }
- ~
- ¥!
- ¥#
- ¥\$
- ¥%
- ¥;
- ¥,
- ¥
- ¥&
- ¥,
- ¥:
- ¥>
- ¥¥
- ¥\_
- ¥{
- ¥|
- ¥}
- align
- align\*
- array
- Bmatrix
- bmatrix
- cases
- eqnarray
- eqnarray\*
- matrix
- pmatrix
- smallmatrix
- subarray
- Vmatrix
- vmatrix

### A

- ¥above
- ¥abovewithdelims
- ¥acute
- ¥aleph
- ¥alpha
- ¥amalg
- ¥And
- ¥angle
- ¥approx
- ¥approxeq
- ¥arccos
- ¥arcsin
- ¥arctan
- ¥arg
- ¥array
- ¥Arrowvert
- ¥arrowvert
- ¥ast
- ¥asymp
- ¥atop
- ¥atopwithdelims

### B

- ¥backepsilon
- ¥backprime
- ¥backsimeq
- ¥backslash
- ¥backslash
- ¥bar

- $\mathbb{Y}$ barwedge
  - $\mathbb{Y}$ Bbb
  - $\mathbb{Y}$ Bbbk
  - $\mathbb{Y}$ because
  - $\mathbb{Y}$ begin
  - $\mathbb{Y}$ beta
  - $\mathbb{Y}$ beth
  - $\mathbb{Y}$ between
  - $\mathbb{Y}$ bigcap
  - $\mathbb{Y}$ bigcirc
  - $\mathbb{Y}$ bigcup
  - $\mathbb{Y}$ Biggl
  - $\mathbb{Y}$ biggl
  - $\mathbb{Y}$ Biggr
  - $\mathbb{Y}$ biggr
  - $\mathbb{Y}$ Bigl
  - $\mathbb{Y}$ bigl
  - $\mathbb{Y}$ bigodot
  - $\mathbb{Y}$ bigoplus
  - $\mathbb{Y}$ bigotimes
  - $\mathbb{Y}$ Bigr
  - $\mathbb{Y}$ bigr
  - $\mathbb{Y}$ bigsqcup
  - $\mathbb{Y}$ bigstar
  - $\mathbb{Y}$ bigtriangledown
  - $\mathbb{Y}$ bigtriangleup
  - $\mathbb{Y}$ biguplus
  - $\mathbb{Y}$ bigvee
  - $\mathbb{Y}$ bigwedge
  - $\mathbb{Y}$ binom
  - $\mathbb{Y}$ blacklozenge
  - $\mathbb{Y}$ blacksquare
  - $\mathbb{Y}$ blacktriangle
  - $\mathbb{Y}$ blacktriangledown
  - $\mathbb{Y}$ blacktriangleleft
  - $\mathbb{Y}$ blacktriangleright
  - $\mathbb{Y}$ bmod
  - $\mathbb{Y}$ boldsymbol
  - $\mathbb{Y}$ boxed
  - $\mathbb{Y}$ bot
  - $\mathbb{Y}$ bowtie
  - $\mathbb{Y}$ Box
  - $\mathbb{Y}$ boxdot
  - $\mathbb{Y}$ boxminus
  - $\mathbb{Y}$ boxplus
  - $\mathbb{Y}$ boxtimes
  - $\mathbb{Y}$ brace
  - $\mathbb{Y}$ bracevert
  - $\mathbb{Y}$ brack
  - $\mathbb{Y}$ breve
  - $\mathbb{Y}$ bullet
  - $\mathbb{Y}$ Bumpeq
  - $\mathbb{Y}$ bumpeq
- C
- $\mathbb{Y}$ cal
  - $\mathbb{Y}$ Cap
  - $\mathbb{Y}$ cap
  - $\mathbb{Y}$ cases
  - $\mathbb{Y}$ cdot
  - $\mathbb{Y}$ cdots
  - $\mathbb{Y}$ centerdot
  - $\mathbb{Y}$ check
  - $\mathbb{Y}$ chekmark
  - $\mathbb{Y}$ chi
  - $\mathbb{Y}$ choose
  - $\mathbb{Y}$ circledR
  - $\mathbb{Y}$ circ
  - $\mathbb{Y}$ circeq
  - $\mathbb{Y}$ circlearrowleft
  - $\mathbb{Y}$ circlearrowright
  - $\mathbb{Y}$ circledast
  - $\mathbb{Y}$ circledcirc
  - $\mathbb{Y}$ circleddash
  - $\mathbb{Y}$ circledS
  - $\mathbb{Y}$ clubsuit
  - $\mathbb{Y}$ colon
  - $\mathbb{Y}$ complement

- $\$cong$
- $\$coprod$
- $\$cos$
- $\$cosh$
- $\$cot$
- $\$coth$
- $\$cr$
- $\$csc$
- $\$cup$
- $\$Cup$
- $\$curlyeqprec$
- $\$curlyeqsucc$
- $\$curlyvee$
- $\$curlywedge$
- $\$curvearrowleft$
- $\$curvearrowright$

## D

- $\$dagger$
- $\$daleth$
- $\$dashleftarrow$
- $\$dashrightarrow$
- $\$dashv$
- $\$dbinom$
- $\$ddagger$
- $\$ddot$
- $\$dddot$
- $\$ddots$
- $\$deg$
- $\$Delta$
- $\$delta$
- $\$det$
- $\$diagdown$
- $\$diagup$
- $\$diamond$
- $\$Diamond$
- $\$diamondsuit$
- $\$digamma$
- $\$dim$
- $\$displaylines$
- $\$div$
- $\$divideontimes$
- $\$dot$
- $\$Doteq$
- $\$doteq$
- $\$doteqdot$
- $\$dotplus$
- $\$dots$
- $\$dotsb$
- $\$dotsc$
- $\$dotsi$
- $\$dotsm$
- $\$dotso$
- $\$doublebarwedge$
- $\$doublecap$
- $\$doublecup$
- $\$downharpoonright$
- $\$Downarrow$
- $\$downarrow$
- $\$downdownarrows$
- $\$downharpoonleft$

## E

- $\$ell$
- $\$emptyset$
- $\$end$
- $\$enspace$
- $\$epsilon$
- $\$eqalign$
- $\$eqalignno$
- $\$eqcirc$
- $\$eqsim$
- $\$eqslantgtr$
- $\$eqslantless$
- $\$equiv$
- $\$eta$
- $\$eth$

- $\exists$  exists
- $\exp$
- $\text{fallingdotseq}$
- $\fbox$
- $\mathrm{Finv}$
- $\mathrm{flat}$
- $\mathrm{forall}$
- $\mathrm{frac}$
- $\mathrm{frac}$
- $\mathrm{frak}$
- $\mathrm{frown}$
- $\mathrm{Game}$
- $\mathrm{Gamma}$
- $\mathrm{gamma}$
- $\mathrm{gcd}$
- $\mathrm{ge}$
- $\mathrm{geq}$
- $\mathrm{geqq}$
- $\mathrm{geqslant}$
- $\mathrm{gets}$
- $\mathrm{gg}$
- $\mathrm{ggg}$
- $\mathrm{gimel}$
- $\mathrm{gnapprox}$
- $\mathrm{gneq}$
- $\mathrm{gneqq}$
- $\mathrm{gnsim}$
- $\mathrm{grave}$
- $\mathrm{gt}$
- $\mathrm{gtrapprox}$
- $\mathrm{gtrdot}$
- $\mathrm{gtreqless}$
- $\mathrm{gtreqqless}$
- $\mathrm{gtrless}$
- $\mathrm{gtrsimeq}$
- $\mathrm{gvertneqq}$
- $\mathrm{hat}$
- $\mathrm{hbar}$
- $\mathrm{hbox}$
- $\mathrm{hline}$
- $\mathrm{hline}$
- $\mathrm{hom}$
- $\mathrm{hookleftarrow}$
- $\mathrm{hookrightarrow}$
- $\mathrm{phantom}$
- $\mathrm{href}$
- $\mathrm{hskip}$
- $\mathrm{hslash}$
- $\mathrm{hspace}$
- $\mathrm{idotsint}$
- $\mathrm{iiff}$
- $\mathrm{iiint}$
- $\mathrm{iiint}$
- $\mathrm{int}$
- $\mathrm{Im}$
- $\mathrm{imath}$
- $\mathrm{impliedby}$
- $\mathrm{implies}$
- $\mathrm{in}$
- $\mathrm{inf}$
- $\mathrm{infty}$
- $\mathrm{injlim}$
- $\mathrm{int}$
- $\mathrm{intercal}$
- $\mathrm{intop}$
- $\mathrm{iota}$
- $\mathrm{jmath}$

- $\$Join$
- $\$kappa$
- $\$ker$
- $\$kern$
- $\$Lambda$
- $\$lambda$
- $\$land$
- $\$langle$
- $\$lbrace$
- $\$lbrack$
- $\$lceil$
- $\$dotp$
- $\$dots$
- $\$le$
- $\$leadsto$
- $\$left$
- $\$Leftarrow$
- $\$leftarrow$
- $\$leftarrowtail$
- $\$leftharpoondown$
- $\$leftharpoonup$
- $\$leftleftarrows$
- $\$Leftrightarrow$
- $\$leftrightharpoons$
- $\$leftrightsquigarrow$
- $\$leftthreetimes$
- $\$leq$
- $\$leqq$
- $\$eqslant$
- $\$lessapprox$
- $\$lessdot$
- $\$lesseqtr$
- $\$lesseqgtr$
- $\$lessgtr$
- $\$lessim$
- $\$lfloor$
- $\$lg$
- $\$lgroup$
- $\$lhd$
- $\$lim$
- $\$liminf$
- $\$limsup$
- $\$ll$
- $\$llcorner$
- $\$Leftarrow$
- $\$lhd$
- $\$moustache$
- $\$ln$
- $\$napprox$
- $\$neq$
- $\$neqq$
- $\$not$
- $\$nsim$
- $\$log$
- $\$Longleftarrow$
- $\$longleftarrow$
- $\$Longleftrightarrow$
- $\$longleftrightarrow$
- $\$longmapsto$
- $\$Longrightarrow$
- $\$longrightarrow$
- $\$looparrowleft$
- $\$looparrowright$
- $\$lor$
- $\$lozenge$
- $\$lrcorner$
- $\$Lsh$
- $\$lt$
- $\$ltimes$
- $\$lVert$
- $\$lvert$
- $\$lvertneqq$

- $\mathbb{L}$ lless
  - $\mathbb{N}$ i
  - $\mathbb{N}$ Leftarrow
  - $\mathbb{N}$ Leftarrow
  - $\mathbb{N}$ Leftrightarrow
  - $\mathbb{N}$ leftrightharow
  - $\mathbb{N}$ leq
  - $\mathbb{N}$ leqq
  - $\mathbb{N}$ eqslant
  - $\mathbb{N}$ less
  - $\mathbb{N}$ mid
  - $\mathbb{N}$ not
  - $\mathbb{N}$ notin
  - $\mathbb{N}$ parallel
  - $\mathbb{N}$ prec
  - $\mathbb{N}$ preceq
  - $\mathbb{N}$ rightarrow
  - $\mathbb{N}$ rightarrow
  - $\mathbb{N}$ shortparallel
  - $\mathbb{N}$ shortmid
  - $\mathbb{N}$ sim
  - $\mathbb{N}$ subseteq
  - $\mathbb{N}$ supseteq
  - $\mathbb{N}$ subseteqeq
  - $\mathbb{N}$ subseteqqq
  - $\mathbb{N}$ succ
  - $\mathbb{N}$ succeq
  - $\mathbb{N}$ supseteqqq
  - $\mathbb{N}$ triangleleft
  - $\mathbb{N}$ trianglelefteq
  - $\mathbb{N}$ triangleright
  - $\mathbb{N}$ trianglerighteq
  - $\mathbb{N}$ nu
  - $\mathbb{N}$ VDash
  - $\mathbb{N}$ Vdash
  - $\mathbb{N}$ vDash
  - $\mathbb{N}$ vDash
  - $\mathbb{N}$ warrow
- M
- $\mathbb{M}$ altese
  - $\mathbb{M}$ apsto
  - $\mathbb{M}$ athbb
  - $\mathbb{M}$ athbf
  - $\mathbb{M}$ athcal
  - $\mathbb{M}$ athfrak
  - $\mathbb{M}$ atrix
  - $\mathbb{M}$ ax
  - $\mathbb{M}$ box
  - $\mathbb{M}$ easuredangle
  - $\mathbb{M}$ ho
  - $\mathbb{M}$ id
  - $\mathbb{M}$ in
  - $\mathbb{M}$ kern
  - $\mathbb{M}$ od
  - $\mathbb{M}$ odels
  - $\mathbb{M}$ p
  - $\mathbb{M}$ skip
  - $\mathbb{M}$ space
  - $\mathbb{M}$ u
  - $\mathbb{M}$ ultimap
- N
- $\mathbb{N}$ abla
  - $\mathbb{N}$ natural
  - $\mathbb{N}$ cong
  - $\mathbb{N}$ e
  - $\mathbb{N}$ earrow
  - $\mathbb{N}$ eg
  - $\mathbb{N}$ eq
  - $\mathbb{N}$ ewline
  - $\mathbb{N}$ exists
  - $\mathbb{N}$ geq
  - $\mathbb{N}$ geqq
  - $\mathbb{N}$ eqslant
  - $\mathbb{N}$ geqlant
  - $\mathbb{N}$ gr
  - $\mathbb{N}$ Leftarrow
  - $\mathbb{N}$ Leftarrow
  - $\mathbb{N}$ Leftrightarrow
  - $\mathbb{N}$ leftrightharow
  - $\mathbb{N}$ leq
  - $\mathbb{N}$ leqq
  - $\mathbb{N}$ eqslant
  - $\mathbb{N}$ less
  - $\mathbb{N}$ mid
  - $\mathbb{N}$ not
  - $\mathbb{N}$ notin
  - $\mathbb{N}$ parallel
  - $\mathbb{N}$ prec
  - $\mathbb{N}$ preceq
  - $\mathbb{N}$ rightarrow
  - $\mathbb{N}$ rightarrow
  - $\mathbb{N}$ shortparallel
  - $\mathbb{N}$ shortmid
  - $\mathbb{N}$ sim
  - $\mathbb{N}$ subseteq
  - $\mathbb{N}$ supseteq
  - $\mathbb{N}$ subseteqeq
  - $\mathbb{N}$ subseteqqq
  - $\mathbb{N}$ succ
  - $\mathbb{N}$ succeq
  - $\mathbb{N}$ supseteqqq
  - $\mathbb{N}$ triangleleft
  - $\mathbb{N}$ trianglelefteq
  - $\mathbb{N}$ triangleright
  - $\mathbb{N}$ trianglerighteq
  - $\mathbb{N}$ nu
  - $\mathbb{N}$ VDash
  - $\mathbb{N}$ Vdash
  - $\mathbb{N}$ vDash
  - $\mathbb{N}$ vDash
  - $\mathbb{N}$ warrow
- 0
- $\mathbb{O}$ dot

- $\$oint$
- $\$Omega$
- $\$_omega$
- $\$ominus$
- $\$oplus$
- $\$oslash$
- $\$otimes$
- $\$over$
- $\$overbrace$
- $\$overleftarrow$
- $\$overleftrightarrow$
- $\$overrightarrow$
- $\$overset$
- $\$overwithdelims$
- $\$owns$
  
- P
- $\$parallel$
- $\$partial$
- $\$perp$
- $\$phantom$
- $\$Phi$
- $\$phi$
- $\$Pi$
- $\$pi$
- $\$pitchfork$
- $\$pm$
- $\$pmod$
- $\$pod$
- $\$Pr$
- $\$prec$
- $\$precapprox$
- $\$preccurlyeq$
- $\$preceq$
- $\$precnapprox$
- $\$precnsim$
- $\$precsim$
- $\$prime$
- $\$prod$
  
- R
- $\$projlim$
- $\$proto$
- $\$Psi$
- $\$psi$
  
- $\$rangle$
- $\$rbrace$
- $\$rbrack$
- $\$rceil$
- $\$Re$
- $\$rfloor$
- $\$rgroup$
- $\$rhd$
- $\$rho$
- $\$right$
- $\$Rightarrow$
- $\$rightarrow$
- $\$rightarrowtail$
- $\$rightharpoondown$
- $\$rightharpoonup$
- $\$rightleftarrows$
- $\$rightleftharpoons$
- $\$rightleftharpoons$
- $\$rightrightarrows$
- $\$rightsquigarrow$
- $\$righthreetimes$
- $\$risingdotseq$
- $\$rmoustache$
- $\$Rrightarrow$
- $\$Rsh$
- $\$rtimes$
- $\$rVert$
- $\$rvert$
  
- S
- $\$S$
- $\$searrow$
- $\$sec$

- $\$setminus$
  - $\$sharp$
  - $\$shortmid$
  - $\$shortparallel$
  - $\$Sigma$
  - $\$sigma$
  - $\$sim$
  - $\$simeq$
  - $\$sin$
  - $\$sinh$
  - $\$smallfrown$
  - $\$smallint$
  - $\$smallsetminus$
  - $\$smallsmile$
  - $\$smile$
  - $\$spadesuit$
  - $\$sphericalangle$
  - $\$sqcap$
  - $\$sqcup$
  - $\$sqrt$
  - $\$sqsubset$
  - $\$sqsubseteq$
  - $\$sqsupset$
  - $\$sqsupseteq$
  - $\$square$
  - $\$star$
  - $\$subset$
  - $\$Subset$
  - $\$subseteq$
  - $\$subseteqq$
  - $\$subsetneq$
  - $\$subsetneqq$
  - $\$succ$
  - $\$succapprox$
  - $\$succcurlyeq$
  - $\$succeq$
  - $\$succnapprox$
  - $\$succnsim$
  - $\$succsim$
  - $\$sum$
  - $\$sup$
  - $\$upset$
  - $\$Upset$
  - $\$upseteq$
  - $\$upseteqq$
  - $\$upsetneq$
  - $\$upsetneqq$
  - $\$surd$
  - $\$swarrow$
- T
- $\$tag$
  - $\$tan$
  - $\$tanh$
  - $\$tau$
  - $\$tbinom$
  - $\$text$
  - $\$therefore$
  - $\$Theta$
  - $\$theta$
  - $\$thickapprox$
  - $\$thicksim$
  - $\$thinspace$
  - $\$tilde$
  - $\$times$
  - $\$to$
  - $\$top$
  - $\$triangle$
  - $\$triangledown$
  - $\$triangleleft$
  - $\$trianglelefteq$
  - $\$triangleq$
  - $\$triangleright$
  - $\$trianglerighteq$
  - $\$twoheadleftarrow$
  - $\$twoheadrightarrow$

## U

- $\$ulcorner$
- $\$underbrace$
- $\$underleftarrow$
- $\$underleftarrow{rightarrow}$
- $\$underline$
- $\$underrightarrow$
- $\$underset$
- $\$unlhd$
- $\$unrhd$
- $\$Uparrow$
- $\$uparrow$
- $\$Updownarrow$
- $\$updownarrow$
- $\$upharpoonleft$
- $\$upharpoonright$
- $\$uplus$
- $\$Upsilon$
- $\$upsilon$
- $\$upuparrows$
- $\$urcorner$
- $\$varPsi$
- $\$varrho$
- $\$varsigma$
- $\$varSigma$
- $\$vartheta$
- $\$varTheta$
- $\$vartriangle$
- $\$vartriangleleft$
- $\$vartriangleright$
- $\$varUpsilon$
- $\$varXi$
- $\$vdash$
- $\$Vdash$
- $\$vdots$
- $\$vec$
- $\$vee$
- $\$veebar$
- $\$verb$
- $\$Vert$
- $\$vert$
- $\$phantom$
- $\$Vdash$

## V

- $\$varDelta$
- $\$varepsilon$
- $\$varGamma$
- $\$varinjlim$
- $\$varkappa$
- $\$varLambda$
- $\$varliminf$
- $\$varlimsup$
- $\$varnothing$
- $\$varOmega$
- $\$varphi$
- $\$varPhi$
- $\$varpi$
- $\$varPi$
- $\$varprojlim$
- $\$varprojlim$

## W

- $\$wedge$
- $\$widehat$
- $\$widetilde$
- $\$wp$
- $\$wr$

## X

- $\$Xi$
- $\$xi$
- $\$xleftarrow$
- $\$xrightarrow$

## Y

- $\$yen$

Z

- ₩zeta

## 注釈一覧

### 第8章 CAS記法のマークアップリファレンス

- 1) この文字列は注の文字列です (p. 159)
- 2) この注は書籍（紙）では章末にまとめる。（p. 159）



## 図表一覧

### 図一覧

#### 第2章 CAS-UBによる出版物の制作

- 図1 CAS-UBのログイン画面 (p. 4)
- 図2 ホーム（出版物一覧）画面 (p. 5)
- 図3 Word文書の印刷プレビュー (p. 6)
- 図4 Word原稿のアウトライン (p. 6)
- 図5 出版物新規作成 (p. 7)
- 図6 ファイル名とタイトルの設定 (p. 7)
- 図7 外部データ入力をクリック (p. 8)
- 図8 原稿のWordファイルを指定する (p. 8)
- 図9 インポート完了 (p. 8)
- 図10 最初の記事の記事編集画面 (p. 9)
- 図11 インポートが成功すると記事が三つできる (p. 9)
- 図12 書誌編集の選択 (p. 10)
- 図13 書誌編集画面下部の操作ボタン (p. 10)
- 図14 著者のプロフィール追加 (p. 10)
- 図15 著者のプロフィール項目に入力 (p. 11)
- 図16 版数と発行年月日の入力 (p. 11)
- 図17 書誌編集画面上部の操作リンク (p. 11)
- 図18 生成画面への切り替え (p. 12)
- 図19 一般設定 (p. 12)
- 図20 一般でCSSのテーマを選択 (p. 12)
- 図21 縦書のCSSのテーマを選択 (p. 13)
- 図22 EPUB3生成 (p. 13)
- 図23 前回の生成結果をダウンロードする (p. 14)
- 図24 表紙とナビゲーション (p. 15)
- 図25 第3章の先頭部分 (p. 15)
- 図26 本文の最後と奥付け (p. 16)

#### 第3章 CAS-UBの画面と機能

- 図1 ヒント表示を閉じる (p. 18)
- 図2 出版物新規作成画面例 (p. 20)
- 図3 記事編集画面 (p. 22)
- 図4 記事編集画面から他の画面に移ると「記事編集」で直近の記事編集画面に戻れます (p. 22)
- 図5 記事タイトル一覧から記事を選んで **記事の選択** ボタンをクリックする (p. 23)
- 図6 記事内容編集画面 (p. 24)
- 図7 記事内容保存ボタン (p. 24)
- 図8 保存成功の通知 (p. 25)
- 図9 移りたい記事を選択 (p. 25)
- 図10 保存してないときの警告 (p. 25)
- 図11 CAS-UBで書く段落 (p. 26)
- 図12 段落の区切り (EPUB) (p. 27)
- 図13 記事一覧を出す (p. 30)
- 図14 記事一覧の表示例 (p. 30)

- 図 15 記事の移動についての操作項目 (p. 32)  
図 16 同レベルの記事間の移動 (p. 32)  
図 17 記事を任意の記事の下に移動する (p. 33)  
図 18 ドラッグ＆ドロップによる記事の移動 (p. 34)  
図 19 チェックした記事が削除される (p. 34)  
図 20 ゴミ箱を空にする (p. 36)  
図 21 内容表示 (p. 36)  
図 22 記事一覧から内容表示 (p. 37)  
図 23 内容表示例 (p. 37)  
図 24 外部データ入力画面 (p. 39)  
図 25 ドラフトに記事があるときの表示例 (p. 44)  
図 26 画像の画面 (p. 46)  
図 27 アップロードする画像を指定して [画像のアップロード] ボタンをクリックする (p. 46)  
図 28 アップロードされている画像の一覧 (p. 47)  
図 29 画像の削除が完了すると「一覧を更新する」と表示されるのでクリックしてください (p. 48)  
図 30 検索結果の表示例 (p. 49)  
図 31 編集画面での検索文字列のハイライト表示例 (p. 49)  
図 32 置換の実行 (p. 50)  
図 33 置換元文字列の検索結果表示例 (p. 50)  
図 34 書誌編集画面 (p. 51)  
図 35 プロフィール入力画面 (p. 54)  
図 36 書誌情報画面のマークアップ (例) (p. 59)  
図 37 タイトルページのルビと縦中横 (p. 59)  
図 38 [保存] ボタンをクリックしてから生成を実行する (p. 61)  
図 39 生成実行時のエラー表示例 (p. 61)  
図 40 EPUB3 生成設定 (p. 62)  
図 41 Kindle の生成設定 (p. 70)  
図 42 Web の設定項目 (p. 70)  
図 43 全文検索画面 (p. 72)  
図 44 HTML ヘルプの生成設定 (p. 73)

#### 第4章 記事の種類

- 図 1 新しい出版物の作成 (p. 79)  
図 2 出版物の種類を変更 (p. 79)  
図 3 記事一覧 (記事編集画面) の記事の順序 (p. 80)  
図 4 PDF 生成 (目次) での記事の順序 (p. 81)  
図 5 タイトルを目次に出力しない (p. 82)  
図 6 ふたつのコンテンツ階層化 (p. 83)  
図 7 記事の種類を設定 (p. 85)  
図 8 記事の種類が「本文」のとき、階層位置で 章 節 項 目 の何れになるかが決まる (p. 85)

#### 第5章 出版物ソーステキストの入出力とデータ管理

- 図 1 ダウンロード画面の表示例 (p. 93)  
図 2 UB テキストのアップロードは、ダウンロード画面で実行する (p. 94)  
図 3 出版物を削除する (p. 99)  
図 4 出版物の削除確認 (p. 99)

#### 第7章 マークアップ支援機能

- 図 1 マークアップ支援ボタン (p. 105)  
図 2 見出しのマークアップ (p. 106)  
図 3 見出しのマークアップ 2 (p. 107)  
図 4 番号なし箇条書き (p. 107)

- 図5 箇条書きのネスト (p. 108)  
 図6 項目の長い箇条書き (p. 108)  
 図7 ブロック範囲指定・キャプションあり (p. 109)  
 図8 ブロック範囲指定・1行目見出し (p. 109)  
 図9 ブロック範囲指定なし (p. 109)  
 図10 ブロック画像の例 (p. 110)  
 図11 インライン画像の例 (p. 111)  
 図12 段落配置の設定例 (p. 112)  
 図13 修飾の適用例 (p. 113)  
 図14 ルビのマークアップ例 (p. 113)  
 図15 索引を指定した例 (p. 114)  
 図16 選択範囲をブロック引用にする (p. 115)  
 図17 選択範囲をブロック引用中の整形済みブロックにする (p. 115)  
 図18 選択範囲を整形済みブロックにする (p. 116)  
 図19 選択範囲をマークアップ可能な整形済みブロックにする (p. 116)  
 図20 リンクの設定例 (p. 117)  
 図21 コメントの設定例 (p. 117)  
 図22 ID参照のマークアップ支援 (p. 118)

## 第8章 CAS記法のマークアップリファレンス

- 図1 見出しにルビのマークアップ (p. 127)  
 図2 見出しにルビのマークアップをしたときのPDF生成例 (p. 128)  
 図3 記事タイトルを本文・目次に出すかどうか設定 (p. 129)  
 図4 記事タイトルにルビのマークアップ (p. 130)  
 図5 記事タイトルにルビのマークアップをしたときのPDF生成例 (p. 131)  
 図6 キャプション (p. 139)  
 図7 width=30%を指定：版面の30%幅になります (p. 140)  
 図8 縦書のテーマで表示した例 (p. 157)  
 図9 親子索引 (p. 163)  
 図10 兄弟の索引 (p. 163)  
 図11 記事のタイトルに設定する例 (p. 172)  
 図12 本文の見出しに設定する例 (p. 172)  
 図13 段落ブロックの間（行間）に設定する例 (p. 172)  
 図14 段落の文章の中に設定する例 (p. 172)  
 図15 箇条書きの項目の間に設定する例 (p. 172)

## 第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス

- 図1 フォント・ファイル管理画面の例 (p. 183)  
 図2 フォントを埋め込んだEPUBのiBooksによる表示例 (p. 184)  
 図3 システムフォント一覧の表示例 (p. 185)  
 図4 埋め込み指定したシステムフォント名の表示例 (p. 185)  
 図5 ブロックマージンの設定例 (p. 186)  
 図6 画像の回り込みなし (p. 188)  
 図7 画像の回り込み (p. 189)

## 第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

- 図1 索引の例 (p. 193)

## 第11章 縦組の指定

- 図1 PDF縦組テーマの指定 (p. 197)  
 図2 目次の扉の生成機能 (p. 199)  
 図3 リンク (p. 201)

図4 自動生成ページの文字進行方向設定画面 (p. 201)

## 第12章 EPUB のレイアウト指定

図1 横書・縦書テーマの一覧 (p. 203)

図2 CSSの調整へのリンク (p. 205)

図3 テーマの設定変更 (p. 205)

図4 「ノーマル明朝」の段落レイアウト (p. 206)

図5 「ノーマル明朝」の段落の字下げと空きを変更 (p. 207)

## 表一覧

### 第4章 記事の種類

表1 記事の種類一覧 (p. 76)

表2 「書籍3」の記事の種類 (p. 78)

表3 自動生成の記事の作り方 (p. 85)

### 第5章 出版物ソーステキストの入出力とデータ管理

表1 出版物ヘッダーの項目名と項目データ (p. 91)

表2 記事ヘッダーの項目名と項目データ (p. 91)

### 第8章 CAS記法のマークアップリファレンス

表1 インラインマークアップの例 (p. 129)

表2 特殊化したブロック (p. 136)

表3 特殊化したブロック属性の種類 (p. 137)

表4 PDF生成における表のレイアウト指定 (p. 142)

表5 PDF生成における表の配置 (p. 143)

表6 CSVインクリード (p. 144)

表7 IDの種類 (p. 166)

表8 IDの種類 (p. 168)

表9 アンカー内で有効なマークアップ (p. 169)

### 第9章 CAS記法の属性マークアップリファレンス

表1 CAS-UB標準のクラス属性値 (p. 178)

表2 フォント名とクラス名の例 (p. 183)

表3 CAS-UBで用意している主なシステムフォント (p. 184)

表4 ブロックマージンの属性名 (p. 186)

表5 ブロック引用の中の表 (p. 187)

表6 CSS標準カラーネーム一覧 (p. 190)

### 第10章 コンテンツやマークアップに使う記号・文字・単位

表1 絶対単位 (p. 196)

表2 相対単位 (p. 196)

### 第11章 縦組の指定

表1 手作り記事の文字組方向 (p. 198)

表2 EPUB記事毎の文字進行方向クラス設定 (p. 200)

# 索引

## アルファベット

ASCII 文字 123  
bib ファイル 87  
CAS 記法  
　マークアップ 101  
CSS テーマの設定変更 205  
CSS の調整 204  
CSS のテーマ 203  
CSV ファイル 143  
EPUB3 の生成 13  
EPUB の生成設定 62  
ID 166  
ID 一覧を更新する 23  
ID 参照 168  
ID の重複 127, 168  
ID の重複エラー 61  
ID の付与と参照 166  
Kindle の生成設定 69  
Kindle MOBI 3  
PDF 生成  
　表ヘッダの繰り返し 141  
PDF のインポート 39  
SVG 記事 242  
SVG ファイルの ZIP のインポート 42  
UB テキスト 90  
UB テキスト ZIP ファイル 90  
UB テキストのアップロード 93  
UB テキストのダウンロード 92  
Unicode 番号指定  
　文字番号参照 195  
URL の参照 164  
Web ページを生成 70  
Web レイアウトのカスタマイズ 209  
WordPress のインポート 39, 41  
Word のインポート 39  
XHTML 表の埋め込み 148

## あ

アップロード (UB テキスト) 93  
後書 78  
後付 79  
アンカー 166  
アンダーライン (CAS 記法) 155  
イタリック (CAS 記法) 155  
インクルード 143, 149  
インポート 39  
オンライン数式 170  
オンライン範囲指定 135  
オンライン要素 121  
上付き (CAS 記法) 158  
埋め込みブロック (XHTML 表) 148

エスケープ 177, 193  
エピローグ 78  
円記号 (¥) 194  
奥付 78, 86  
奥付に使われ項目の入力 51  
奥付類 79  
オーナー変更 239

**か**

改行 123  
箇条書き (CAS 記法) 131  
カスタマイズ (Web ページ) 209  
カスタマイズ  
　EPUB レイアウト 103, 205  
下線 155  
画像  
　アップロード 45  
　配置 187  
　回り込み 187  
画像画面 45  
画像のキャプション 139  
画像のサイズ指定 139, 161  
画像の説明文 140  
カバー画像 87  
空行 121, 122  
巻末注釈 78, 86  
記号をマークアップ用途ではなく記号のまま表示したい 193  
記事 3  
記事一覧を出す 30  
記事クラス名 77  
記事スタイル 200  
記事タイトル 24, 27  
記事タイトルについて 128  
記事タイトルのマークアップ 129  
記事の移動 32  
記事の書き方 26  
記事の削除 34  
記事の種類 75  
区分 77  
　自動生成の記事 84  
　手作りの記事 85  
記事の種類の役割 75  
記事のタイトル 245  
記事の並び替え 79  
記事の入力 24  
記事の分割 84  
記事の保存 24  
脚注 159  
キャプション 136  
キャプションのマークアップ 137  
強制改行 (CAS 記法) 158

強制改ページ (CAS 記法) 154  
強調 (CAS 記法) 155  
空白文字 123  
検索 48  
献辞 78  
圈点 (CAS 記法) 156  
権利関係 78  
項 78  
公開プロフィール 237  
後注マークアップ 86  
コンテンツの階層化 82

## さ

索引 78, 86  
出版物の削除 99  
サポートについて i  
参考文献 78, 86, 243  
参照 (ID の参照) 166  
下付き (CAS 記法) 158  
執筆チームメンバー 240  
自動生成記事  
——作成 (PDF) 86  
——作成 (EPUB) 87  
——タイトル変更 245  
挿入位置 81

謝辞 78  
出版物新規作成 7  
出版物の種類 79  
出版物識別名 20  
章 78  
書誌編集 9  
書誌編集画面 51  
書籍 2 79  
書籍 3 79  
水平線 (CAS 記法) 153

数式  
　　インライン数式 170  
　　数式の記述 244  
　　数式リファレンス 247  
　　ブロック数式 151  
スタイルシート 205  
図表一覧 78, 86  
整形済み範囲の指定 163  
整形済みブロック 146  
生成時のエラー 61  
節 78  
設定の保存 (生成) 13  
セパレーター用段落 124  
属性  
　　ID 属性 176  
　　親要素に属性 177  
　　組み込みクラス属性値 175  
　　クラス属性 102, 175  
　　一の付与 101

## た

タイトルのマークアップ 129  
タイトルページ 59, 78, 85  
タイトル前 78  
タイトルを本文に出力する 128  
タイトルを目次に出力する 128  
タイプライター 163  
ダウンロード (UB テキスト) 92  
縦中横 157  
　　奥付の—— 59  
　　タイトルページの—— 59  
　　表紙の—— 59

単位  
　　絶対単位 196  
　　相対単位 196  
段落 26  
段落 (CAS 記法) 122  
段落間の空き 124, 204  
段落先頭行の字下げ 204  
段落両端揃え 204  
置換 49  
注 159  
テキストファイルのインポート 39, 42  
電子書籍 162  
テーマ 3, 103  
特殊化 136  
特殊化したブロック 135  
特殊な文字を使いたい 195  
ドラフト 44

## な

内容表示 (ドラフト) 45  
内容表示のテーマの選択 38

## は

背景色 190  
バックアップ 94  
バックアップのリストア 96  
範囲指定 (インライン) 161  
範囲を指定する 161  
番号付き箇条 132  
番号なし箇条 132  
半扉 78  
表 140  
　　表 (XHTML) の埋め込み 148  
　　表の列幅指定 141  
　　ヘッダ行 141  
　　見出しのセル 141  
表紙 78, 85  
表紙画像  
　　EPUB の一 66  
表紙と奥付に使われる項目の入力 51  
表の罫線 204  
ファイル名 27  
フォント埋め込み 182

- フリガナ 156  
 プレーンテキストのインポート 42  
 付録 78  
 プロック引用 (CAS 記法) 145  
 プロック画像 138  
 プロック数式 151  
 プロック範囲指定 135  
 プロックマージン (CAS 記法) 185  
 プロック要素 121  
 プロフィール 78  
 プロローグ 78  
 本全体の横組・縦組 197  
 本扉 78  
 本の一部を横組 197  
 本文 79  
 本文の扉 78  
 本文の目次 (EPUB) 87  
 ボールド (CAS 記法) 155
- ま**
- 前書 78  
 前付 79  
 マークアップ 27  
 CAS 記法 101  
 マークアップ (キャプション) 137  
 マークアップ支援ボタン 105  
 見出し (CAS 記法) 125  
 見出しの参照 166  
 見出しのマークアップ 127  
 見出しのランク 125  
 見出しのレベル 126  
 見出しランク 83  
 メルマガ EPUB 変換機能の利用方法 219  
 メルマガHテンプレート 231
- メルマガKテンプレート 225  
 メルマガTテンプレート 228  
 メルマガUテンプレート 222  
 メルマガ変換のルール 221  
 目 78  
 目次 28, 78, 86  
 目次後 78  
 目次に表示しない記事 81  
 目次の扉 199  
 文字組方向  
     奥付 (PDF) の—— 200  
     表紙 (PDF) の—— 199  
     前付・後付記事 (PDF) の—— 200  
 文字色 190  
 文字番号参照  
     Unicode 番号指定 195
- や**
- ユーザー・スタイルシート 205  
 ユーザー付与 ID 166  
 用語定義リスト (CAS 記法) 134  
 要素 101  
 予約済みの記号 194
- ら**
- ラベルなし箇条 134  
 リストア 96  
 履歴 89  
 リンクと URL 164  
 ルビ (CAS 記法) 156  
 ルビ  
     奥付の—— 59  
     タイトルページの—— 59  
     表紙の—— 59

# CAS-SUPPORT (きやすさぽーと)

---

## CAS-UB User Guide V5.0

### CAS-UB 利用ガイド

---

2012年3月1日発行 V2.0 初版  
2018年7月発行 V5.0 改訂2版

著　　者 CAS-SUPPORT  
発行者 小林 徳滋  
発行所 アンテナハウス株式会社  
住　　所 東京都中央区東日本橋2丁目1番6号 東日本橋藤和ビル5階  
電話番号 03-5829-9021  
W E B <http://www.antenna.co.jp/>  
E メール info@antenna.co.jp

---

アンテナハウス株式会社  
Copyright (C) 2011-2018 Antenna House, Inc. All rights reserved.